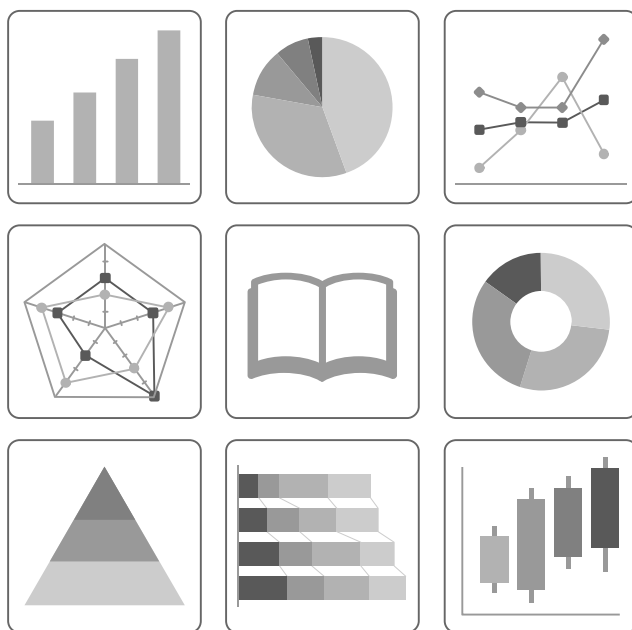


男女共同参画に関する市民アンケート調査 報告書



令和4年2月

富津市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収結果	1
6	報告書を見る際の留意点	1
II	調査結果の要約	2
1	男女共同参画全般について	2
2	家庭生活について	2
3	働き方について	3
4	地域活動について	4
5	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	5
6	女性の活躍推進について	5
7	防災について	6
8	配偶者等からの暴力について	6
9	男女共同参画に関する施策などについて	7
III	調査結果	8
1	回答者の属性	8
	（1）性別	8
	（2）年齢	8
	（3）居住地区	9
	（4）就業形態	9
	（5）婚姻状況	10
	（6）共働きの状況	10
	（7）家族構成	11
	（8）子どもの有無	11
	（9）一番下の子どもの年齢	12
	（10）家族で介護を要する人の有無	12
2	男女共同参画全般について	13
	（1）各分野における男女の平等感	13
	（2）男女共同参画に関する言葉の認知状況	30

3	家庭生活について.....	31
	(1)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方.....	31
	(1-1) 賛成の理由.....	34
	(1-2) 反対の理由.....	35
	(2) 家庭での役割分担（理想）.....	36
	(3) 家庭での役割分担（現状）.....	48
	(4) 家事・育児・介護に携わる時間.....	60
	(5) 男性が家事・育児・介護に積極的に参加するために必要なこと.....	66
4	働き方について.....	68
	(1) 女性が仕事を持つことについての考え方.....	68
	(2) 女性が仕事を続けていく上での障害.....	71
	(3) 育児休業・介護休業の取得状況.....	73
	(3-1) 制度を利用しない理由.....	75
5	地域活動について.....	76
	(1) 地域活動への参加状況.....	76
	(2) 地域活動の現状.....	78
6	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	82
	(1)「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度.....	82
	(2) 男女が共に仕事と家庭を両立するために必要な環境整備.....	86
7	女性の活躍推進について.....	88
	(1) 政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由.....	88
	(2) 女性の参画が社会に及ぼす影響.....	90
8	防災について.....	92
	(1) 防災・災害復興対策における女性の視点での配慮が必要なこと.....	92
9	配偶者等からの暴力について.....	94
	(1) 配偶者や交際相手などから暴力を受けた経験.....	94
	(1-1) 暴力を受けたときの相談状況.....	114
	(1-2) 相談しなかった（できなかった）理由.....	116
	(2) 配偶者や交際相手などからの暴力（DV）をなくすために必要な対策.....	118
	(3) 配偶者や交際相手などからの暴力（DV）の防止に効果的な広報・啓発活動.....	120
10	男女共同参画に関する施策などについて.....	122
	(1) 富津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるために必要なこと.....	122
	(2)「男女共同参画社会」を実現するために市の施策に望むこと.....	124

IV 自由意見 126

V 調査票 131

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識及び実態について把握し、その問題点を解析し、課題を明確にすることにより、(仮称) 富津市男女共同参画計画の策定及び男女共同参画施策を推進する上での基礎資料とするために実施しました。

2 調査対象

富津市在住の 18 歳以上の男女 2,000 人を無作為抽出

3 調査期間

令和 3 年 10 月 25 日～令和 3 年 11 月 8 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収結果

配 布 数	有効回答数	有効回答率
2,000	589	29.5%

6 報告書を見る際の留意点

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を除いているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・クロス集計（性別、居住地区別）及び国・県との比較については、分析軸（縦軸）の間での選択肢個々の割合の差に着目し、原則として、5.0%以上の差がある場合に「高くなっている／低くなっている」という表現を用いて表記しています。
- ・設問によっては、次の調査結果との比較を行っています。

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」 令和元年 9 月実施

千葉県「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」 令和元年 11 月実施

Ⅱ 調査結果の要約

1 男女共同参画全般について

(1) 各分野における男女の平等感（問1）

「平等である」の割合が最も高い分野は“③学校教育の場で”の52.3%で、次いで“①家庭生活の中で”の44.1%、“②職場の中で”の32.9%となっています。

全ての分野で『男性の方が優遇されている』の割合が、『女性の方が優遇されている』の割合を大きく上回っています。特に“⑥社会通念・慣習・しきたりなどで”では7割以上、“④政治の場で”“⑧社会全体で”では6割以上が、『男性の方が優遇されている』となっています。

性別でみると、「平等である」の割合は、全ての分野で男性が女性を上回り、『男性の方が優遇されている』の割合は、全ての分野で女性が男性を上回っています。

(2) 男女共同参画に関する言葉の認知状況（問2）

「内容まで知っている」の割合は、“⑩ドメスティック・バイオレンス（DV）”の63.8%で最も高くなっています。その他の言葉では「聞いたことはあるが内容までは知らない」と「知らない」を合わせた割合が半数以上となっており、特に“⑥富津市男女共同参画のまちづくり条例”では9割以上、“②男女共同参画社会基本法”“③女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）”では、8割以上となっています。

○あらゆる分野で男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっており、男女で認識の差がみられることから、男女平等意識の啓発活動や教育機会の充実など、市民の意識を高めていく取組が必要です。

○男女共同参画に関する言葉について、認知度が低いことが見受けられます。男女共同参画社会の実現に必要な法制度等の理解促進のためには、それぞれの意義や内容について、広く周知を図ることが必要です。

2 家庭生活について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（問3・問3-1・問3-2）

『賛成』の割合が23.6%、『反対』の割合が61.7%となっており、『反対』の割合が『賛成』の割合を大きく上回っています。

性別でみると、『賛成』の割合は、女性と比較して男性の方が、『反対』の割合は、男性と比較して女性の方が高くなっています。

『賛成』の理由は、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が72.7%で最も高く、『反対』の理由は、「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が84.0%で最も高くなっています。

（２）家庭での役割分担（問４・問５）

理想とする家庭での役割分担については、“⑥家計費の管理”を除く全ての項目で「男性と女性で同程度分担」の割合が最も高く、特に“⑧子どもの学校行事等への参加”“⑨子どもの送迎、勉強や遊びの世話”では、８割以上となっています。

現状の家庭での役割分担については、“⑤生活費の確保”“⑪自治会や地域活動への参加”を除く全ての項目で、「主に女性」の割合が最も高く、特に“①食事の支度・後片付け”“②掃除・洗濯”“⑥家計費の管理”では、６割以上となっています。

（３）家事・育児・介護に携わる時間（問６）

平日・休日ともに、女性では「２時間以上４時間未満」の割合が、男性では「携わっていない」の割合が最も高くなっています。

性・共働きの状況別でみると、共働きの有無にかかわらず、男性と比較して、女性の方が家事・育児・介護に携わる時間が長くなっている傾向がみられます。

（４）男性が家事・育児・介護に積極的に参加するために必要なこと（問７）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が 80.6%と最も高く、次いで「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が 60.6%、「子どものころから、男女平等意識を教育や生活の中に取り入れること」の割合が 56.2%となっています。

○固定的な性別役割分担意識を持つ人は２割強となっているものの、女性と比較して、男性の方が性別での役割分担意識が高いことがうかがえます。男女平等意識の啓発を進め、固定的な役割分担意識の払拭を図ることが必要です。

○家庭での役割の多くを女性が担っている現状がうかがえ、現実と理想に大きな差がみられます。家事・育児・介護に携わる時間についても、男性と比較して女性の方が長い傾向がみられ、男性の家事・育児・介護への参画が必要です。そのためには、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」「子どものころから、男女平等意識を教育や生活の中に取り入れること」などが求められています。

３ 働き方について

（１）女性が仕事を持つことについての考え方（問８）

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が 31.2%となっています。

（２）女性が仕事を続けていく上での障害（問９）

「家事・育児の負担」の割合が72.8%と最も高く、次いで「病人・高齢者の世話」の割合が30.2%、「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」の割合が25.6%となっています。

性別でみると、男性と比較して、女性の方が「病人・高齢者の世話」「家族の理解・協力が得られない」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」の割合が高くなっています。

（３）育児休業・介護休業の取得状況（問10・問10-1）

「取得した・取得中である」の割合が、育児休業では、女性で19.3%、男性で2.2%、介護休業では、女性で2.5%、男性で4.0%となっています。

育児休業・介護休業の制度を利用しない理由については、「家族の協力で利用しなくても対応できるから」の割合が36.2%と最も高く、次いで「職場に休める雰囲気がないから」の割合が11.0%、「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が8.7%となっています。

○女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が最も高くなっているものの、女性が仕事を続けていく上での障害として、「家事・育児の負担」の割合が最も高くなっています。家庭での役割の多くを女性が担っていることがうかがえることから、男性の家事・育児等への参画促進、育児休業や介護休業を取得しやすい環境の整備などを進める必要があります。

4 地域活動について

（１）地域活動への参加状況（問11）

「参加している活動はない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「自治会や町内会などの地域活動」の割合が36.2%、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなどのサークル活動」の割合が11.4%となっています。

（２）地域活動の現状（問12）

「そう思う」の割合が、“①行事の企画などは主に男性が決定する”“③地域活動は男性が取り仕切る”では4割以上、“④集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている”“⑤女性は役職につきたがらない”では3割以上となっています。“②決定する場に女性が参加しない”

“⑥女性が発言することは少ない、発言できる機会がない”では、「そう思わない」の割合が4割以上となっています。

○地域活動においても、固定的な性別役割分担意識に根ざした慣習がまだ残っていることがうかがえます。地域活動における男女平等意識の啓発や、男女ともに積極的に参画できるような環境づくりが必要です。

5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（１）「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度（問 13）

理想では、「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先」の割合が 23.6%と最も高く、次いで「家庭生活」と「個人の生活」を優先」の割合が 16.0%、「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が 13.2%となっています。

現状では、「仕事」を優先」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が 18.2%、「家庭生活」を優先」の割合が 11.9%となっています。

理想で最も高い「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先」の割合は、現実では 4.4%となっています。また、現状で最も高い「仕事」を優先」の割合は、理想では 2.2%となっています。

（２）男女が共に仕事と家庭を両立するために必要な環境整備（問 14）

「育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」の割合が 36.3%、「結婚・出産・介護などの理由で退職した人が職場復帰できる再雇用制度を充実させること」の割合が 24.4%となっています。

○「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、理想と現実には大きな差がみられます。

男女が共に仕事と家庭を両立するためには、家庭と仕事を両立できる就労環境の整備や、結婚・出産・介護などの理由で就業を一時中断している女性の職場復帰、再就職などの雇用環境の整備など、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた環境づくりが求められています。

6 女性の活躍推進について

（１）政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由（問 15）

「男性優位の組織運営になっているから」の割合が 57.6%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」の割合が 38.2%、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」の割合が 36.0%となっています。

（２）女性の参画が社会に及ぼす影響（問 16）

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が 69.9%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の割合が 53.5%、「女性の声が反映されやすくなる」の割合が 47.7%となっています。

○女性があらゆる分野へ参画するためには、男性優位の組織運営の改善、女性の活躍推進に向けた意識啓発、性別による役割意識の解消などが求められています。

7 防災について

(1) 防災・災害復興対策における女性の視点での配慮が必要なこと（問 17）

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）」の割合が 79.3%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握」の割合が 65.7%、「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師の配置など）」の割合が 40.2%となっています。

○防災・災害復興対策においても、女性の視点に配慮した対応が必要とされており、特に「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）」「乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握」「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師の配置など）」への配慮が求められています。

8 配偶者等からの暴力について

(1) 配偶者や交際相手などから暴力を受けた経験（問 18）

『経験がある』は、“⑦大声で怒鳴られる”の割合が 17.1%と最も高く、次いで“⑨「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な表現をする”“⑩容姿について傷つくようなことを言う”の割合が 11.5%となっています。

配偶者や交際相手などから暴力を受けた経験のある人が、全ての項目で存在しており、男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。

(2) 暴力を受けたときの相談状況（問 19）

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 24.0%、「家族・親戚」の割合が 19.3%となっています。

(3) 相談しなかった（できなかった）理由（問 20）

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 64.9%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 18.1%、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」の割合が 16.0%となっています。

(4) 配偶者や交際相手などからの暴力（DV）をなくすために必要な対策（問 21）

「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」の割合が 39.4%、「警察の相談・対応の充実」の割合が 33.1%となっています。

（５）配偶者や交際相手などからの暴力（ＤＶ）の防止に効果的な広報・啓発活動（問 22）

「テレビ・ラジオ・新聞」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「職場や学校での研修や授業」の割合が 48.2%、「行政のホームページやＳＮＳなどインターネットを活用した周知活動」の割合が 31.4%となっています。

○配偶者や交際相手などからの暴力（ＤＶ）を受けた経験がある人は、一定数存在しているものの、被害を受けても相談しなかった割合が、約半数となっています。相談しなかった（できなかった）理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が最も高くなっていることから、ＤＶについて正しい理解がされていないように見受けられます。ＤＶを防止するためには、正しい理解と防止に向けた意識啓発が必要です。また、被害を潜在化させないため、相談機関の周知や支援についての情報提供の充実を図るとともに、関係機関と連携し、安心して相談できる体制づくりを進めることが必要です。

９ 男女共同参画に関する施策などについて

（１）富津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるために必要なこと（問 23）

「子育て支援や介護サービスが充実していること」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること」の割合が 38.0%、「多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること」の割合が 37.0%となっています。

（２）「男女共同参画社会」を実現するために市の施策に望むこと（問 24）

「学校教育などにおける男女平等意識の育成」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること」の割合が 31.7%、「職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ」の割合が 27.7%となっています。

○女性も男性も暮らしやすいまちになるためには、子育て支援や介護サービスの充実、性別に関係なく意見を出し合いまちづくりに参画できる仕組みづくり、多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口を設けることなどが求められています。

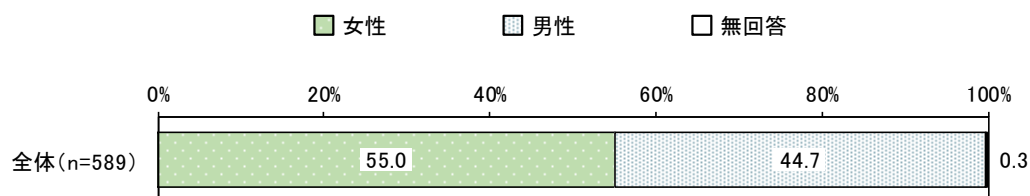
○男女共同参画社会の実現に向け、学校教育などにおける男女平等教育の育成、政策等の企画・立案から男女の意見が反映される仕組みづくり、職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけなどの施策が求められています。

Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

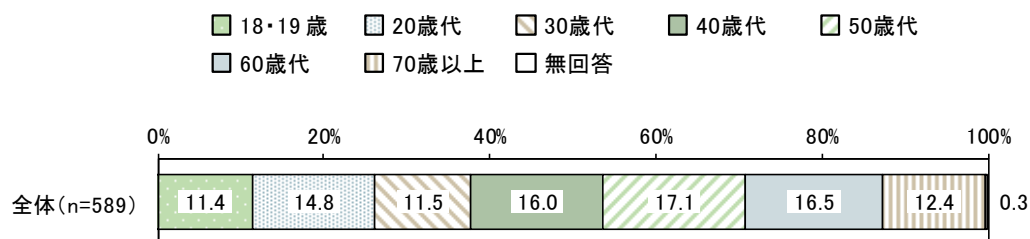
(1) 性別

F 1 あなたの性別に○をつけてください。(○は1つ)

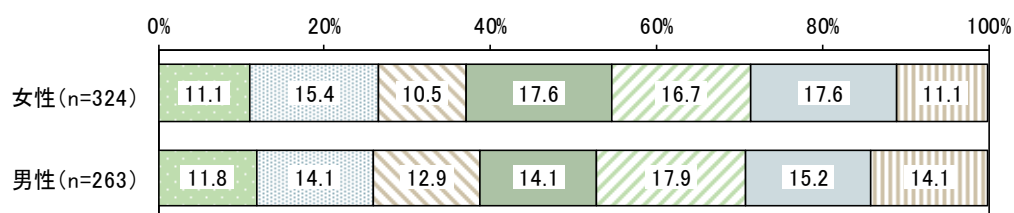


(2) 年齢

F 2 あなたの年齢に○をつけてください。(○は1つ) (令和3年10月1日現在)

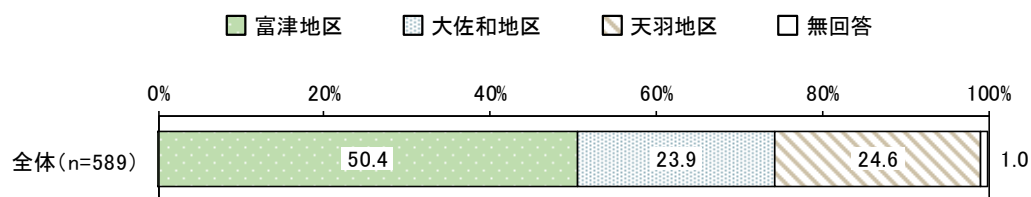


【性別】

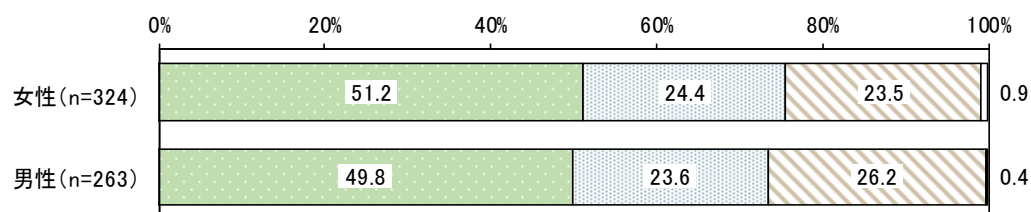


(3) 居住地区

F 3 あなたのお住まいの地区（中学校区別）に○をつけてください。（○は1つ）

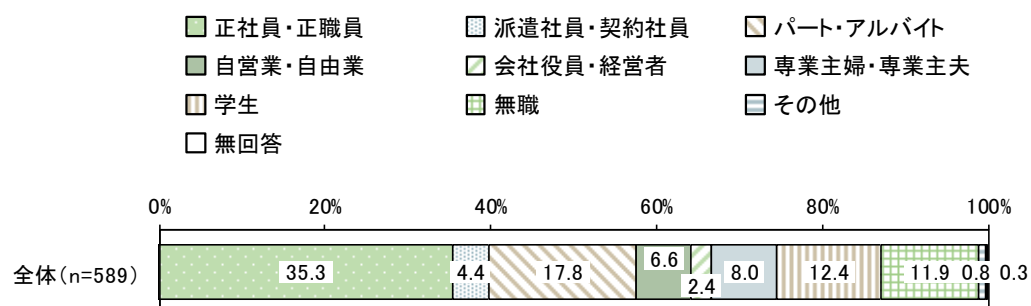


【性別】

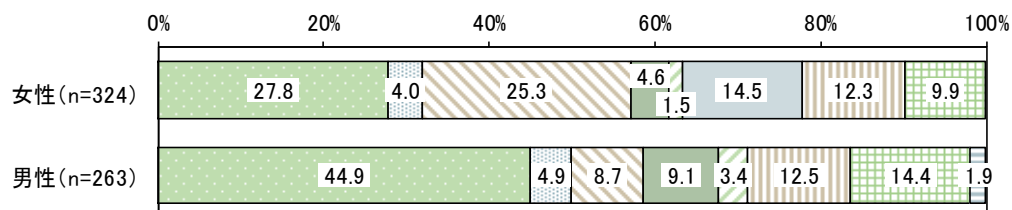


(4) 就業形態

F 4 あなたの就業形態は次のどれですか。（○は1つ）

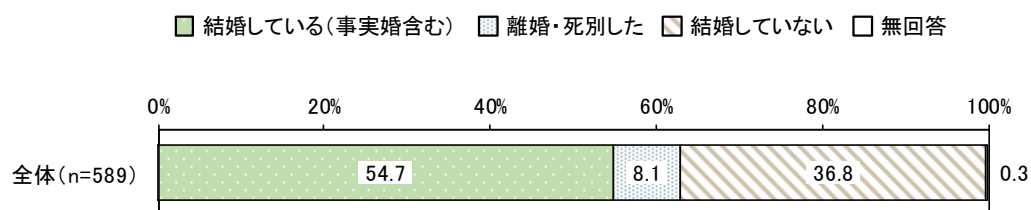


【性別】

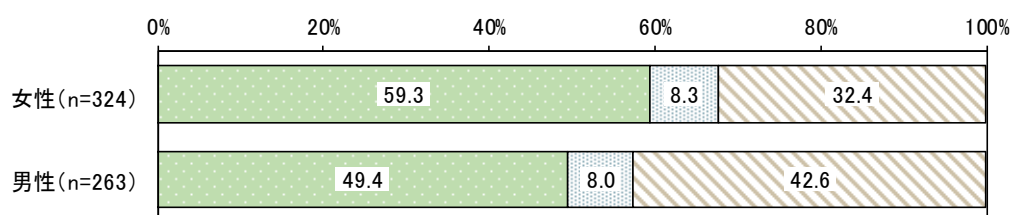


(5) 婚姻状況

F 5 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)



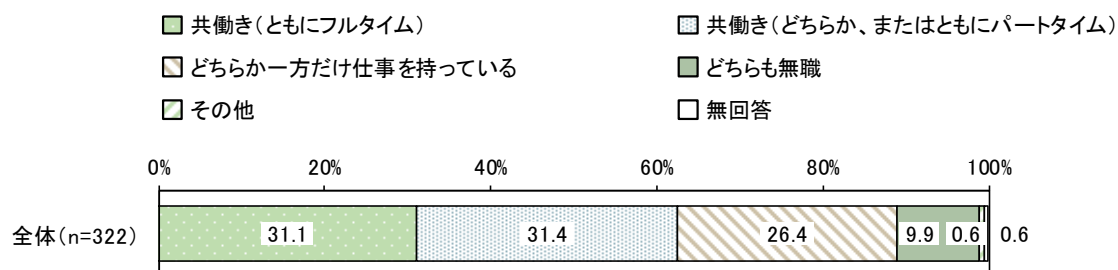
【性別】



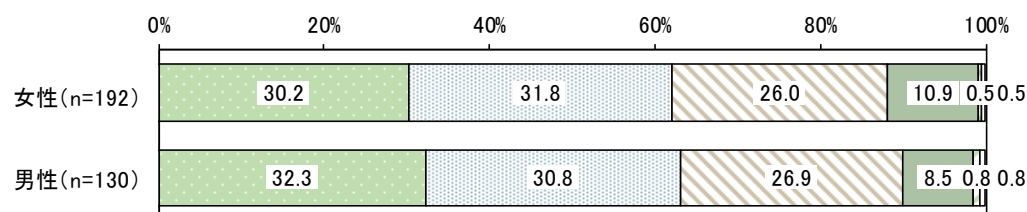
(6) 共働きの状況

【F 5で「1 結婚している(事実婚含む)」と回答した方に伺います】

F 5-1 あなたとパートナー(配偶者など)の就労状況は次のどれですか。(〇は1つ)

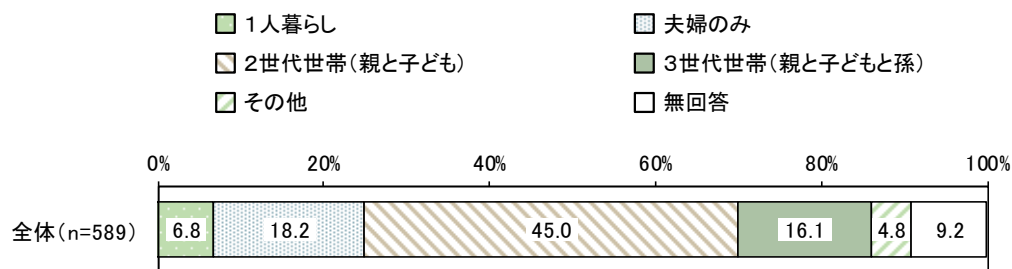


【性別】

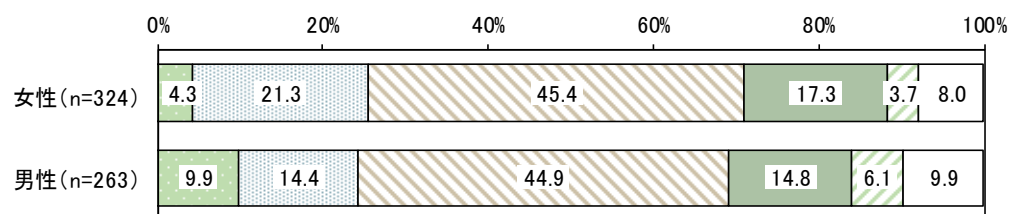


(7) 家族構成

F 6 あなたの家族構成は次のどれですか。(○は1つ)

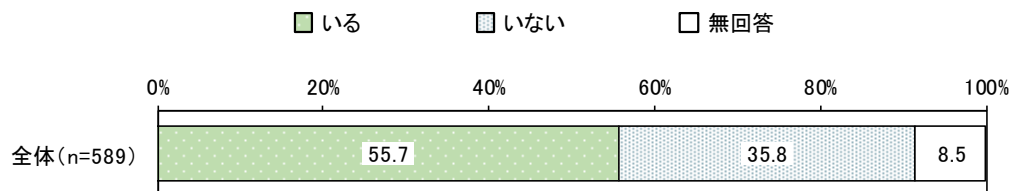


【性別】

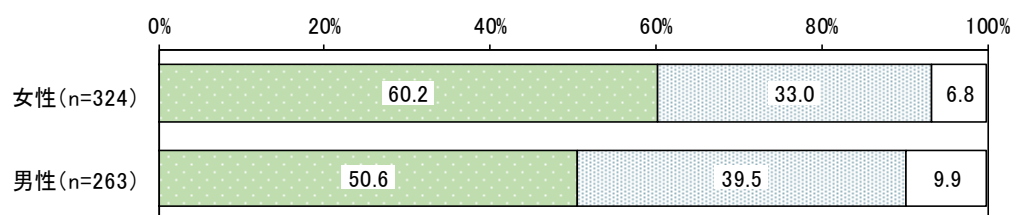


(8) 子どもの有無

F 7 あなたにお子さんはいますか。(○は1つ)



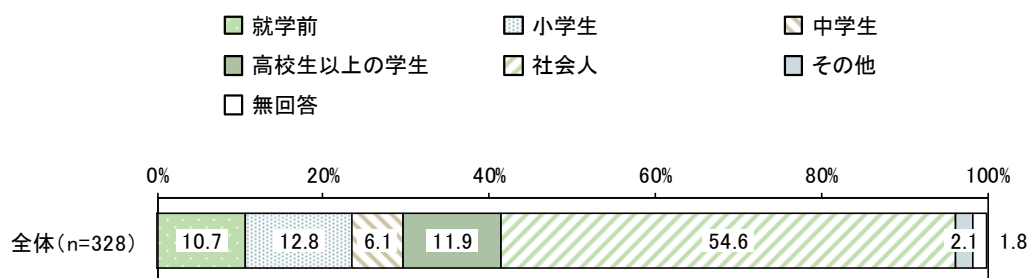
【性別】



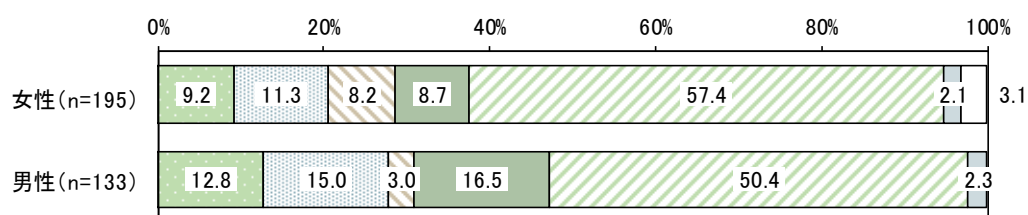
(9) 一番下の子どもの年齢

【F 7で「1 いる」と回答した方に伺います】

F 7-1 一番下のお子さんの年齢に○をつけてください。(○は1つ)

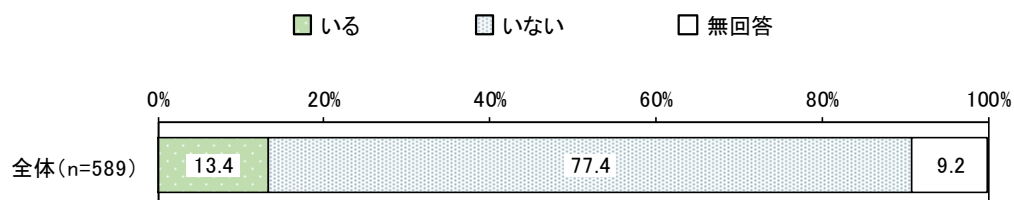


【性別】



(10) 家族で介護を要する人の有無

F 8 あなたの家族の中で介護が必要な人はいますか。(○は1つ)



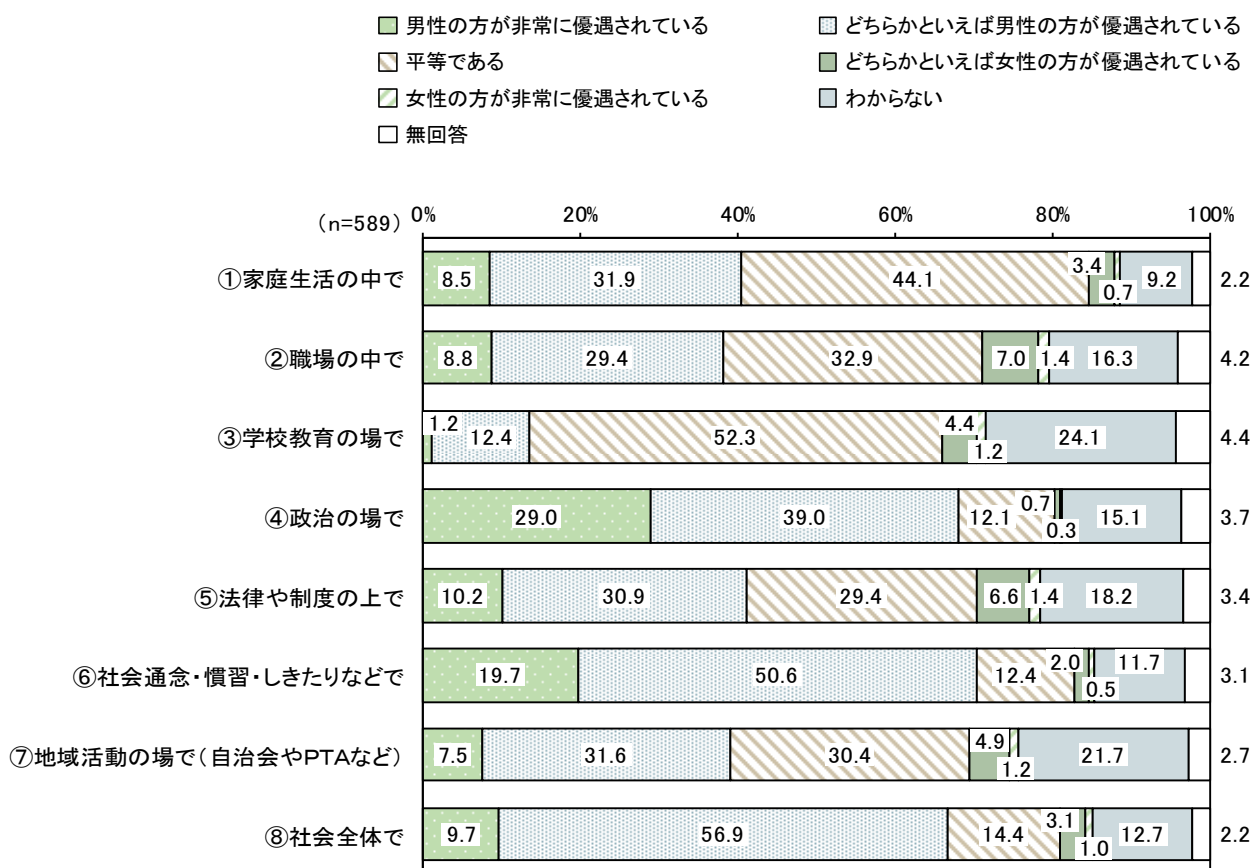
2 男女共同参画全般について

(1) 各分野における男女の平等感

問1 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「平等である」の割合が最も高い分野は“③学校教育の中で”の52.3%で、次いで“①家庭生活の中で”の44.1%、“②職場の中で”の32.9%となっています。

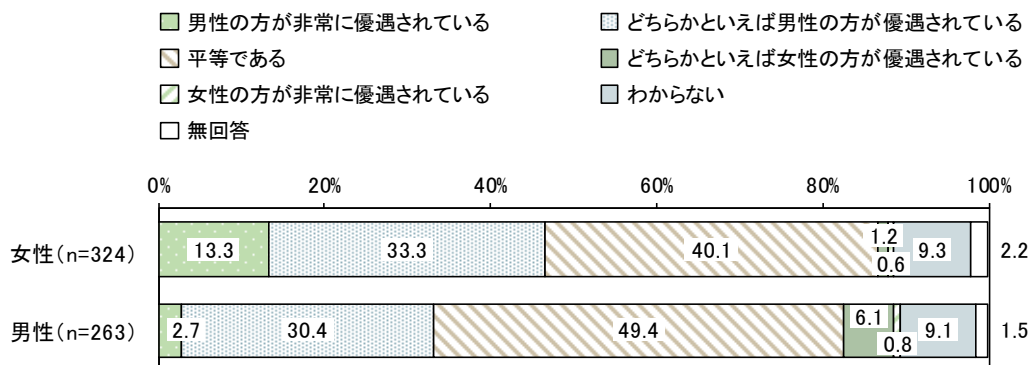
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』の割合は、全ての分野で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた『女性の方が優遇されている』の割合より高くなっています。特に“⑥社会通念・慣習・しきたりなどで”では7割以上、“④政治の場で”“⑧社会全体で”では6割以上が、『男性の方が優遇されている』となっています。



①家庭生活の中で

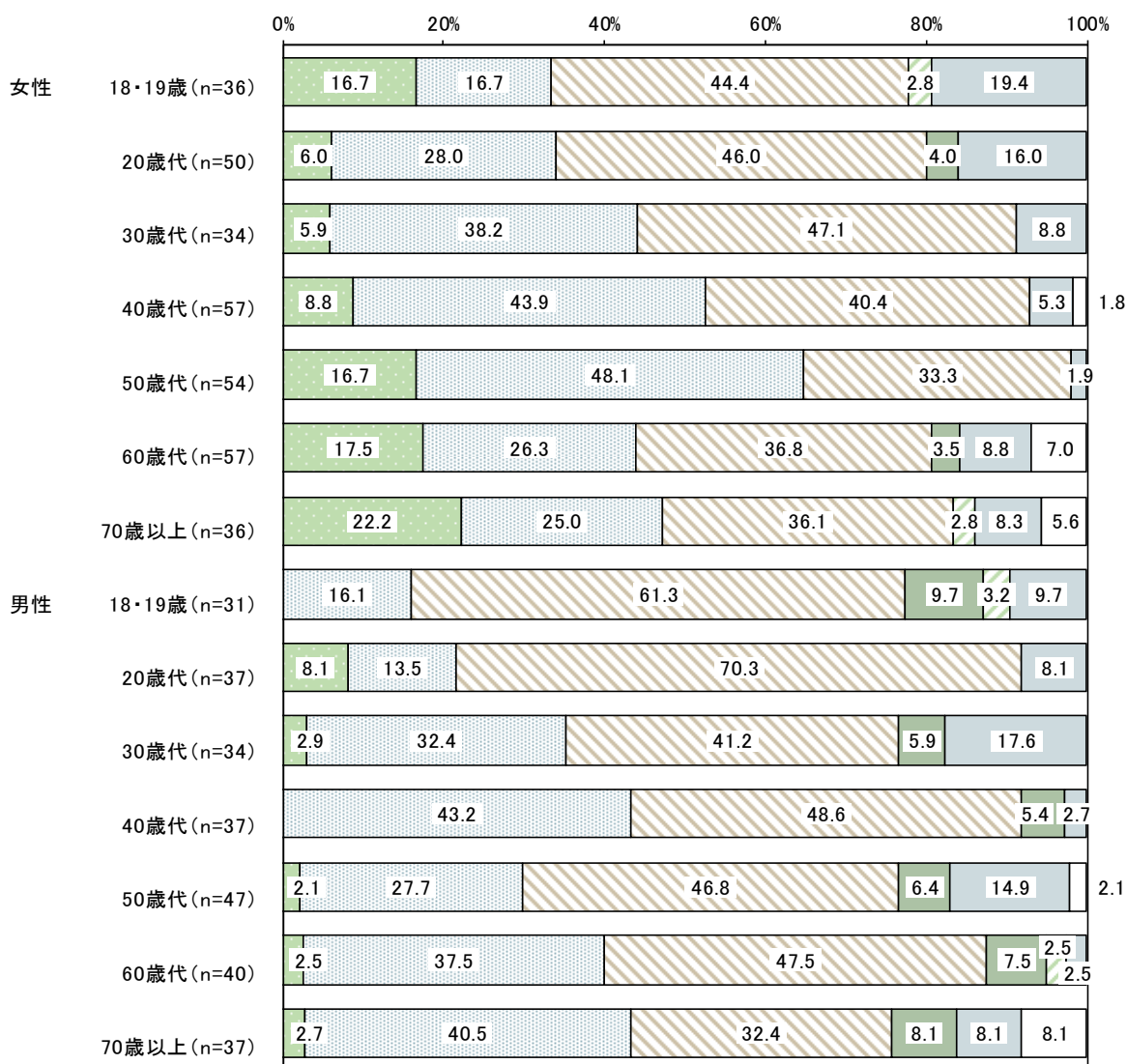
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」、『女性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。



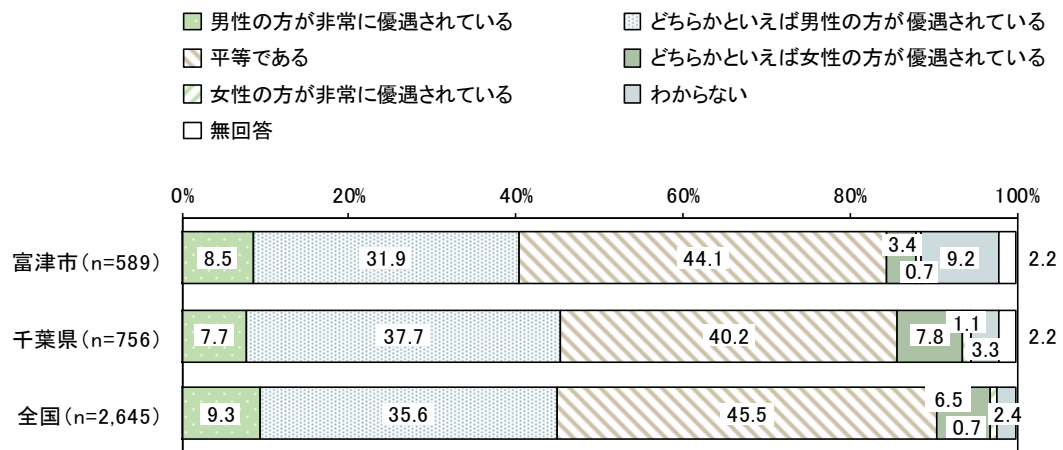
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、女性の40歳代、50歳代で5割以上となっています。
「平等である」の割合が、男性の18・19歳では6割以上、20歳代では7割以上となっています。



【国・県との比較】

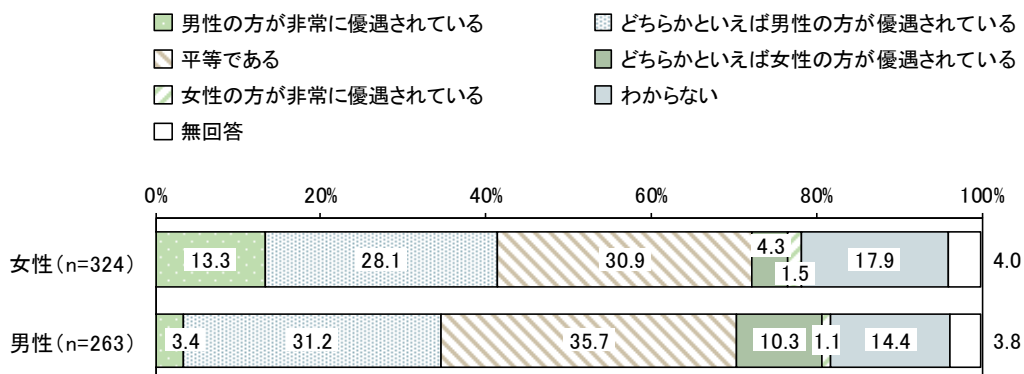
千葉県調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。



②職場の中で

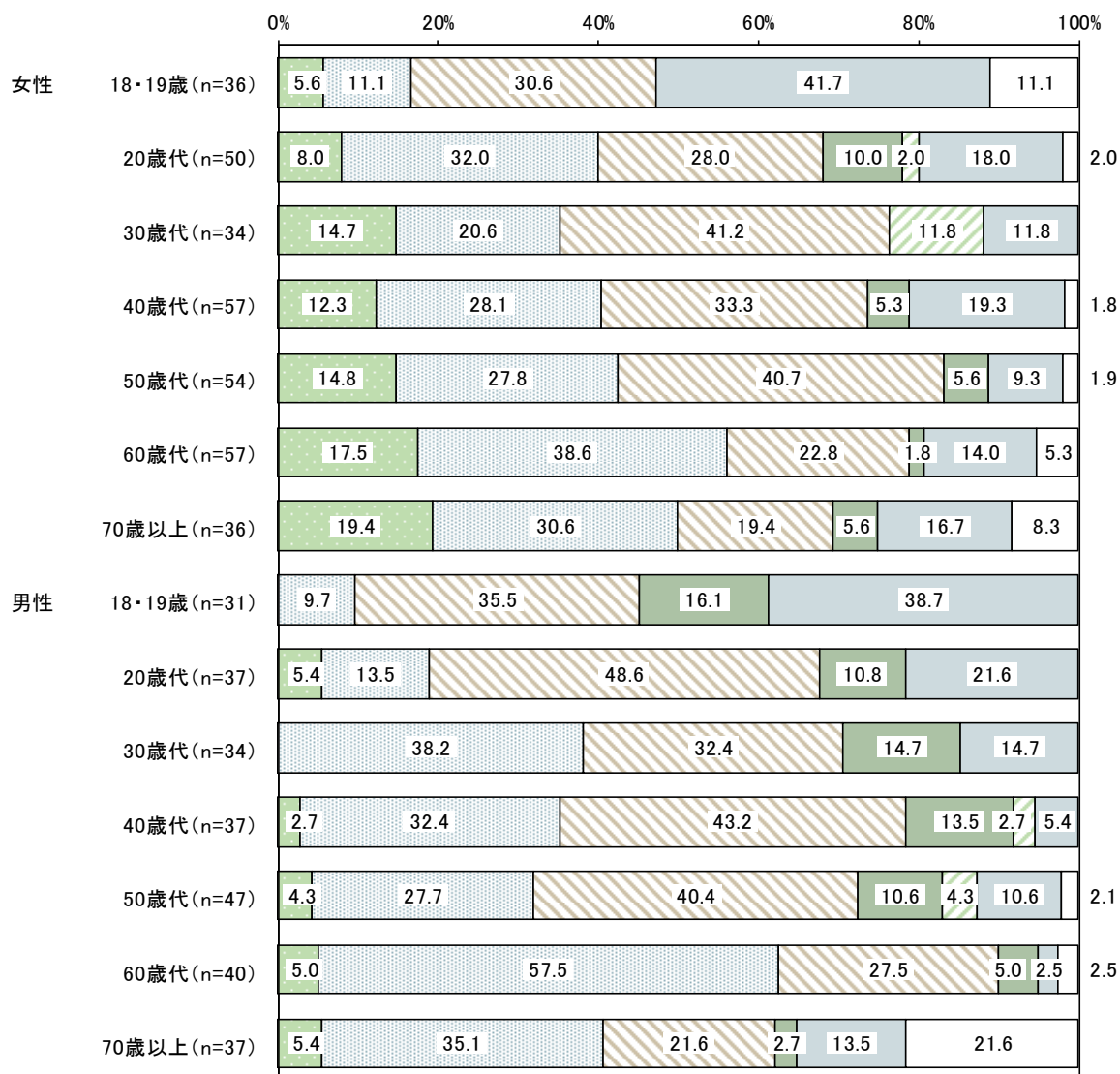
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が『女性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。



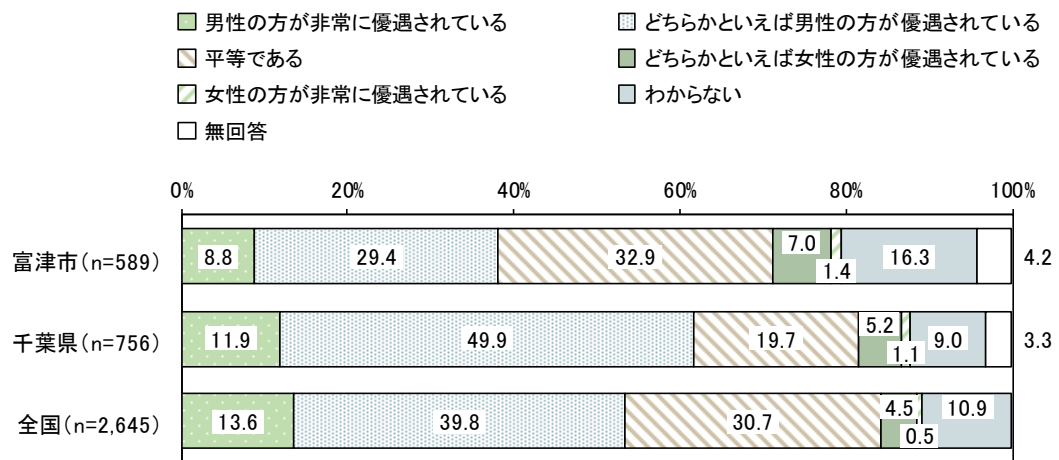
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、女性の60歳代、70歳以上、男性の60歳代で5割以上となっています。



【国・県との比較】

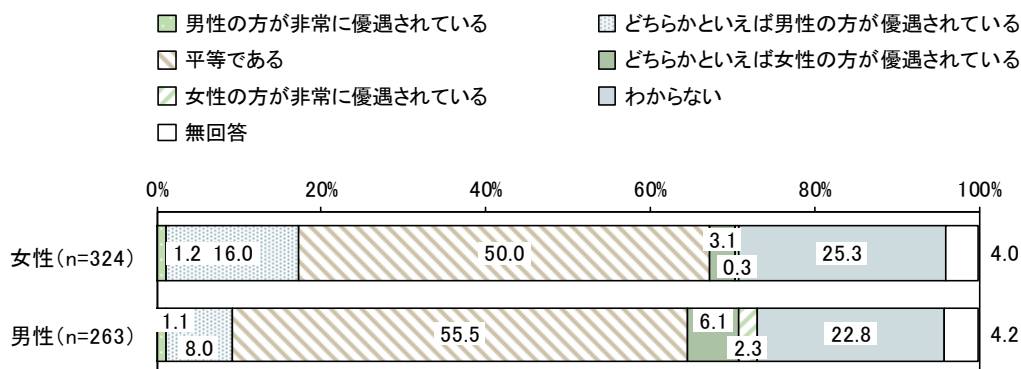
千葉県調査、全国調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。また、千葉県調査との比較では、「平等である」の割合が高くなっています。



③学校教育の場で

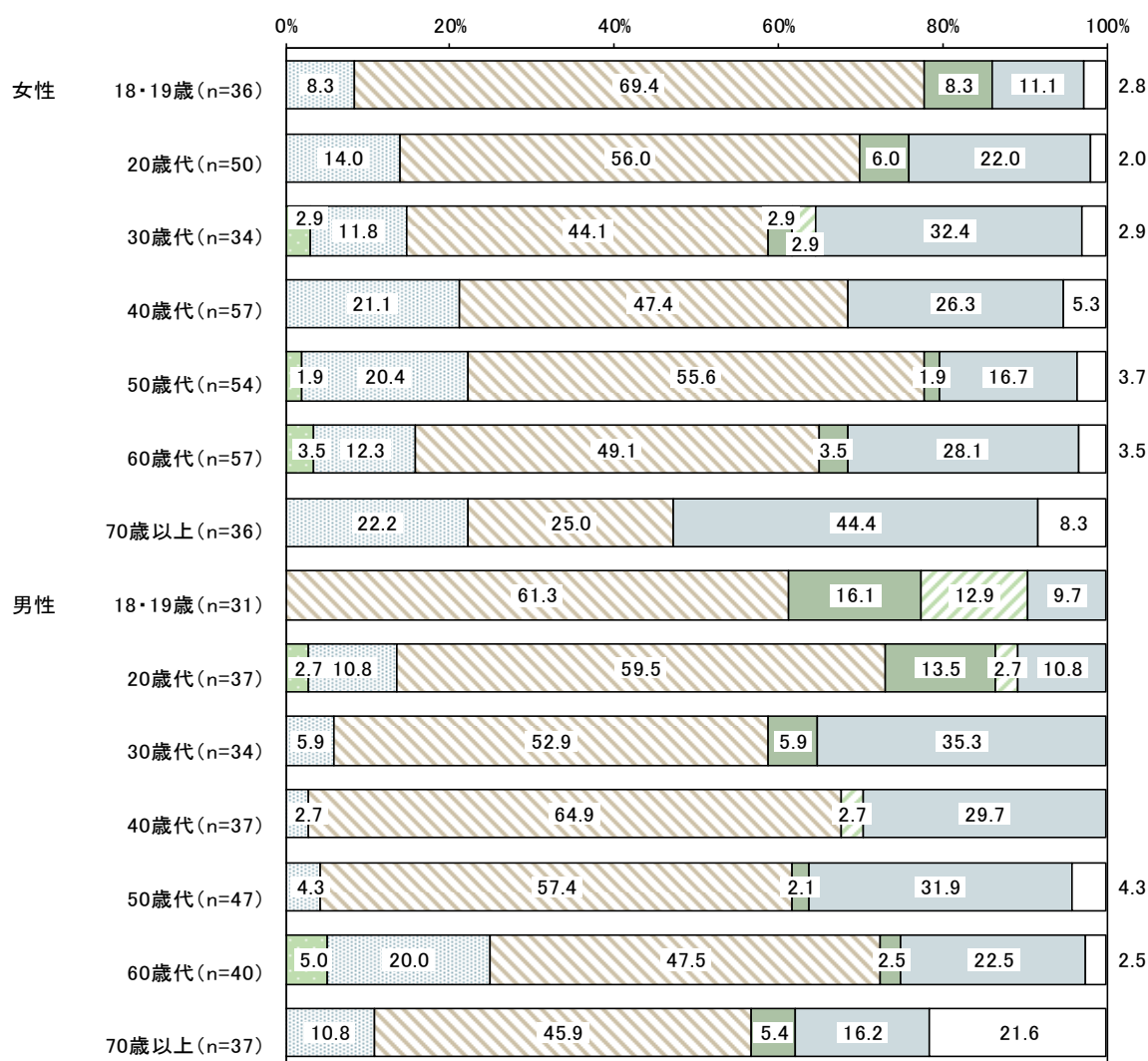
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」、『女性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。



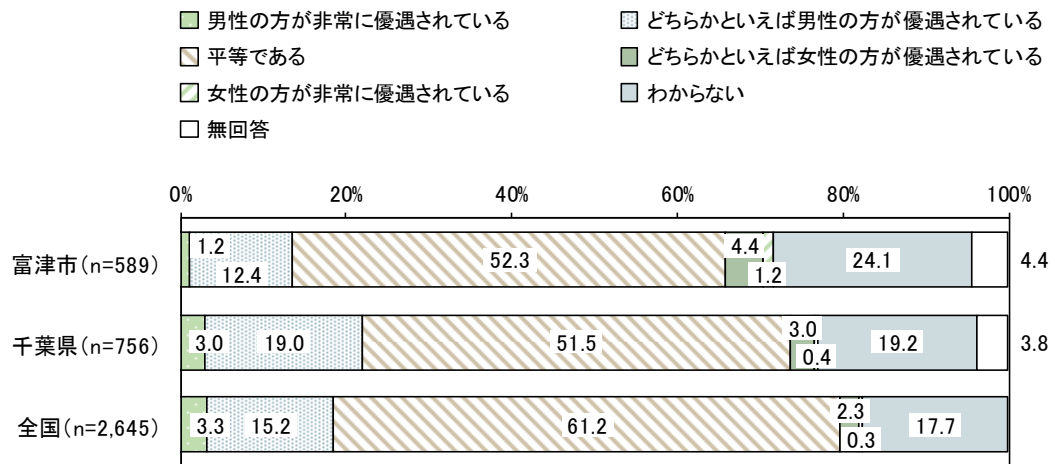
【性・年代別】

「平等である」の割合が、男女ともに全ての年代で高くなっており、特に女性の18・19歳、男性の18・19歳、40歳代では6割以上となっています。



【国・県との比較】

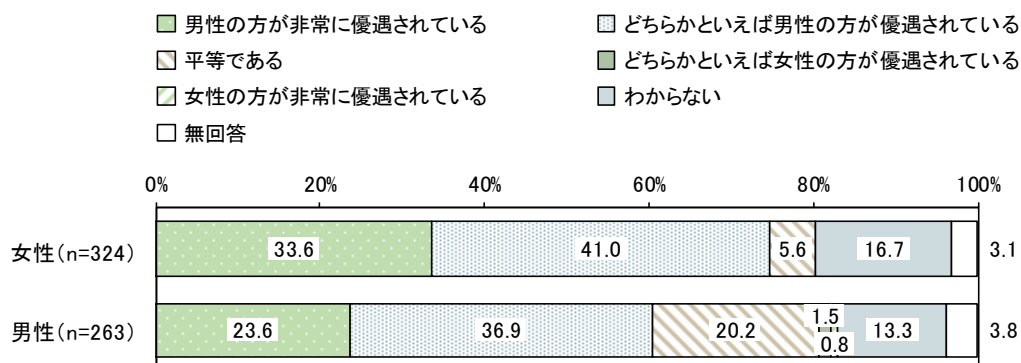
千葉県調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。また、全国調査との比較では、「平等である」の割合が低くなっています。



④政治の場で

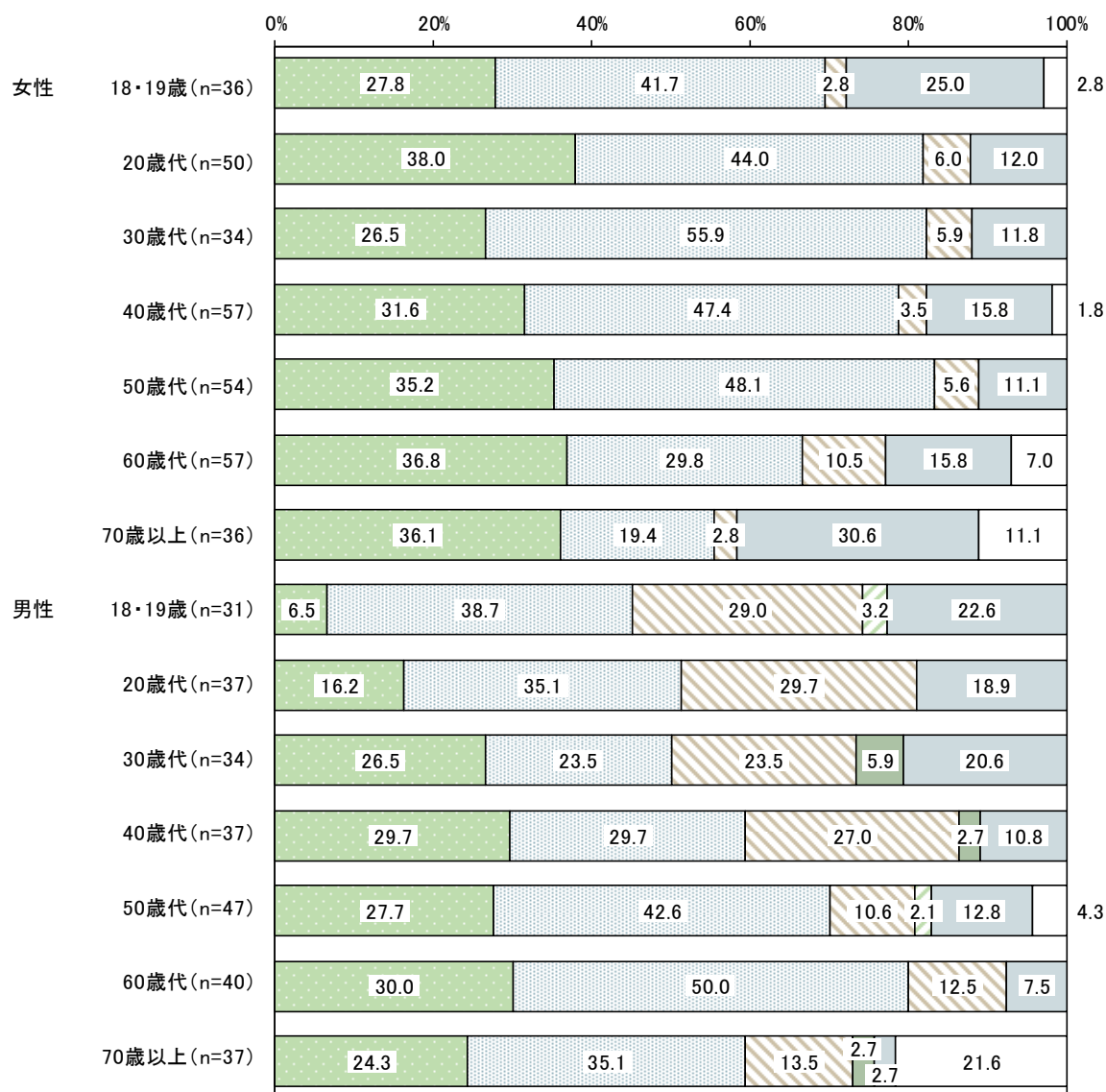
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



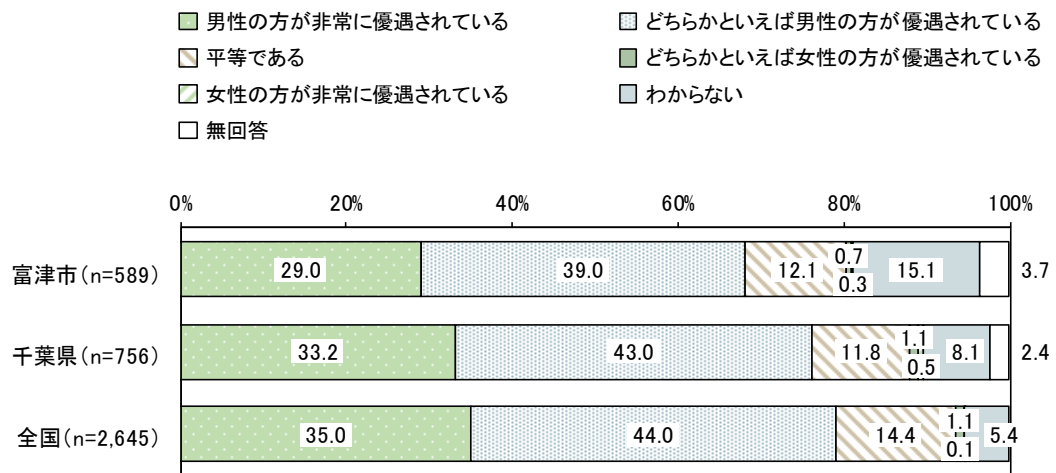
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、男女ともに全ての年代で高くなっており、特に女性の20歳代、30歳代、50歳代、男性の60歳代では8割以上となっています。



【国・県との比較】

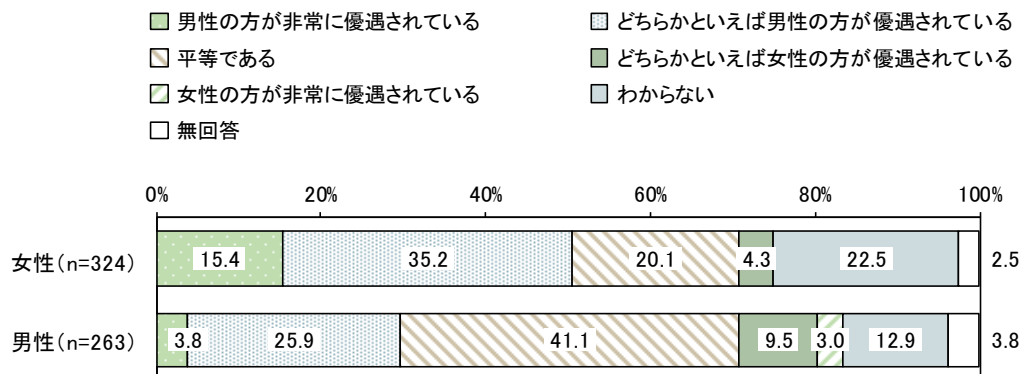
千葉県調査、全国調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。



⑤法律や制度の上で

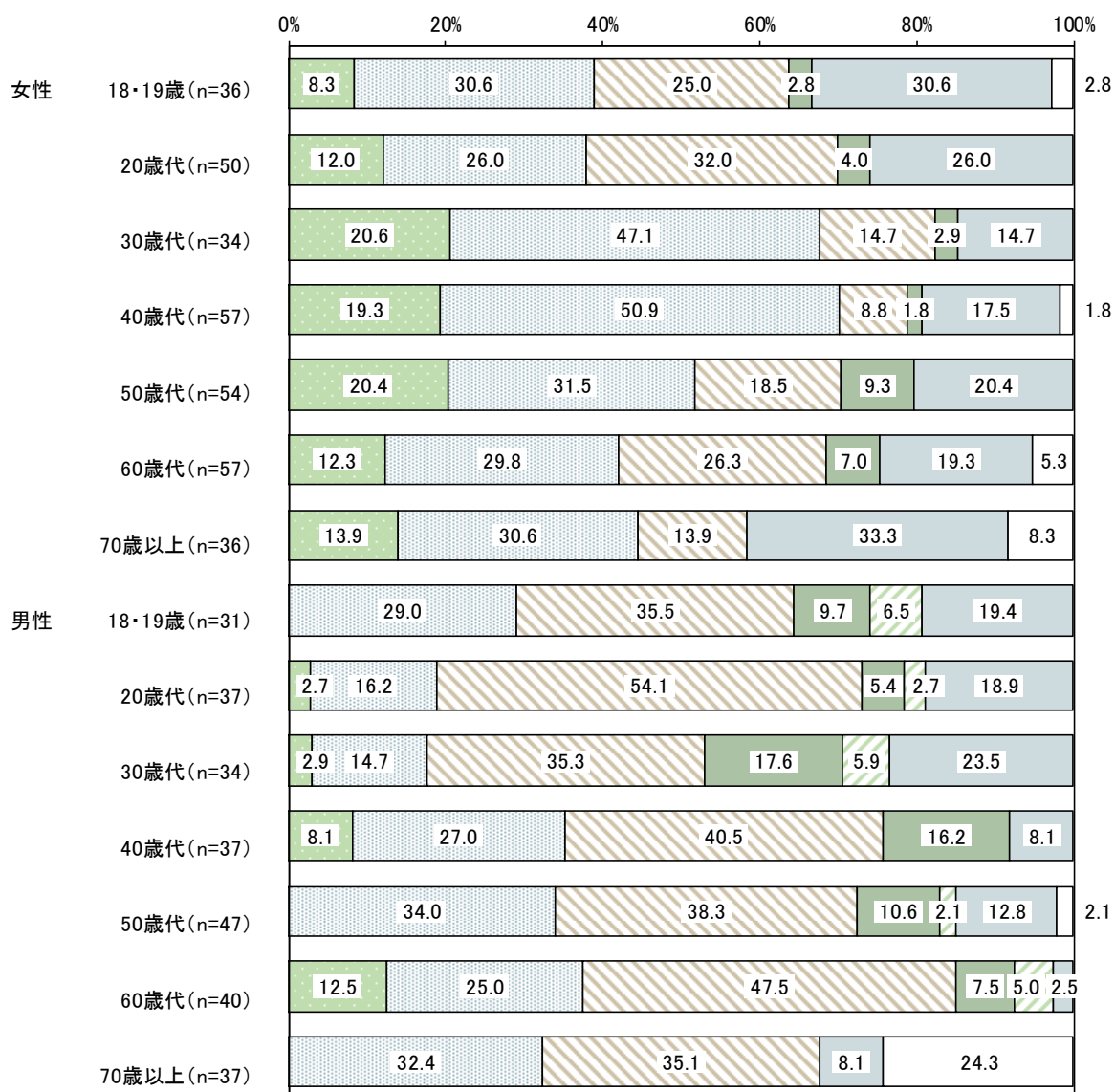
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」、『女性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。



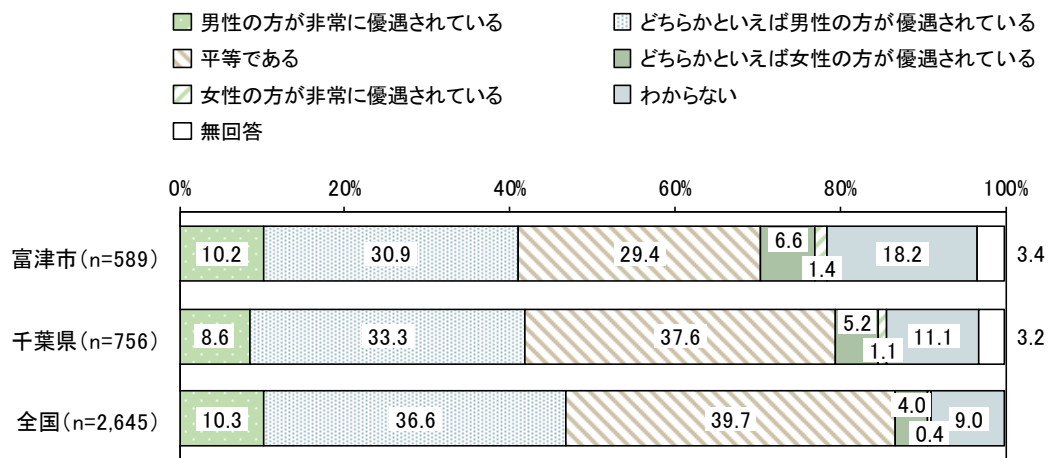
【性・年代別】

女性では、全ての年代で『男性の方が優遇されている』の割合が高く、男性では、全ての年代で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県との比較】

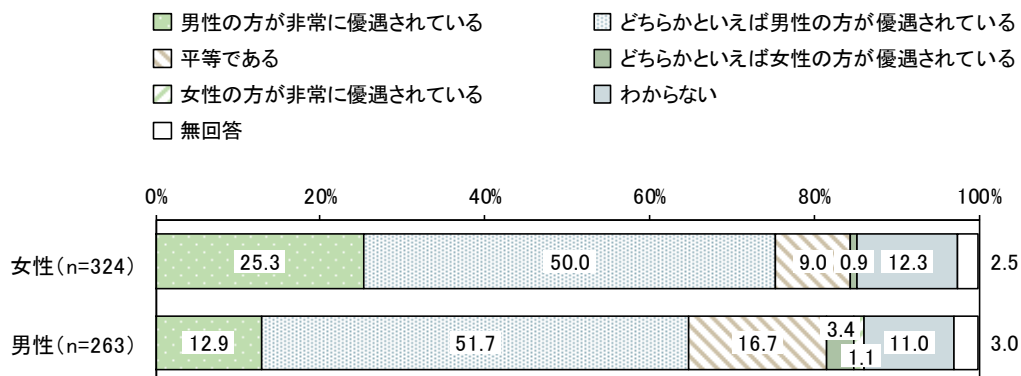
千葉県調査、全国調査との比較では、「平等である」の割合が低くなっています。また、全国調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。



⑥社会通念・慣習・しきたりなどで

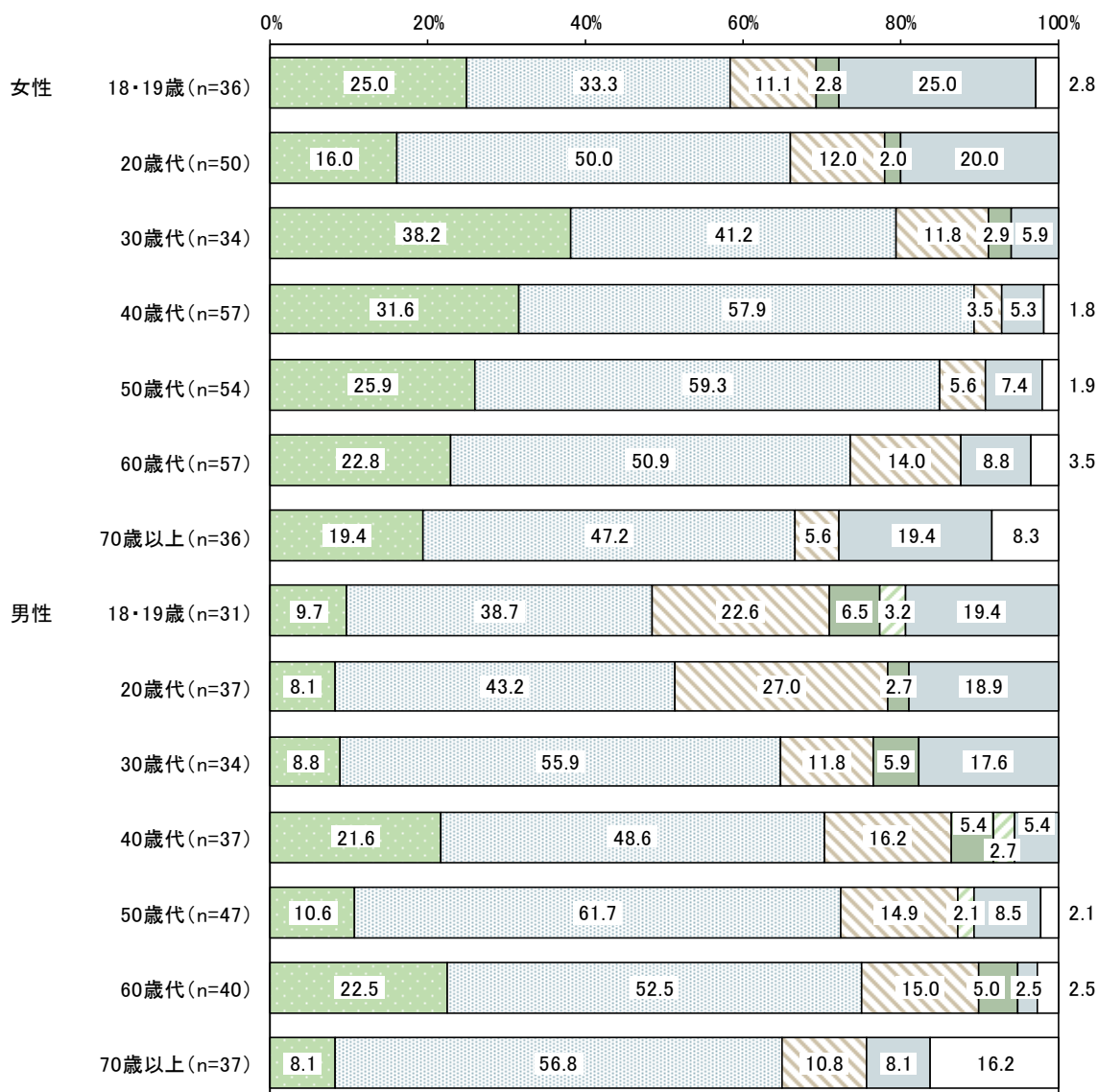
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



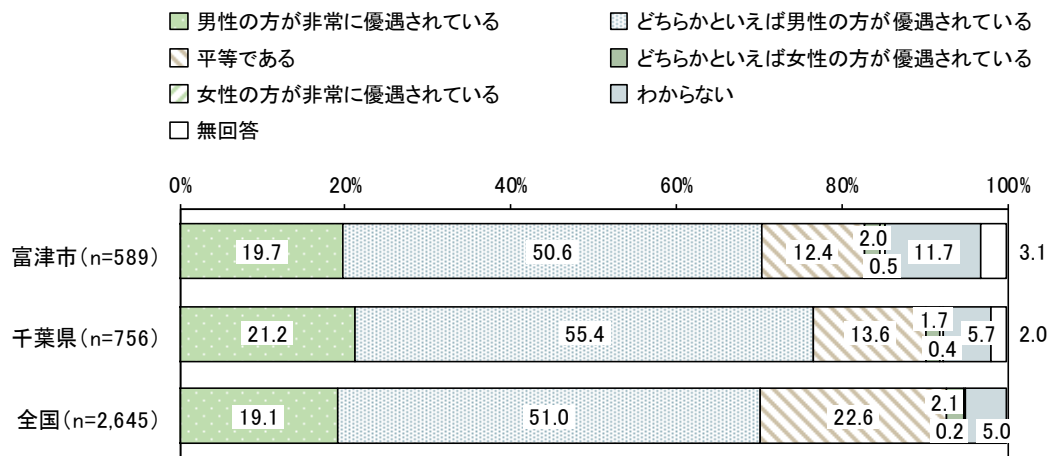
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、男女ともに全ての年代で高くなっており、特に女性の40歳代、50歳代では8割以上となっています。



【国・県との比較】

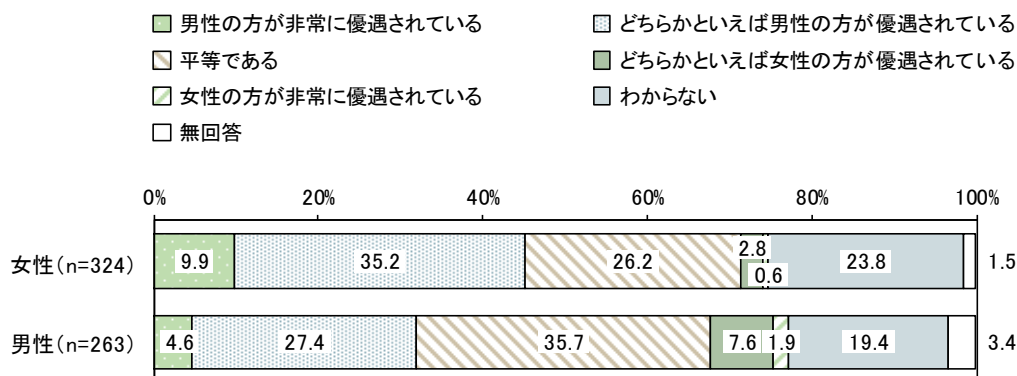
千葉県調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。また、全国調査との比較では、「平等である」の割合が低くなっています。



⑦地域活動の場で（自治会やPTAなど）

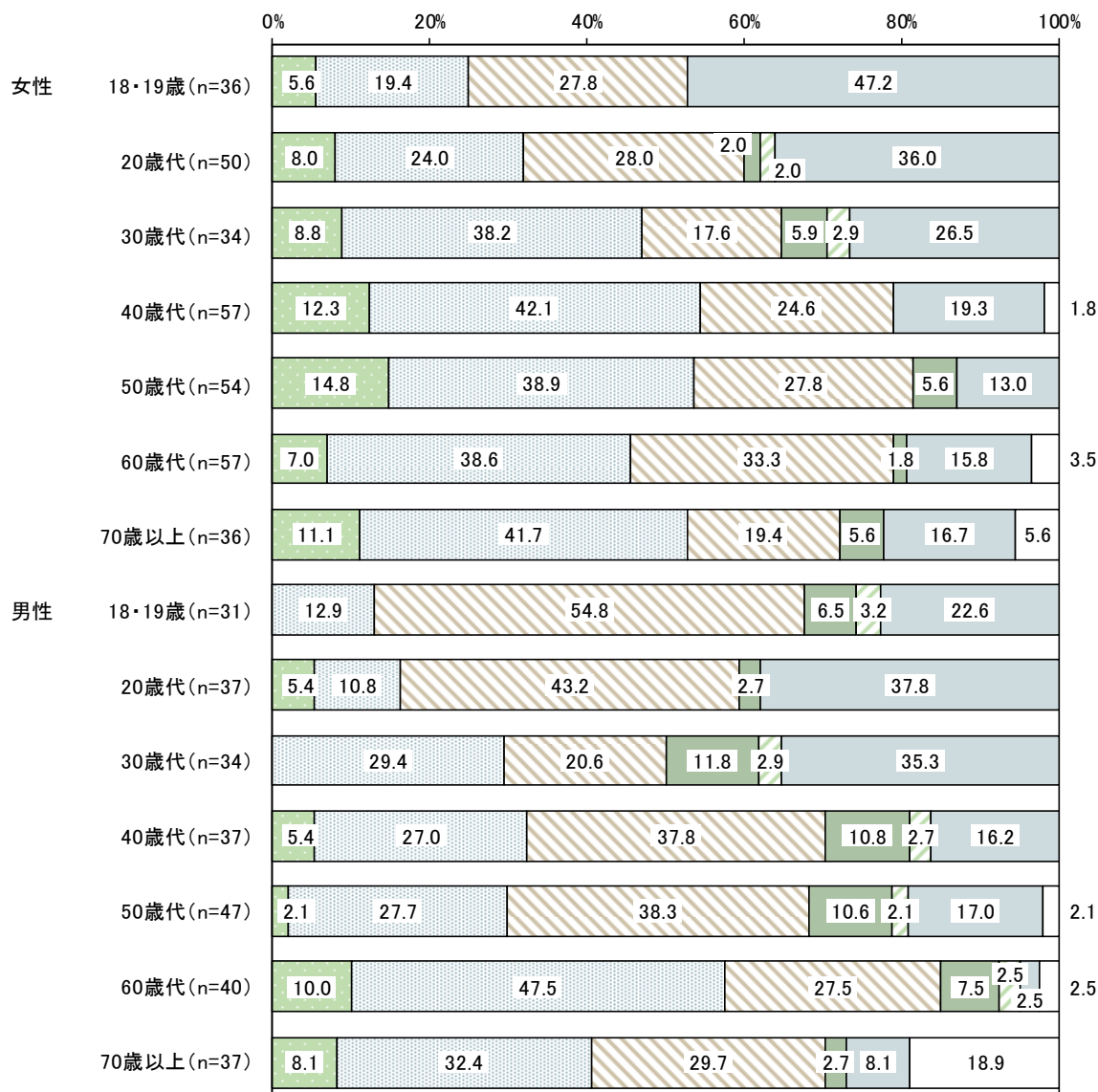
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



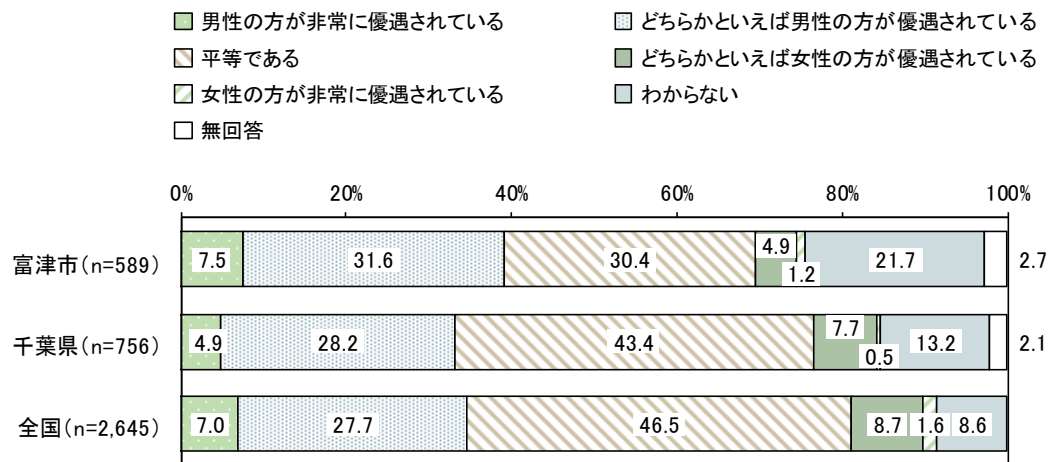
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、女性の40歳代、50歳代、70歳以上、男性の60歳代で5割以上となっています。男性の18・19歳では「平等である」の割合が、5割以上となっています。



【国・県との比較】

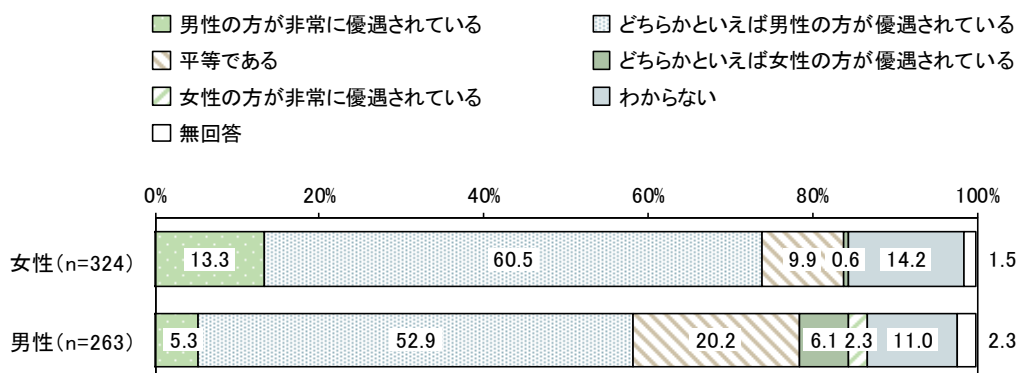
千葉県調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。また、千葉県調査、全国調査との比較では、「平等である」の割合が低くなっています。



⑧社会全体で

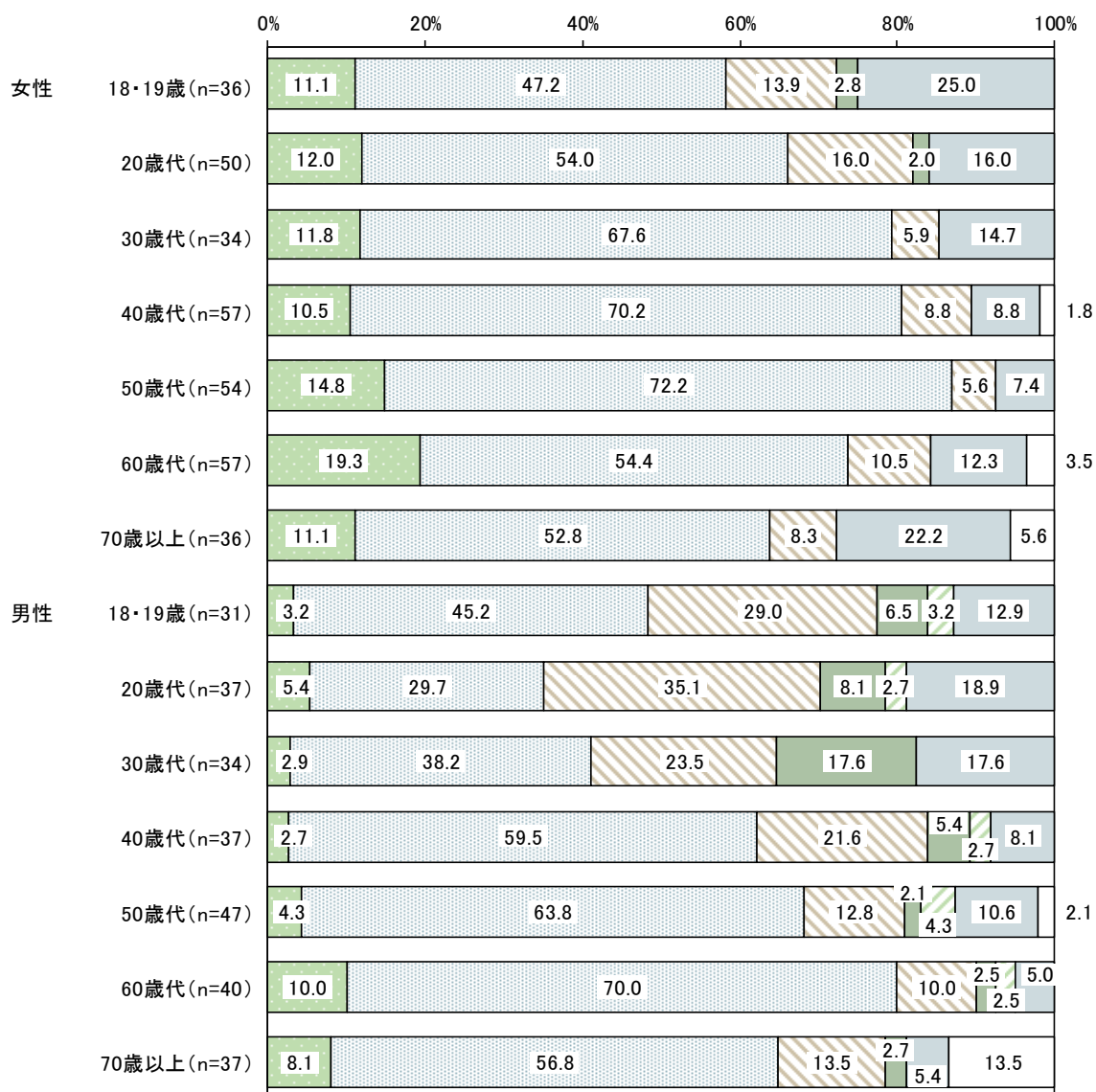
【性別】

男性と比較して、女性の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



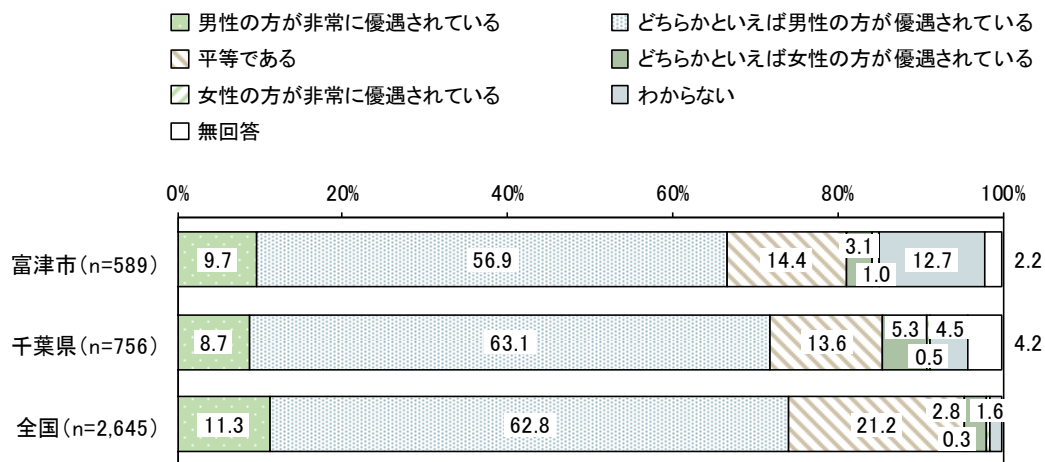
【性・年代別】

『男性の方が優遇されている』の割合が、男女ともに全ての年代で高くなっており、特に女性の40歳代、50歳代、男性の60歳代では8割以上となっています。



【国・県との比較】

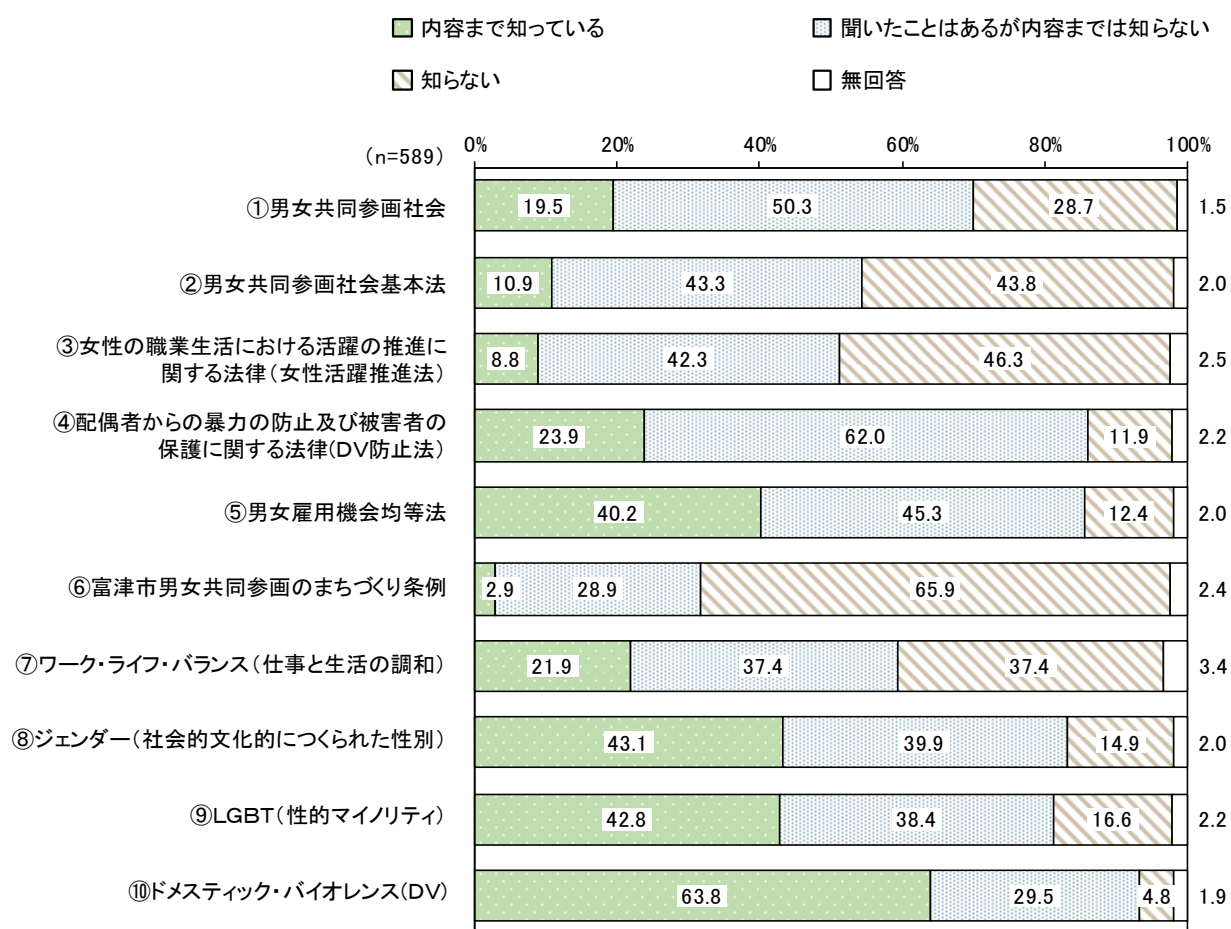
千葉県調査、全国調査との比較では、『男性の方が優遇されている』の割合が低くなっています。また、全国調査との比較では、「平等である」の割合が低くなっています。



(2) 男女共同参画に関する言葉の認知状況

問2 あなたは、次の言葉を知っていますか。①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「内容まで知っている」の割合は、“⑩ドメスティック・バイオレンス（DV）”の63.8%で最も高くなっています。その他の言葉では「聞いたことはあるが内容までは知らない」と「知らない」を合わせた割合が半数以上となっており、特に“⑥富津市男女共同参画のまちづくり条例”では9割以上、“②男女共同参画社会基本法”“③女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）”では、8割以上となっています。

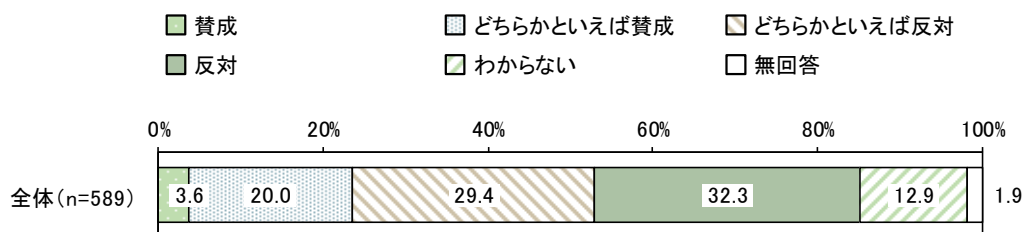


3 家庭生活について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

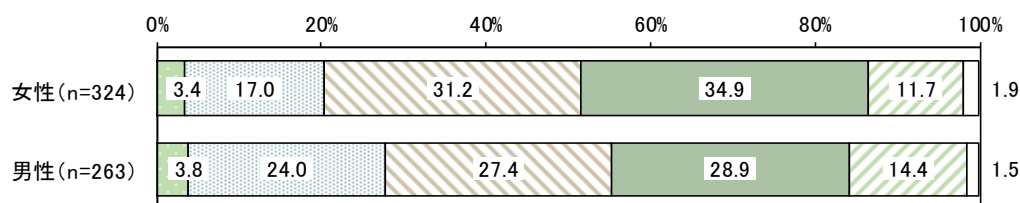
問3 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合が23.6%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』の割合が61.7%となっており、『反対』の割合が『賛成』の割合を大きく上回っています。



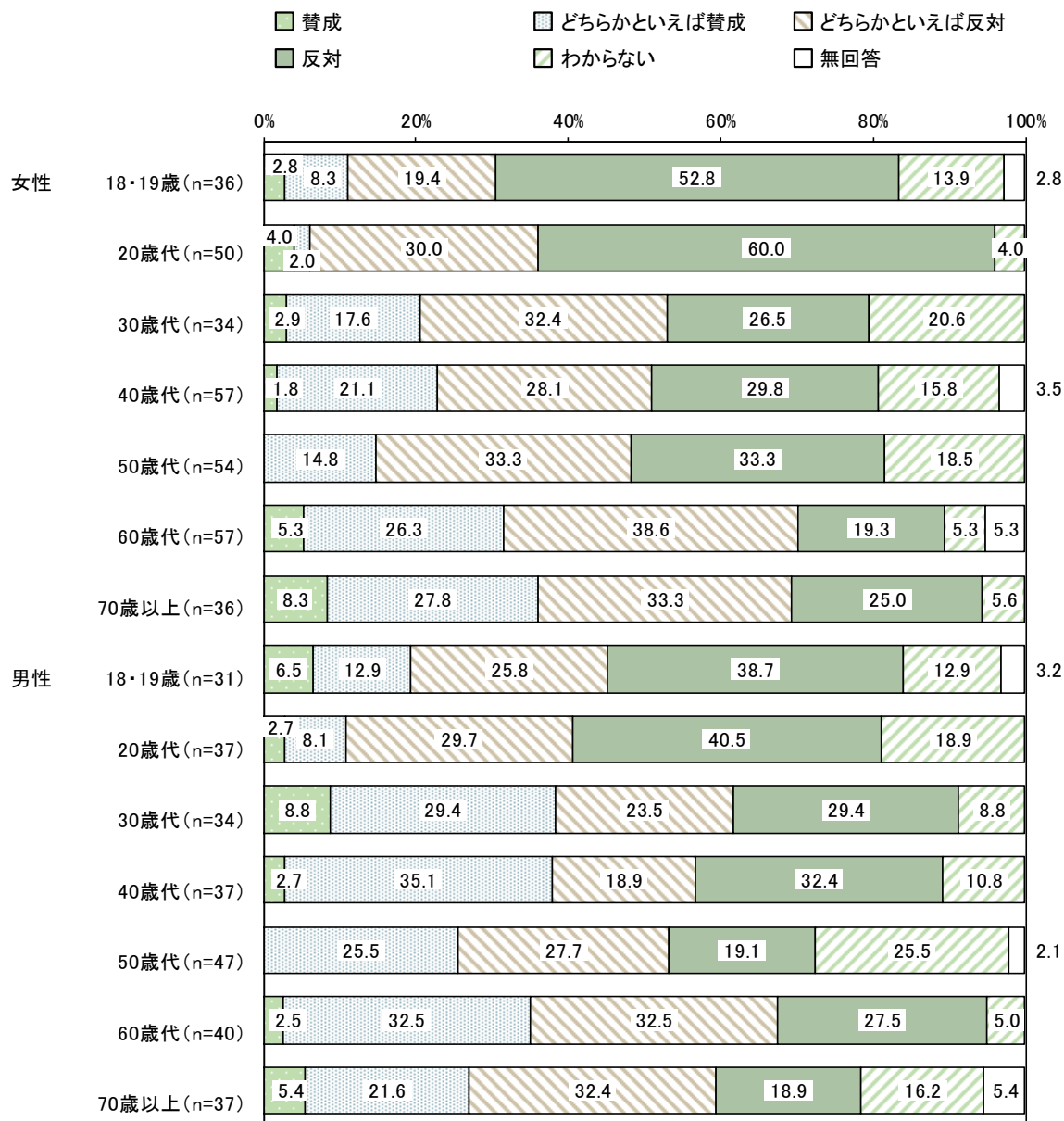
【性別】

男性と比較して、女性の方が『反対』の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が『賛成』の割合が高くなっています。



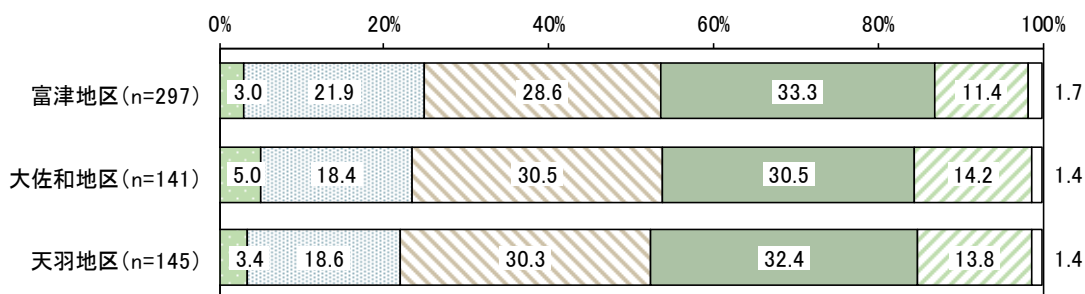
【性・年代別】

男女ともに全ての年代で、『反対』の割合が『賛成』の割合を上回っており、特に女性の20歳代では『反対』の割合が、9割となっています。



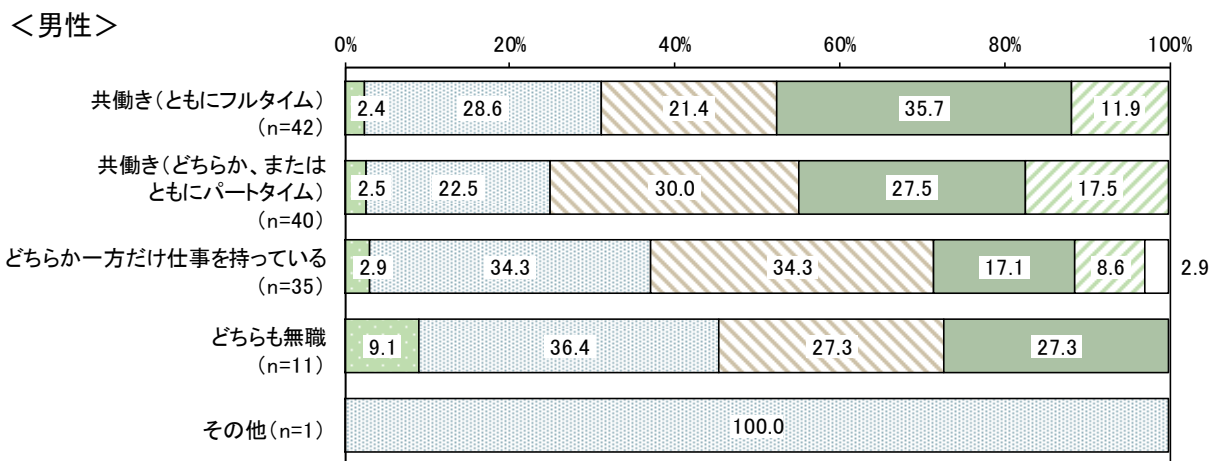
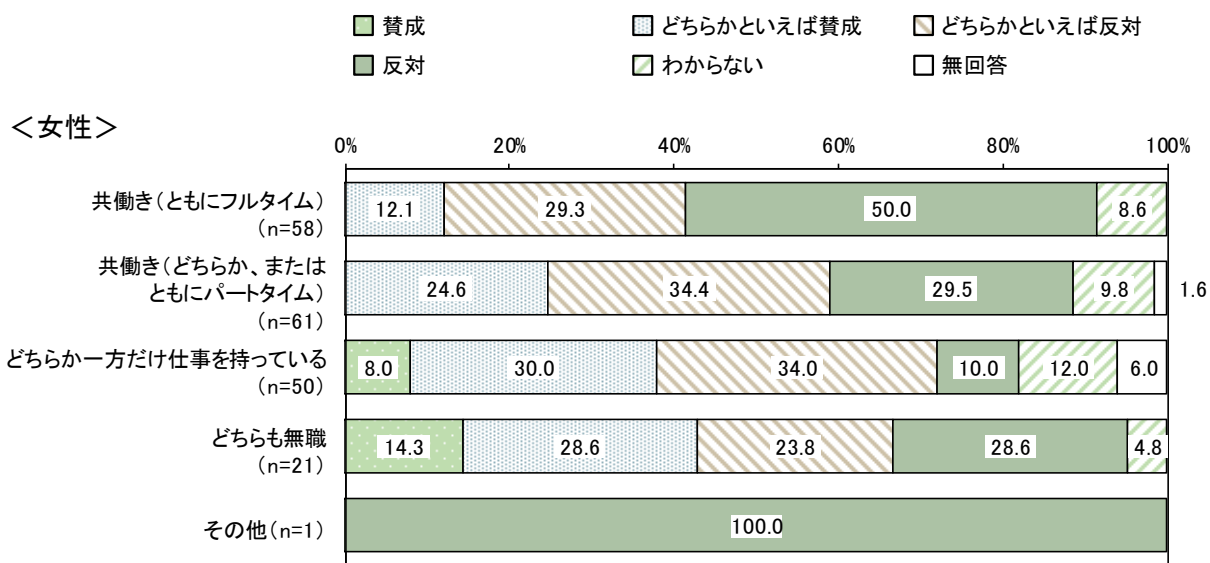
【居住地区別】

居住地区による大きな差はみられません。



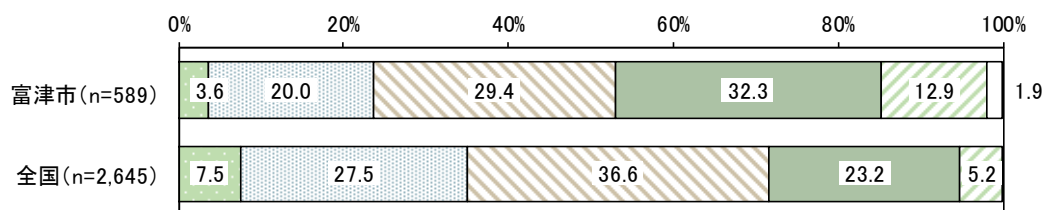
【性・共働きの状況別】

「共働き（ともにフルタイム）」では、『反対』の割合が、男性と比較して女性の方が高くなっており、『賛成』の割合が、女性と比較して男性の方が高くなっています。



【国との比較】

全国調査との比較では、『賛成』の割合が低くなっています。

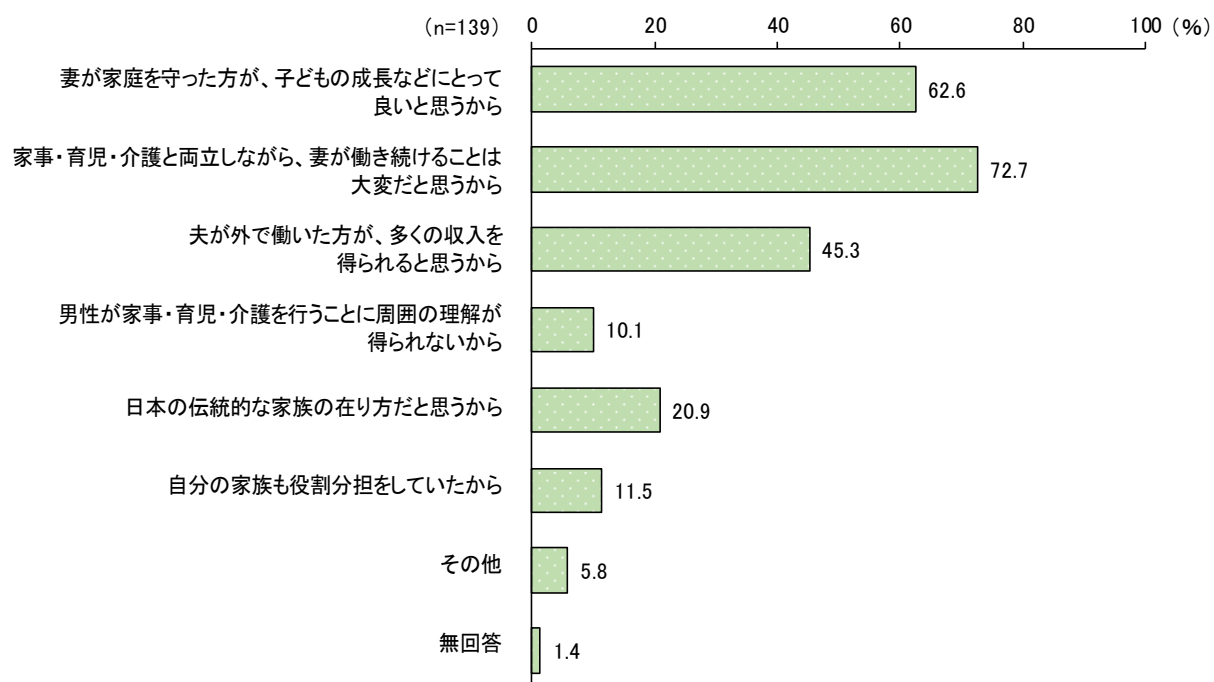


(1-1) 賛成の理由

【問3で「1 賛成」「2 どちらかといえば賛成」と回答した方に伺います】

問3-1 その理由について、あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』と回答した理由について、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が72.7%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が62.6%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が45.3%となっています。



【性別】

「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」「男性が家事・育児・介護を行うことに周囲の理解が得られないから」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」の割合が高くなっています。

単位：％

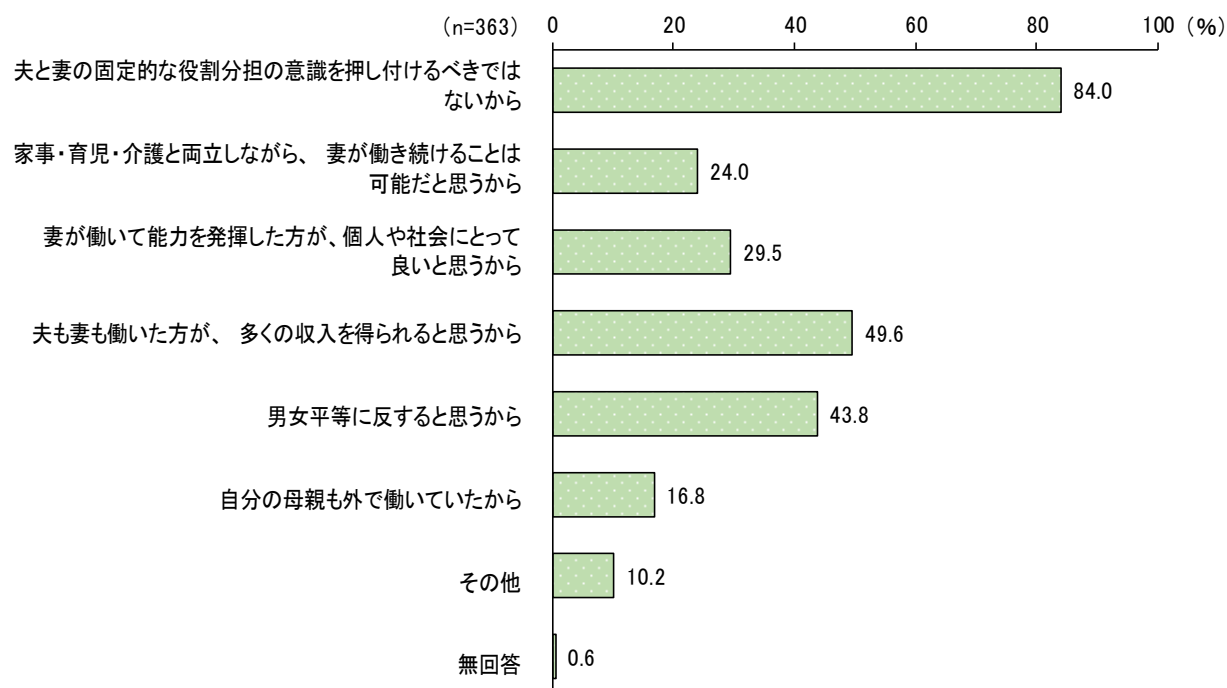
区分	回答者数(人)	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男性が家事・育児・介護を行うことに周囲の理解が得られないから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の家族も役割分担をしていたから	その他	無回答
女性	66	54.5	74.2	50.0	13.6	16.7	12.1	4.5	1.5
男性	73	69.9	71.2	41.1	6.8	24.7	11.0	6.8	1.4

(1-2) 反対の理由

【問3で「3 どちらかといえば反対」「4 反対」と回答した方に伺います】

問3-2 その理由について、あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』と回答した理由について、「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が84.0%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が49.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が43.8%となっています。



【性別】

「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が高くなっています。

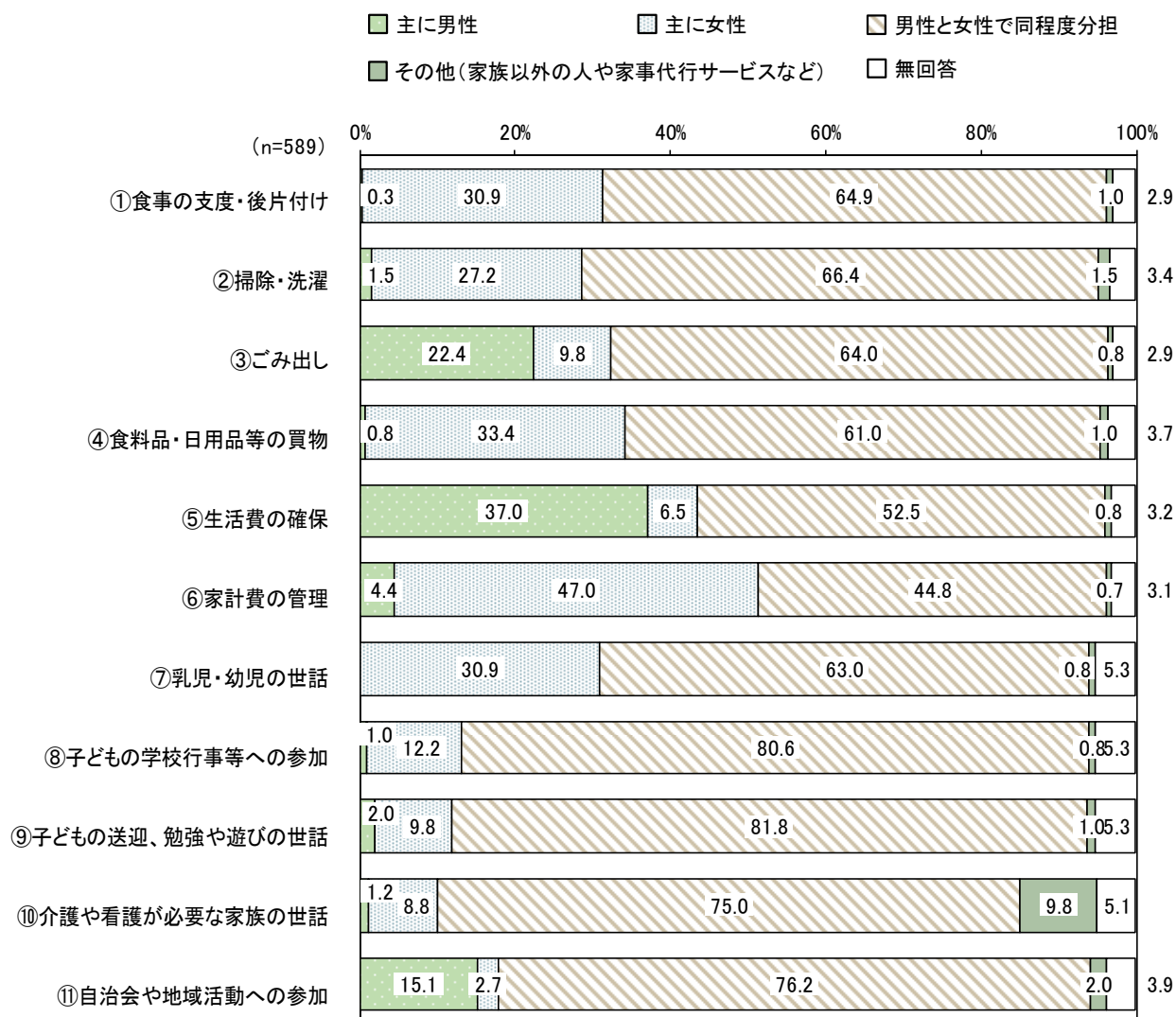
単位：％

区分	回答者数(人)	夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	自分の母親も外で働いていたから	その他	無回答
女性	214	87.4	24.8	24.8	47.2	42.5	16.8	12.6	0.9
男性	148	79.7	22.3	36.5	52.7	45.9	16.9	6.8	—

(2) 家庭での役割分担（理想）

問4 あなたは、家庭における次の役割について、どのように分担するのが望ましいと思いますか。①～⑪のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

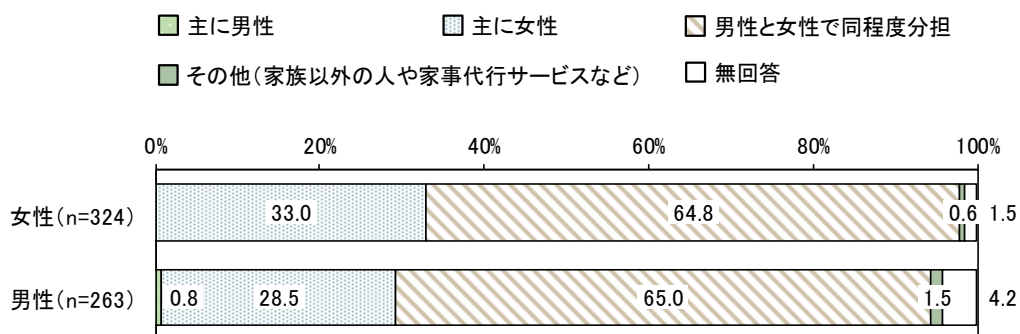
“⑥家計費の管理”を除く全ての項目で「男性と女性で同程度分担」の割合が最も高く、特に“⑧子どもの学校行事等への参加”“⑨子どもの送迎、勉強や遊びの世話”では、8割以上となっています。“⑥家計費の管理”では「主に女性」の割合が、4割以上となっています。また、「主に男性」の割合は、“⑤生活費の確保”で3割以上となっています。



①食事の支度・後片付け

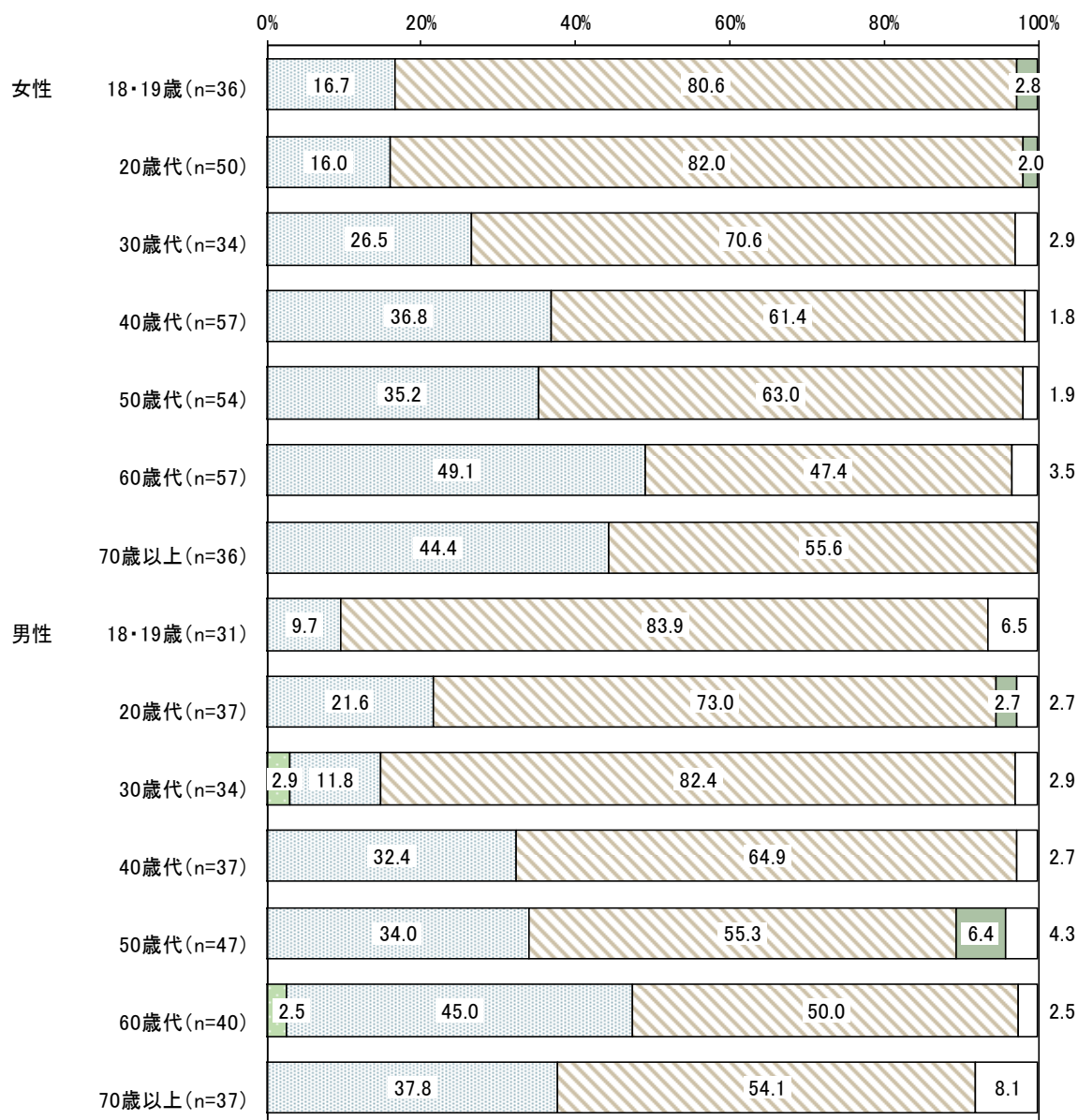
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

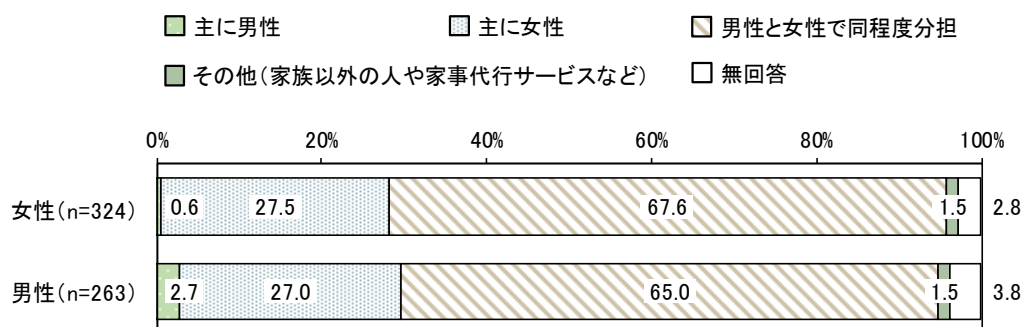
「男性と女性で同程度分担」の割合が、女性の 60 歳代を除く全ての年代で最も高く、特に女性の 18・19 歳、20 歳代、男性の 18・19 歳、30 歳代では 8 割以上となっています。



②掃除・洗濯

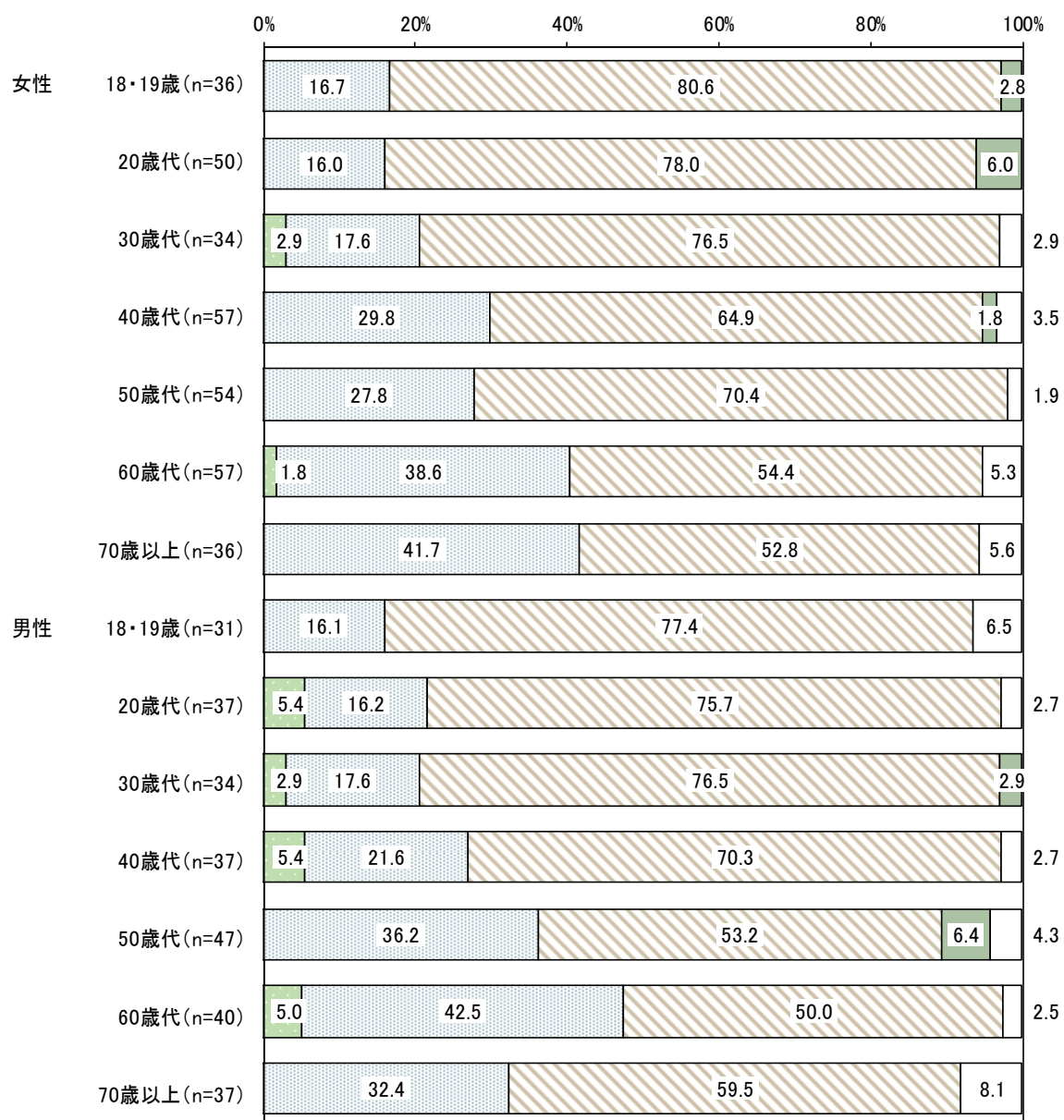
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

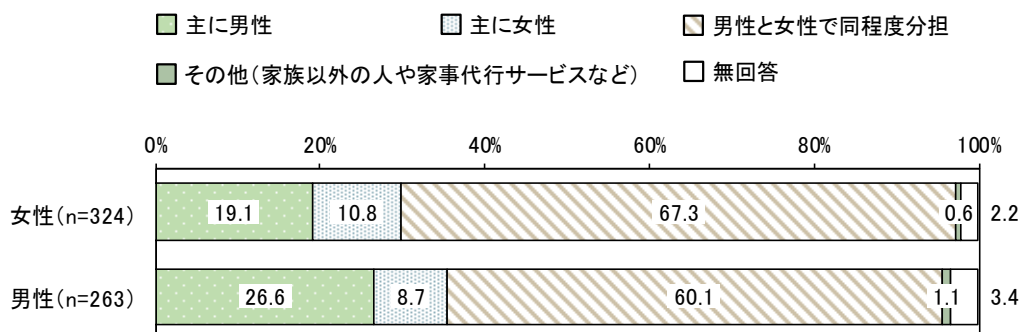
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳では8割以上となっています。



③ごみ出し

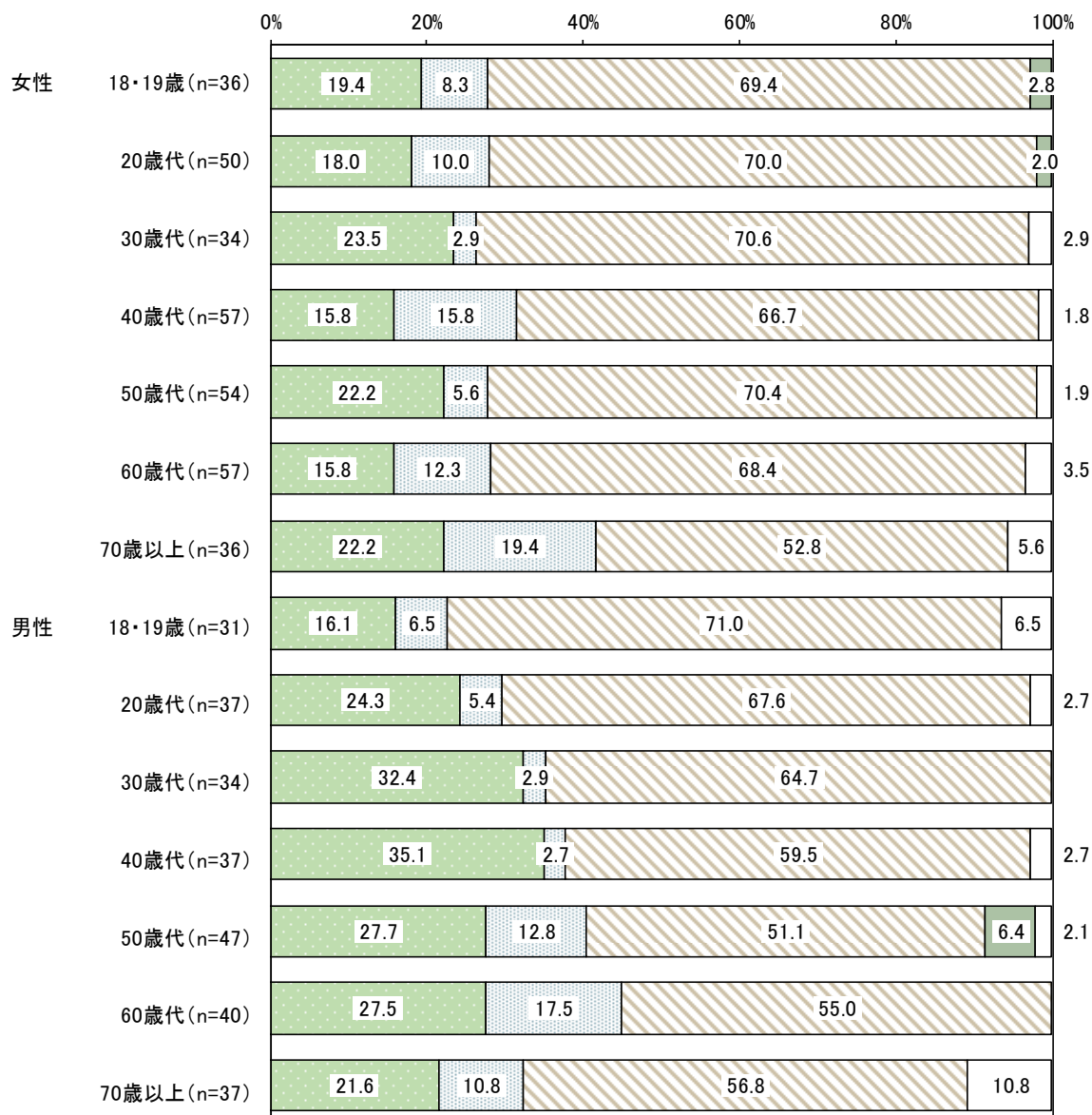
【性別】

男性と比較して、女性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に男性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

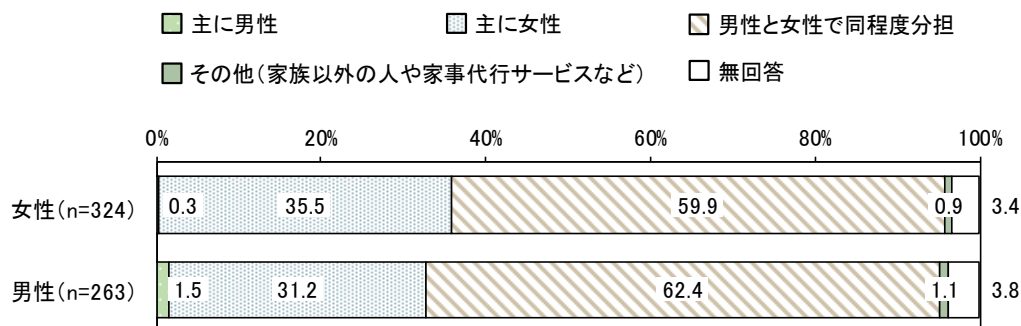
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の 20 歳代、30 歳代、50 歳代、男性の 18・19 歳では 7 割以上となっています。



④食料品・日用品等の買物

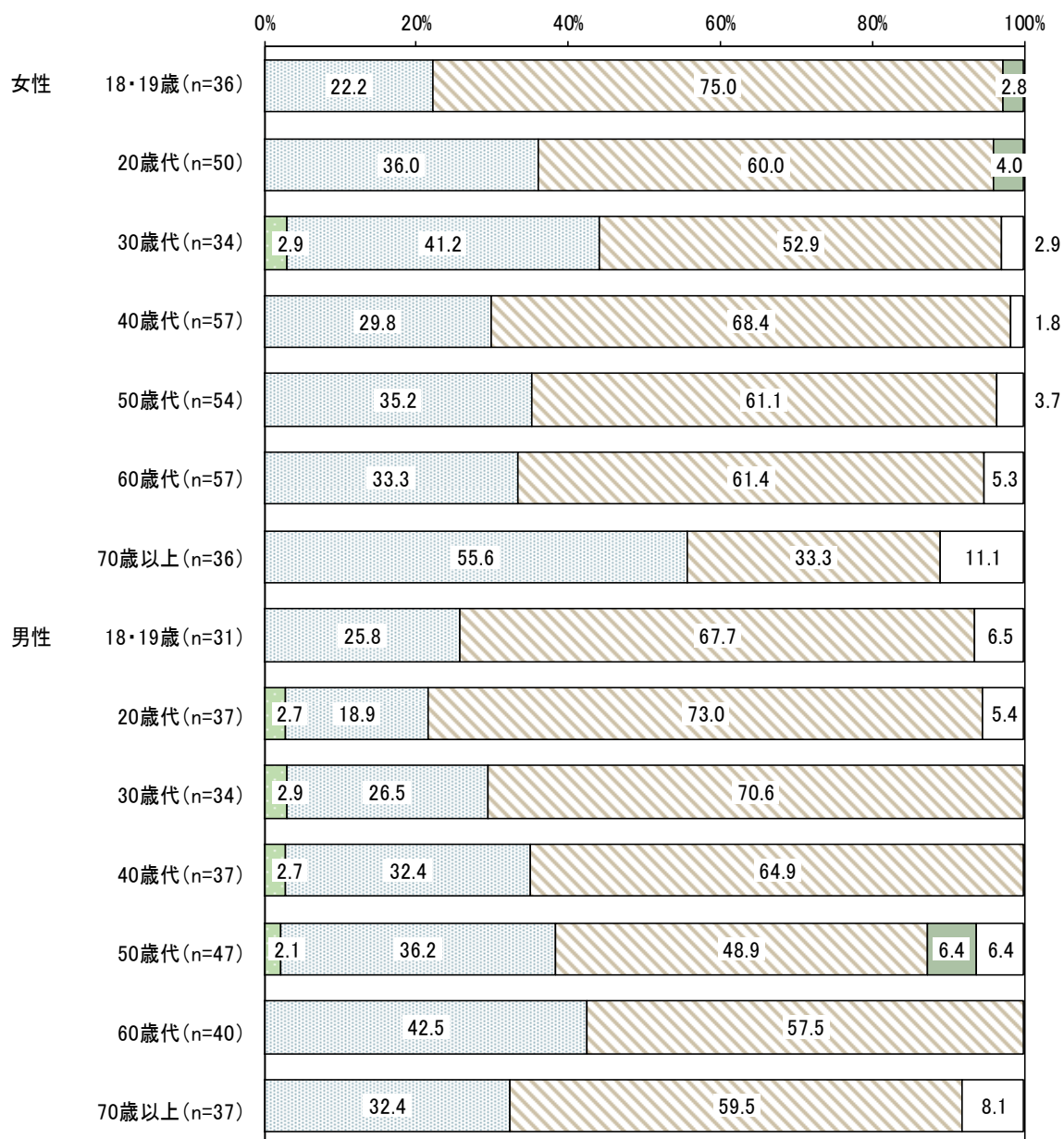
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

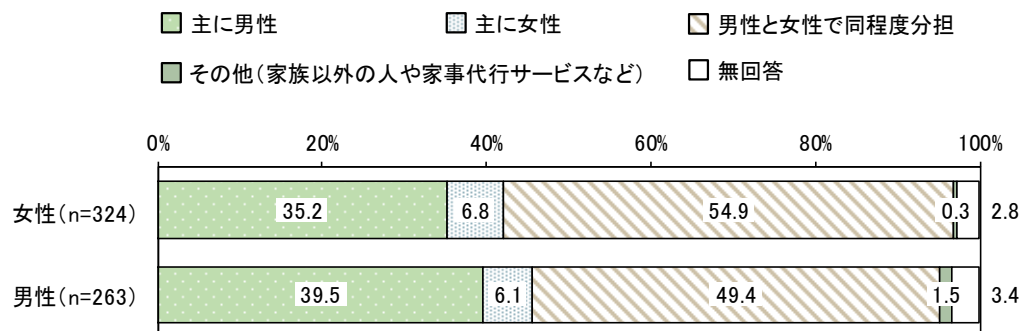
「男性と女性で同程度分担」の割合が、女性の70歳以上を除く全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、男性の20歳代、30歳代では7割以上となっています。



⑤生活費の確保

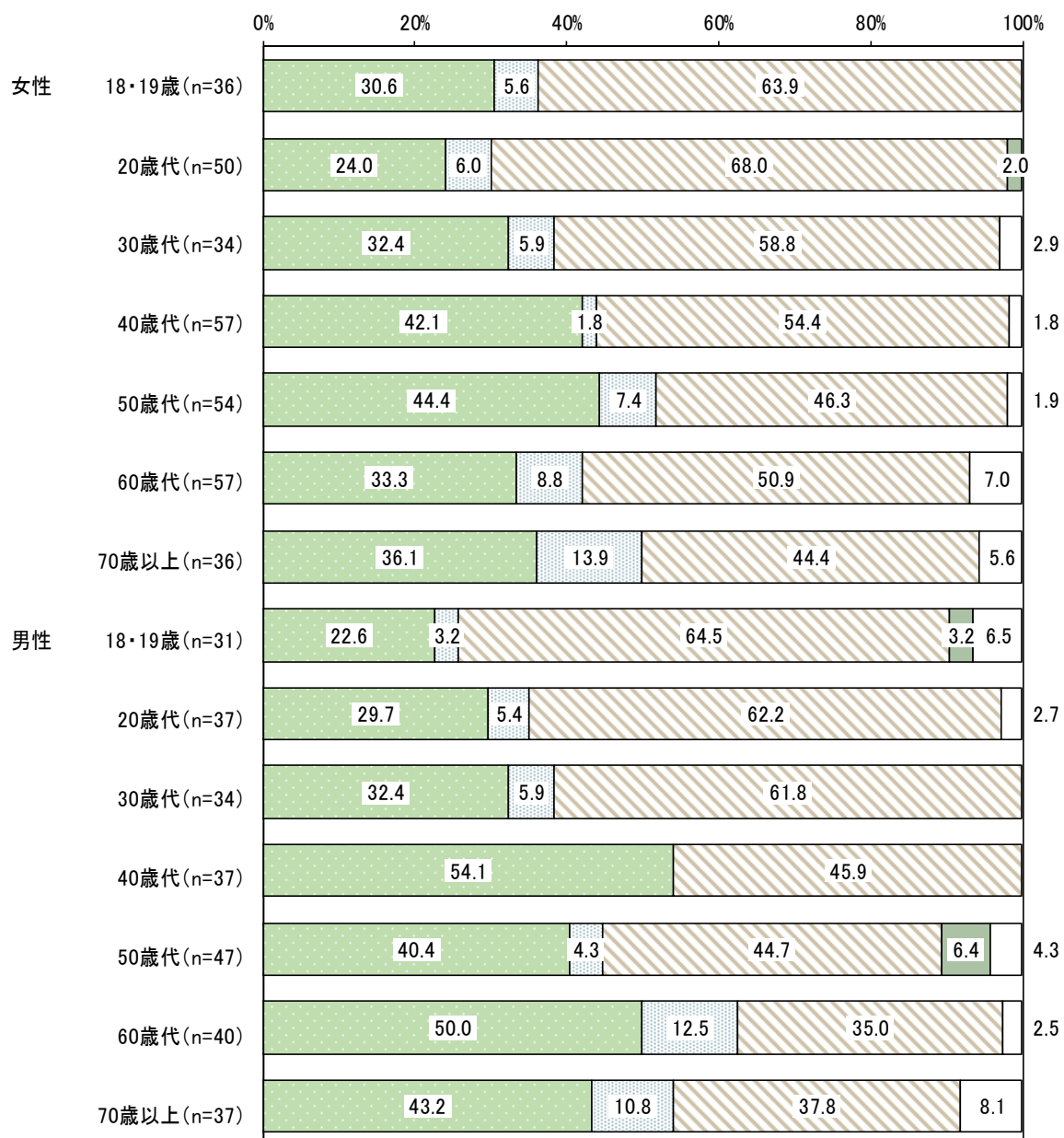
【性別】

男性と比較して、女性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

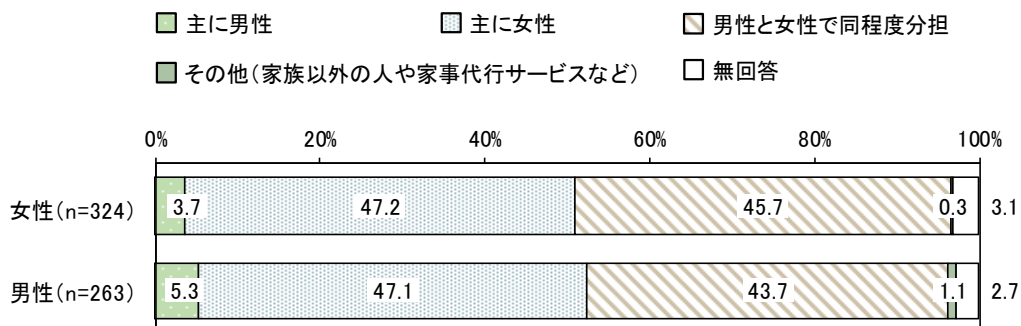
「男性と女性で同程度分担」の割合が、多くの年代で最も高く、特に女性の18・19歳、20歳代、男性の18・19歳から30歳代では6割以上となっています。



⑥家計費の管理

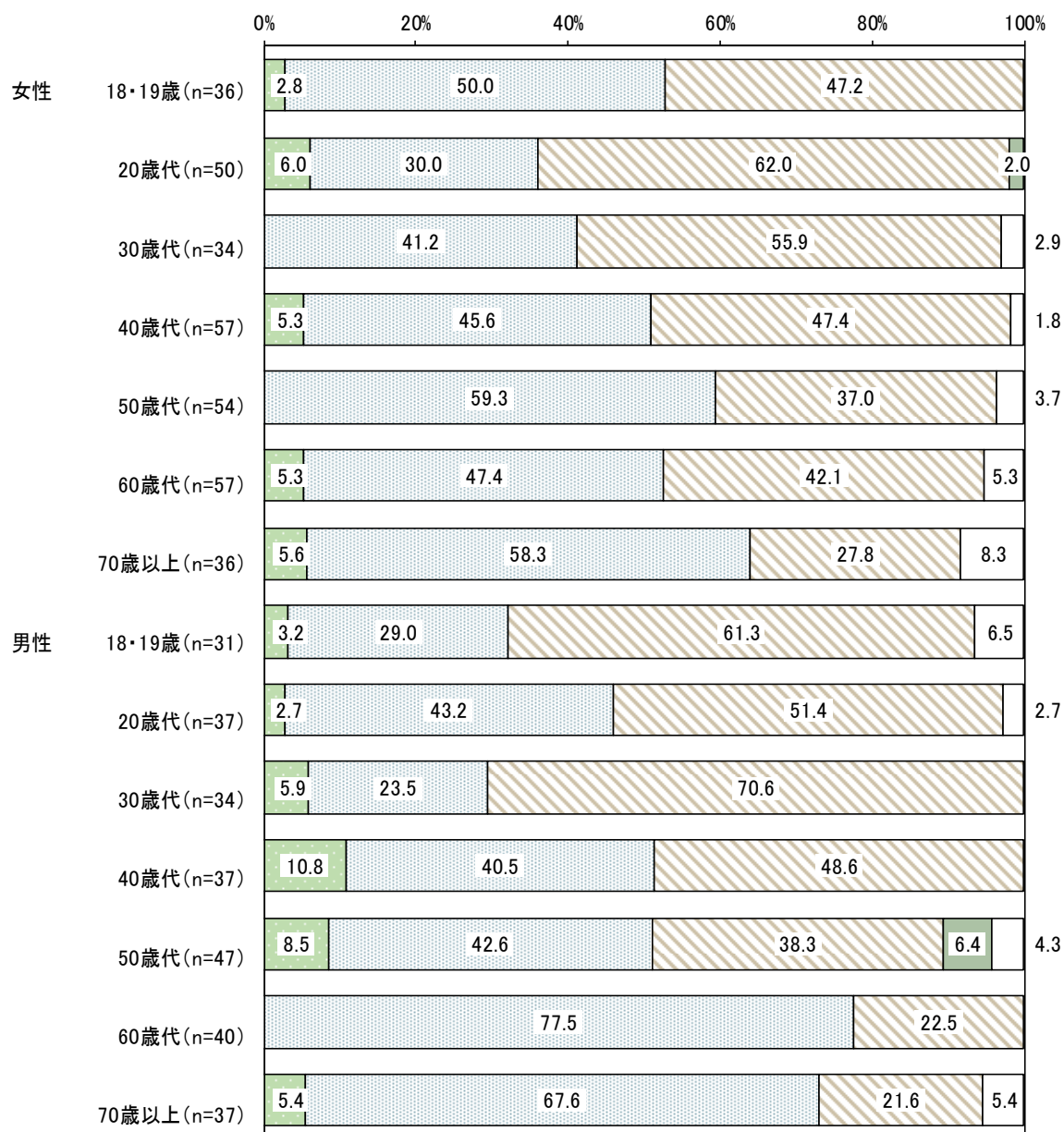
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

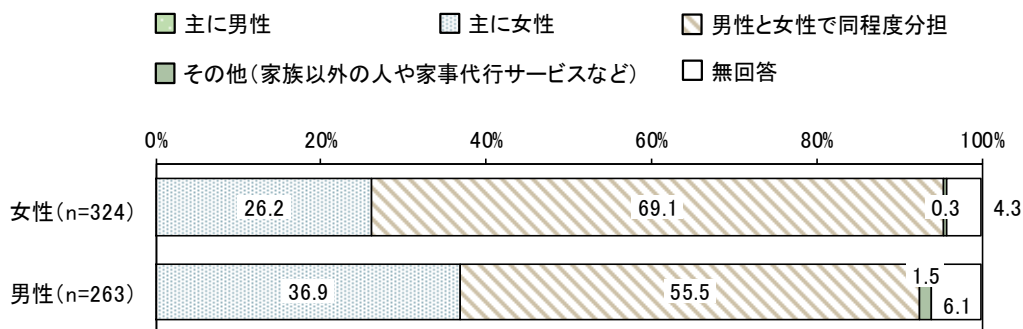
「主に女性」の割合が、男性の60歳代で7割以上となっています。男性の30歳代では「男性と女性で同程度分担」の割合が、7割以上となっています。



⑦乳児・幼児の世話

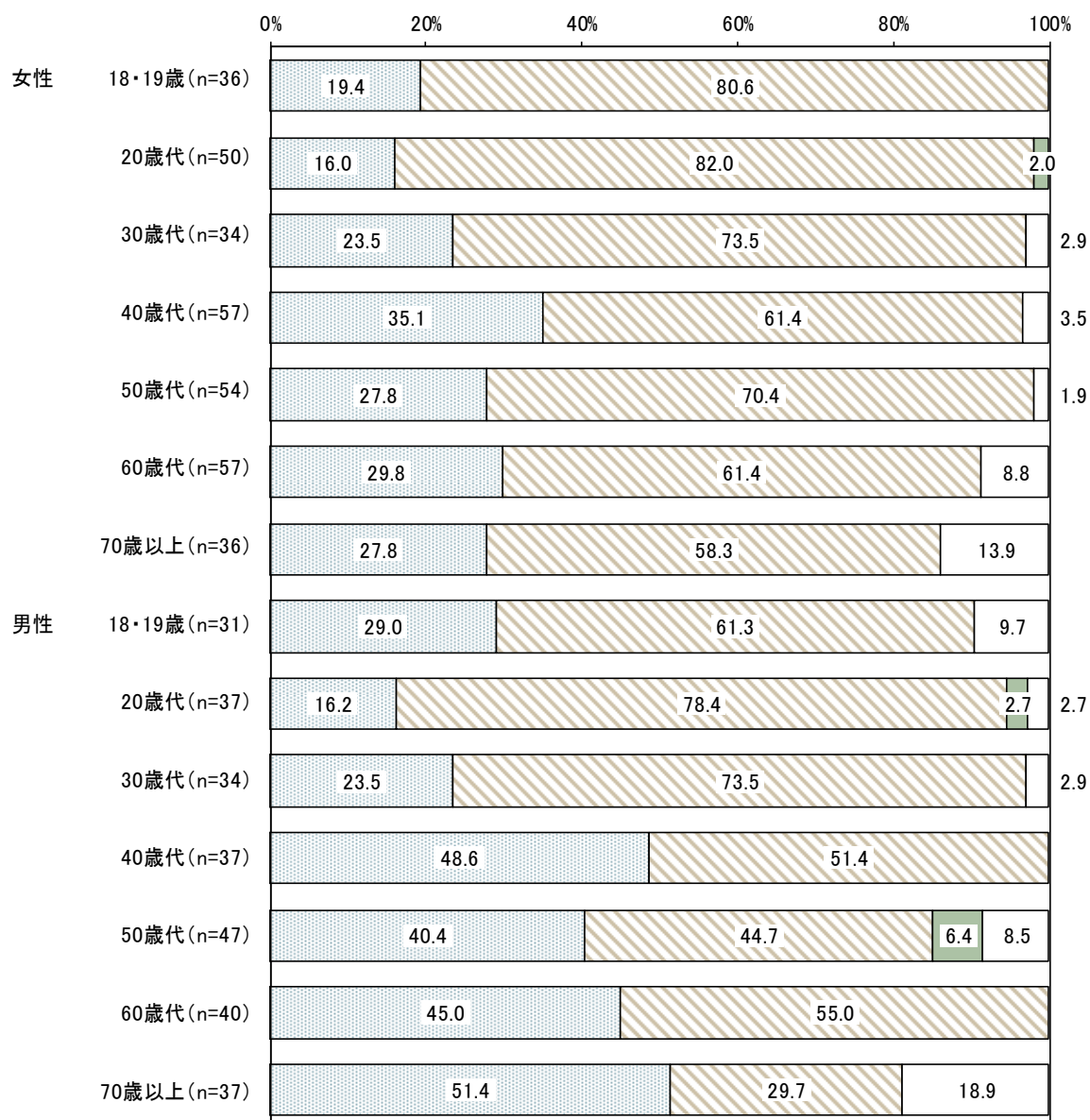
【性別】

男性と比較して、女性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

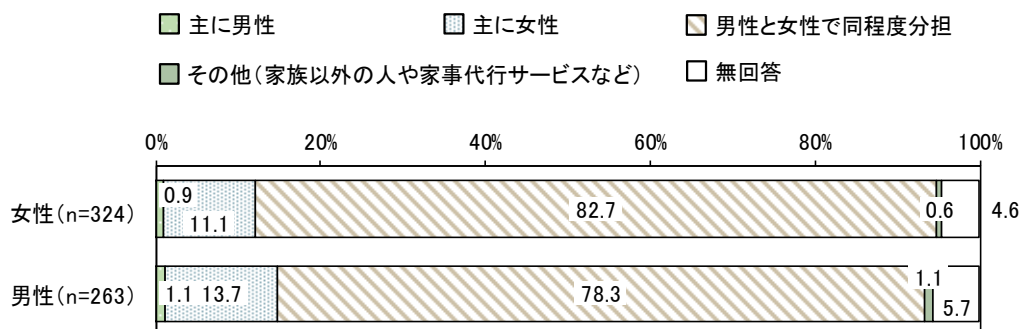
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男性の 70 歳以上を除く全ての年代で最も高く、特に女性の 18・19 歳、20 歳代では 8 割以上となっています。



⑧子どもの学校行事等への参加

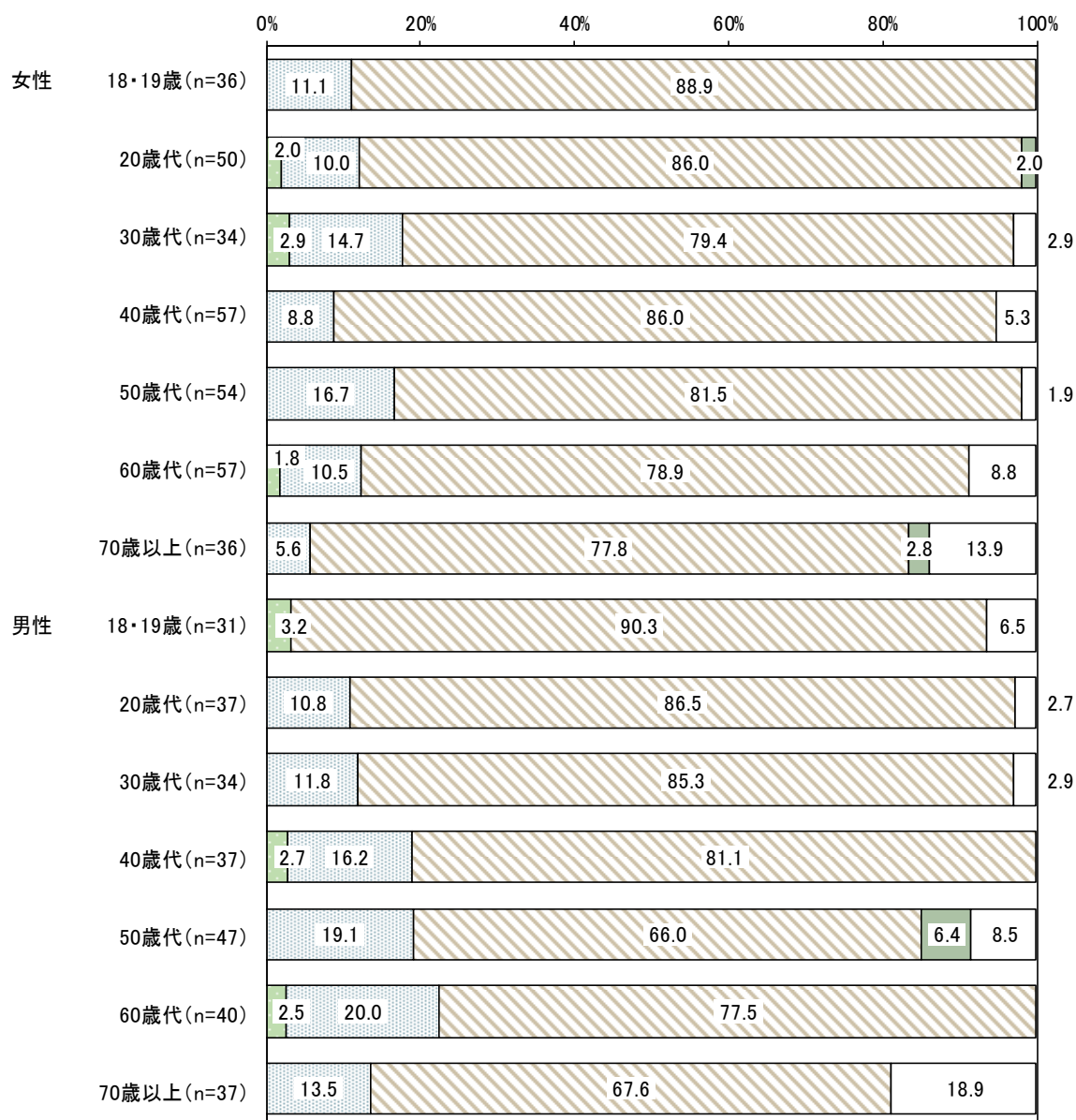
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

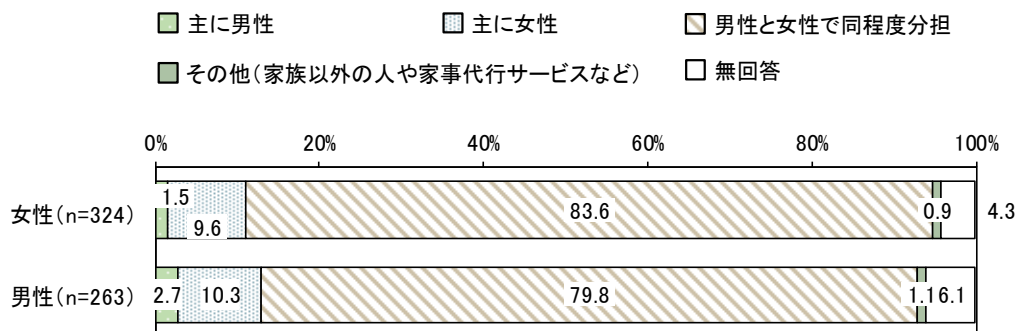
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に男性の18・19歳では9割以上となっています。



⑨子どもの送迎、勉強や遊びの世話

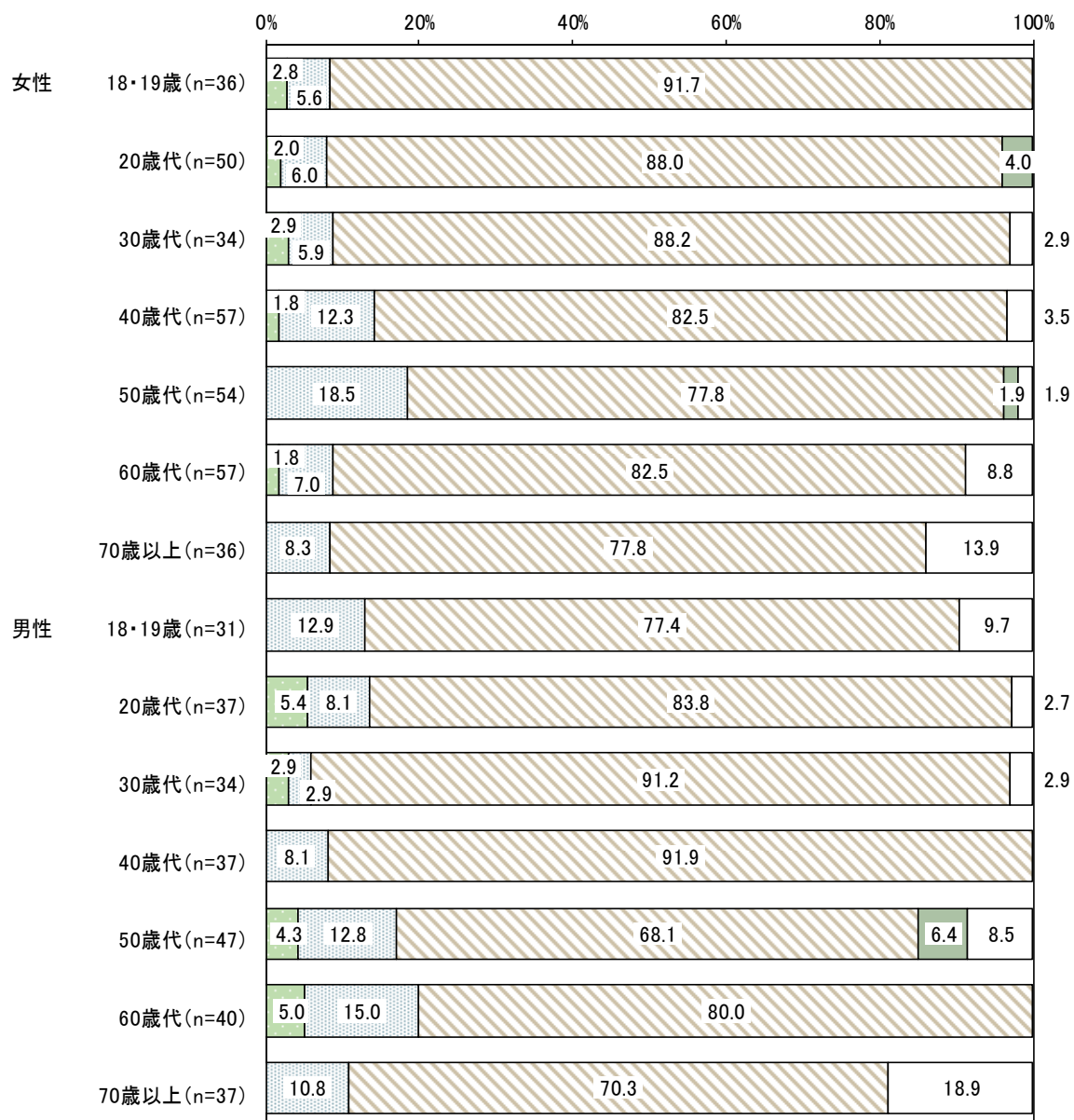
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

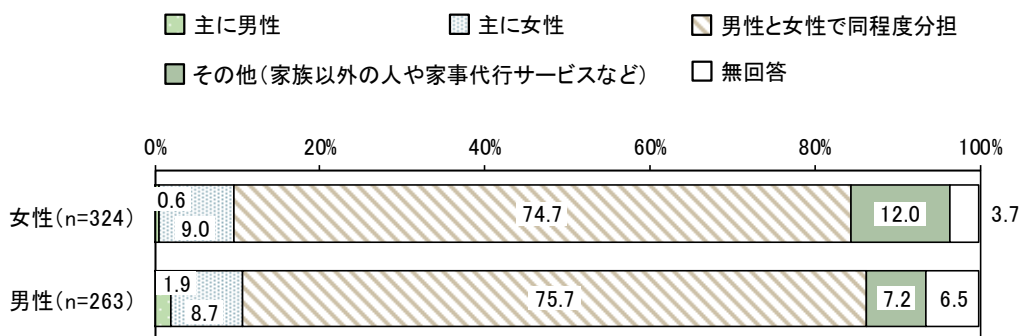
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、男性の30歳代、40歳代では9割以上となっています。



⑩介護や看護が必要な家族の世話

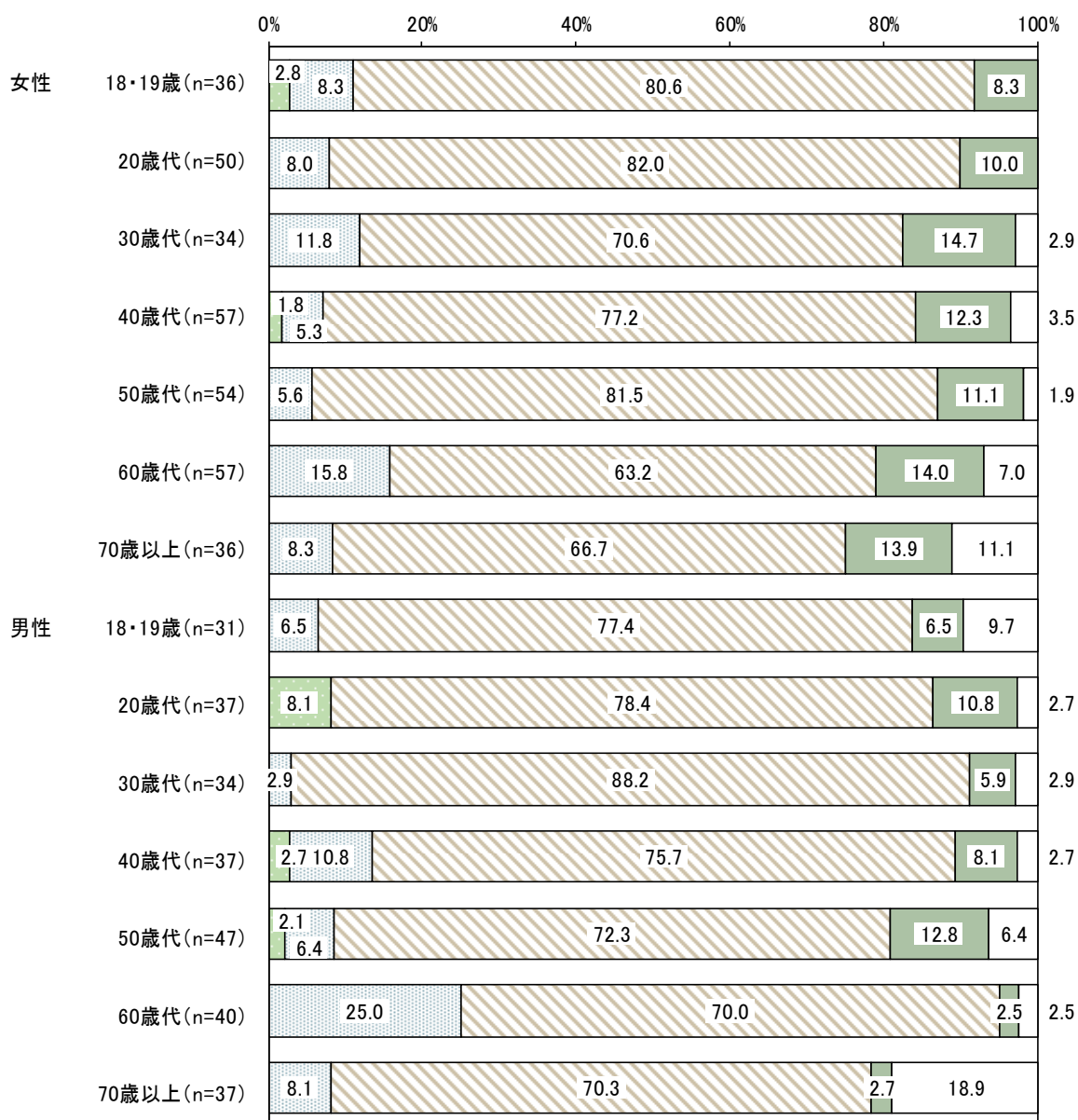
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

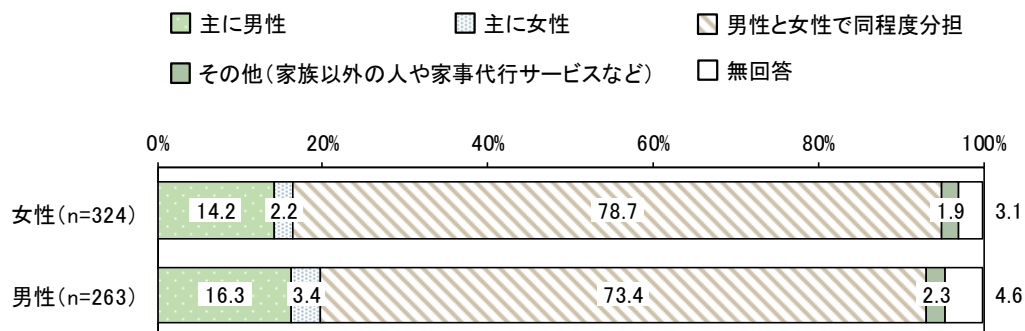
「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、20歳代、50歳代、男性の30歳代では8割以上となっています。



⑪自治会や地域活動への参加

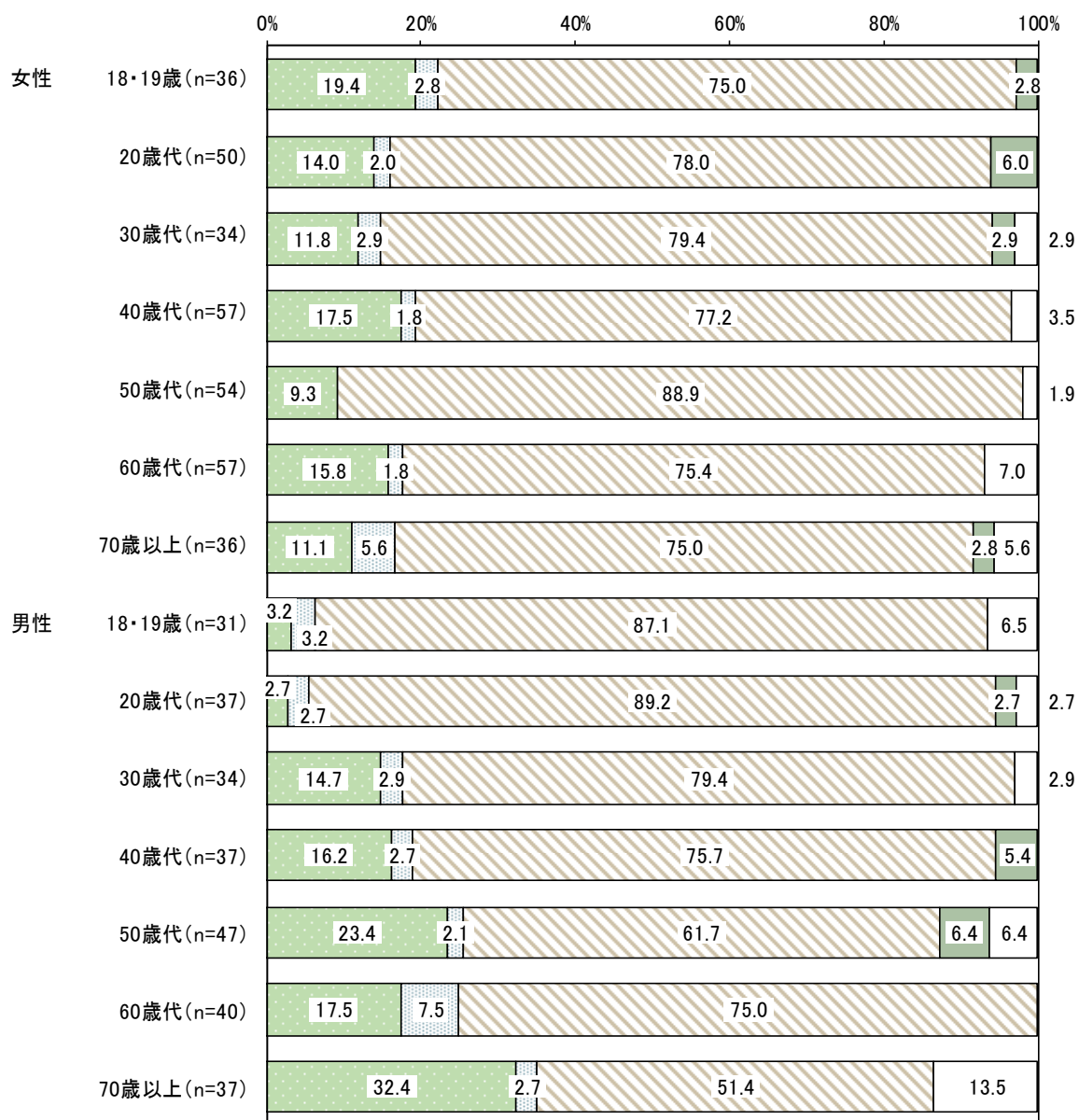
【性別】

男性と比較して、女性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

「男性と女性で同程度分担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の 50 歳代、男性の 18・19 歳、20 歳代では 8 割以上となっています。

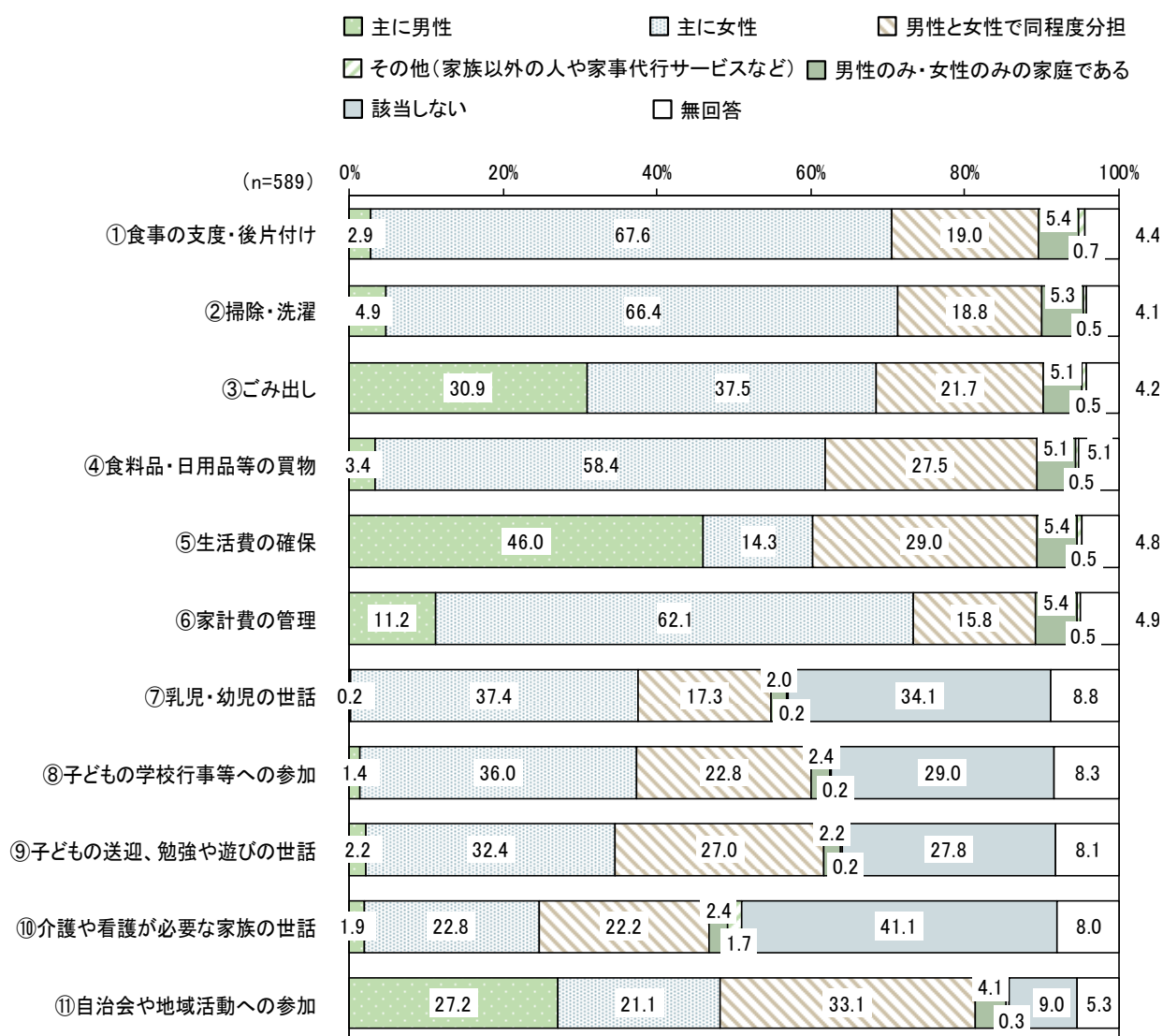


(3) 家庭での役割分担（現状）

問5 あなたの家庭では、次の役割について、主に男性、女性のどちらが分担していますか。①～⑪のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

※「該当しない」の選択肢は、“⑦乳児・幼児の世話”～“⑪自治会や地域活動への参加”の項目のみ

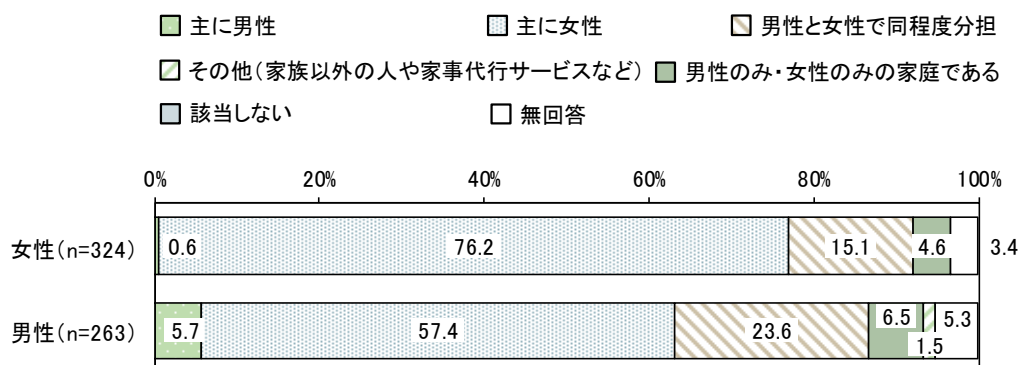
“⑤生活費の確保”“⑪自治会や地域活動への参加”を除く全ての項目で、「主に女性」の割合が最も高く、特に“①食事の支度・後片付け”“②掃除・洗濯”“⑥家計費の管理”では、6割以上となっています。“⑤生活費の確保”では「主に男性」の割合が、“⑪自治会や地域活動への参加”では「男性と女性で同程度分担」の割合が、最も高くなっています。



①食事の支度・後片付け

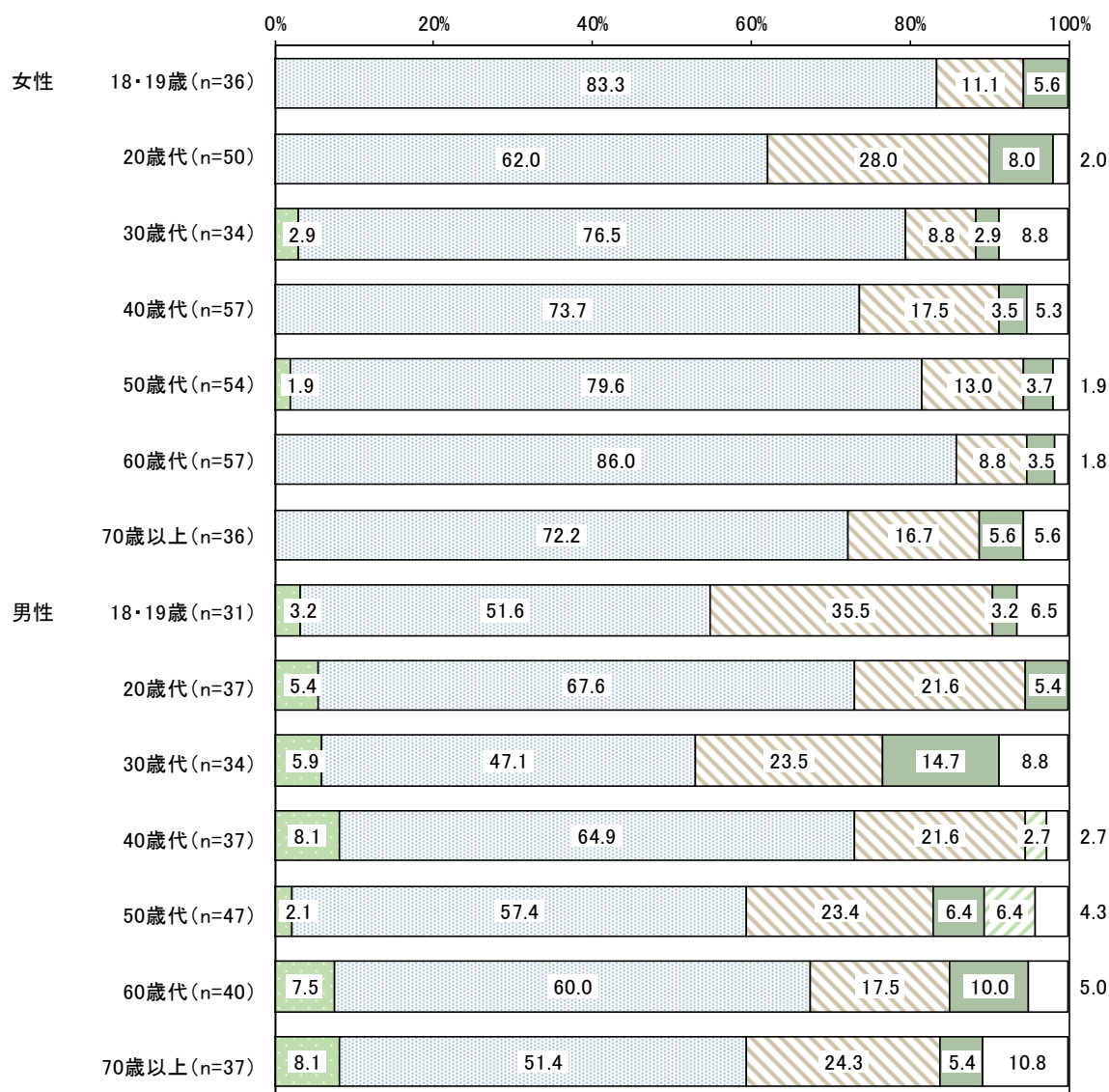
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に男性」「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

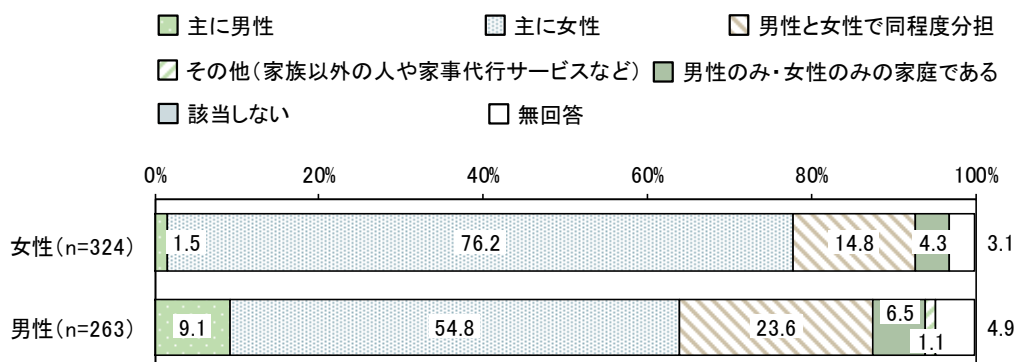
「主に女性」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、60歳代では8割以上となっています。



②掃除・洗濯

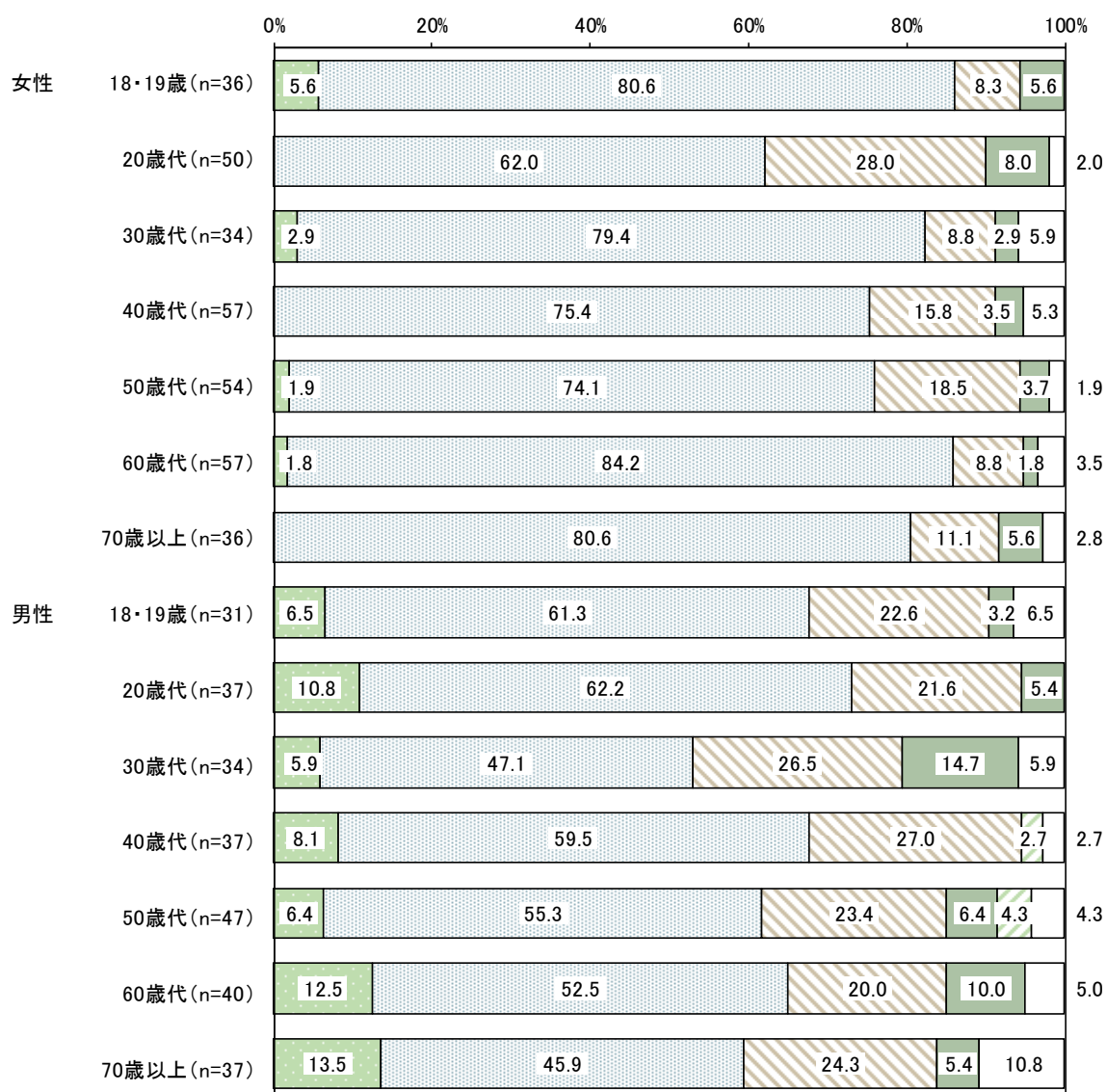
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に男性」「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

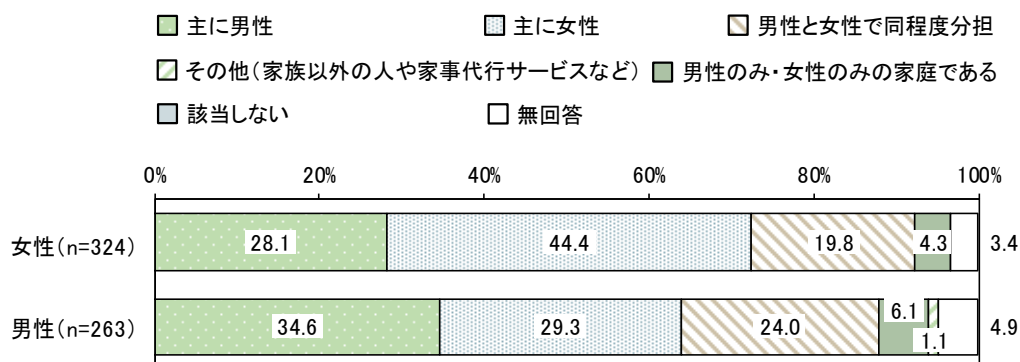
「主に女性」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、60歳代、70歳以上では8割以上となっています。



③ごみ出し

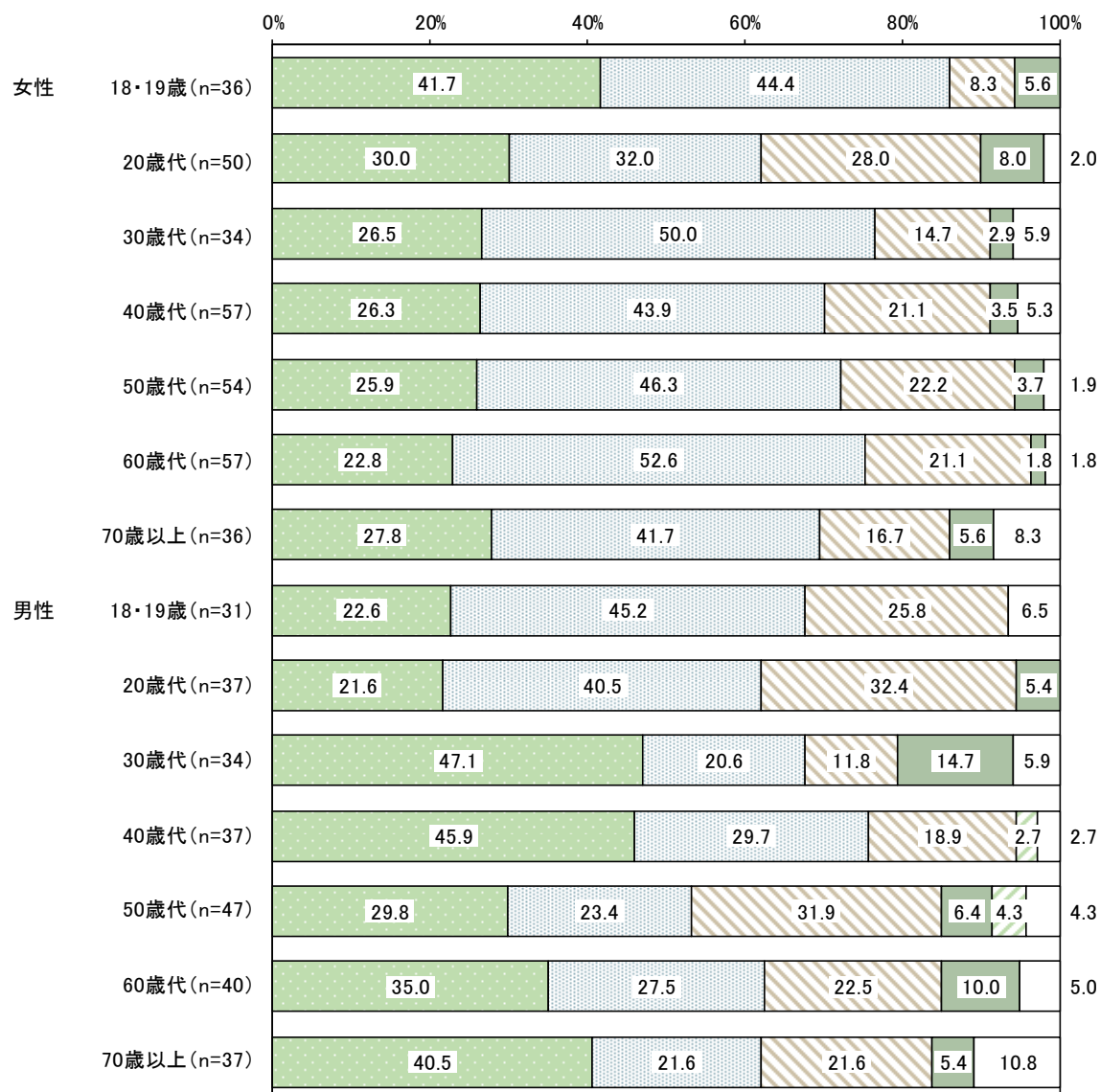
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に男性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

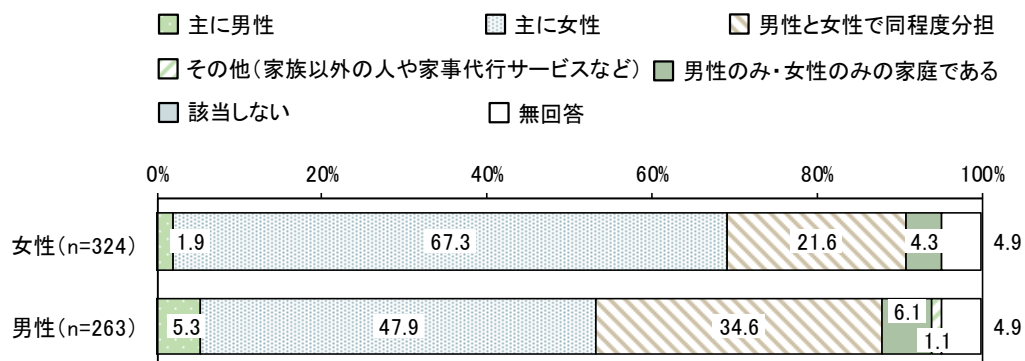
「主に女性」の割合が、女性の全ての年代、男性の18・19歳、20歳代で最も高くなっています。男性の30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「主に男性」の割合が高くなっています。



④食料品・日用品等の買物

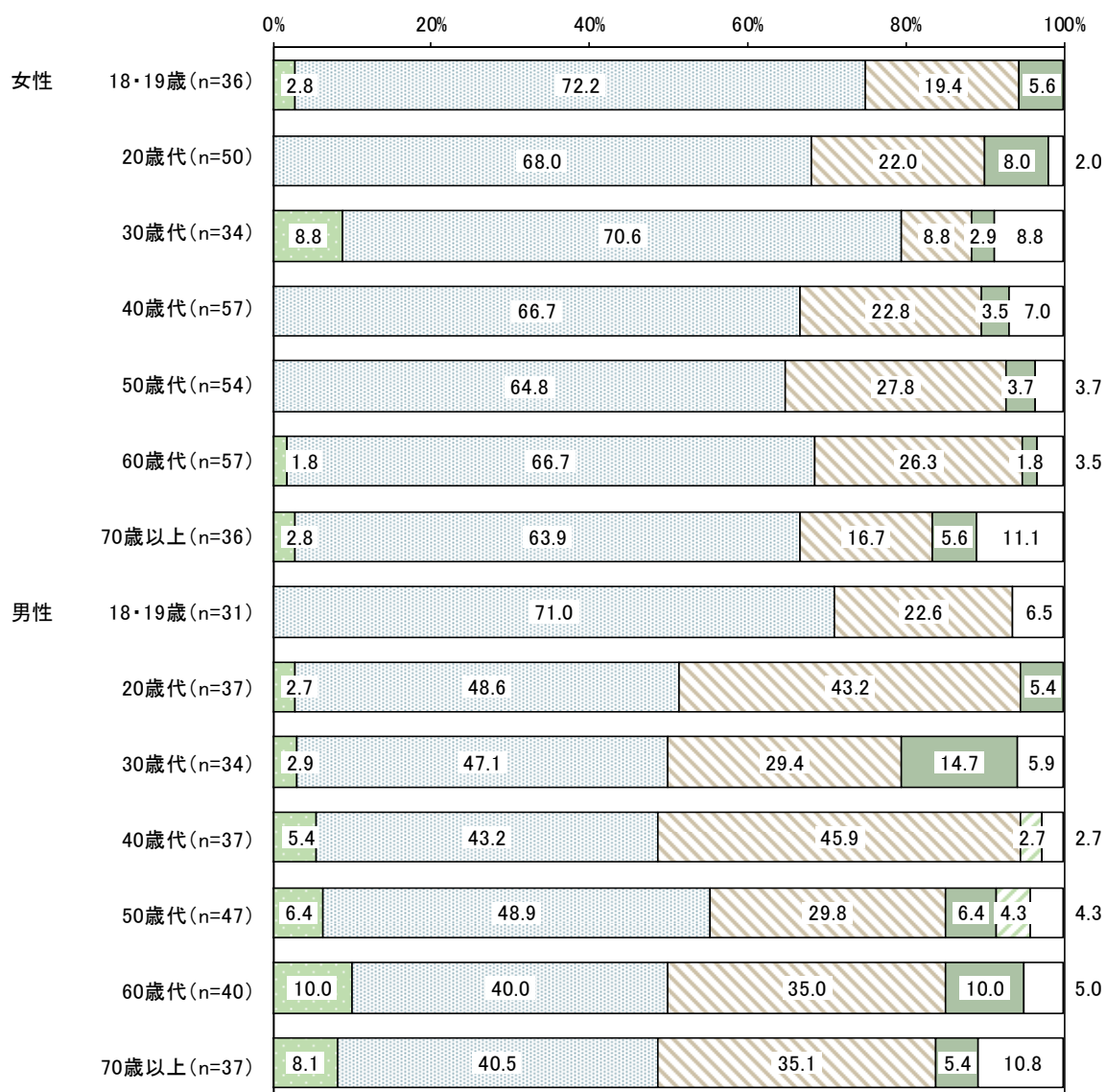
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

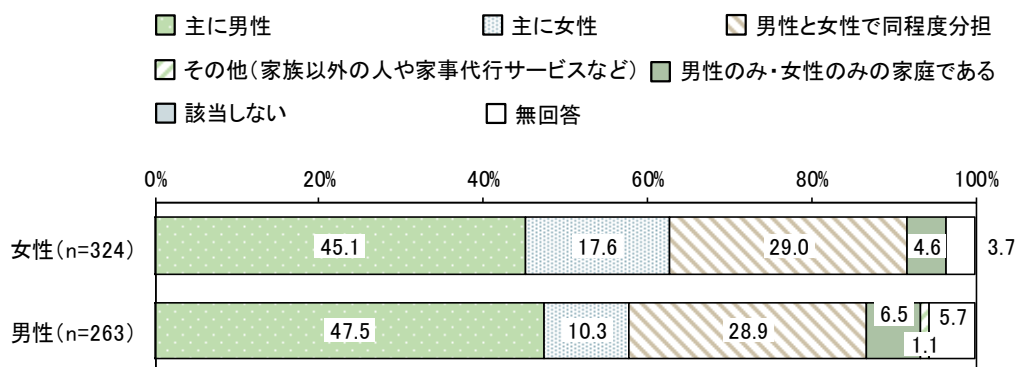
「主に女性」の割合が、男性の40歳代を除く全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、30歳代、男性の18・19歳では7割以上となっています。



⑤生活費の確保

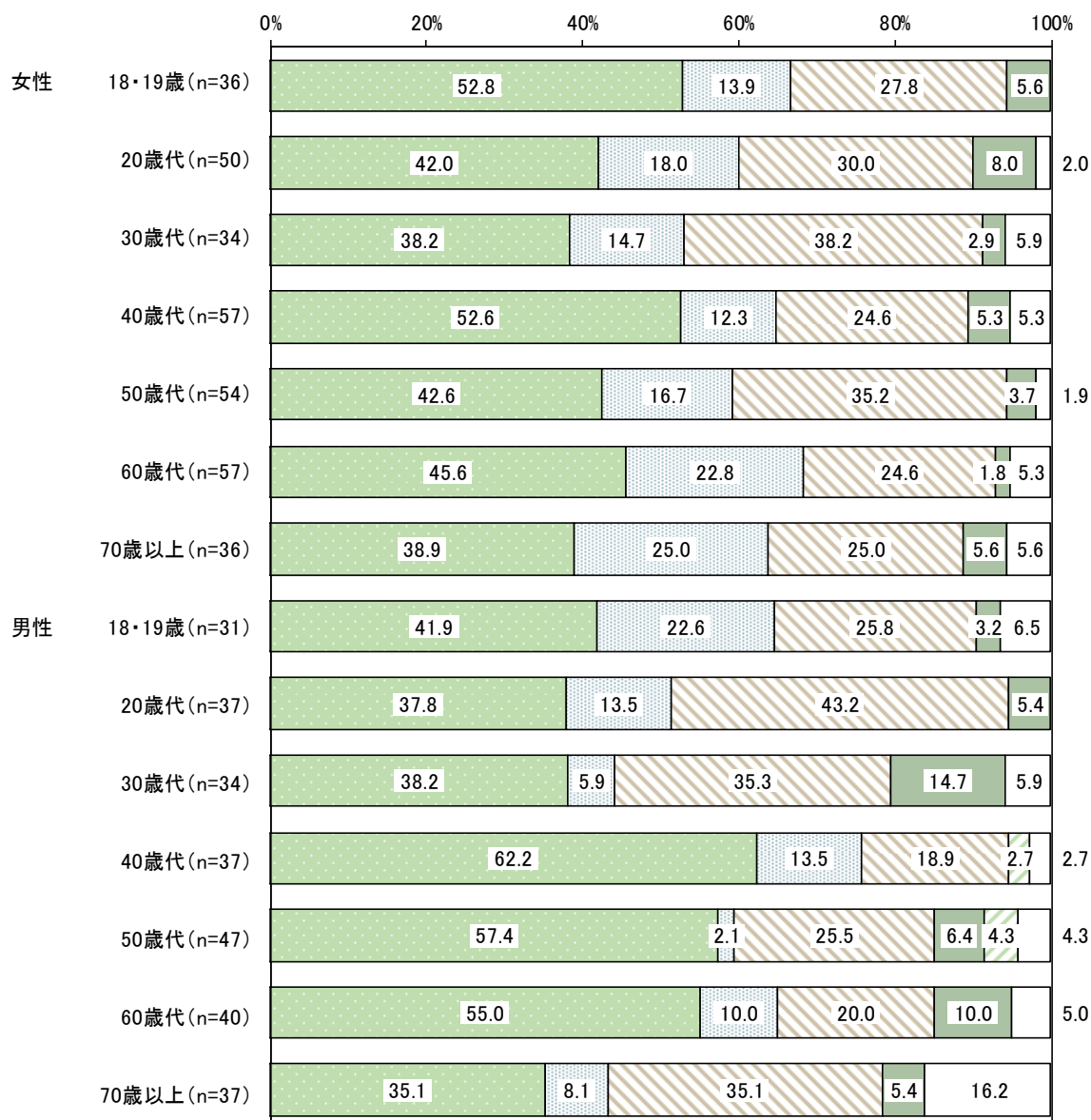
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

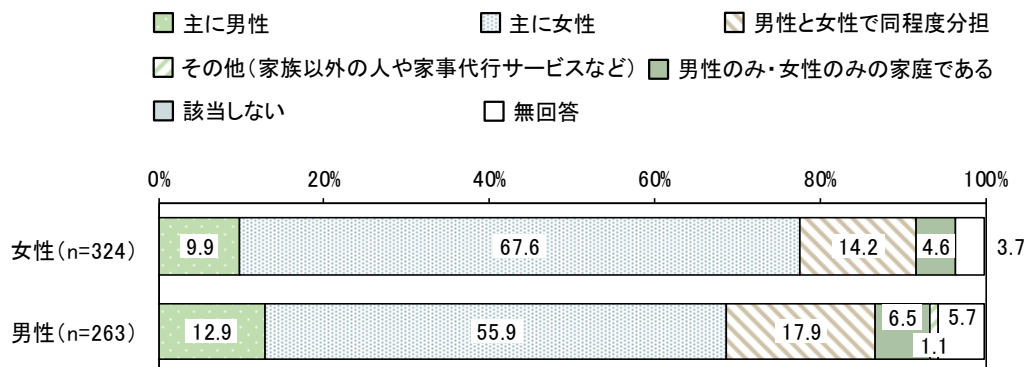
「主に男性」の割合が、男性の20歳代を除く全ての年代で最も高く、特に男性の40歳代では6割以上となっています。



⑥家計費の管理

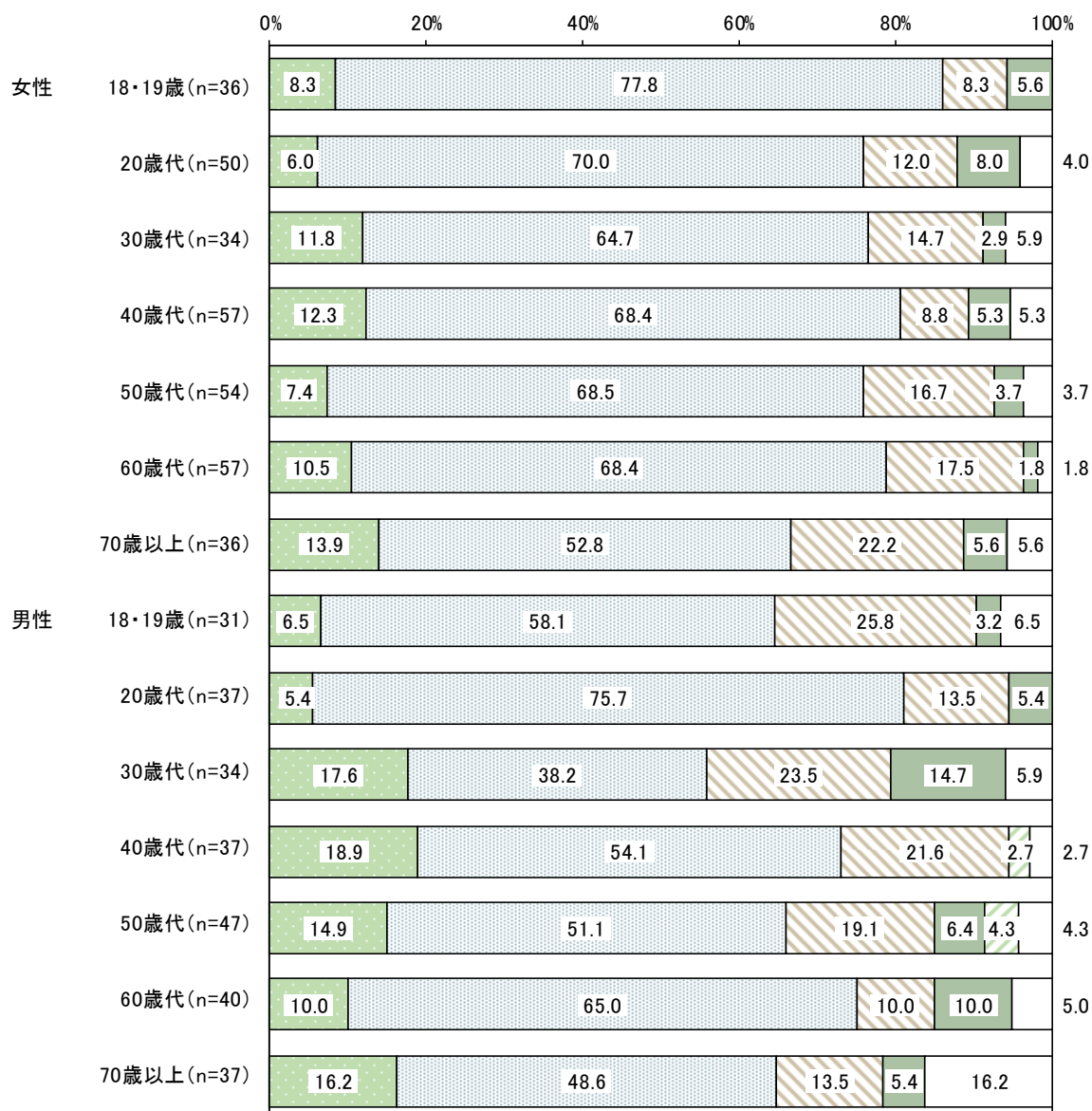
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

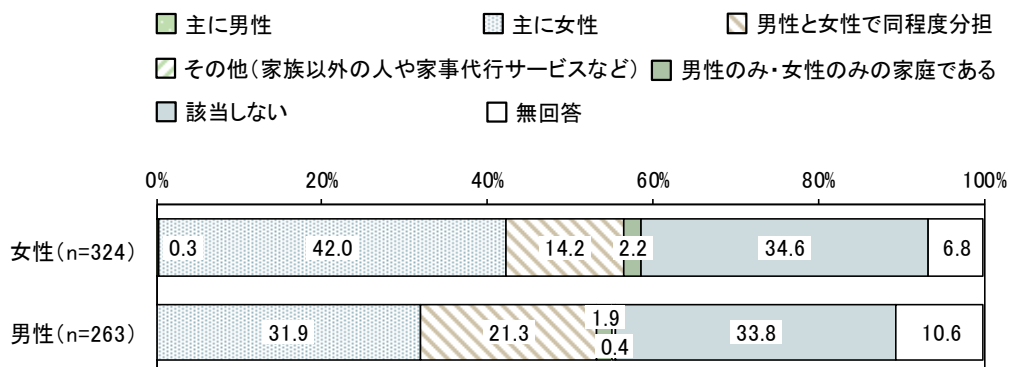
「主に女性」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、20歳代、男性の20歳代では7割以上となっています。



⑦乳児・幼児の世話

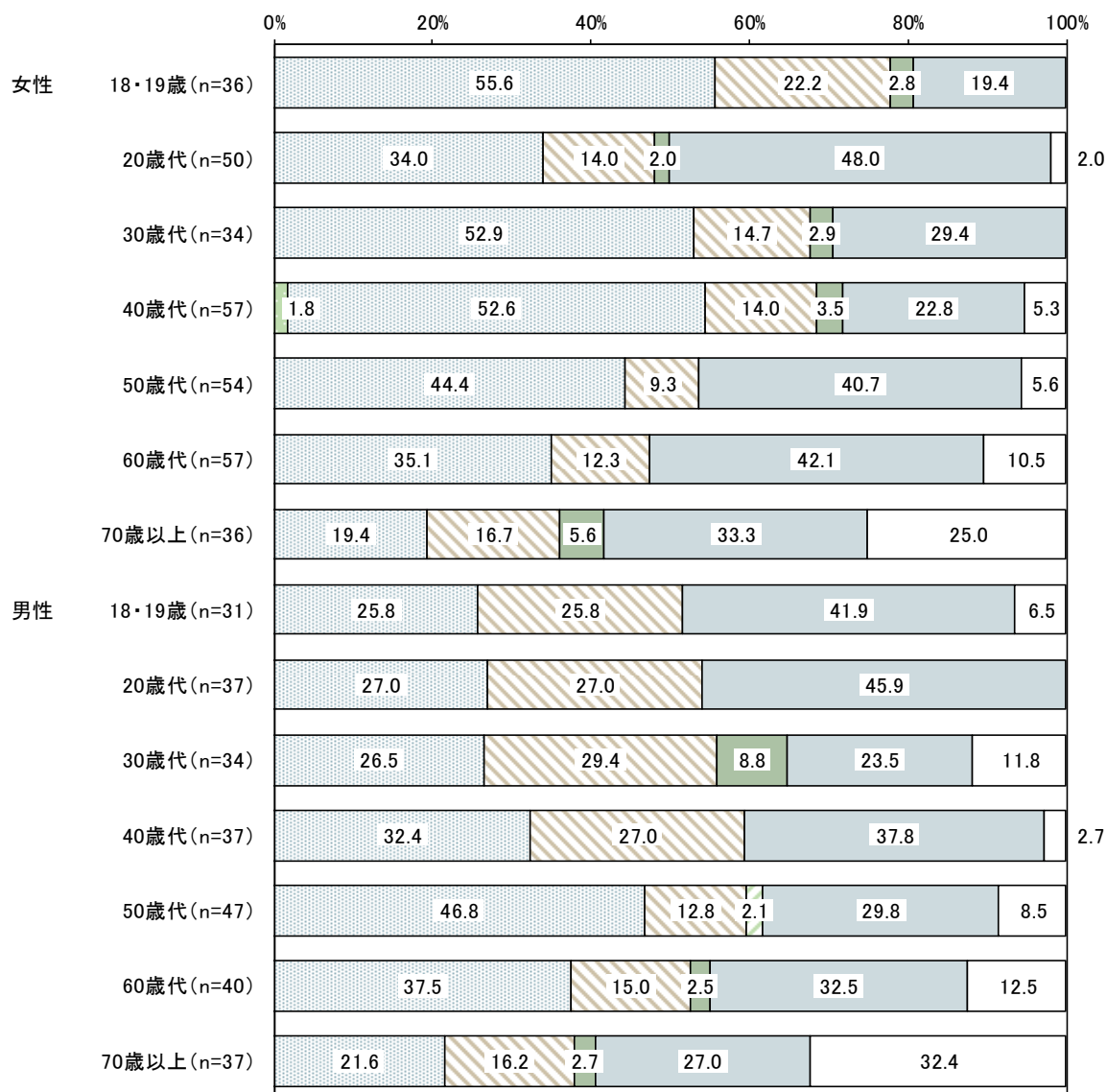
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

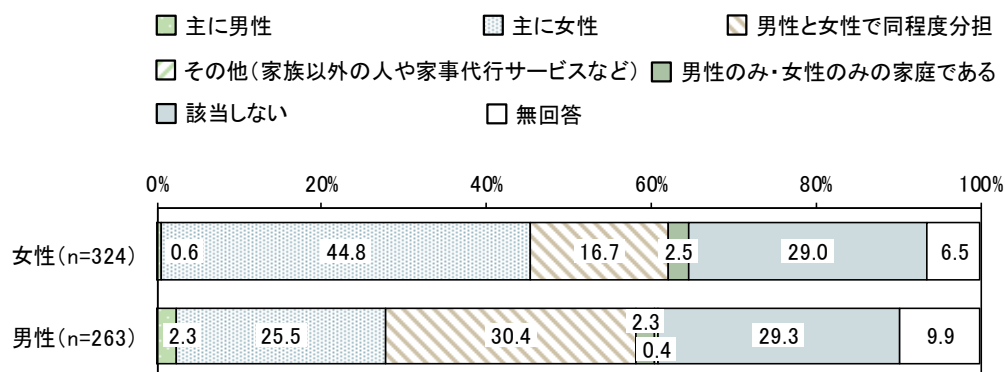
「主に女性」の割合が、男性の30歳代を除く全ての年代で最も高く、特に女性の18・19歳、30歳代、40歳代では5割以上となっています。



⑧子どもの学校行事等への参加

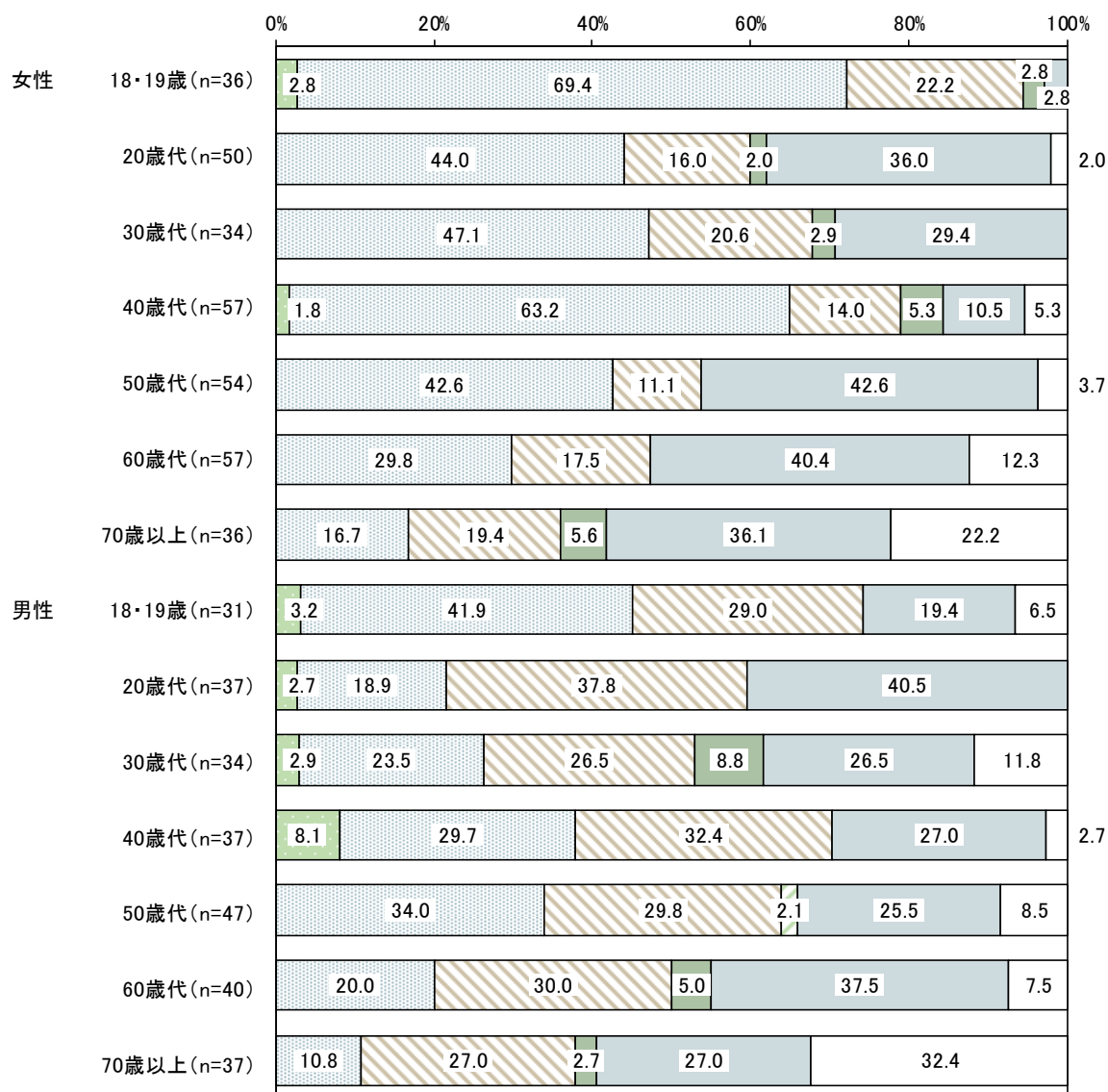
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

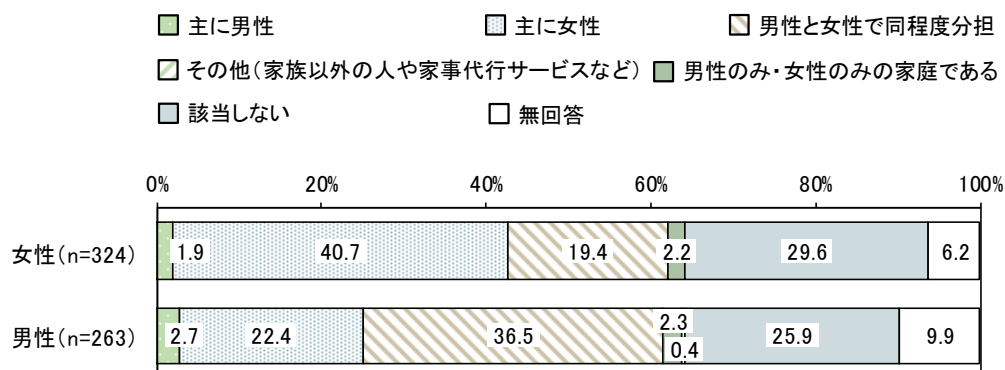
「主に女性」の割合が、女性では70歳以上を除く全ての年代で、最も高くなっています。一方、男性では多くの年代で「男性と女性で同程度分担」の割合が最も高くなっています。



⑨子どもの送迎、勉強や遊びの世話

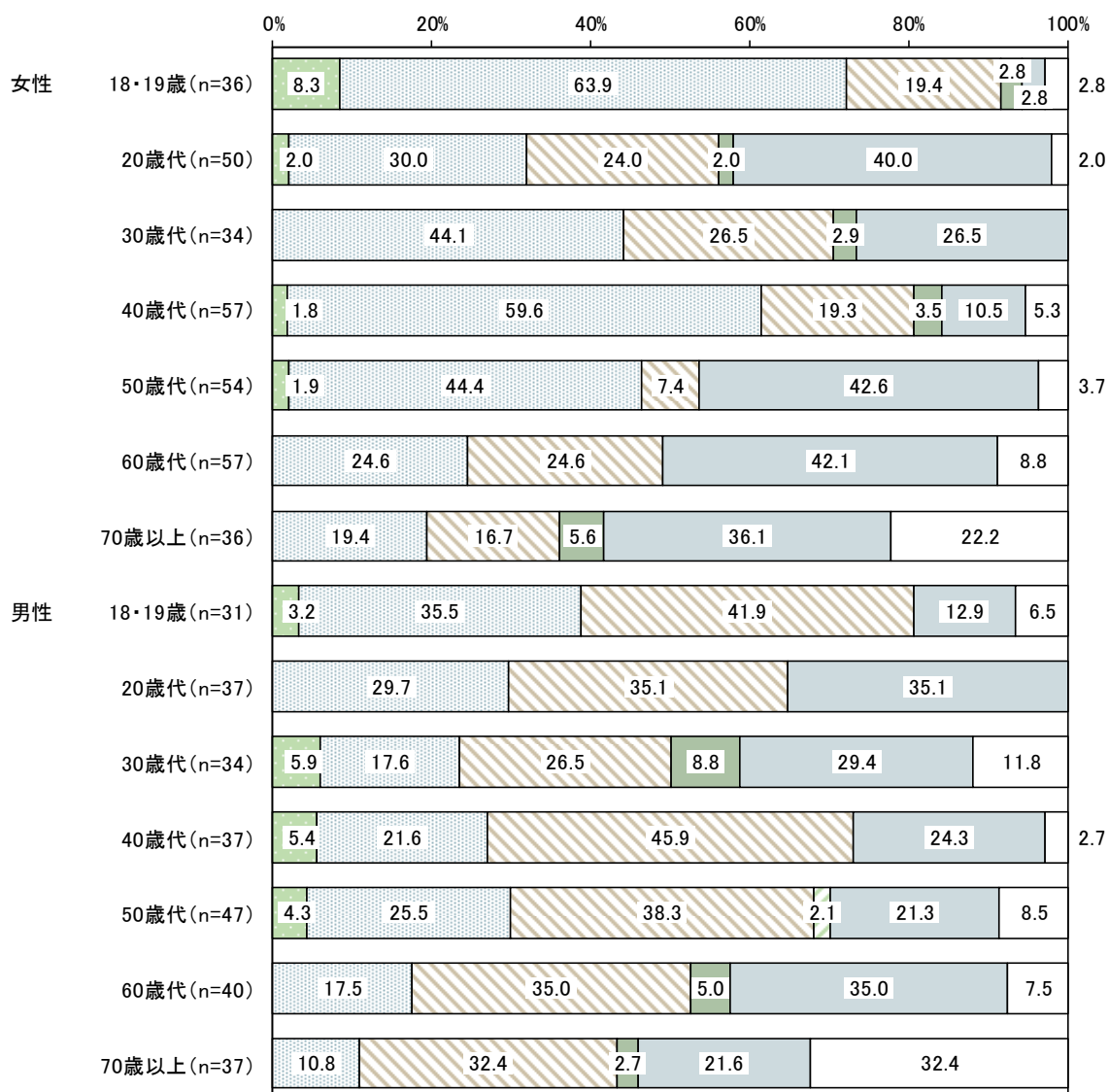
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

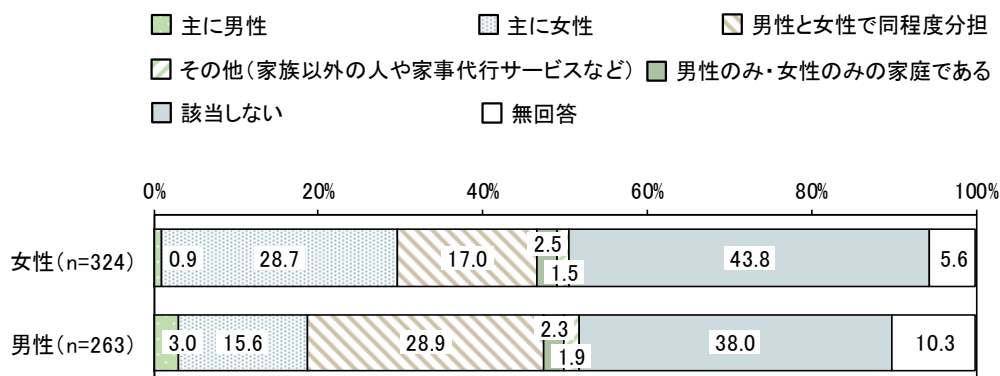
「主に女性」の割合が、女性の全ての年代で最も高くなっています。一方、男性では全ての年代で「男性と女性で同程度分担」の割合が最も高くなっています。



⑩介護や看護が必要な家族の世話

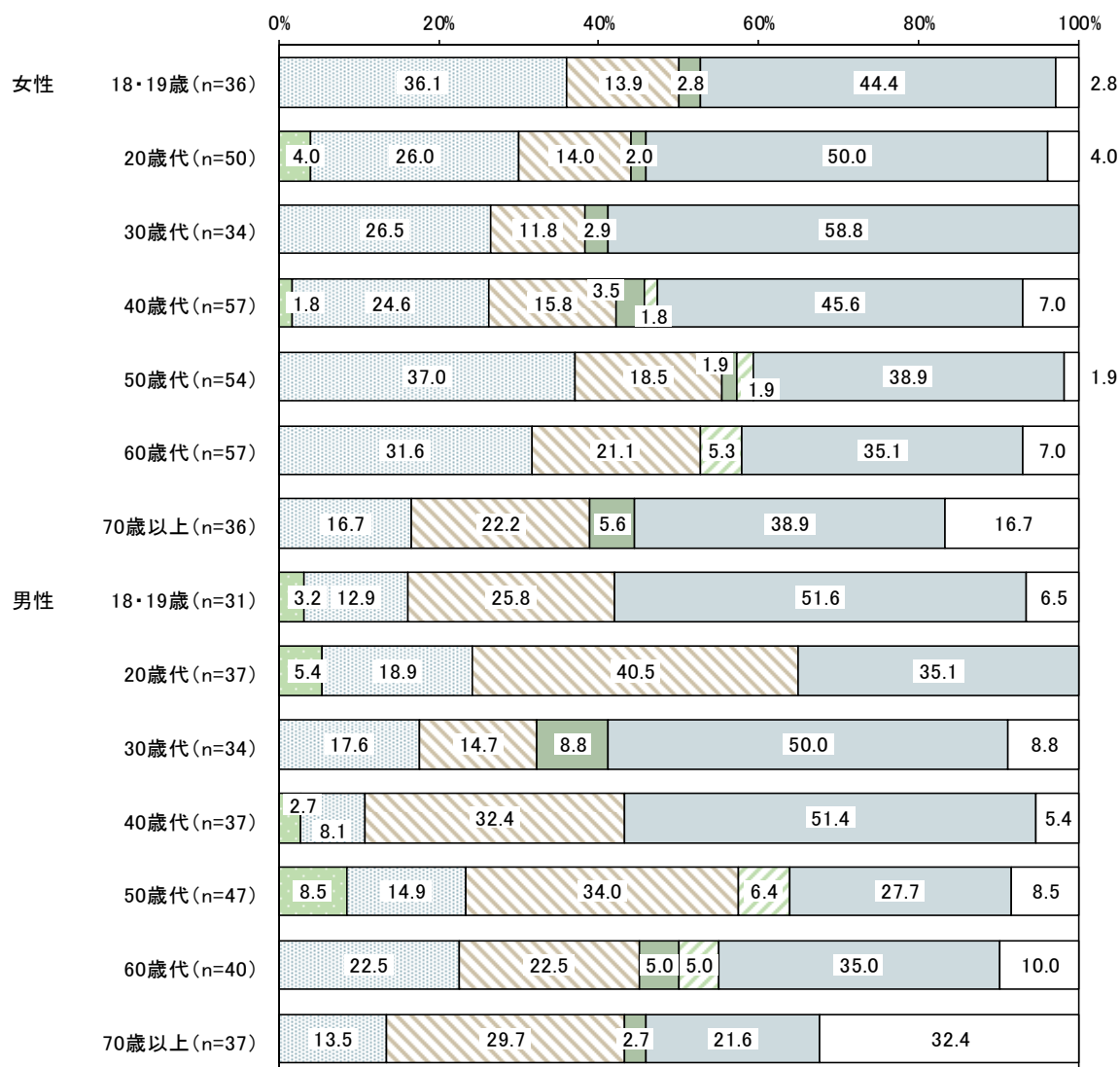
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

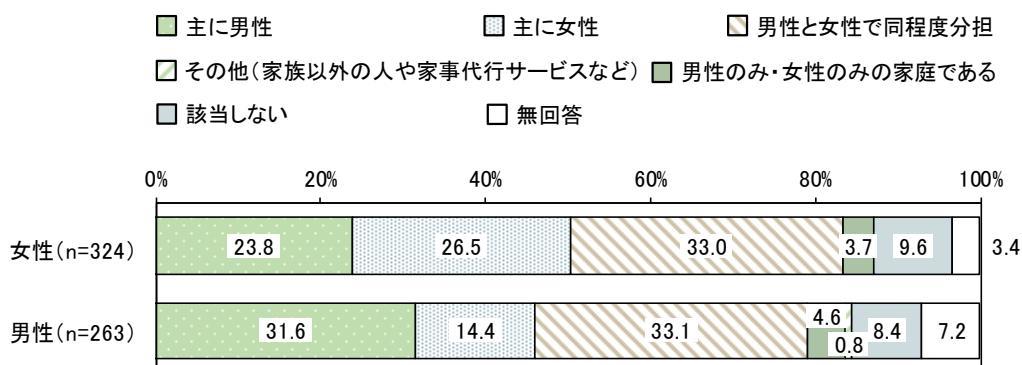
「主に女性」の割合が、女性では70歳以上を除く全ての年代で、最も高くなっています。一方、男性では30歳代を除く全ての年代で「男性と女性で同程度分担」の割合が最も高くなっています。



⑪自治会や地域活動への参加

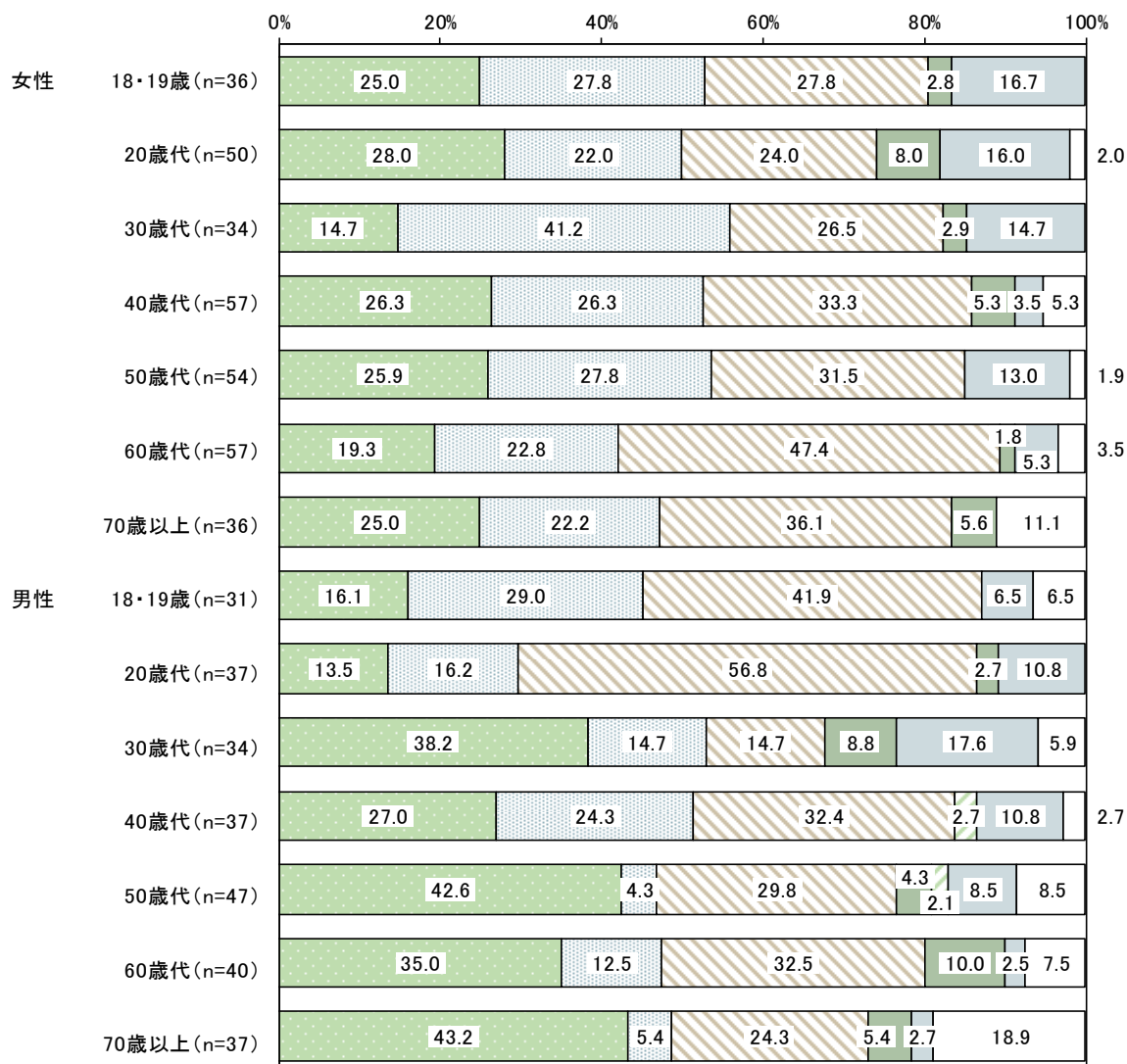
【性別】

男性と比較して、女性の方が「主に女性」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「主に男性」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

女性の30歳代で「主に女性」の割合が、60歳代で「男性と女性で同程度分担」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代で「男性と女性で同程度分担」の割合が、50歳代、70歳以上で「主に男性」の割合が高くなっています。

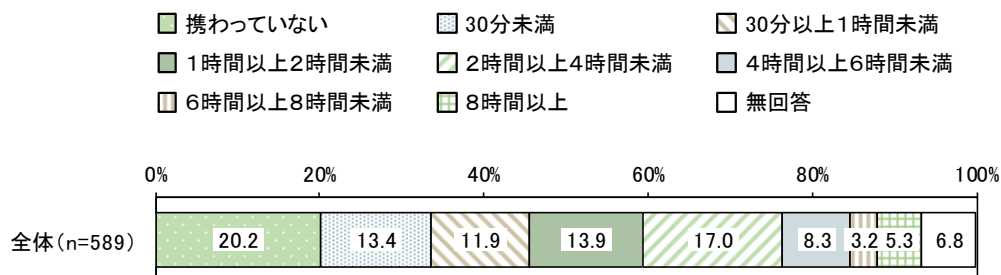


(4) 家事・育児・介護に携わる時間

問6 あなたが家事・育児・介護に携わる時間は1日当たり平均してどのくらいですか。
 (1) 平日と(2)休日について、あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。((1)と(2)それぞれ○は1つ)

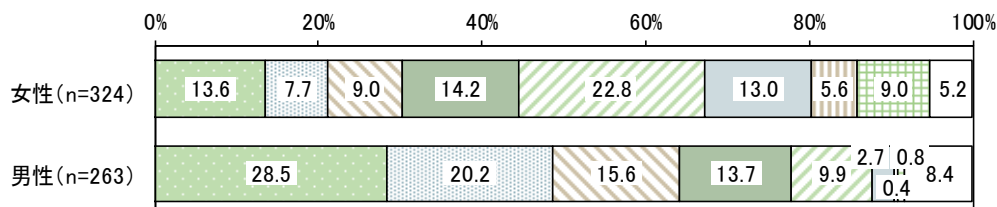
(1) 平日

「携わっていない」の割合が20.2%と最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」の割合が17.0%、「1時間以上2時間未満」の割合が13.9%となっています。



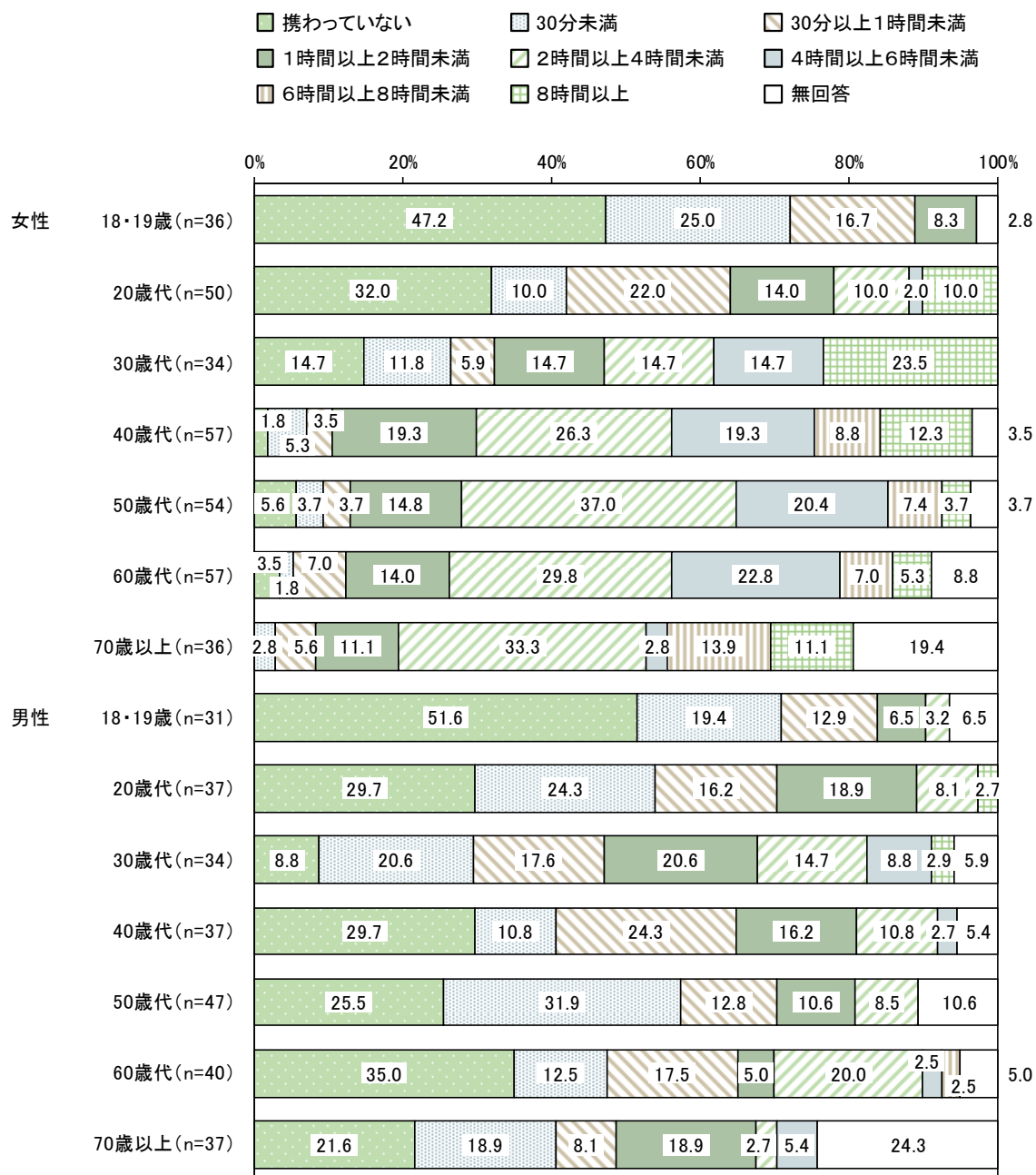
【性別】

女性では「2時間以上4時間未満」の割合が、男性では「携わっていない」の割合が、最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「2時間以上4時間未満」「4時間以上6時間未満」「6時間以上8時間未満」「8時間以上」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「携わっていない」「30分未満」「30分以上1時間未満」の割合が高くなっています。



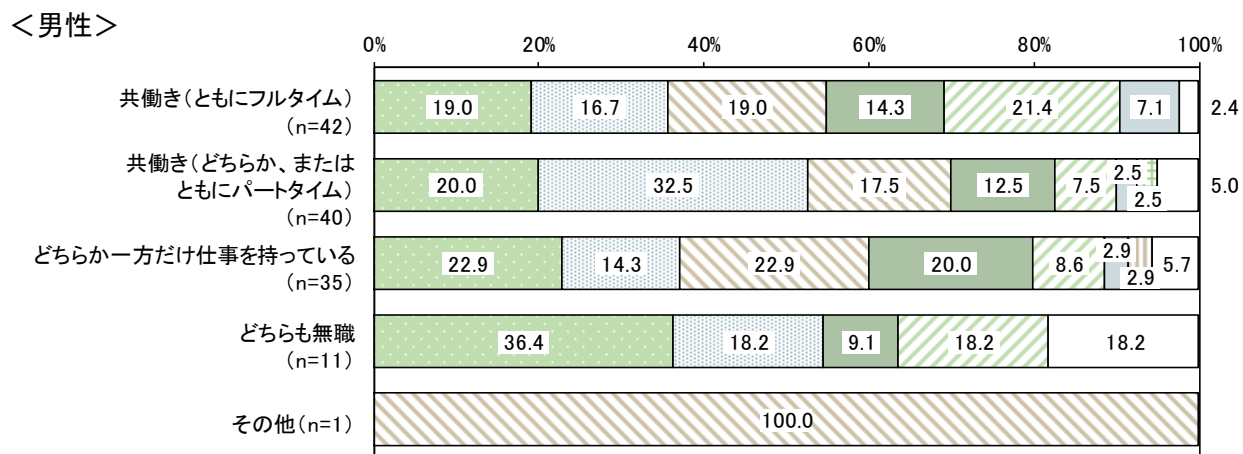
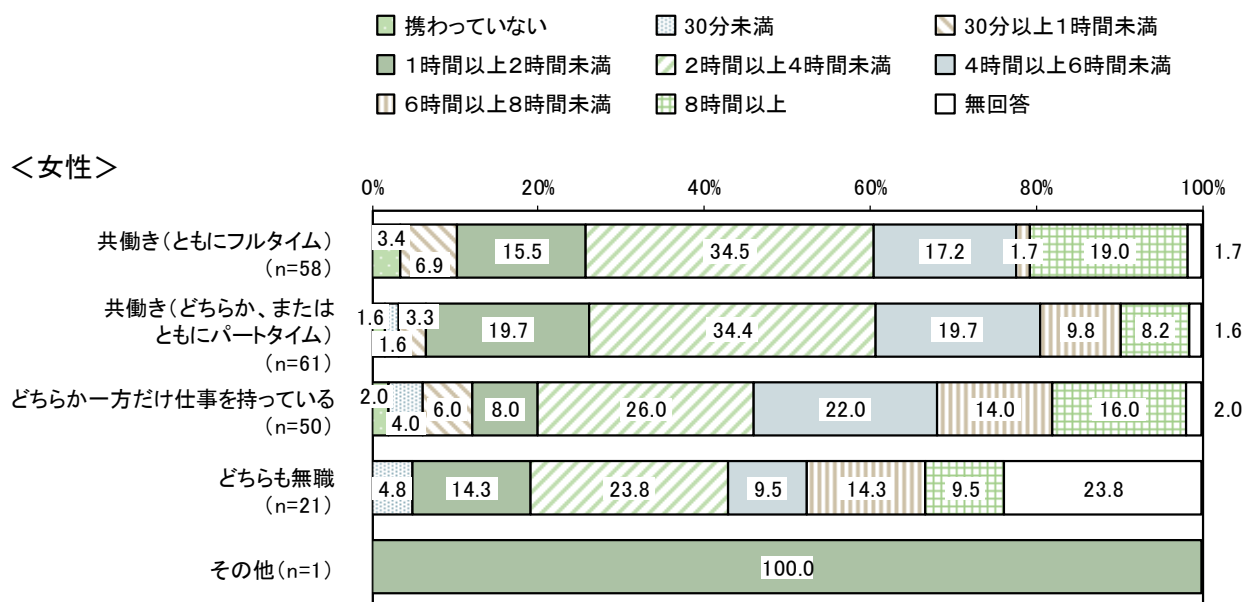
【性・年代別】

女性では、30歳代で「8時間以上」の割合が、40歳代から70歳以上で「2時間以上4時間未満」の割合が、最も高くなっています。男性では、多くの年代で「携わっていない」の割合が、最も高くなっています。



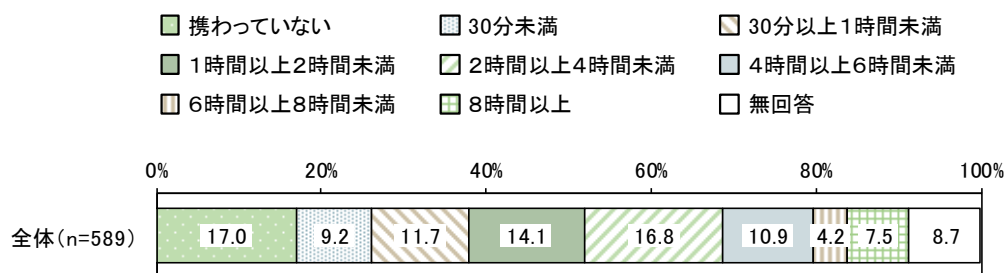
【性・共働きの状況別】

共働きの有無にかかわらず、男性と比較して、女性の方が家事・育児・介護に携わる時間が長くなっている傾向がみられます。



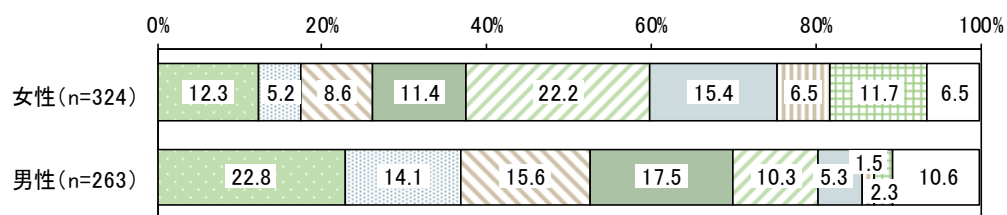
(2) 休日

「携わっていない」の割合が 17.0%と最も高く、次いで「2 時間以上 4 時間未満」の割合が 16.8%、「1 時間以上 2 時間未満」の割合が 14.1%となっています。



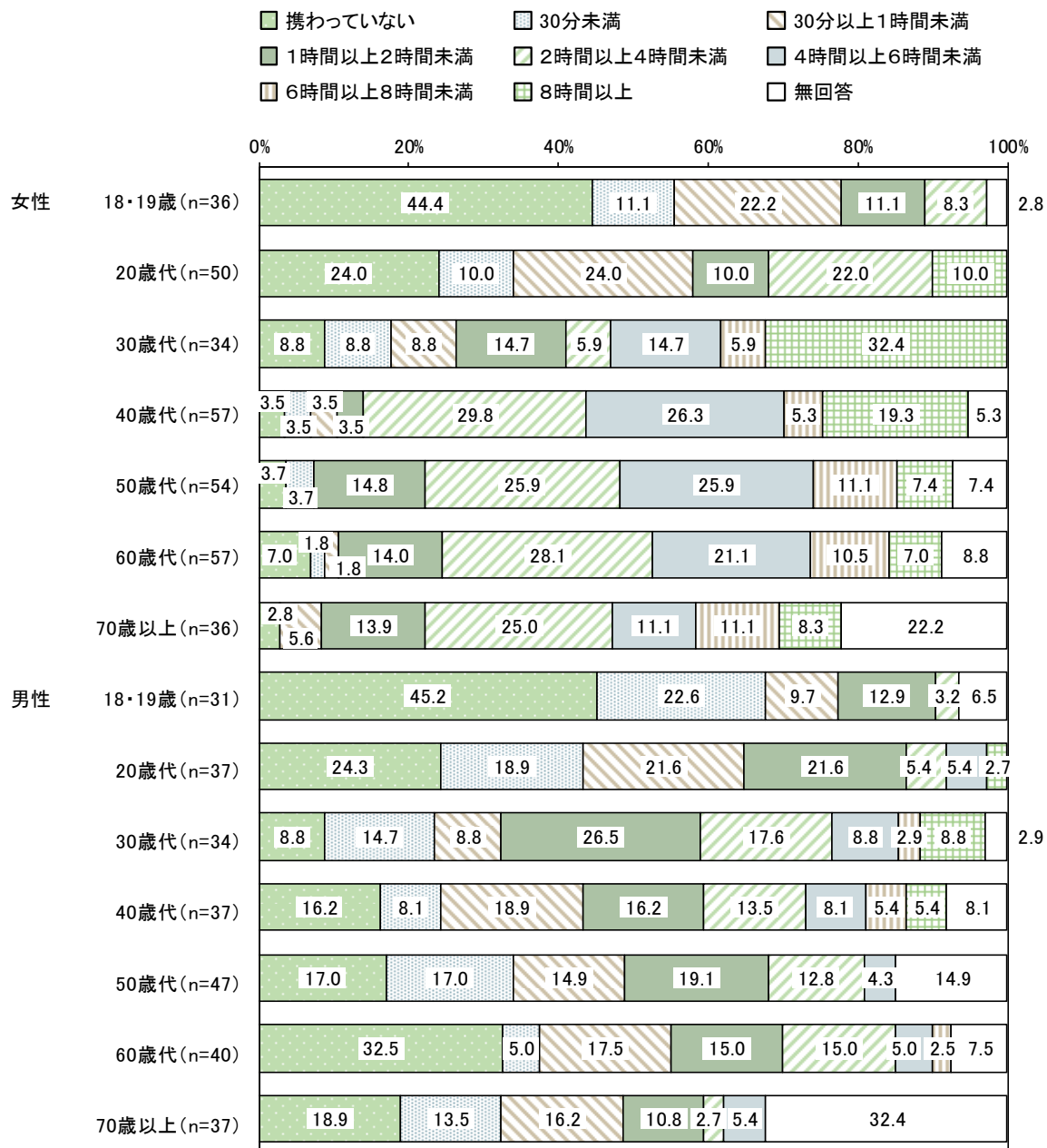
【性別】

女性では、「2 時間以上 4 時間未満」の割合が、男性では、「携わっていない」の割合が、最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「2 時間以上 4 時間未満」「4 時間以上 6 時間未満」「6 時間以上 8 時間未満」「8 時間以上」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「携わっていない」「30 分未満」「30 分以上 1 時間未満」「1 時間以上 2 時間未満」の割合が高くなっています。



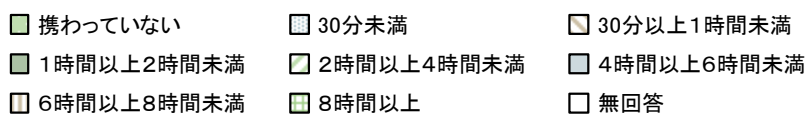
【性・年代別】

女性では、30歳代で「8時間以上」の割合が、40歳代から70歳以上で「2時間以上4時間未満」の割合が、最も高くなっています。男性では、30歳代、50歳代で「1時間以上2時間未満」の割合が、40歳代では「30分以上1時間未満」の割合が、最も高くなっています。

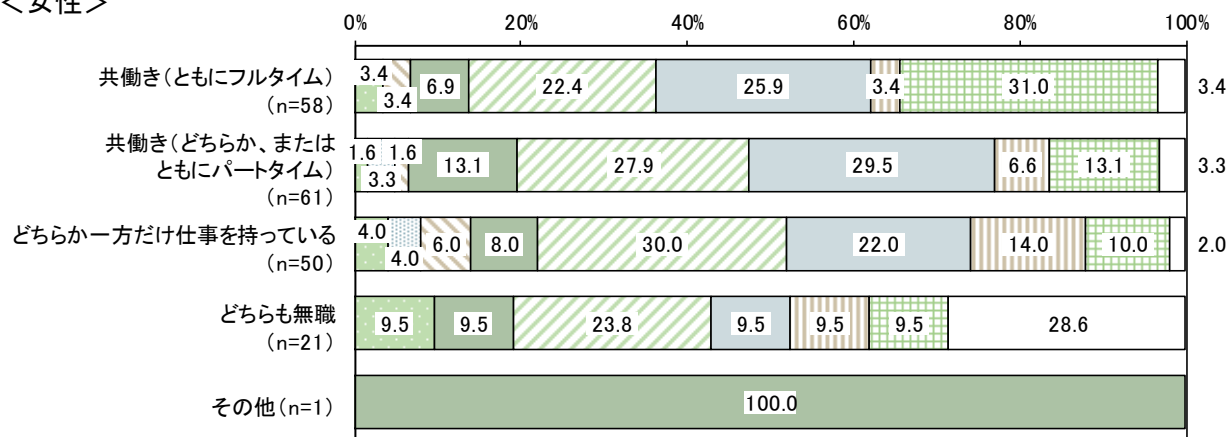


【性・共働きの状況別】

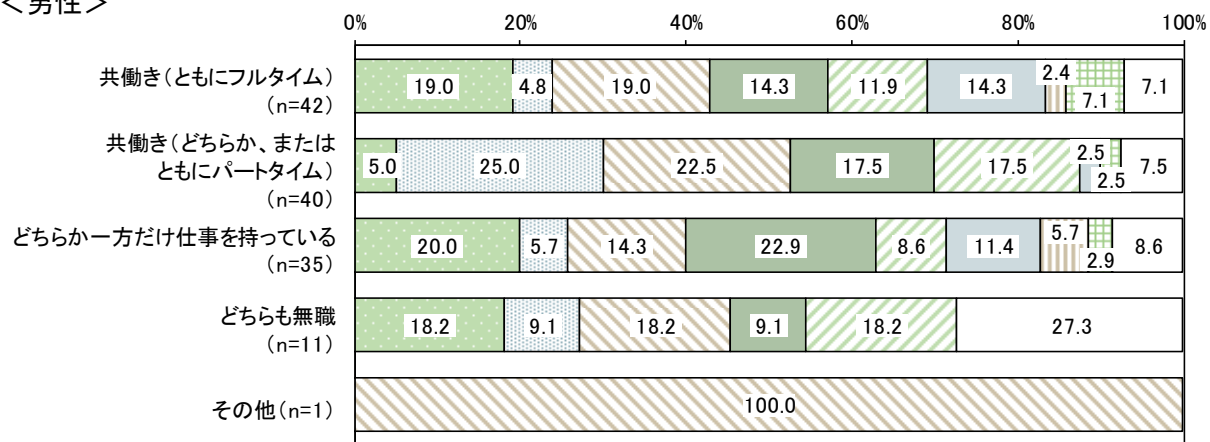
共働きの有無にかかわらず、男性と比較して、女性の方が家事・育児・介護に携わる時間が長くなっている傾向がみられます。



<女性>



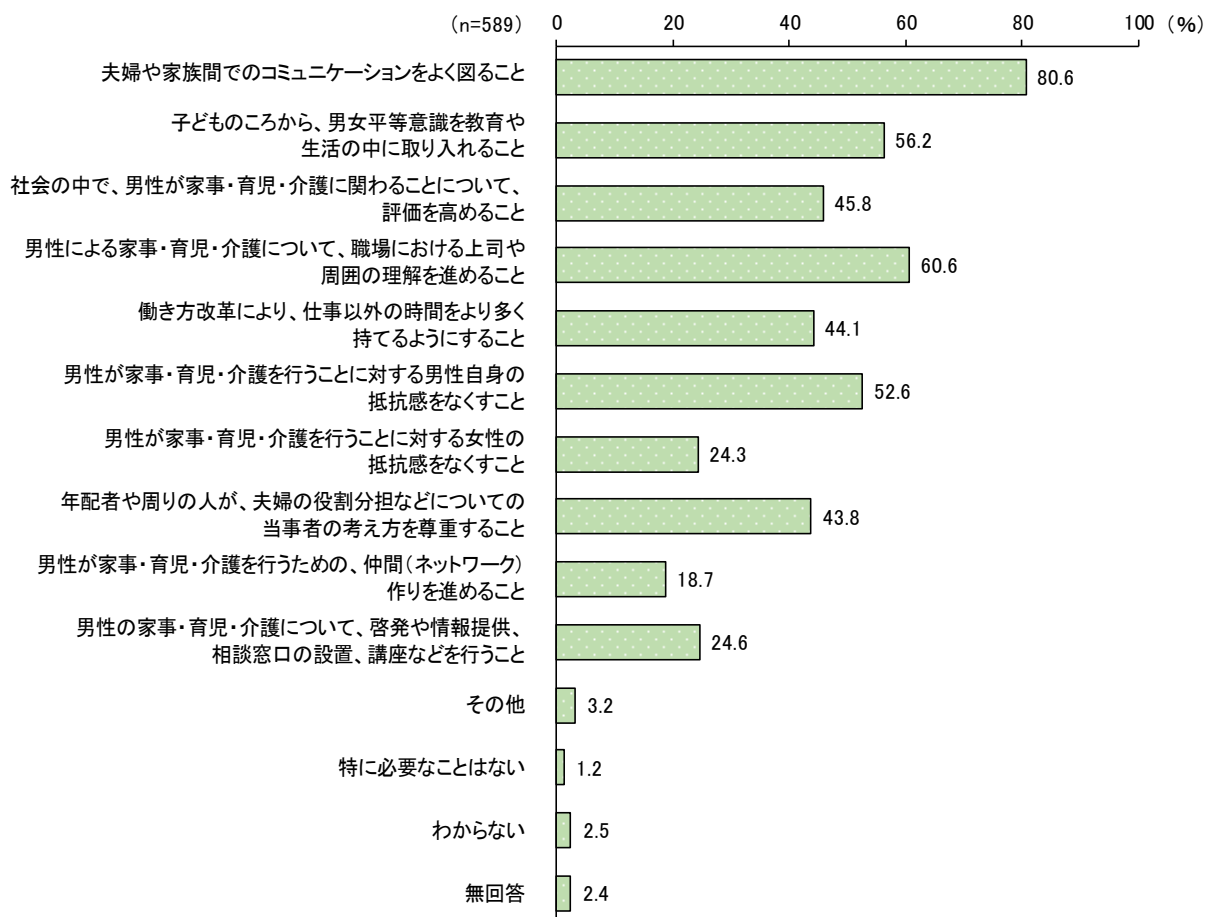
<男性>



(5) 男性が家事・育児・介護に積極的に参加するために必要なこと

問7 あなたは、男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が80.6%と最も高く、次いで「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が60.6%、「子どものころから、男女平等意識を教育や生活の中に取り入れること」の割合が56.2%となっています。



【性別】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性が家事・育児・介護を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」などの割合が高くなっています。

【性・年代別】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が、女性の18・19歳、20歳代を除く全ての年代で最も高く、特に女性の30歳代、男性の20歳代では9割以上となっています。女性の18・19歳、20歳代では「男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が最も高く、8割以上となっています。

単位：％

区分		回答者数(人)	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	子どものころから、男女平等意識を教育や生活の中に取り入れること	社会の中で、男性が家事・育児・介護に関わることにについて、評価を高めること	男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること	働き方改革により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事・育児・介護を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児・介護を行うことに対する女性の抵抗感をなくすこと
性別	女性	324	80.2	61.4	50.6	67.3	43.5	59.3	26.9
	男性	263	81.7	50.2	40.3	52.9	45.2	44.9	21.3
性・年代別	女性	18・19 歳	36	77.8	69.4	41.7	80.6	41.7	22.2
		20 歳代	50	80.0	66.0	38.0	84.0	48.0	30.0
		30 歳代	34	91.2	58.8	58.8	67.6	52.9	32.4
		40 歳代	57	75.4	64.9	56.1	68.4	35.1	59.6
		50 歳代	54	77.8	63.0	57.4	64.8	46.3	70.4
		60 歳代	57	77.2	57.9	56.1	57.9	35.1	61.4
		70 歳以上	36	88.9	47.2	41.7	47.2	52.8	55.6
	男性	18・19 歳	31	83.9	41.9	45.2	71.0	48.4	54.8
		20 歳代	37	91.9	43.2	35.1	51.4	37.8	29.7
		30 歳代	34	85.3	58.8	35.3	55.9	61.8	50.0
		40 歳代	37	81.1	51.4	32.4	51.4	54.1	45.9
		50 歳代	47	80.9	55.3	38.3	61.7	44.7	40.4
		60 歳代	40	80.0	55.0	60.0	47.5	35.0	50.0
		70 歳以上	37	70.3	43.2	35.1	32.4	37.8	45.9

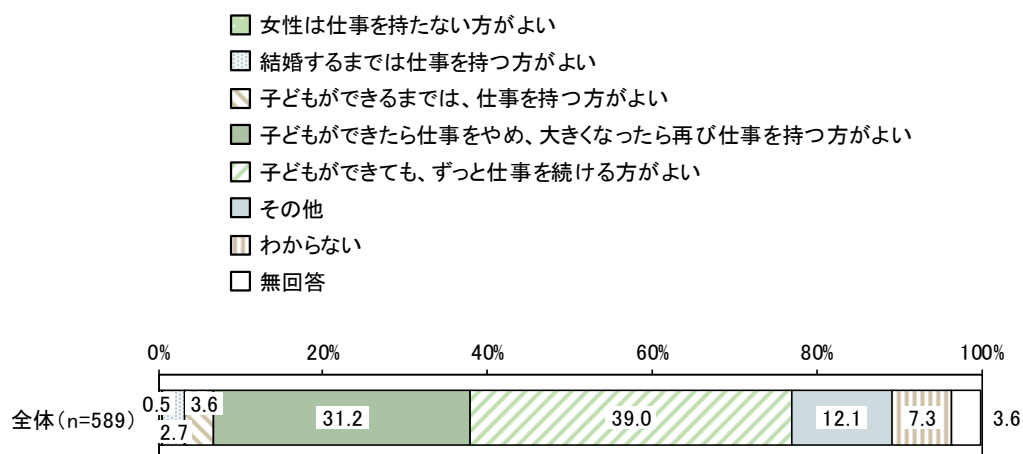
区分		回答者数(人)	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	男性が家事・育児・介護を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること	男性の家事・育児・介護について、啓発や情報提供、相談窓口の設置、講座などを行うこと	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
性別	女性	324	50.9	20.7	27.8	2.8	0.9	1.5	1.5
	男性	263	35.4	16.3	20.9	3.8	1.5	3.8	2.7
性・年代別	女性	18・19 歳	36	52.8	22.2	30.6	8.3	—	—
		20 歳代	50	58.0	20.0	38.0	4.0	2.0	—
		30 歳代	34	55.9	17.6	20.6	5.9	—	5.9
		40 歳代	57	36.8	19.3	24.6	3.5	1.8	—
		50 歳代	54	57.4	25.9	24.1	—	—	3.7
		60 歳代	57	50.9	19.3	29.8	—	1.8	—
		70 歳以上	36	47.2	19.4	25.0	—	—	2.8
	男性	18・19 歳	31	32.3	32.3	25.8	3.2	3.2	—
		20 歳代	37	32.4	24.3	18.9	5.4	—	—
		30 歳代	34	41.2	11.8	20.6	2.9	—	—
		40 歳代	37	35.1	10.8	10.8	2.7	—	8.1
		50 歳代	47	42.6	10.6	19.1	—	—	6.4
		60 歳代	40	27.5	17.5	25.0	7.5	—	5.0
		70 歳以上	37	35.1	10.8	27.0	5.4	8.1	5.4

4 働き方について

(1) 女性が仕事を持つことについての考え方

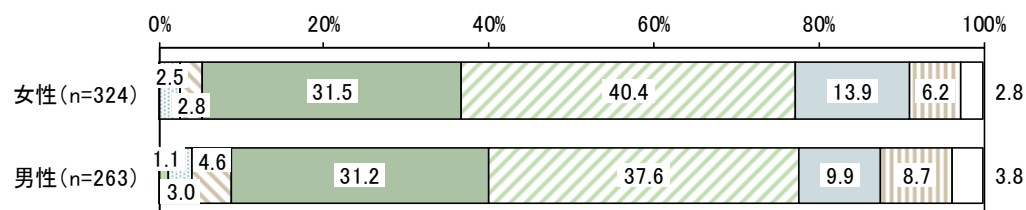
問8 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が39.0%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が31.2%となっています。



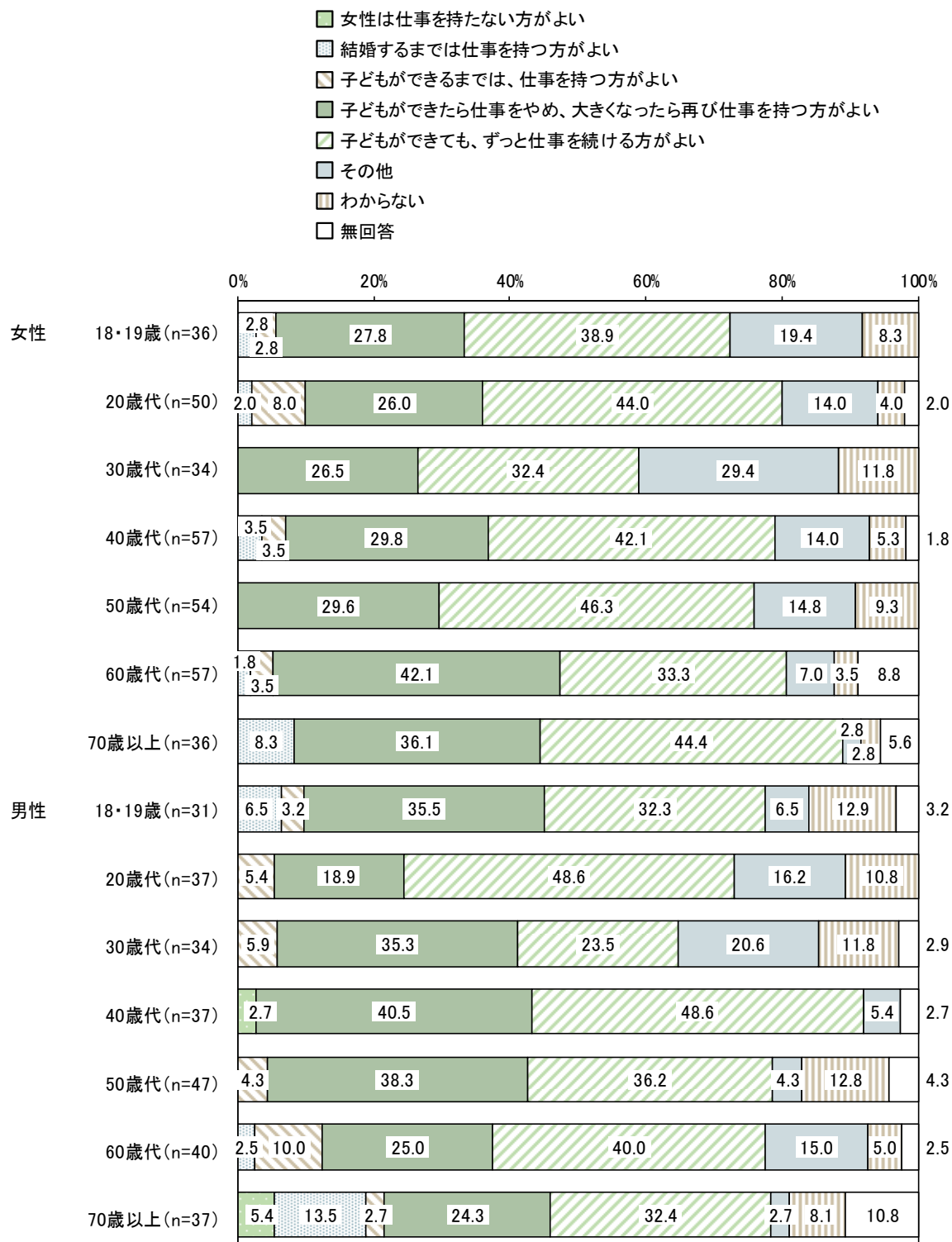
【性別】

性別による大きな差はみられません。



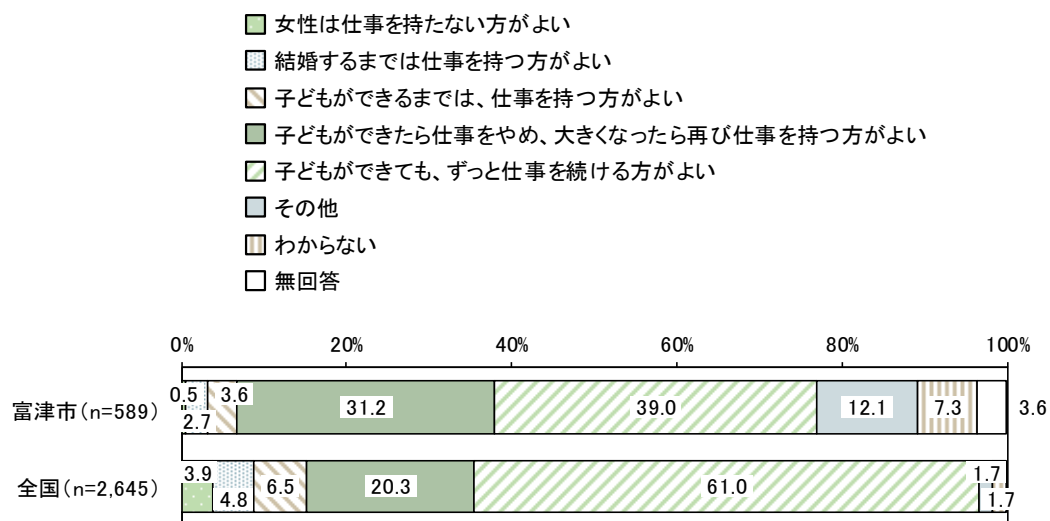
【性・年代別】

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が、多くの年代で最も高くなっています。



【国との比較】

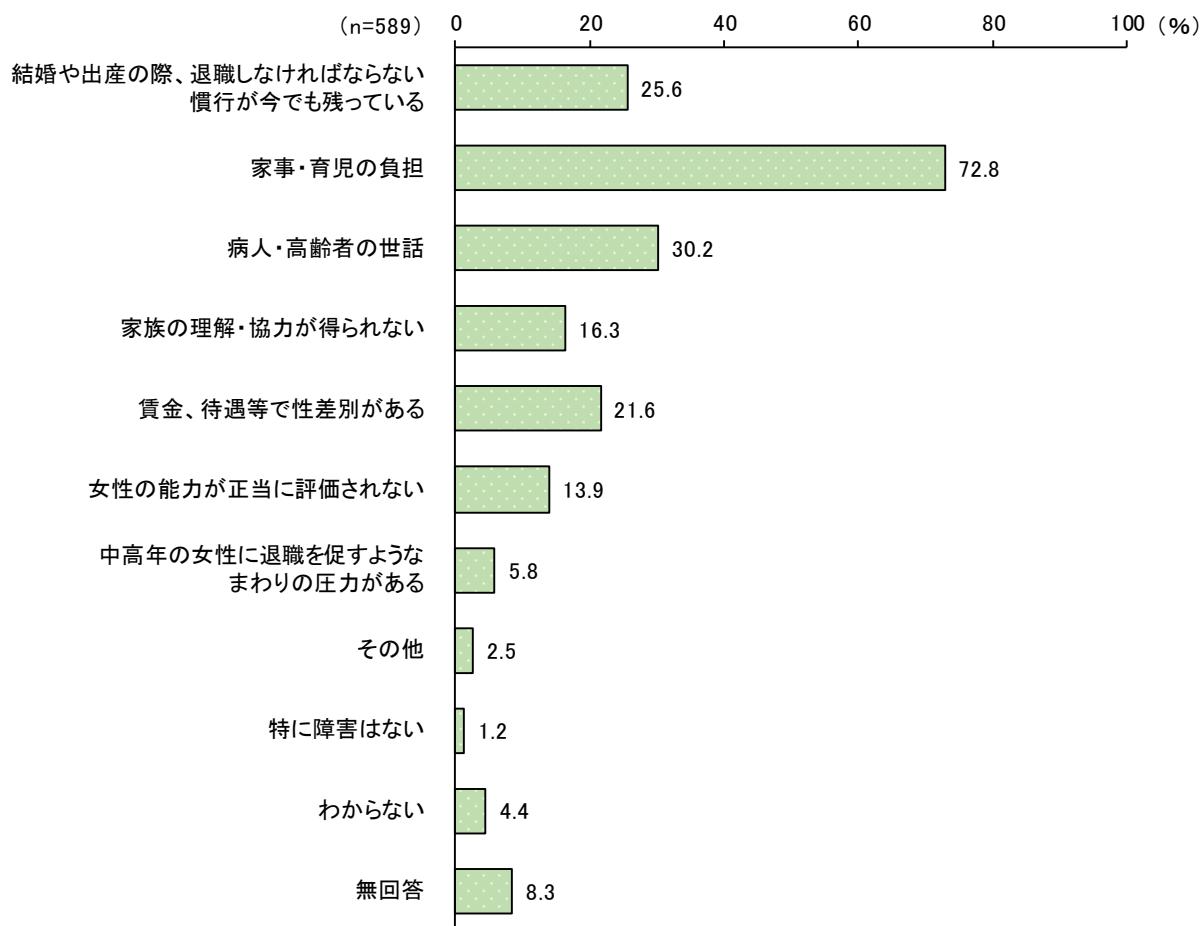
全国調査との比較では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が高くなっています。一方、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が低くなっています。



(2) 女性が仕事を続けていく上での障害

問9 女性が仕事を続けていく上では、どのような障害があると思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

「家事・育児の負担」の割合が72.8%と最も高く、次いで「病人・高齢者の世話」の割合が30.2%、「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」の割合が25.6%となっています。



【性別】

「家事・育児の負担」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「病人・高齢者の世話」「家族の理解・協力が得られない」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「家事・育児の負担」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に男性の40歳代、60歳代では8割以上となっています。

単位：％

区分		回答者数(人)	結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている	家事・育児の負担	病人・高齢者の世話	家族の理解・協力が得られない	賃金、待遇等で性差別がある	女性の能力が正当に評価されない	中高年の女性に退職を促すようなまわりの圧力がある	その他	特に障害はない	わからない	無回答	
性別	女性	324	21.9	74.4	34.9	19.8	21.6	13.0	6.5	4.0	0.3	3.7	9.3	
	男性	263	30.4	71.5	24.7	12.2	21.7	15.2	4.9	0.8	2.3	5.3	6.5	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	25.0	75.0	25.0	13.9	16.7	16.7	5.6	—	—	8.3	5.6
		20 歳代	50	26.0	74.0	22.0	26.0	18.0	14.0	8.0	10.0	—	4.0	10.0
		30 歳代	34	35.3	73.5	17.6	11.8	26.5	5.9	2.9	8.8	—	8.8	8.8
		40 歳代	57	15.8	77.2	33.3	15.8	22.8	14.0	7.0	7.0	—	3.5	8.8
		50 歳代	54	20.4	79.6	50.0	22.2	24.1	9.3	7.4	1.9	—	3.7	11.1
		60 歳代	57	19.3	70.2	47.4	22.8	19.3	17.5	5.3	—	1.8	—	10.5
		70 歳以上	36	16.7	69.4	38.9	22.2	25.0	11.1	8.3	—	—	—	8.3
	男性	18・19 歳	31	35.5	71.0	9.7	9.7	16.1	12.9	—	3.2	—	6.5	3.2
		20 歳代	37	32.4	70.3	16.2	2.7	18.9	5.4	5.4	—	—	10.8	8.1
		30 歳代	34	26.5	55.9	20.6	14.7	23.5	20.6	2.9	—	8.8	8.8	5.9
		40 歳代	37	37.8	81.1	16.2	18.9	27.0	16.2	2.7	2.7	—	2.7	5.4
		50 歳代	47	19.1	76.6	21.3	14.9	19.1	17.0	10.6	—	2.1	8.5	4.3
		60 歳代	40	37.5	80.0	45.0	17.5	15.0	17.5	2.5	—	2.5	—	5.0
		70 歳以上	37	27.0	62.2	40.5	5.4	32.4	16.2	8.1	—	2.7	—	13.5

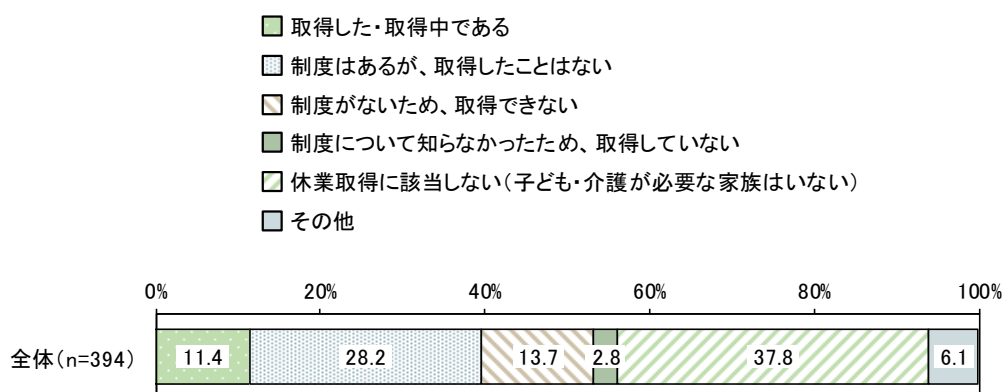
(3) 育児休業・介護休業の取得状況

【現在働いている方、または働いていた方に伺います】

問 10 あなたは、今までに育児休業・介護休業を取得しましたか。(1) 育児休業と(2) 介護休業について、あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
(1)と(2)それぞれ○は1つ)

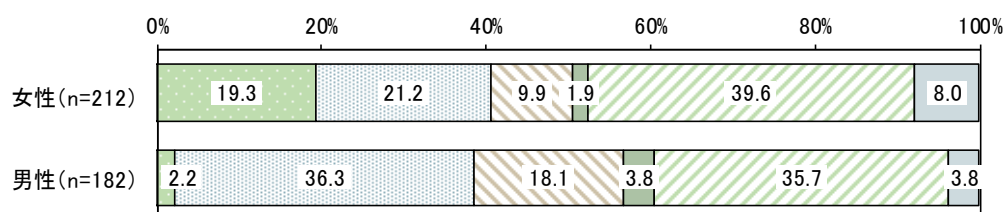
(1) 育児休業

「休業取得に該当しない(子ども・介護が必要な家族はいない)」の割合が37.8%と最も高く、次いで「制度はあるが、取得したことはない」の割合が28.2%、「制度がないため、取得できない」の割合が13.7%となっています。



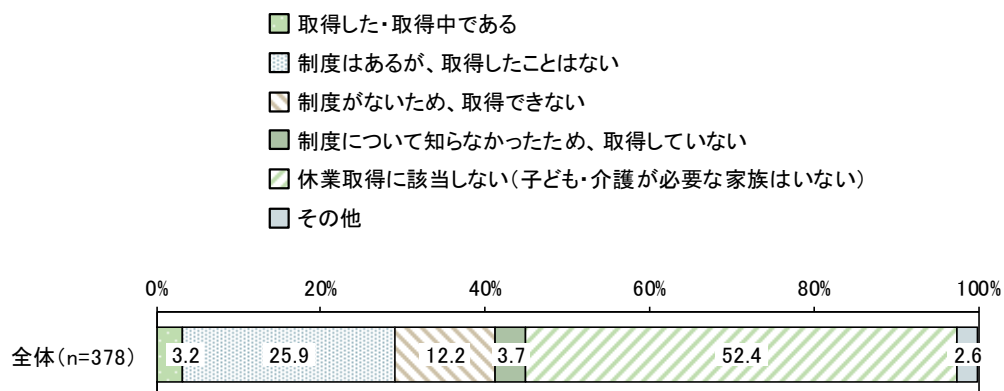
【性別】

男性と比較して、女性の方が「取得した・取得中である」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「制度はあるが、取得したことはない」「制度がないため、取得できない」の割合が高くなっています。



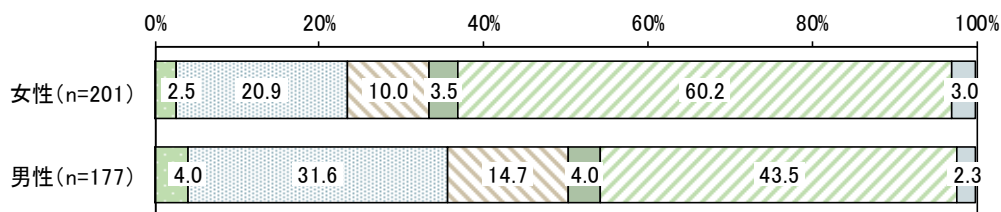
(2) 介護休業

「休業取得に該当しない(子ども・介護が必要な家族はいない)」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「制度はあるが、取得したことはない」の割合が 25.9%、「制度がないため、取得できない」の割合が 12.2%となっています。



【性別】

女性と比較して、男性の方が「制度はあるが、取得したことはない」の割合が高くなっています。



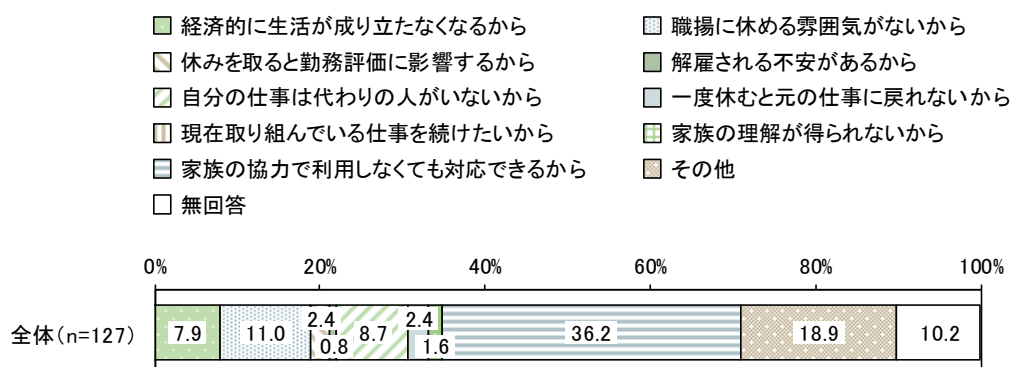
(3-1) 制度を利用しない理由

【問 10 で「②制度はあるが、取得したことはない」と回答した方に伺います】

問 10-1 育児休業・介護休業の制度を利用しない理由は何ですか。あてはまるものを 1 つ選んで番号に○をつけてください。

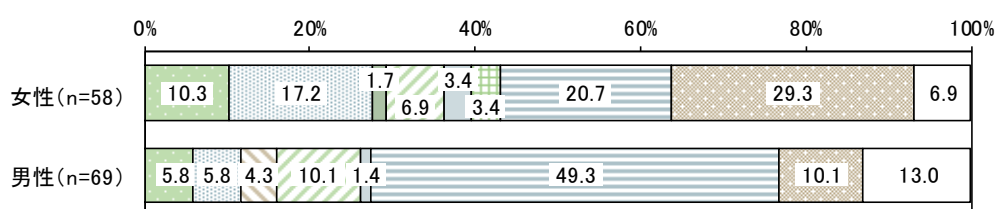
「家族の協力で利用しなくても対応できるから」の割合が 36.2%と最も高く、次いで「職場に休める雰囲気がないから」の割合が 11.0%、「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が 8.7%となっています。

また、「その他」が約 2 割となっていますが、“取得の必要がなかったから”“育児のために退職したから”などの意見がみられました。



【性別】

男性と比較して、女性の方が「職場に休める雰囲気がないから」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「家族の協力で利用しなくても対応できるから」の割合が高くなっています。

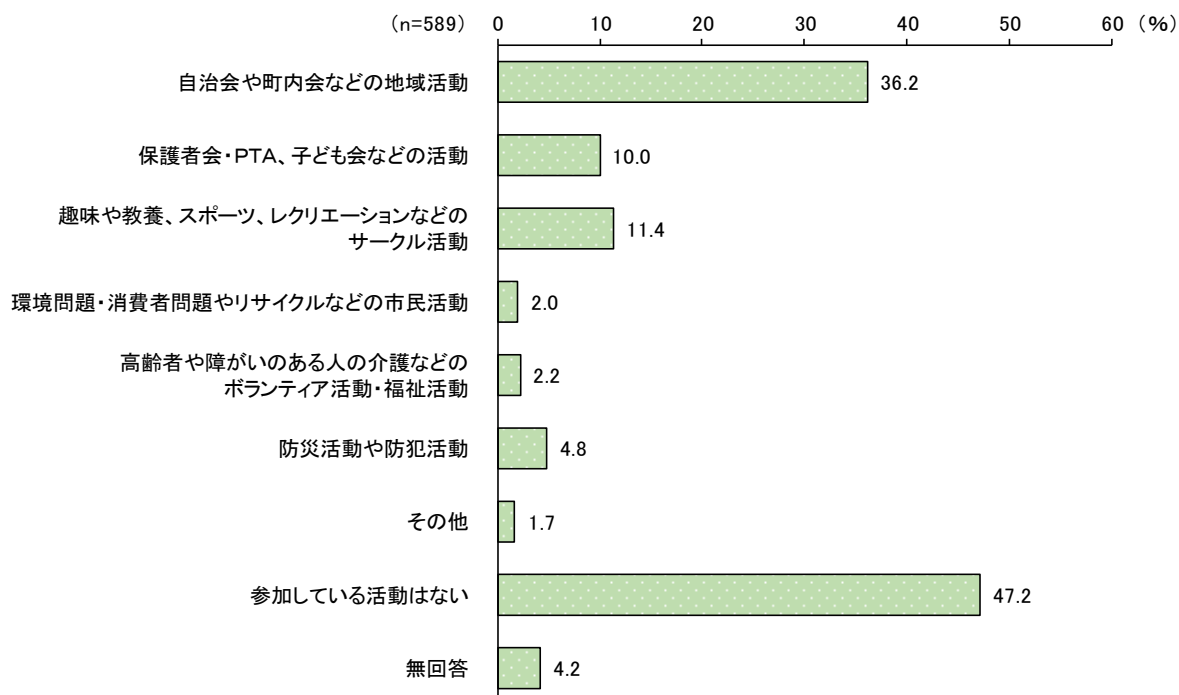


5 地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

問 11 あなたは現在、次のような地域活動に参加していますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「参加している活動はない」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「自治会や町内会などの地域活動」の割合が 36.2%、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなどのサークル活動」の割合が 11.4%となっています。



【性別】

女性では、「参加している活動はない」の割合が、男性では、「自治会や町内会などの地域活動」の割合が、最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「参加している活動はない」「保護者会・PTA、子ども会などの活動」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「自治会や町内会などの地域活動」「防災活動や防犯活動」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「参加している活動はない」の割合が、男女ともに18・19歳、20歳代で高くなっており、女性の20歳代では8割以上となっています。男性の40歳代から70歳以上では「自治会や町内会などの地域活動」の割合が最も高く、50歳代から70歳以上では6割以上となっています。

単位：％

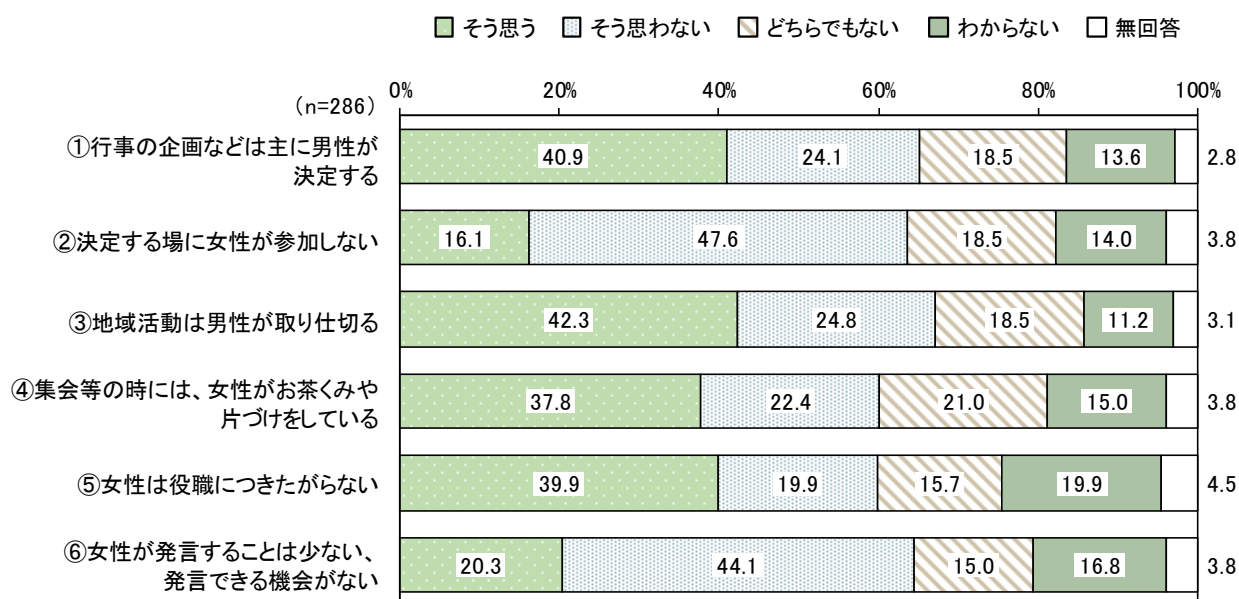
区分		回答者数(人)	自治会や町内会などの地域活動	保護者会・PTA、子ども会などの活動	趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなどのサークル活動	環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動	高齢者や障がいのある人の介護などのボランティア活動・福祉活動	防災活動や防犯活動	その他	参加している活動はない	無回答
性別	女性	324	29.9	12.3	11.1	1.5	3.1	2.2	1.9	52.5	3.4
	男性	263	44.1	7.2	11.8	2.7	1.1	8.0	1.5	41.1	4.6
性・年代別	女性	18・19歳	36	13.9	2.8	5.6	2.8	—	—	77.8	—
		20歳代	50	12.0	2.0	6.0	—	2.0	2.0	82.0	2.0
		30歳代	34	23.5	17.6	8.8	—	5.9	—	58.8	2.9
		40歳代	57	36.8	42.1	12.3	1.8	1.8	—	35.1	1.8
		50歳代	54	44.4	13.0	9.3	1.9	—	1.9	40.7	—
		60歳代	57	36.8	1.8	17.5	—	5.3	5.3	42.1	7.0
		70歳以上	36	33.3	—	16.7	—	—	—	41.7	11.1
	男性	18・19歳	31	9.7	—	16.1	3.2	—	—	64.5	6.5
		20歳代	37	10.8	—	5.4	2.7	2.7	2.7	73.0	5.4
		30歳代	34	35.3	17.6	5.9	—	17.6	2.9	47.1	5.9
		40歳代	37	40.5	29.7	18.9	—	10.8	2.7	40.5	2.7
		50歳代	47	66.0	2.1	14.9	—	8.5	—	29.8	—
		60歳代	40	67.5	2.5	10.0	—	12.5	—	25.0	2.5
		70歳以上	37	64.9	—	10.8	—	2.7	2.7	16.2	10.8

(2) 地域活動の現状

【問 11 で 1 ～ 7 のいずれかを選択した方に伺います】

問 12 あなたが参加している地域活動の現状はどのようになっていますか。①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを 1 つ選んで番号に○をつけてください。

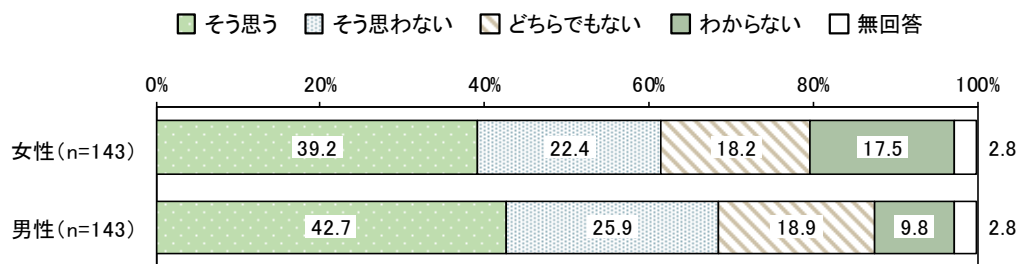
「そう思う」の割合が、“①行事の企画などは主に男性が決定する”“③地域活動は男性が取り仕切る”では 4 割以上、“④集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている”“⑤女性は役職につきたがらない”では 3 割以上となっています。“②決定する場に女性が参加しない”“⑥女性が発言することは少ない、発言できる機会がない”では、「そう思わない」の割合が 4 割以上となっています。



①行事の企画などは主に男性が決定する

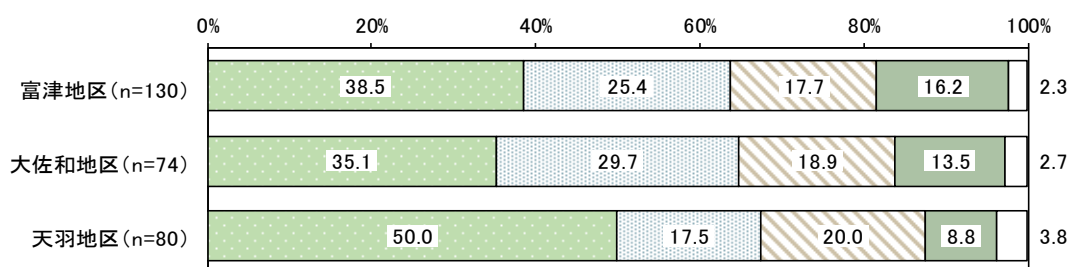
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【居住地区別】

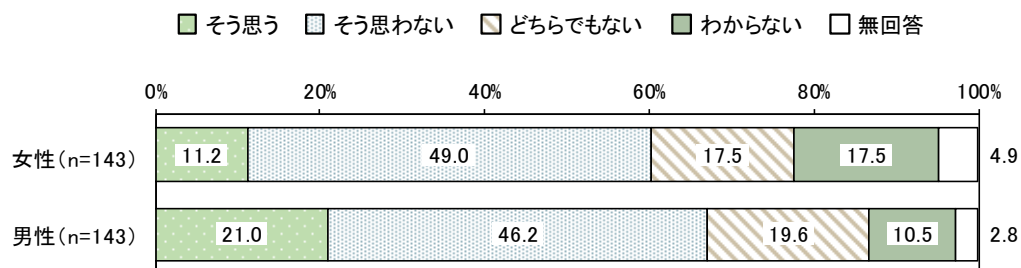
天羽地区で「そう思う」の割合が高くなっています。



②決定する場に女性が参加しない

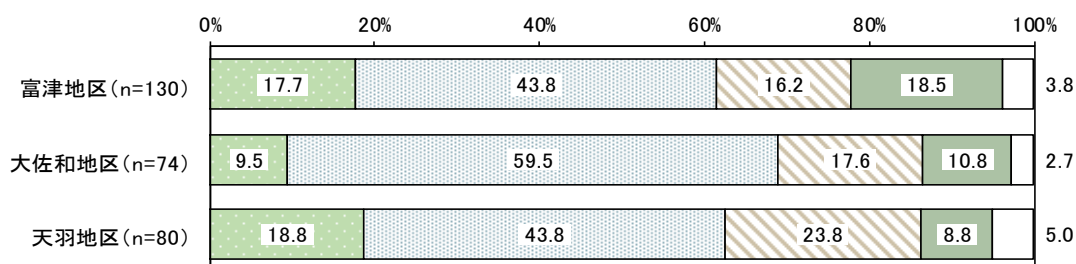
【性別】

女性と比較して、男性の方が「そう思う」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

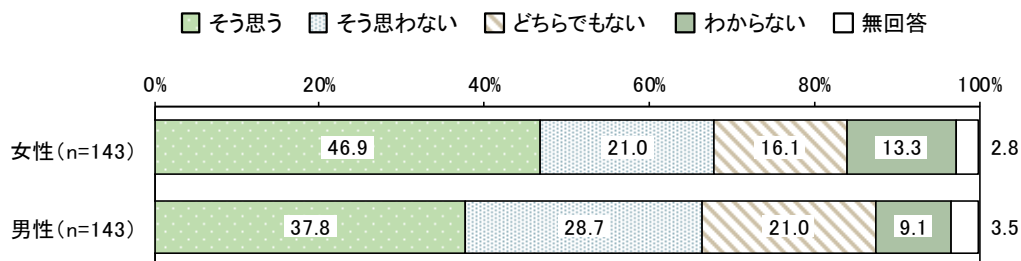
大佐和地区で「そう思わない」の割合が高くなっています。



③地域活動は男性が取り仕切る

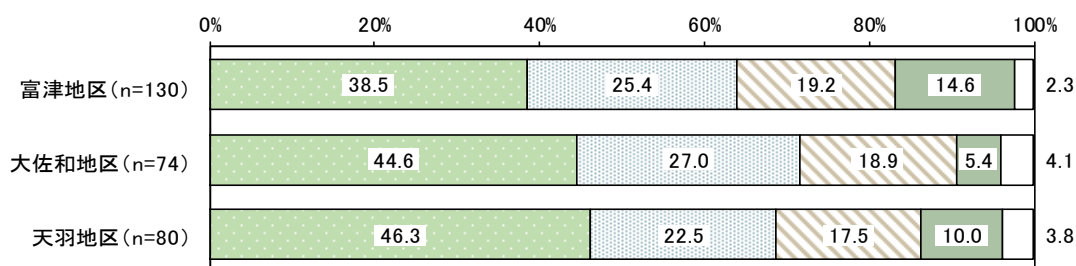
【性別】

男性と比較して、女性の方が「そう思う」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「そう思わない」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

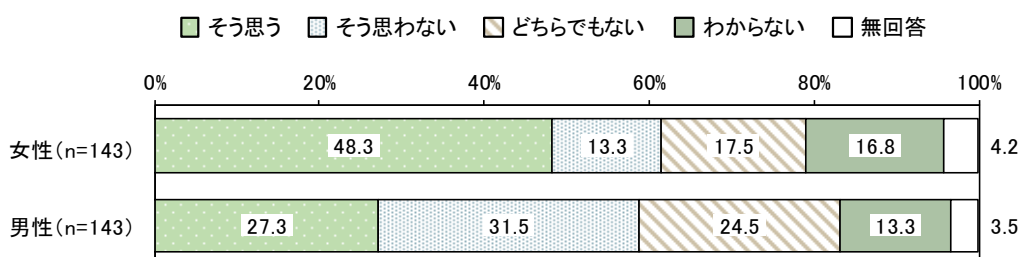
大佐和地区、天羽地区で「そう思う」の割合が高くなっています。



④集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている

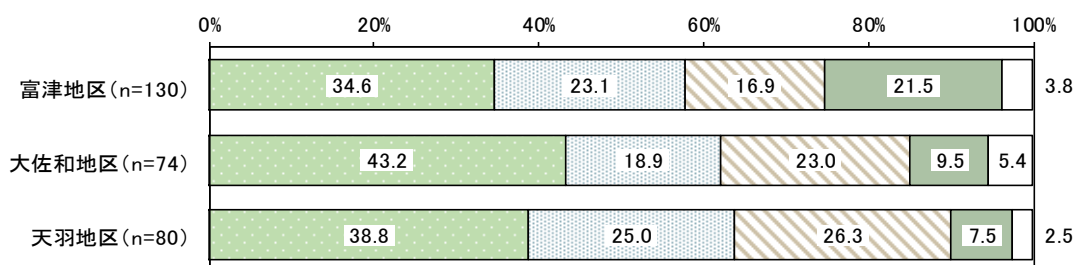
【性別】

男性と比較して、女性の方が「そう思う」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「そう思わない」「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

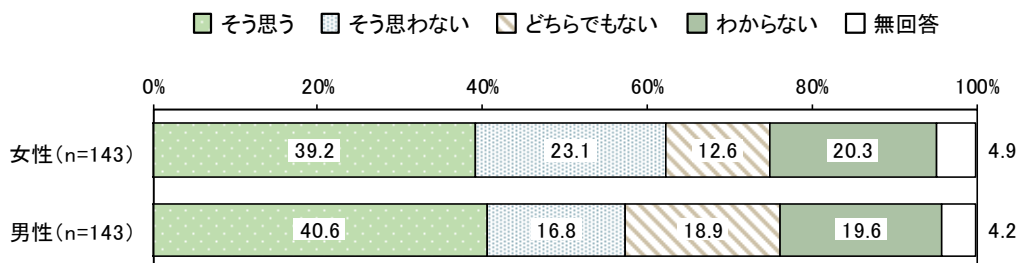
大佐和地区で「そう思う」の割合が高くなっています。



⑤女性は役職につきたがらない

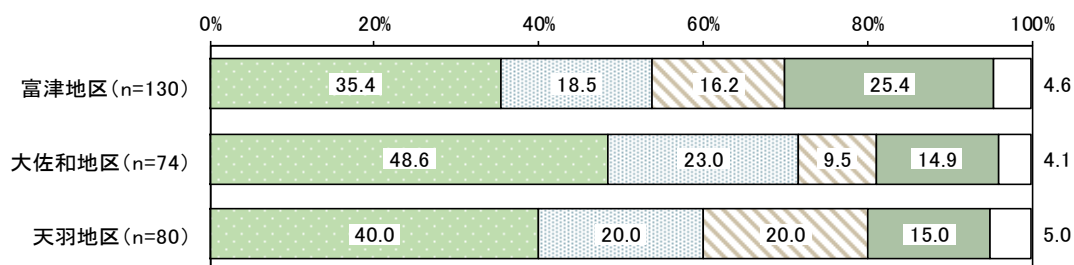
【性別】

男性と比較して、女性の方が「そう思わない」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

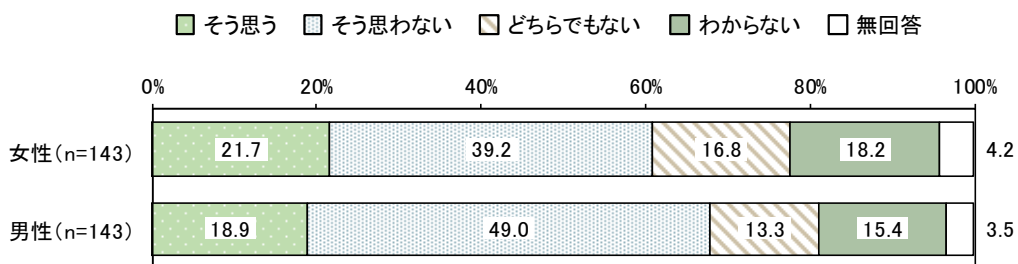
大佐和地区で「そう思う」の割合が高くなっています。



⑥女性が発言することは少ない、発言できる機会がない

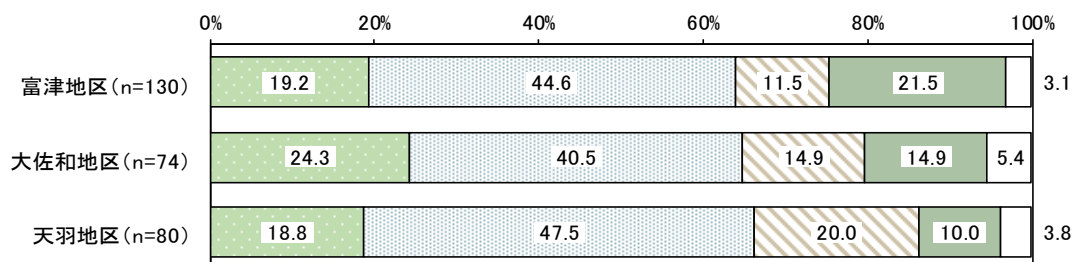
【性別】

女性と比較して、男性の方が「そう思わない」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

大佐和地区で「そう思う」の割合が、天羽地区で「どちらでもない」の割合が、高くなっています。



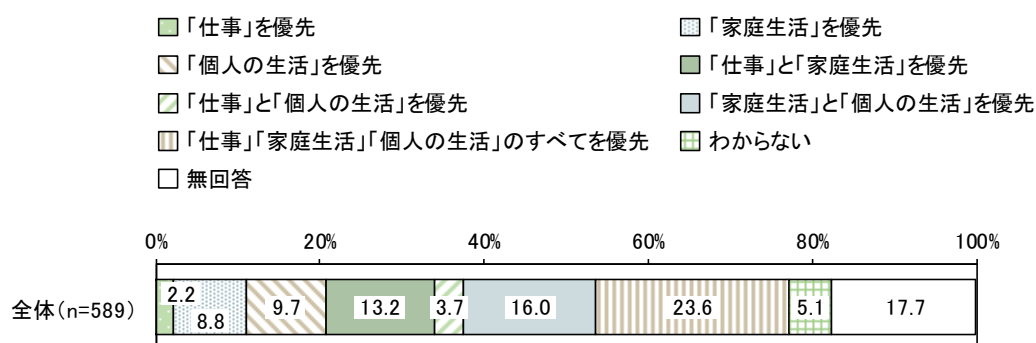
6 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（１）「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度

問 13 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、（１）あなたの理想と（２）あなたの現状に最も近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。（（１）と（２）それぞれ○は１つ）

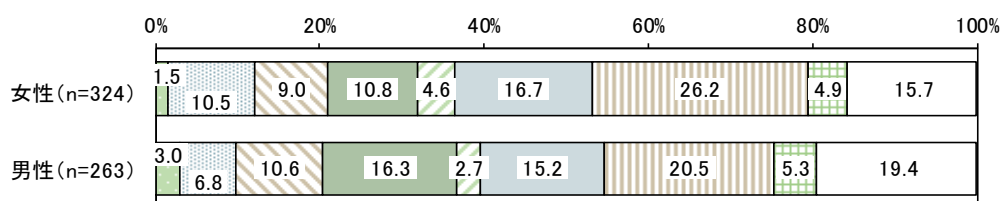
（１）理想

「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先」の割合が 23.6%と最も高く、次いで「家庭生活」と「個人の生活」を優先」の割合が 16.0%、「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が 13.2%となっています。



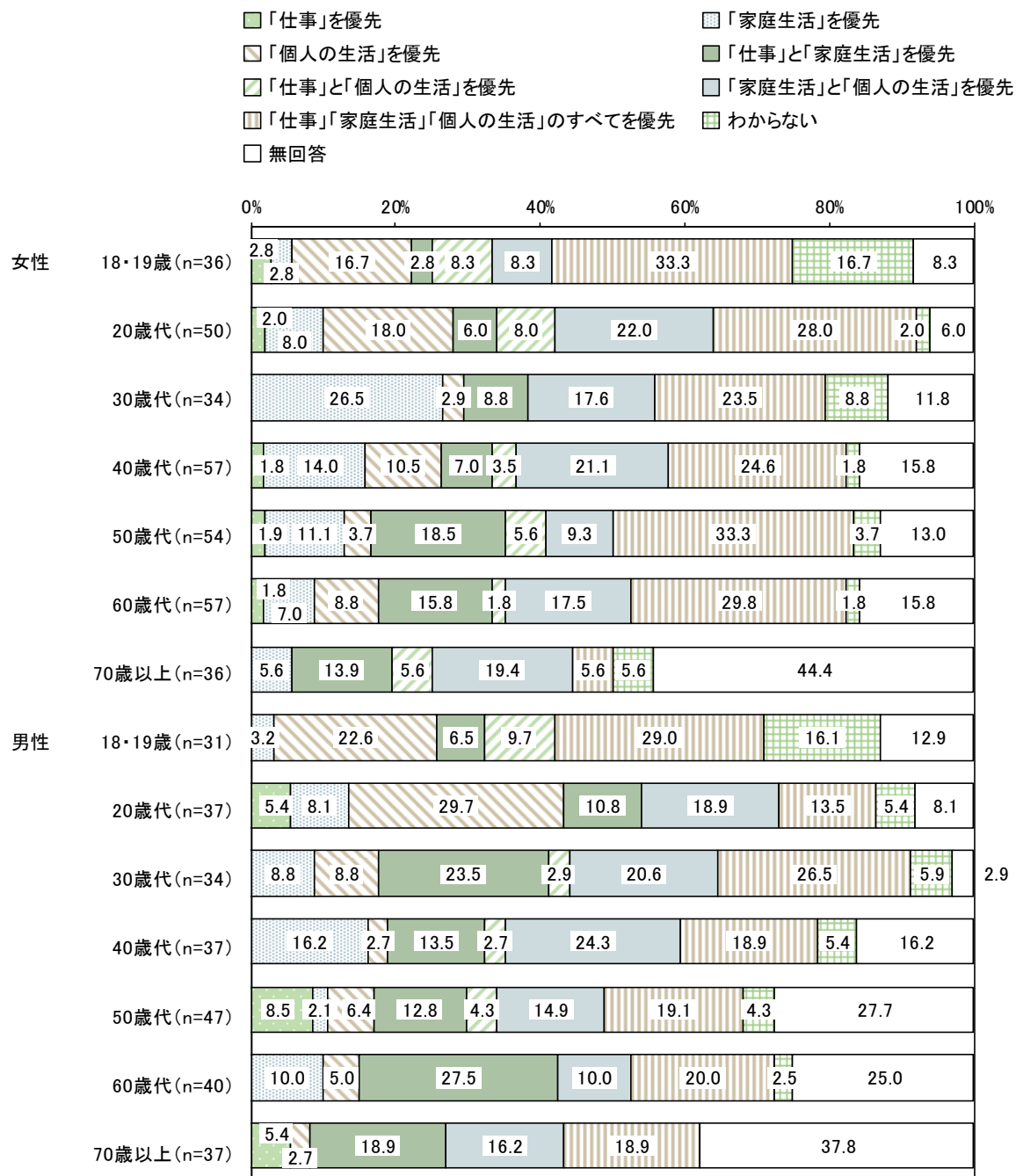
【性別】

男性と比較して、女性の方が「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が高くなっています。



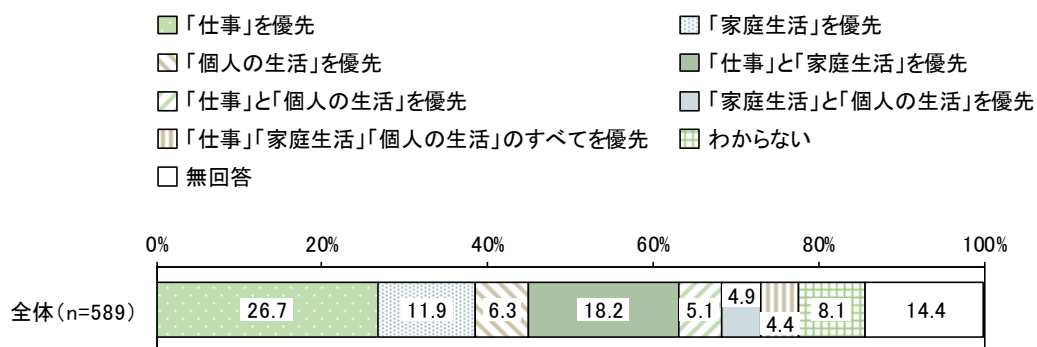
【性・年代別】

女性の 30 歳代で「家庭生活」を優先」の割合が、男性の 20 歳代で「個人の生活」を優先」の割合が、他の年代に比べて高くなっています。



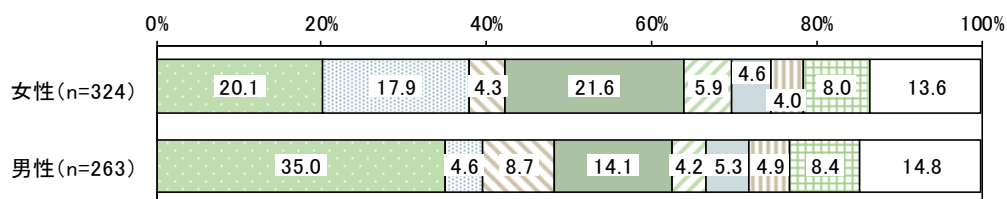
(2) 現状

「仕事」を優先」の割合が26.7%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が18.2%、「家庭生活」を優先」の割合が11.9%となっています。



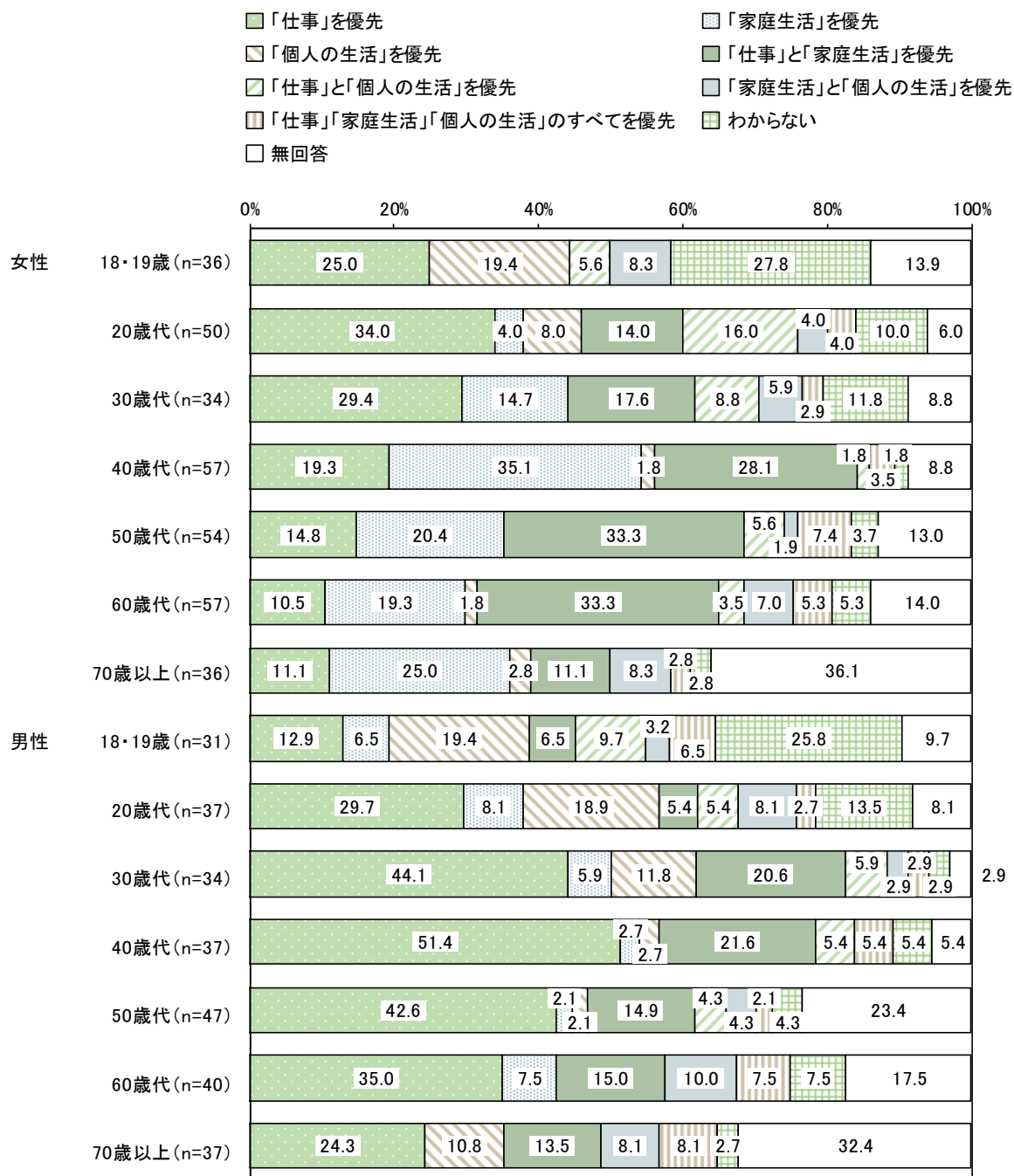
【性別】

男性と比較して、女性の方が「家庭生活」を優先」「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「仕事」を優先」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

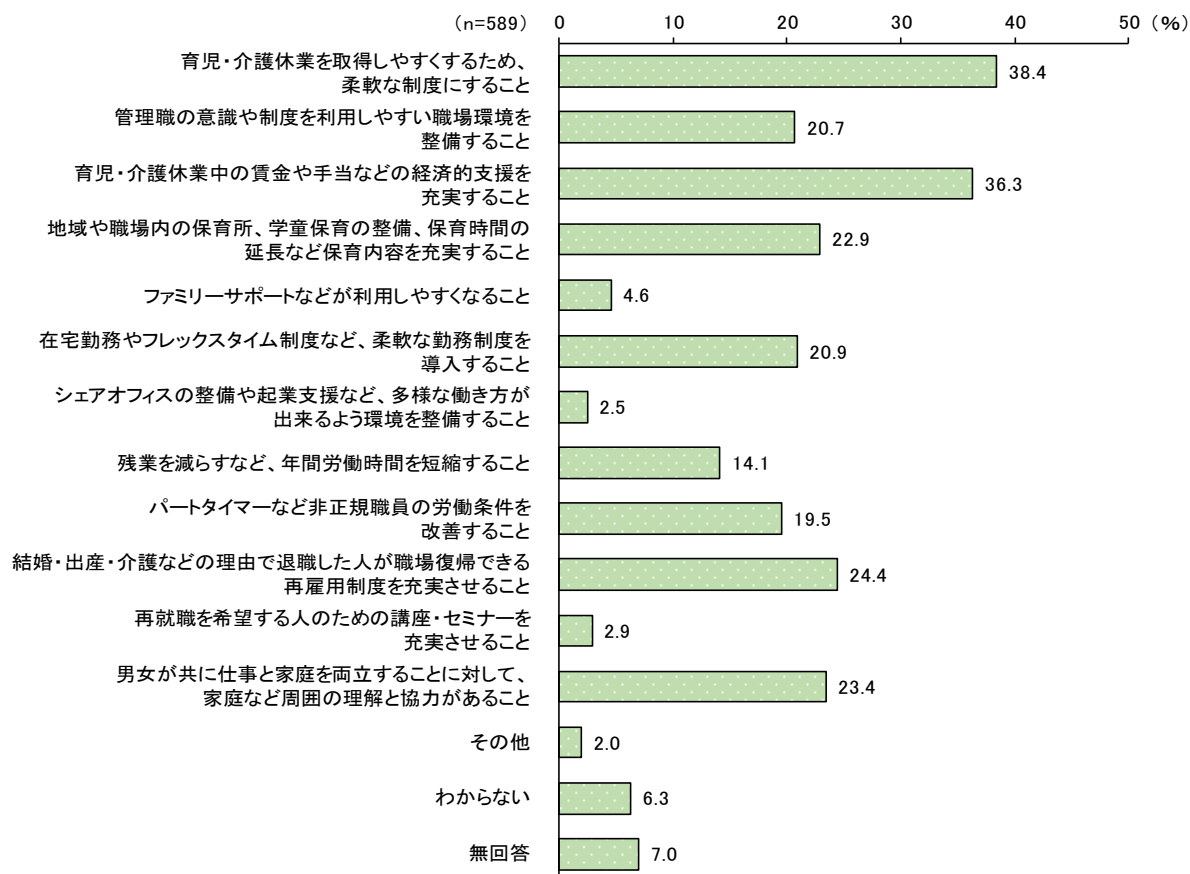
女性の40歳代で「家庭生活」を優先の割合が、他の年代に比べて高くなっています。男性では「仕事」を優先の割合が、18・19歳を除く全ての年代で最も高く、特に40歳代では5割以上となっています。



(2) 男女が共に仕事と家庭を両立するために必要な環境整備

問 14 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

「育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること」の割合が38.4%と最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」の割合が36.3%、「結婚・出産・介護などの理由で退職した人が職場復帰できる再雇用制度を充実させること」の割合が24.4%となっています。



【性別】

「育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること」「ファミリーサポートなどが利用しやすくなること」などの割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」「育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

多くの年代で、最も高い割合が「育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること」または「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」となっています。男女ともに70歳以上では「男女が共に仕事と家庭を両立することに対して、家庭など周囲の理解と協力があること」の割合が、最も高くなっています。

単位：％

区分			回答者数(人)	育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること	管理職の意識や制度を利用しやすい職場環境を整備すること	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること	地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること	ファミリーサポートなどが利用しやすくなること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	シェアオフィスの整備や起業支援など、多様な働き方が出来るよう環境を整備すること	残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
性別	女性		324	36.1	23.1	33.3	22.8	7.1	21.0	1.5	13.0
	男性		263	41.4	17.9	39.9	23.2	1.5	20.5	3.8	15.6
性・年代別	女性	18・19 歳	36	50.0	16.7	30.6	19.4	5.6	13.9	—	16.7
		20 歳代	50	42.0	28.0	42.0	16.0	6.0	26.0	6.0	22.0
		30 歳代	34	32.4	35.3	32.4	29.4	8.8	32.4	—	23.5
		40 歳代	57	21.1	28.1	31.6	24.6	7.0	22.8	3.5	5.3
		50 歳代	54	33.3	24.1	35.2	24.1	5.6	25.9	—	13.0
		60 歳代	57	43.9	17.5	35.1	29.8	12.3	14.0	—	10.5
		70 歳以上	36	33.3	11.1	22.2	13.9	2.8	11.1	—	2.8
	男性	18・19 歳	31	48.4	9.7	41.9	19.4	—	22.6	3.2	9.7
		20 歳代	37	48.6	8.1	48.6	16.2	—	24.3	5.4	24.3
		30 歳代	34	41.2	11.8	44.1	8.8	—	29.4	5.9	41.2
		40 歳代	37	32.4	16.2	40.5	13.5	—	32.4	—	10.8
		50 歳代	47	38.3	29.8	34.0	27.7	—	12.8	2.1	8.5
		60 歳代	40	52.5	20.0	45.0	42.5	2.5	12.5	5.0	7.5
		70 歳以上	37	29.7	24.3	27.0	29.7	8.1	13.5	5.4	10.8

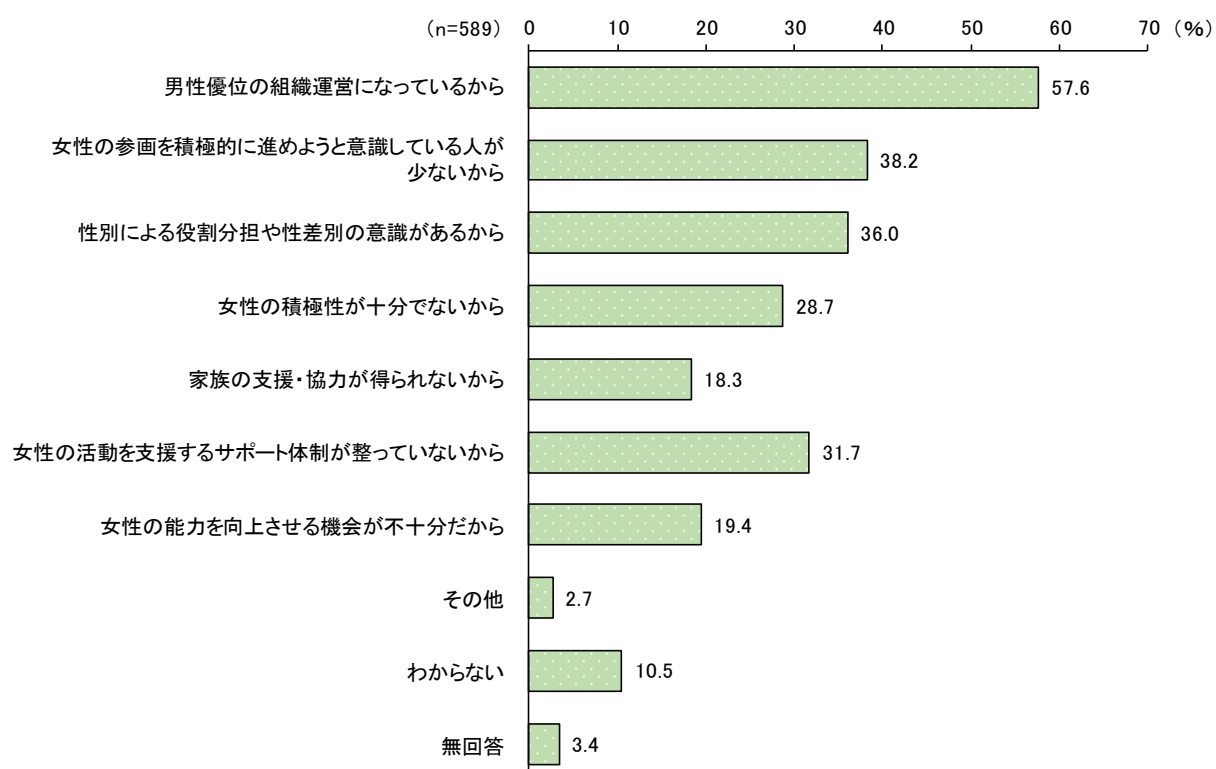
区分			回答者数(人)	パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること	結婚・出産・介護などの理由で退職した人が職場復帰できる再雇用制度を充実させること	再就職を希望する人のための講座・セミナーを充実させること	男女が共に仕事と家庭を両立することに対して、家庭など周囲の理解と協力があること	その他	わからない	無回答
性別	女性		324	24.1	23.5	3.1	25.0	2.5	5.2	6.8
	男性		263	14.1	25.9	2.7	21.3	1.5	7.6	6.8
性・年代別	女性	18・19 歳	36	8.3	30.6	—	33.3	—	11.1	5.6
		20 歳代	50	10.0	24.0	4.0	28.0	2.0	2.0	8.0
		30 歳代	34	23.5	20.6	—	5.9	11.8	5.9	2.9
		40 歳代	57	31.6	19.3	1.8	28.1	1.8	1.8	10.5
		50 歳代	54	37.0	20.4	3.7	24.1	3.7	7.4	3.7
		60 歳代	57	31.6	26.3	8.8	21.1	—	3.5	1.8
		70 歳以上	36	16.7	25.0	—	33.3	—	8.3	16.7
	男性	18・19 歳	31	—	32.3	3.2	22.6	3.2	9.7	6.5
		20 歳代	37	2.7	18.9	2.7	18.9	2.7	13.5	2.7
		30 歳代	34	17.6	26.5	5.9	14.7	2.9	5.9	2.9
		40 歳代	37	16.2	18.9	—	27.0	2.7	2.7	16.2
		50 歳代	47	17.0	29.8	—	17.0	—	12.8	6.4
		60 歳代	40	17.5	27.5	2.5	15.0	—	5.0	5.0
		70 歳以上	37	24.3	27.0	5.4	35.1	—	2.7	8.1

7 女性の活躍推進について

(1) 政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由

問 15 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由について、どのように考えますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「男性優位の組織運営になっているから」の割合が 57.6%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ないから」の割合が 38.2%、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」の割合が 36.0%となっています。



【性別】

「男性優位の組織運営になっているから」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「男性優位の組織運営になっているから」「性別による役割分担や性差別の意識があるから」の割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ないから」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「男性優位の組織運営になっているから」の割合が、男性の 70 歳以上を除く全ての年代で最も高く、特に女性の 30 歳代では 7 割以上となっています。男性の 70 歳以上では「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ないから」の割合が最も高く、約 6 割となっています。

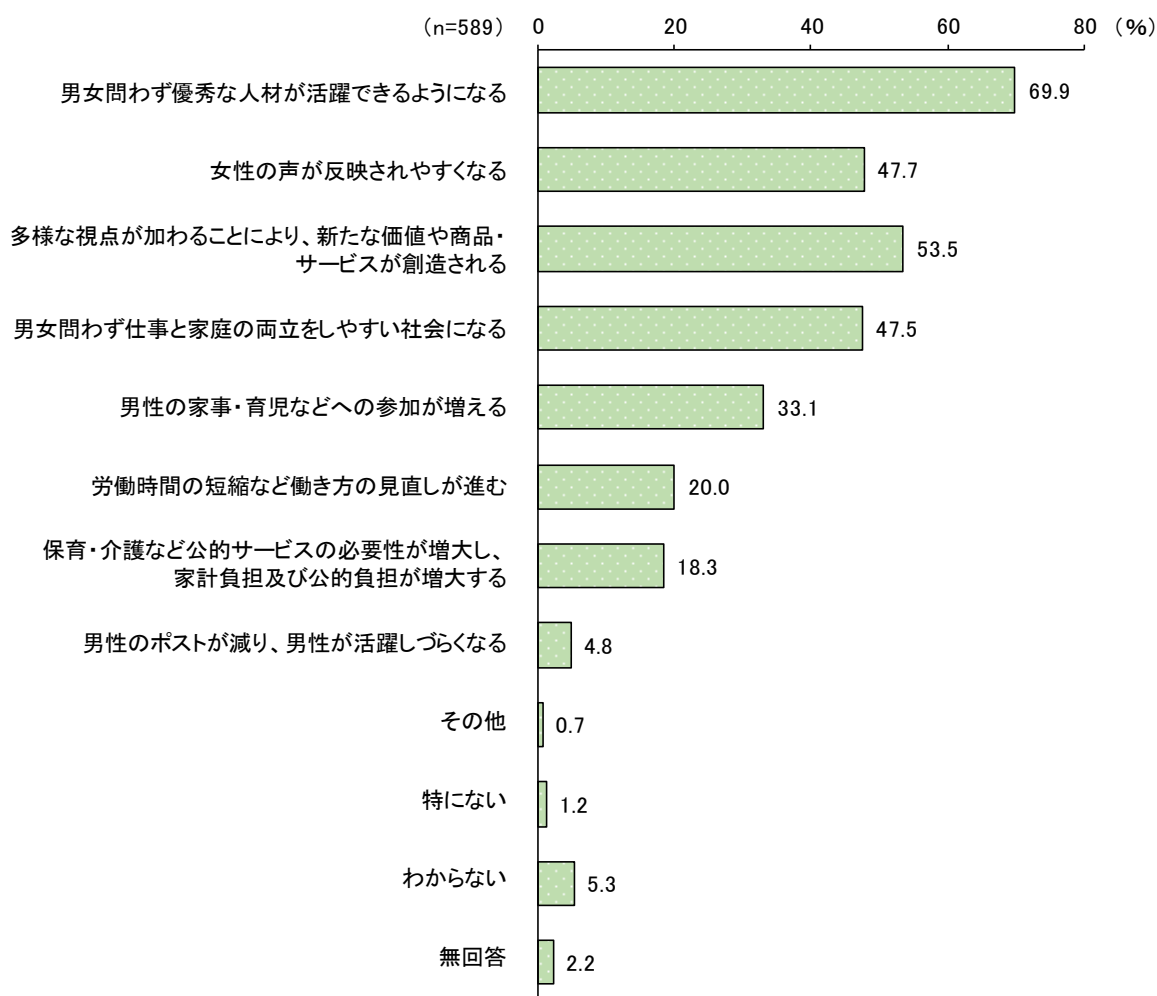
単位：％

区分		回答者数(人)	男性優位の組織運営になっているから	女性の参画を積極的に進めよう と意識している人が少ないから	性別による役割分担や性差別の意識があるから	女性の積極性が十分でないから	家族の支援・協力が得られないから	女性の活動を支援するサポート体制が整っていないから	女性の能力を向上させる機会が不十分だから	その他	わからない	無回答
性別	女性	324	61.4	35.8	39.5	29.6	19.1	33.3	21.3	2.8	9.9	3.4
	男性	263	53.2	41.1	31.9	27.8	17.5	29.7	17.1	2.7	11.4	3.0
性・年代別	女性	18・19 歳	36	55.6	38.9	52.8	16.7	13.9	36.1	22.2	2.8	2.8
		20 歳代	50	60.0	34.0	50.0	24.0	14.0	46.0	28.0	6.0	—
		30 歳代	34	70.6	29.4	38.2	29.4	26.5	38.2	23.5	8.8	—
		40 歳代	57	68.4	33.3	38.6	21.1	14.0	29.8	14.0	1.8	3.5
		50 歳代	54	64.8	42.6	46.3	33.3	11.1	25.9	24.1	1.9	—
		60 歳代	57	61.4	40.4	22.8	42.1	29.8	38.6	24.6	—	5.3
		70 歳以上	36	44.4	27.8	30.6	38.9	27.8	16.7	11.1	—	13.9
	男性	18・19 歳	31	51.6	22.6	35.5	19.4	9.7	22.6	16.1	3.2	3.2
		20 歳代	37	48.6	29.7	27.0	16.2	21.6	29.7	10.8	5.4	—
		30 歳代	34	52.9	41.2	26.5	23.5	8.8	29.4	14.7	2.9	2.9
		40 歳代	37	43.2	35.1	40.5	32.4	18.9	35.1	5.4	2.7	—
		50 歳代	47	53.2	42.6	25.5	36.2	14.9	21.3	17.0	2.1	2.1
		60 歳代	40	65.0	52.5	40.0	35.0	27.5	37.5	27.5	2.5	2.5
		70 歳以上	37	56.8	59.5	29.7	27.0	18.9	32.4	27.0	—	10.8

(2) 女性の参画が社会に及ぼす影響

問 16 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野で、女性の参画が進み、女性リーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が 69.9%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の割合が 53.5%、「女性の声が反映されやすくなる」の割合が 47.7%となっています。



【性別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が、男女ともに最も高くなっています。全ての項目で、大きな差はみられません。

【性・年代別】

「男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高く、特に男性の60歳代では8割となっています。

単位：％

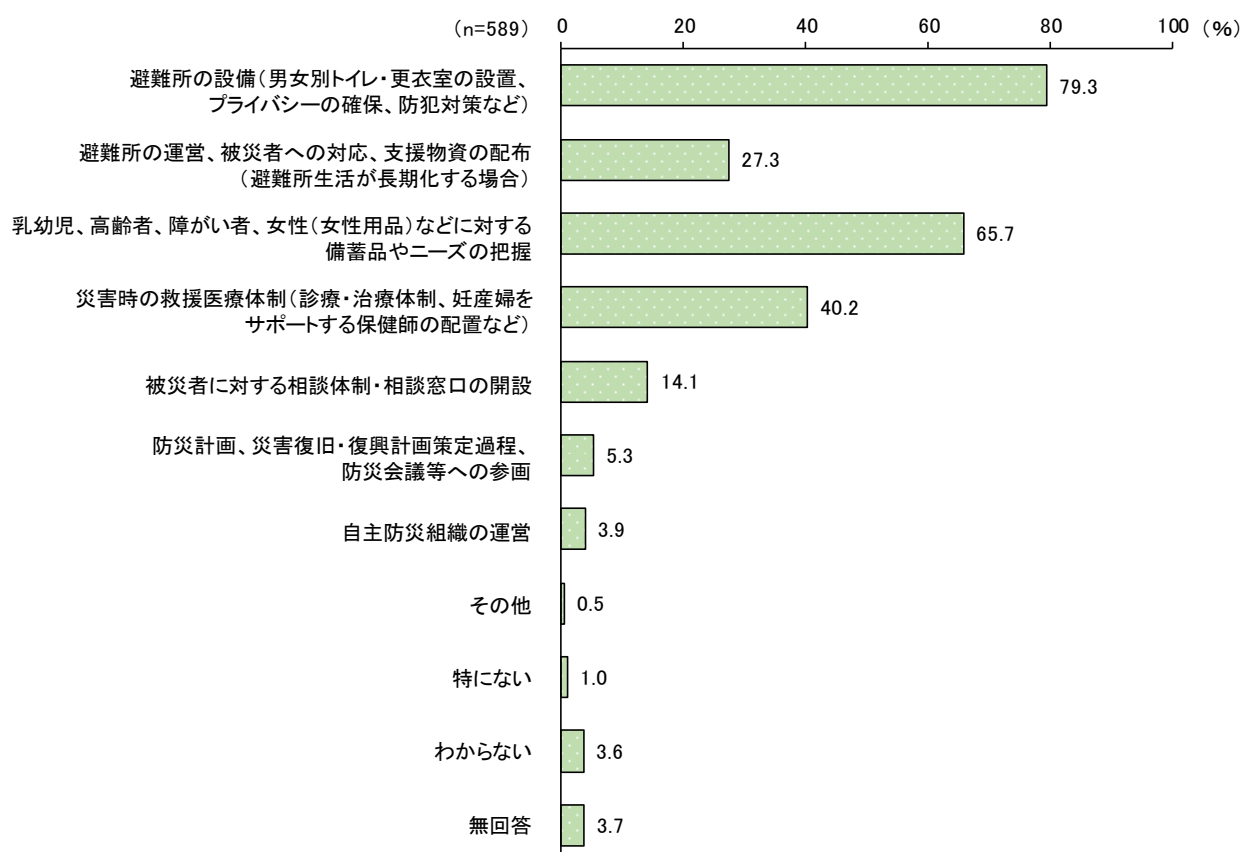
区分		回答者数(人)	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	女性の声が反映されやすくなる	多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる	男性の家事・育児などへの参加が増える	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	保育・介護など公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	特にない	わからない	無回答	
性別	女性	324	71.0	47.8	54.9	48.5	34.0	21.3	19.8	3.4	0.6	0.3	5.2	2.5	
	男性	263	68.8	47.9	52.1	46.4	31.9	18.6	16.7	6.5	0.8	2.3	5.3	1.5	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	77.8	58.3	52.8	66.7	27.8	22.2	13.9	—	—	—	5.6	—
		20 歳代	50	66.0	54.0	62.0	48.0	36.0	28.0	18.0	6.0	—	—	4.0	—
		30 歳代	34	67.6	52.9	61.8	58.8	35.3	23.5	29.4	2.9	5.9	—	5.9	—
		40 歳代	57	78.9	42.1	54.4	47.4	38.6	17.5	22.8	5.3	—	—	1.8	1.8
		50 歳代	54	70.4	46.3	66.7	42.6	31.5	20.4	16.7	1.9	—	—	7.4	—
		60 歳代	57	66.7	45.6	50.9	33.3	26.3	17.5	15.8	1.8	—	1.8	5.3	5.3
		70 歳以上	36	69.4	38.9	30.6	55.6	44.4	22.2	25.0	5.6	—	—	8.3	11.1
	男性	18・19 歳	31	58.1	58.1	58.1	32.3	32.3	19.4	16.1	16.1	—	3.2	9.7	3.2
		20 歳代	37	67.6	43.2	45.9	48.6	35.1	16.2	8.1	8.1	—	2.7	10.8	—
		30 歳代	34	61.8	50.0	52.9	50.0	23.5	14.7	11.8	5.9	—	2.9	2.9	—
		40 歳代	37	70.3	54.1	45.9	48.6	40.5	29.7	24.3	10.8	5.4	5.4	2.7	—
		50 歳代	47	70.2	40.4	48.9	36.2	23.4	10.6	19.1	2.1	—	2.1	8.5	—
		60 歳代	40	80.0	42.5	67.5	57.5	35.0	12.5	15.0	2.5	—	—	2.5	—
		70 歳以上	37	70.3	51.4	45.9	51.4	35.1	29.7	21.6	2.7	—	—	—	8.1

8 防災について

(1) 防災・災害復興対策における女性の視点での配慮が必要なこと

問 17 あなたは、防災・災害復興対策で特に女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(○は3つ以内)

「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など)」の割合が79.3%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、女性(女性用品)などに対する備蓄品やニーズの把握」の割合が65.7%、「災害時の救援医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師の配置など)」の割合が40.2%となっています。



【性別】

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握」「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）」などの割合が高くなっています。

【性・年代別】

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）」の割合が、女性の18・19歳を除く全ての年代で最も高くなっています。女性の18・19歳では「乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握」の割合が最も高く、9割以上となっています。

単位：％

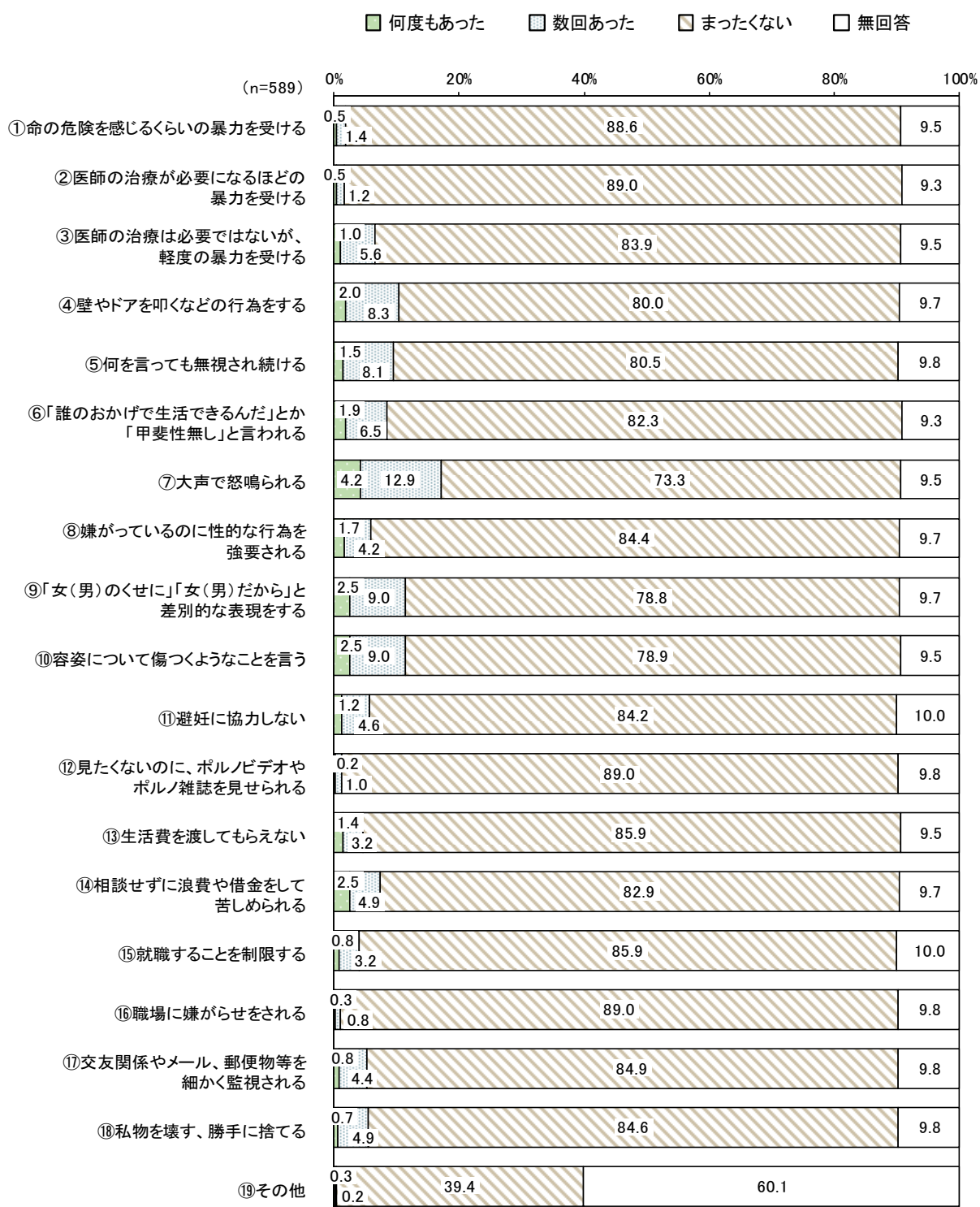
区分		回答者数(人)	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）	避難所の運営、被災者への対応、支援物資の配布（避難所生活が長期化する場合）	乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握	災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師の配置など）	被災者に対する相談体制・相談窓口の開設	防災計画、災害復旧・復興計画策定過程、防災会議等への参画	自主防災組織の運営	その他	特になし	わからない	無回答
性別	女性	324	82.7	30.6	69.8	39.8	16.0	4.6	4.3	0.3	—	2.2	2.8
	男性	263	75.3	23.2	61.2	41.1	11.8	6.1	3.0	0.8	2.3	5.3	4.6
性・年代別	女性	18・19 歳	36	83.3	16.7	91.7	41.7	11.1	2.8	—	—	—	—
		20 歳代	50	82.0	18.0	74.0	48.0	14.0	6.0	—	2.0	—	4.0
		30 歳代	34	76.5	35.3	67.6	32.4	17.6	—	5.9	—	—	—
		40 歳代	57	86.0	33.3	70.2	35.1	8.8	5.3	1.8	—	—	5.3
		50 歳代	54	79.6	38.9	64.8	38.9	14.8	11.1	7.4	—	—	1.9
		60 歳代	57	87.7	36.8	64.9	40.4	17.5	3.5	5.3	—	—	3.5
		70 歳以上	36	80.6	30.6	58.3	41.7	33.3	—	11.1	—	—	2.8
	男性	18・19 歳	31	67.7	16.1	67.7	41.9	3.2	—	—	—	3.2	12.9
		20 歳代	37	73.0	24.3	56.8	32.4	13.5	2.7	—	—	—	2.7
		30 歳代	34	76.5	14.7	70.6	41.2	8.8	2.9	2.9	8.8	2.9	2.9
		40 歳代	37	86.5	18.9	56.8	48.6	13.5	8.1	—	—	—	2.7
		50 歳代	47	80.9	27.7	55.3	38.3	10.6	4.3	6.4	2.1	4.3	—
		60 歳代	40	75.0	32.5	65.0	47.5	17.5	12.5	2.5	—	—	7.5
		70 歳以上	37	64.9	24.3	59.5	37.8	13.5	10.8	8.1	—	—	2.7

9 配偶者等からの暴力について

(1) 配偶者や交際相手などから暴力を受けた経験

問 18 あなたは、これまでに、配偶者や交際相手などから、次のようなことをされたことがありますか。①～⑱のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

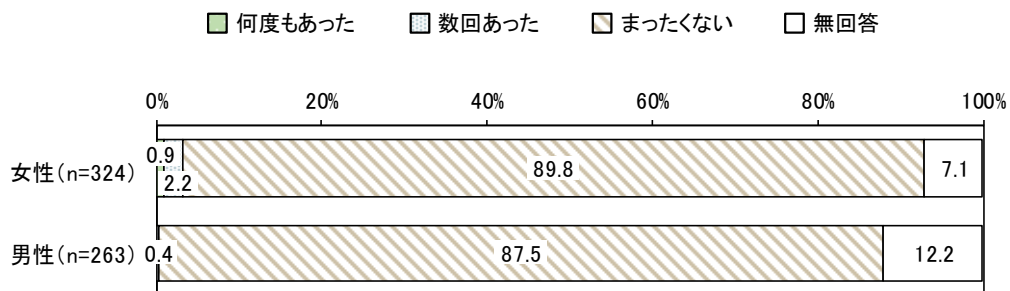
「何度もあった」と「数回あった」を合わせた『経験がある』は、“⑦大声で怒鳴られる”の割合が17.1%と最も高く、次いで“⑨「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な表現をする”“⑩容姿について傷つくようなことを言う”の割合が11.5%となっています。



①命の危険を感じるくらいの暴力を受ける

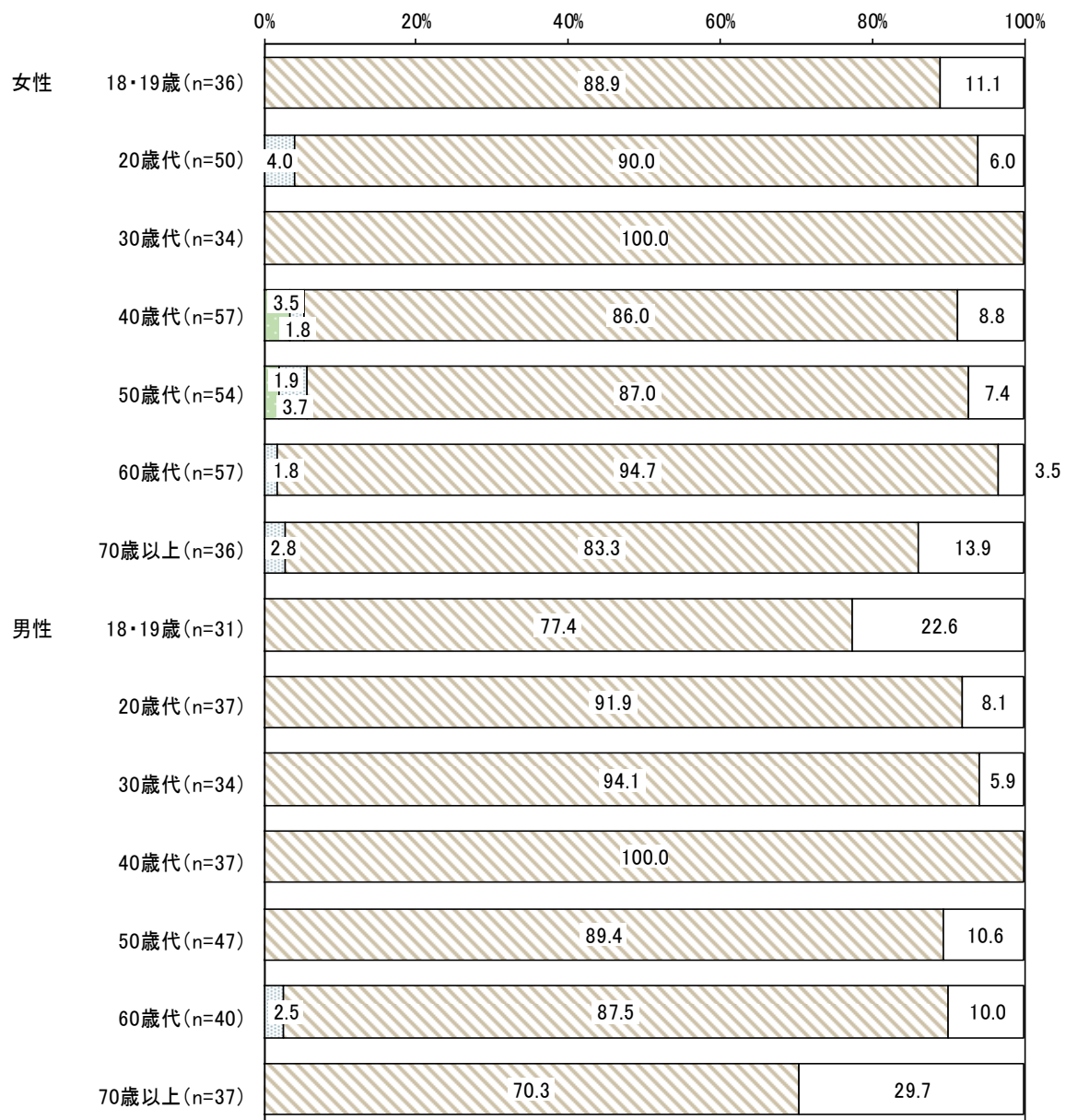
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

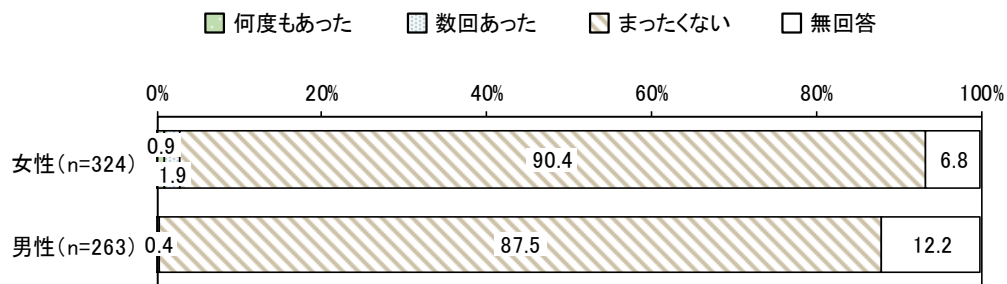
『経験がある』の割合は、女性では、50 歳代 (5.6%)、40 歳代 (5.3%) で高くなっており、男性では 60 歳代が 2.5%となっています。



②医師の治療が必要になるほどの暴力を受ける

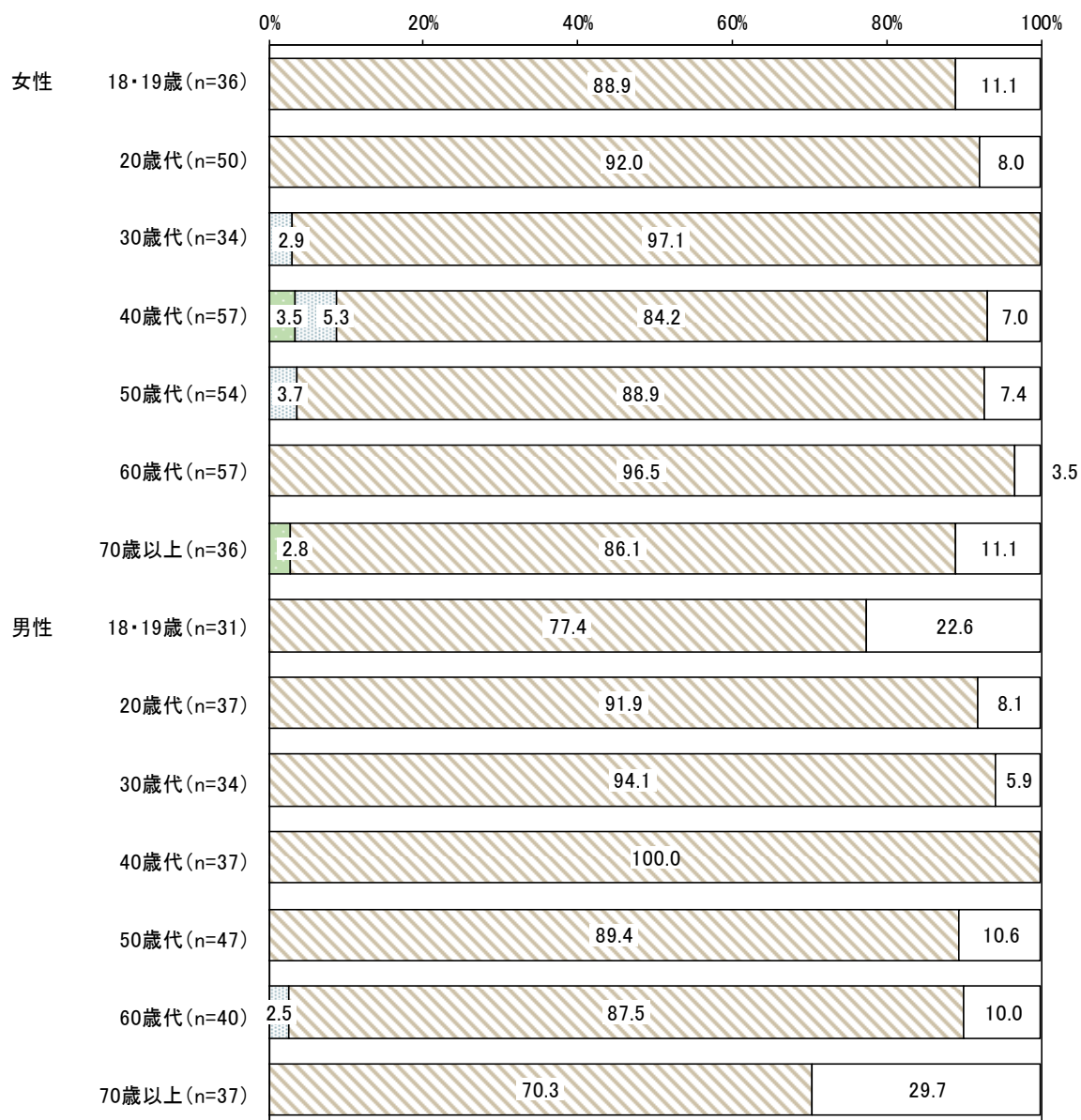
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

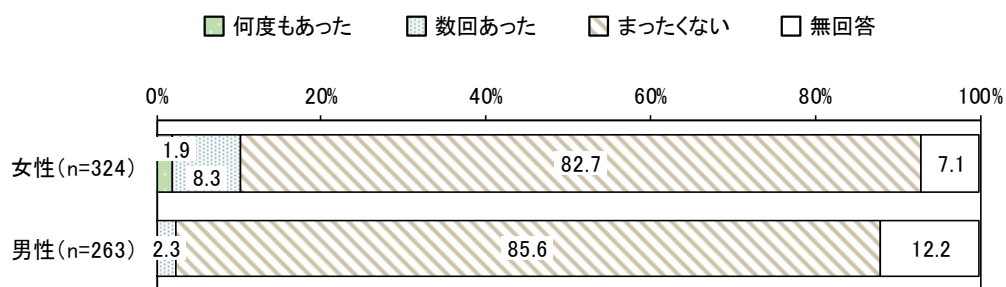
『経験がある』の割合は、女性では40歳代（8.8%）で高くなっており、男性では60歳代が2.5%となっています。



③医師の治療は必要ではないが、軽度の暴力を受ける

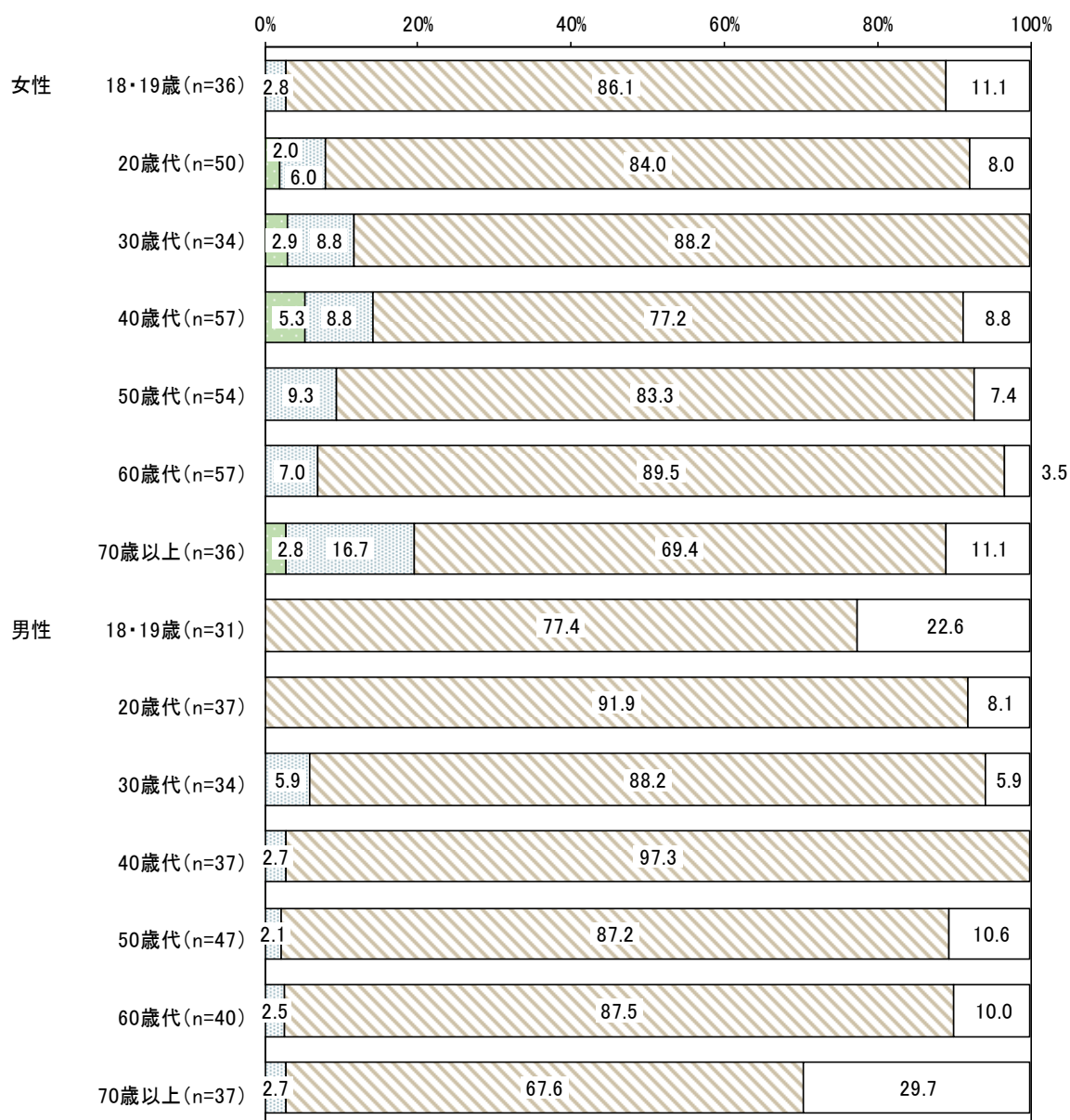
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

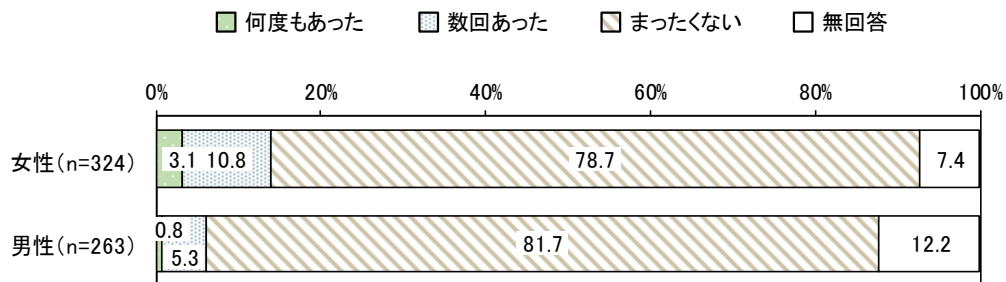
『経験がある』の割合が、女性では、70歳以上 (19.5%)、40歳代 (14.1%)、30歳代 (11.7%) で高くなっており、男性では、30歳代の 5.9% が最も高くなっています。



④壁やドアを叩くなどの行為をする

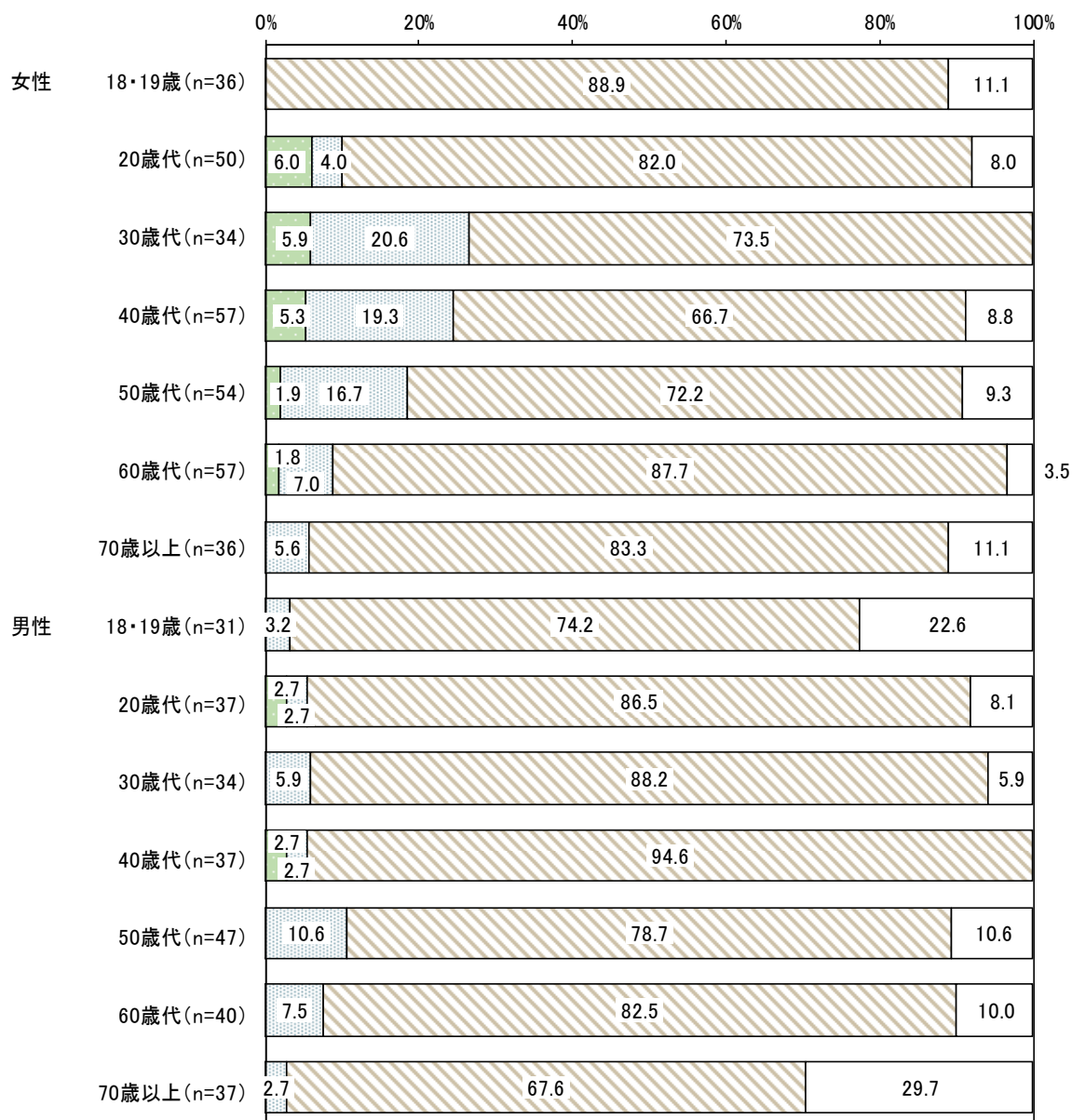
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

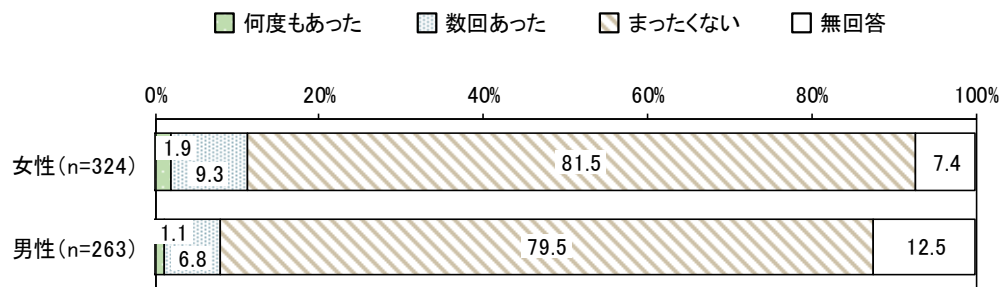
『経験がある』の割合が、女性では、30歳代 (26.5%)、40歳代 (24.6%)、50歳代 (18.6%) で高くなっており、男性では、50歳代の 10.6% が最も高くなっています。



⑤何を言っても無視され続ける

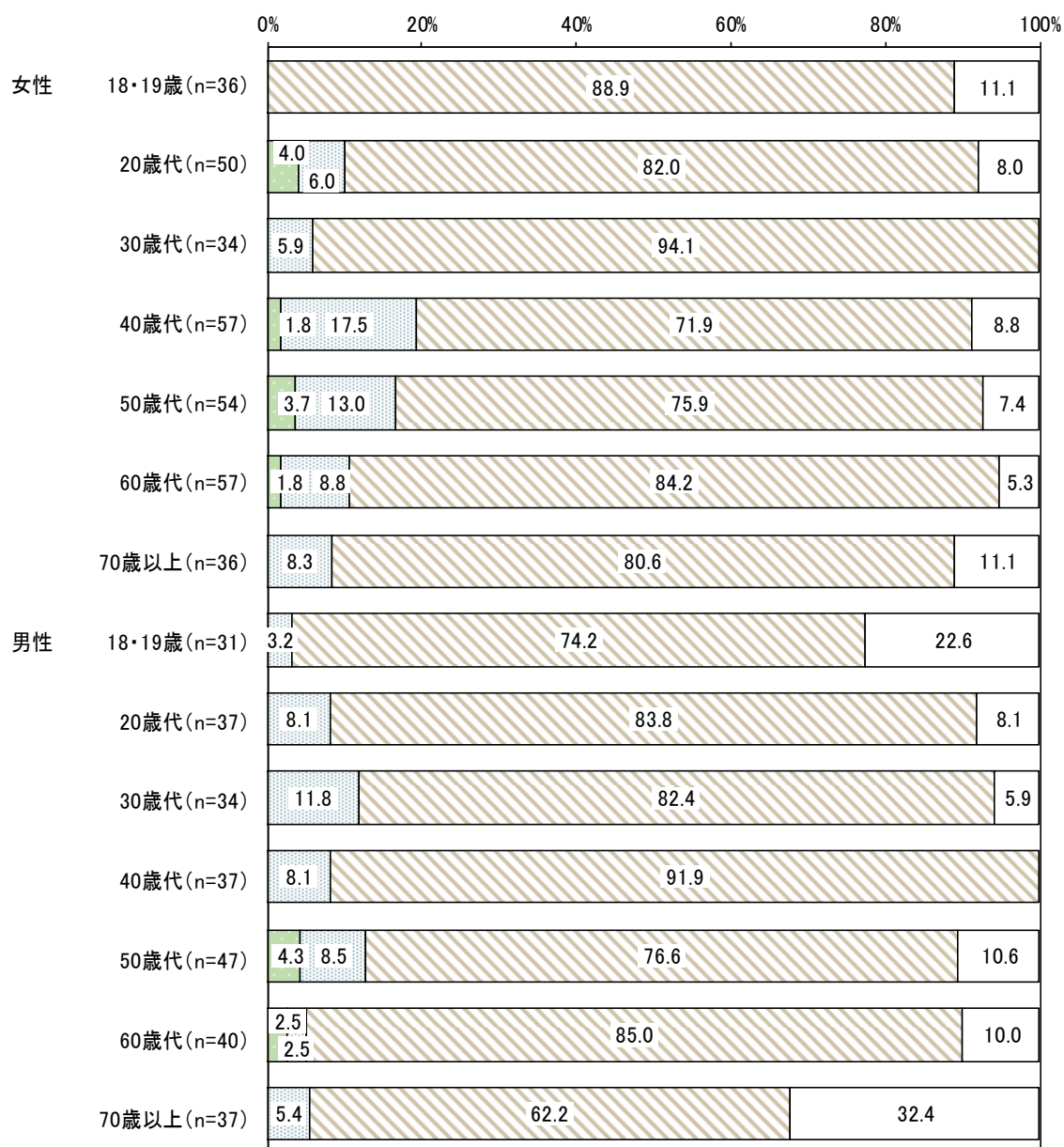
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

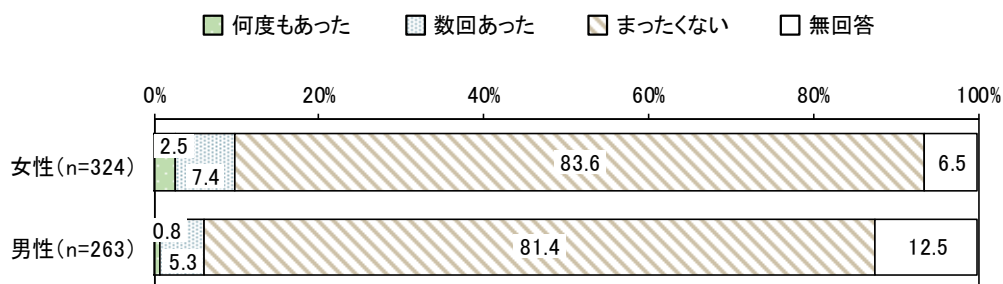
『経験がある』の割合が、女性では、40歳代（19.3%）、50歳代（16.7%）で高くなっており、男性では、50歳代の12.8%が最も高くなっています。



⑥ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性無し」と言われる

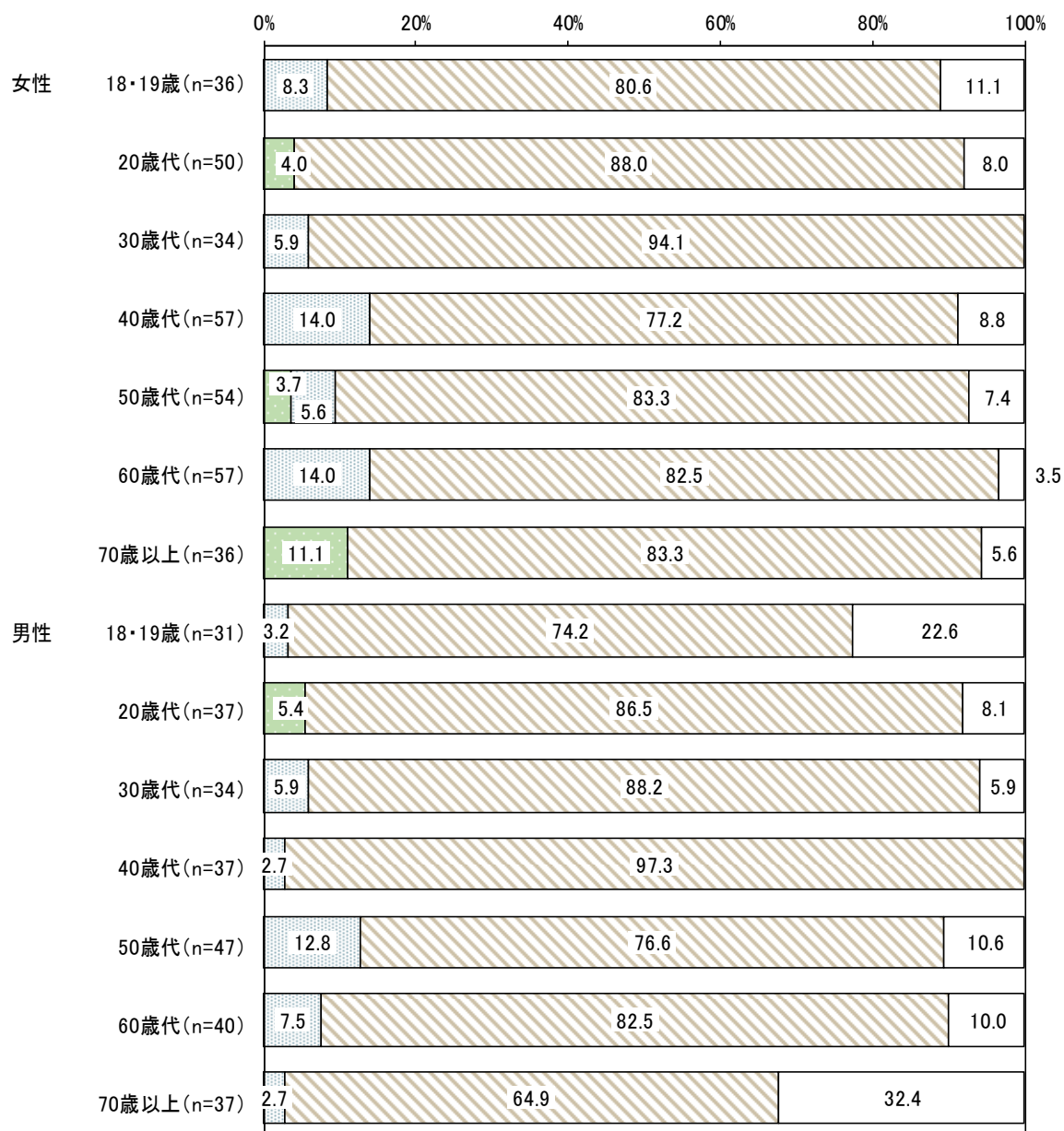
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

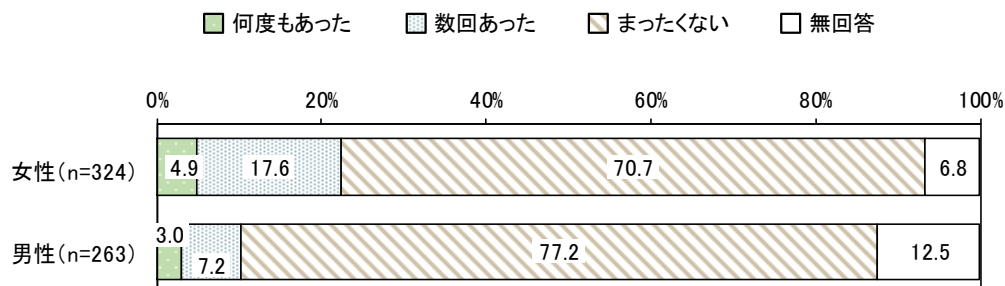
『経験がある』の割合が、女性では、40 歳代 (14.0%)、60 歳代 (14.0%)、70 歳以上 (11.1%) で高くなっており、男性では、50 歳代の 12.8% が最も高くなっています。



⑦大声で怒鳴られる

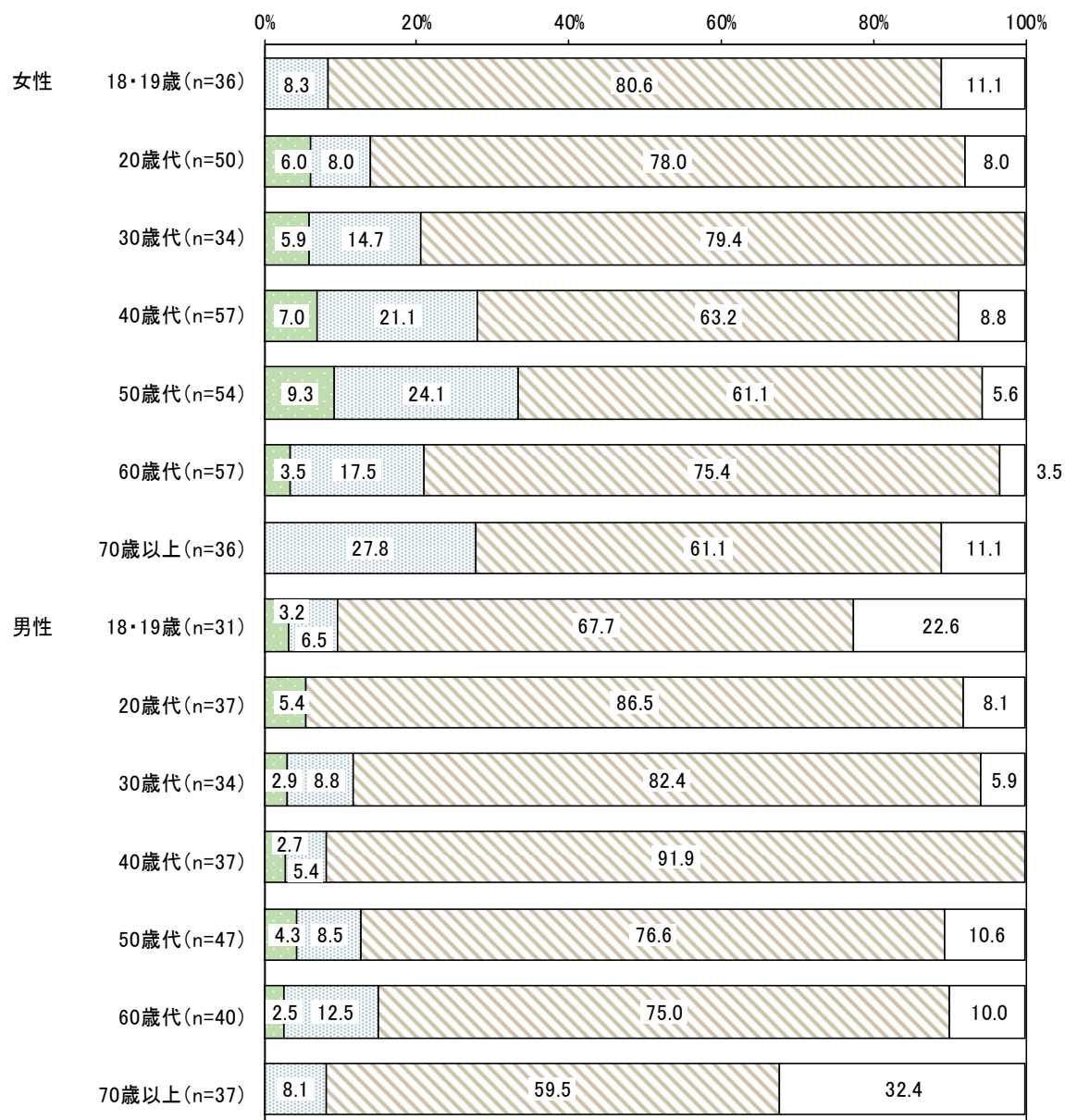
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

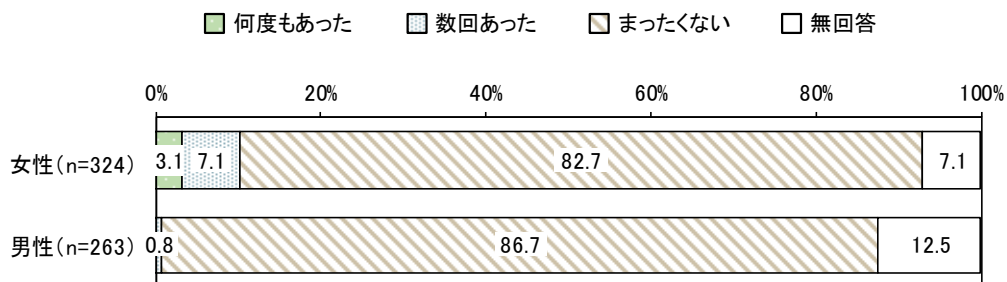
『経験がある』の割合が、女性では、50歳代(33.4%)、40歳代(28.1%)、70歳以上(27.8%)で高くなっており、男性では、60歳代の15.0%が最も高くなっています。



⑧嫌がっているのに性的な行為を強要される

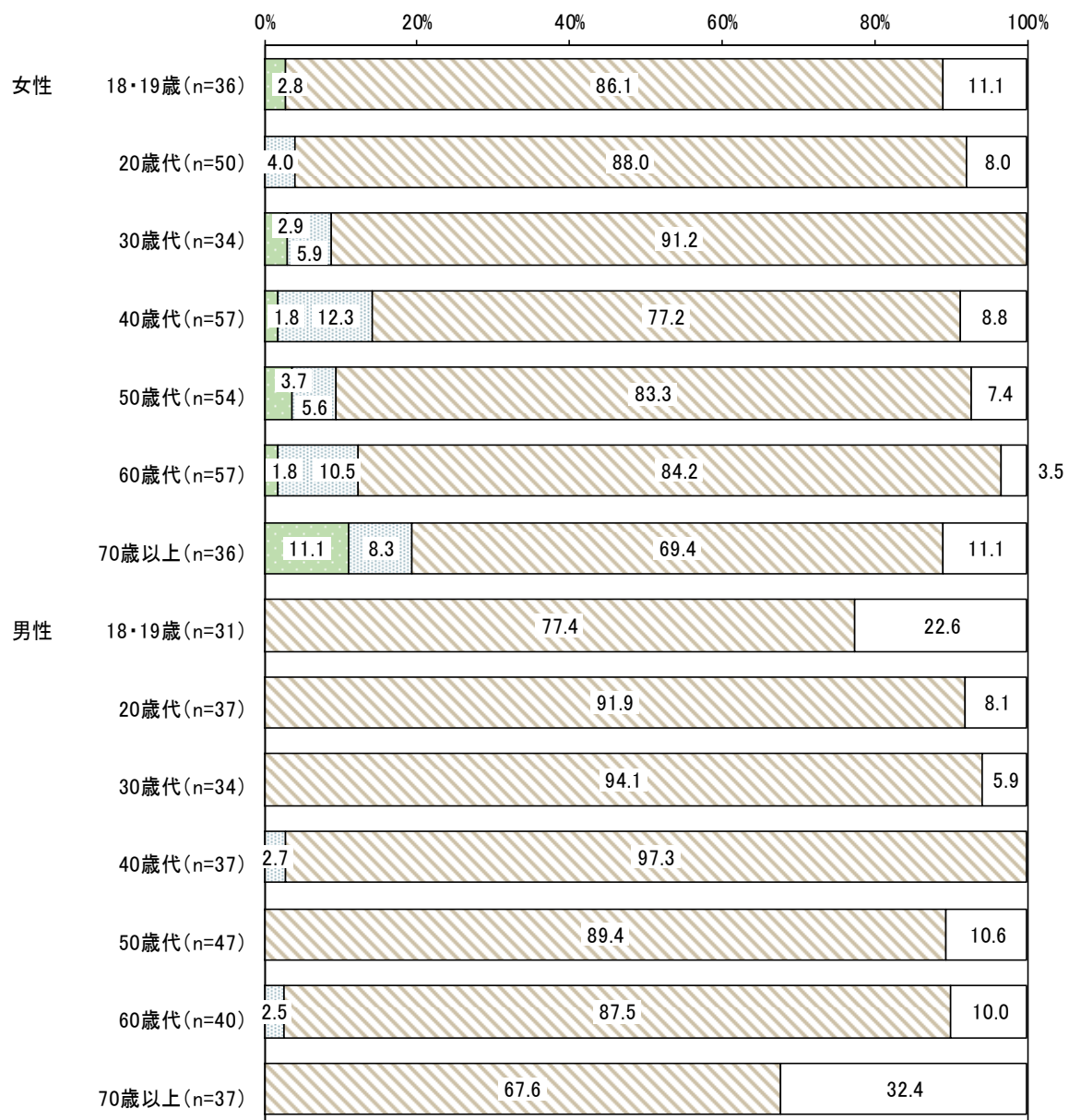
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

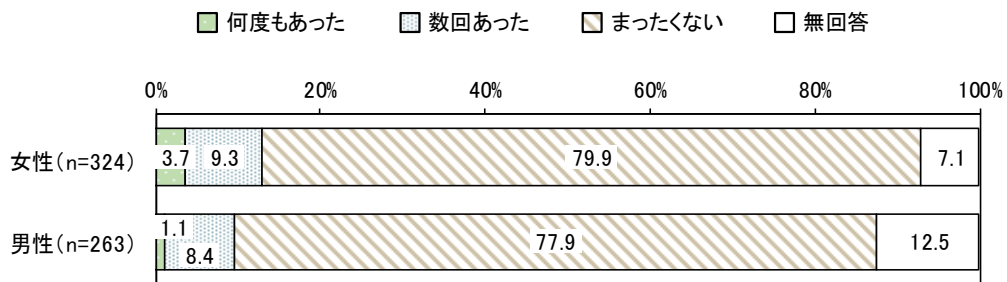
『経験がある』の割合が、女性では、70歳以上 (19.4%)、40歳代 (14.1%)、60歳代 (12.3%) で高くなっており、男性では、40歳代が 2.7%、60歳代が 2.5%となっています。



⑨「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な表現をする

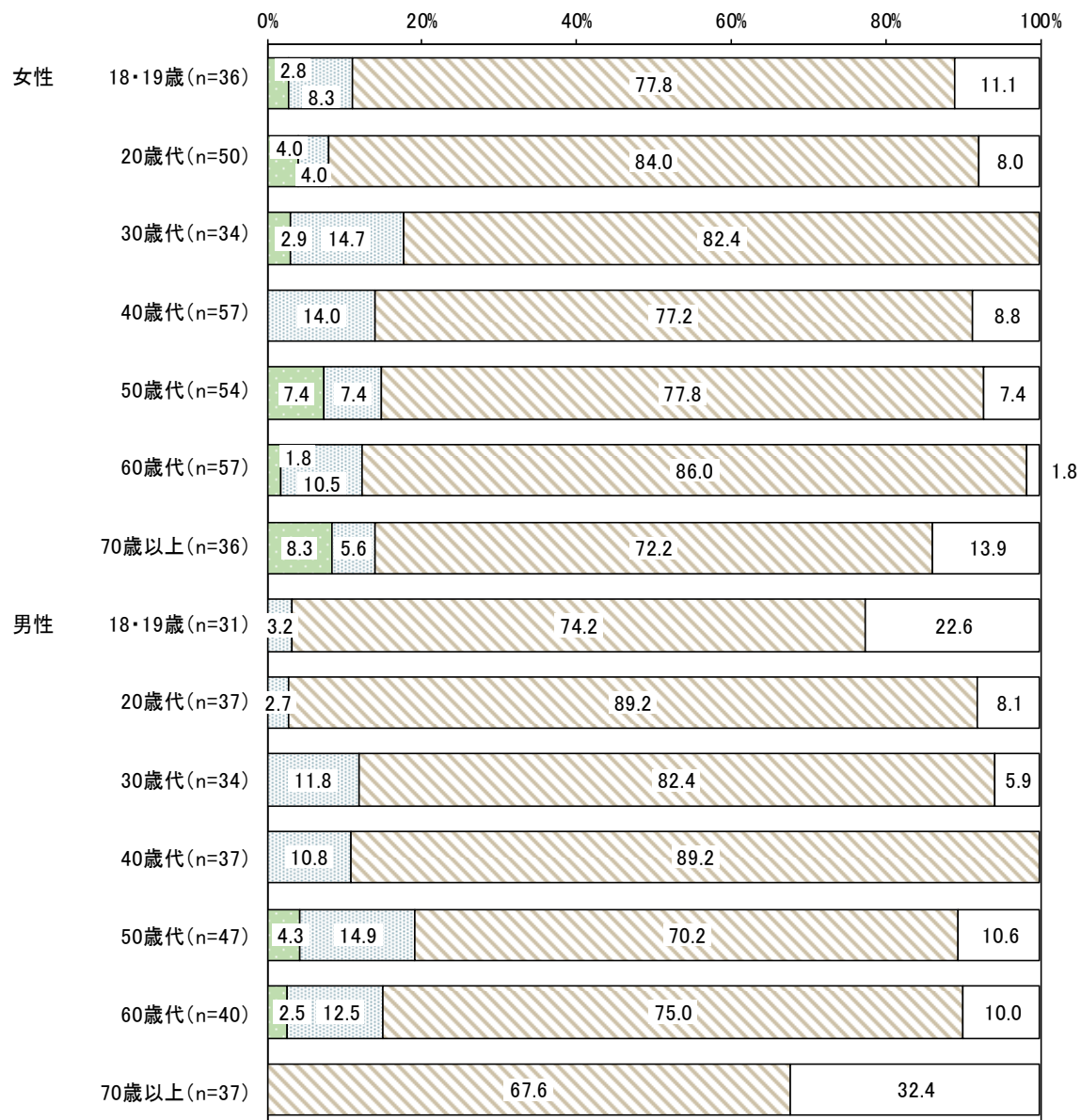
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

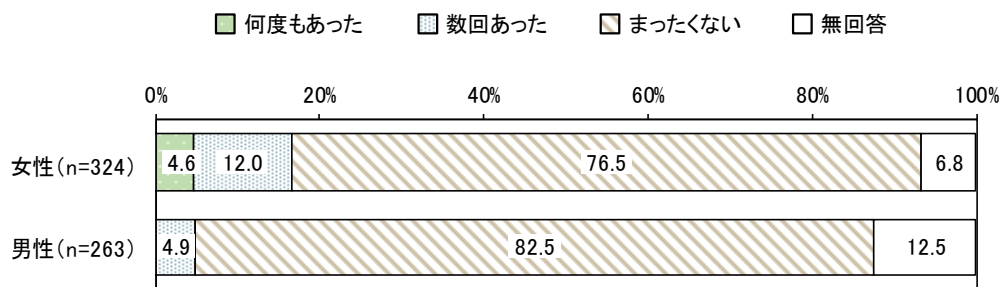
『経験がある』の割合が、女性では、30 歳代 (17.6%)、50 歳代 (14.8%)、40 歳代 (14.0%) で高くなっており、男性では、50 歳代の 19.2% が最も高くなっています。



⑩容姿について傷つくようなことを言う

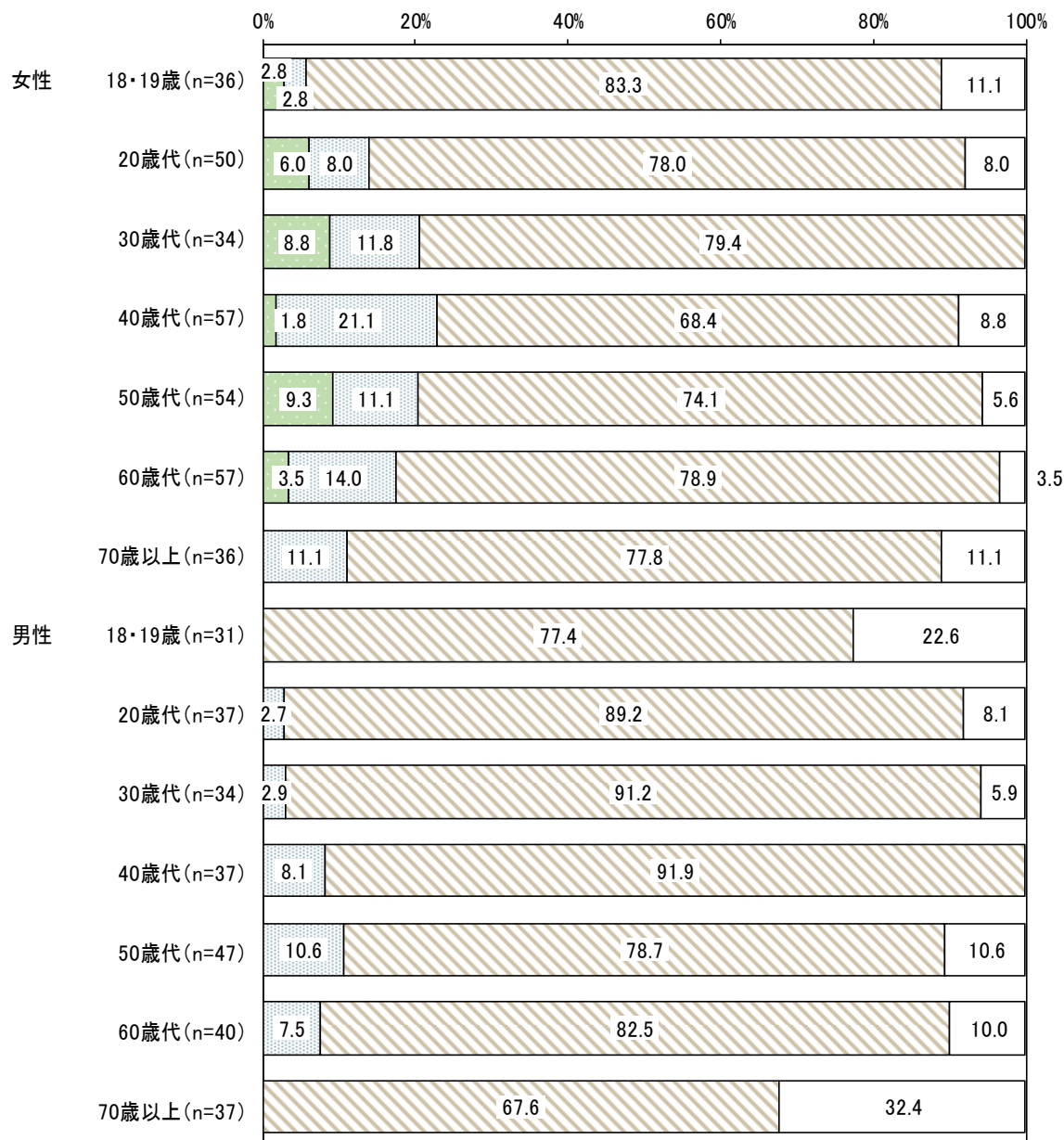
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

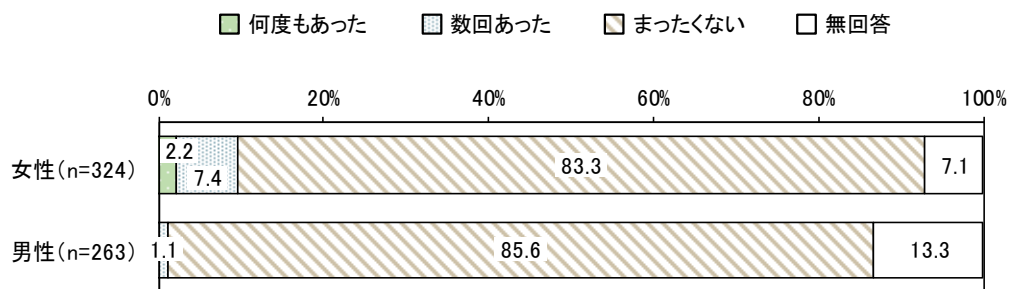
『経験がある』の割合が、女性では、40歳代 (22.9%)、30歳代 (20.6%)、50歳代 (20.4%) で高くなっており、男性では、50歳代の 10.6% が最も高くなっています。



⑪避妊に協力しない

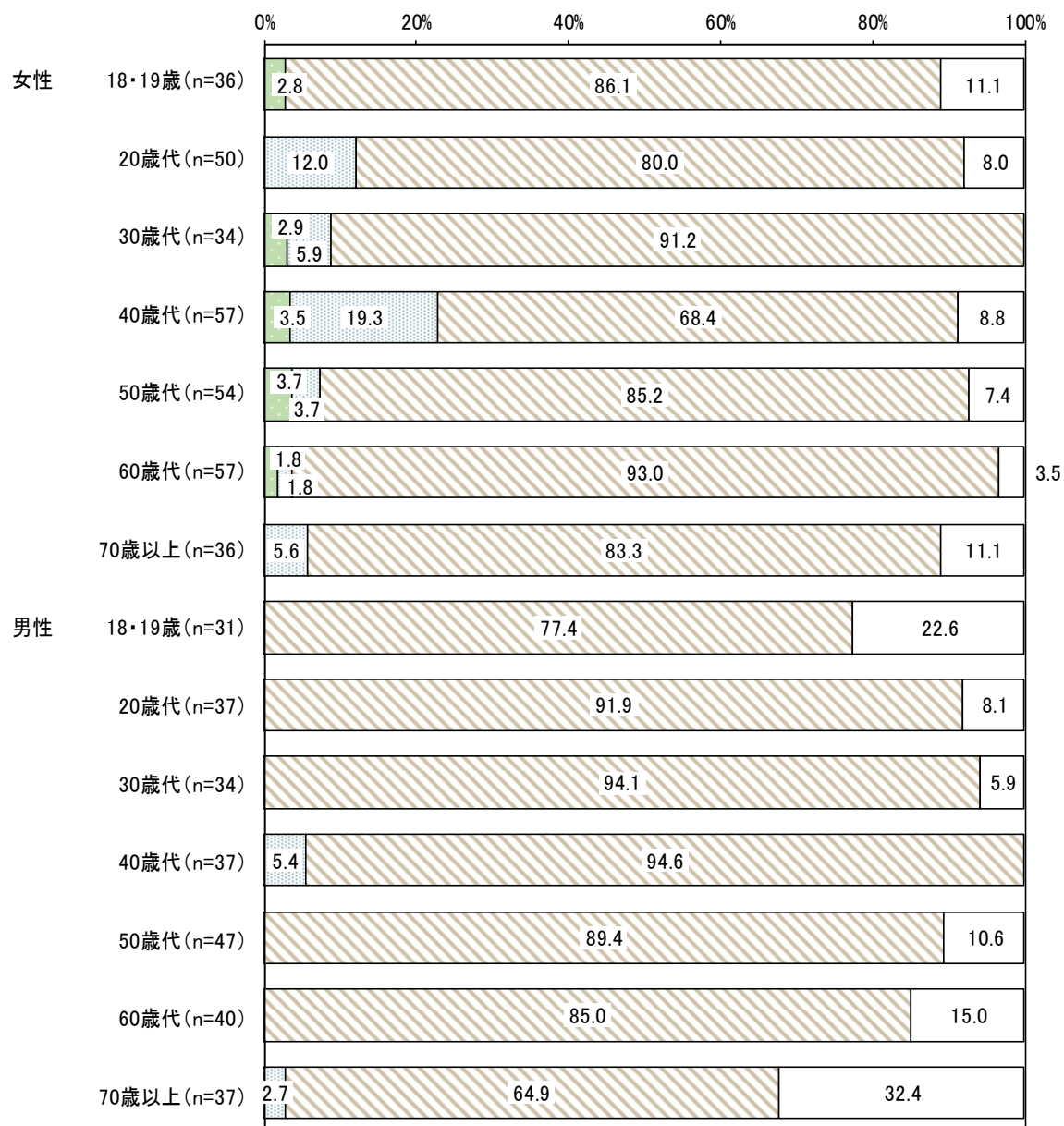
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

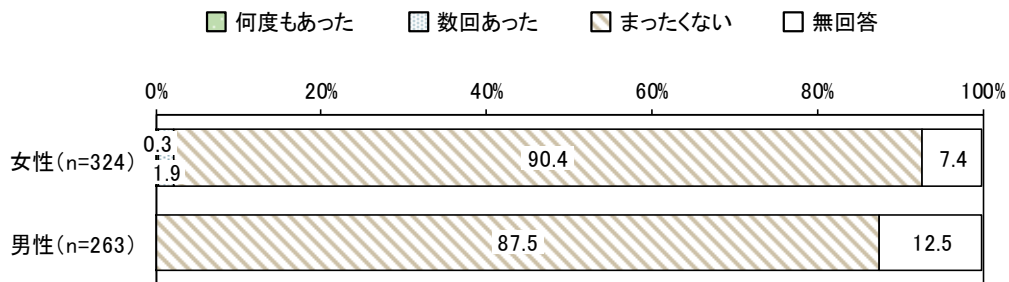
『経験がある』の割合が、女性では、40歳代(22.8%)、20歳代(12.0%)で高くなっており、男性では、40歳代が5.4%、70歳以上が2.7%となっています。



⑫見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる

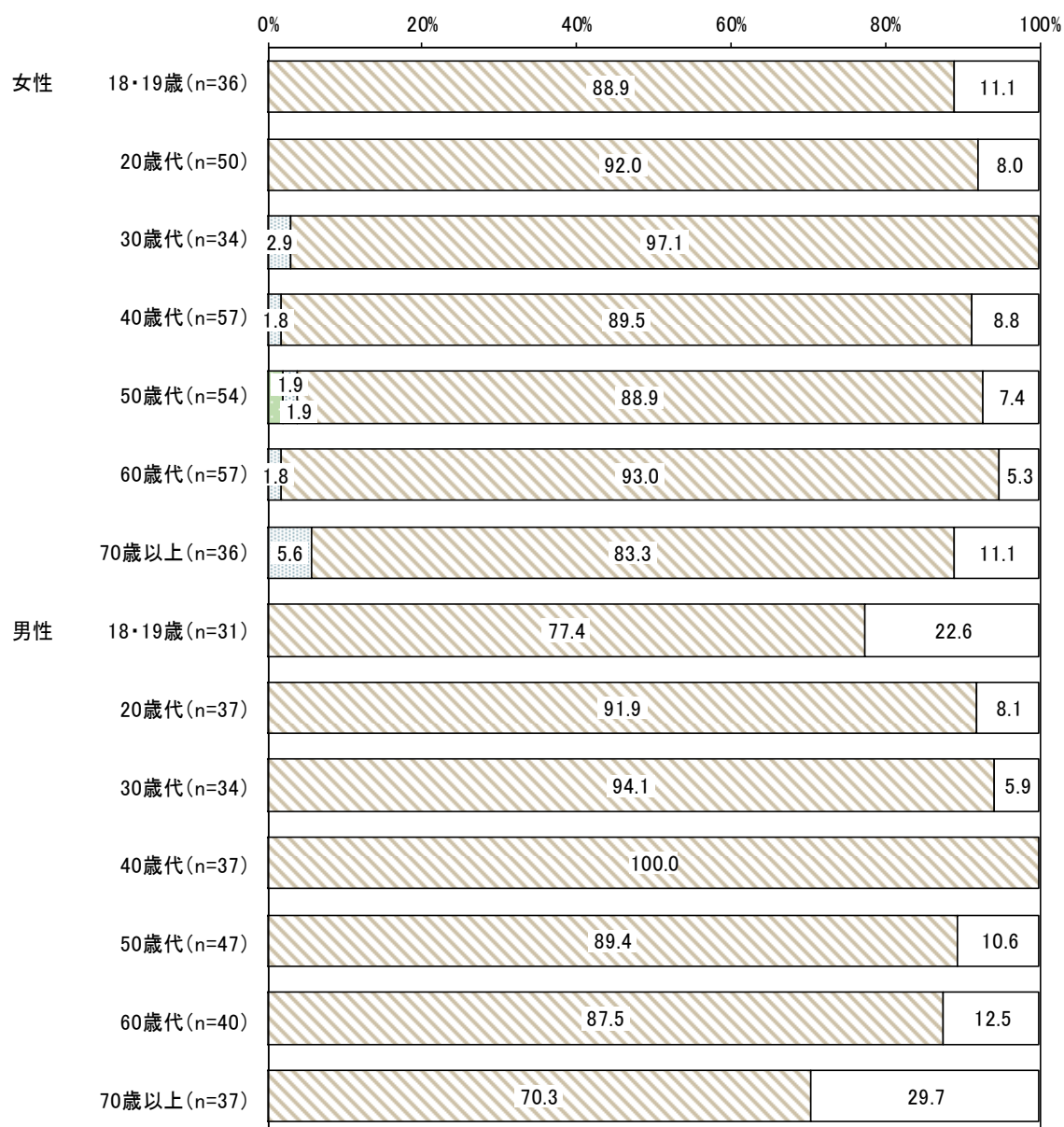
【性別】

『経験がある』の割合が、女性では2.2%、男性では0%となっています。



【性・年代別】

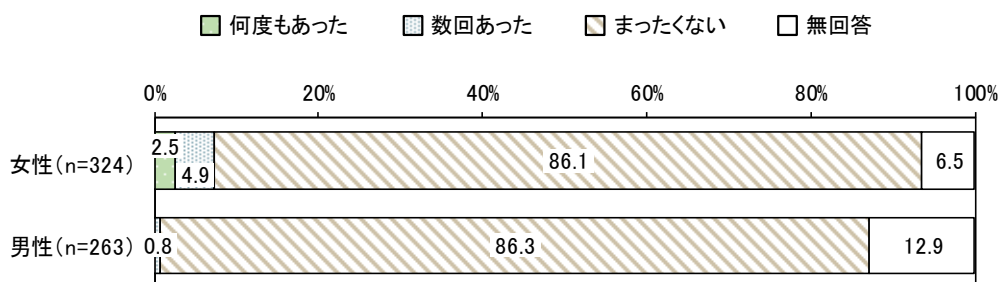
『経験がある』の割合が、女性では、70歳以上（5.6%）、50歳代（3.8%）で高くなっています。



⑬生活費を渡してもらえない

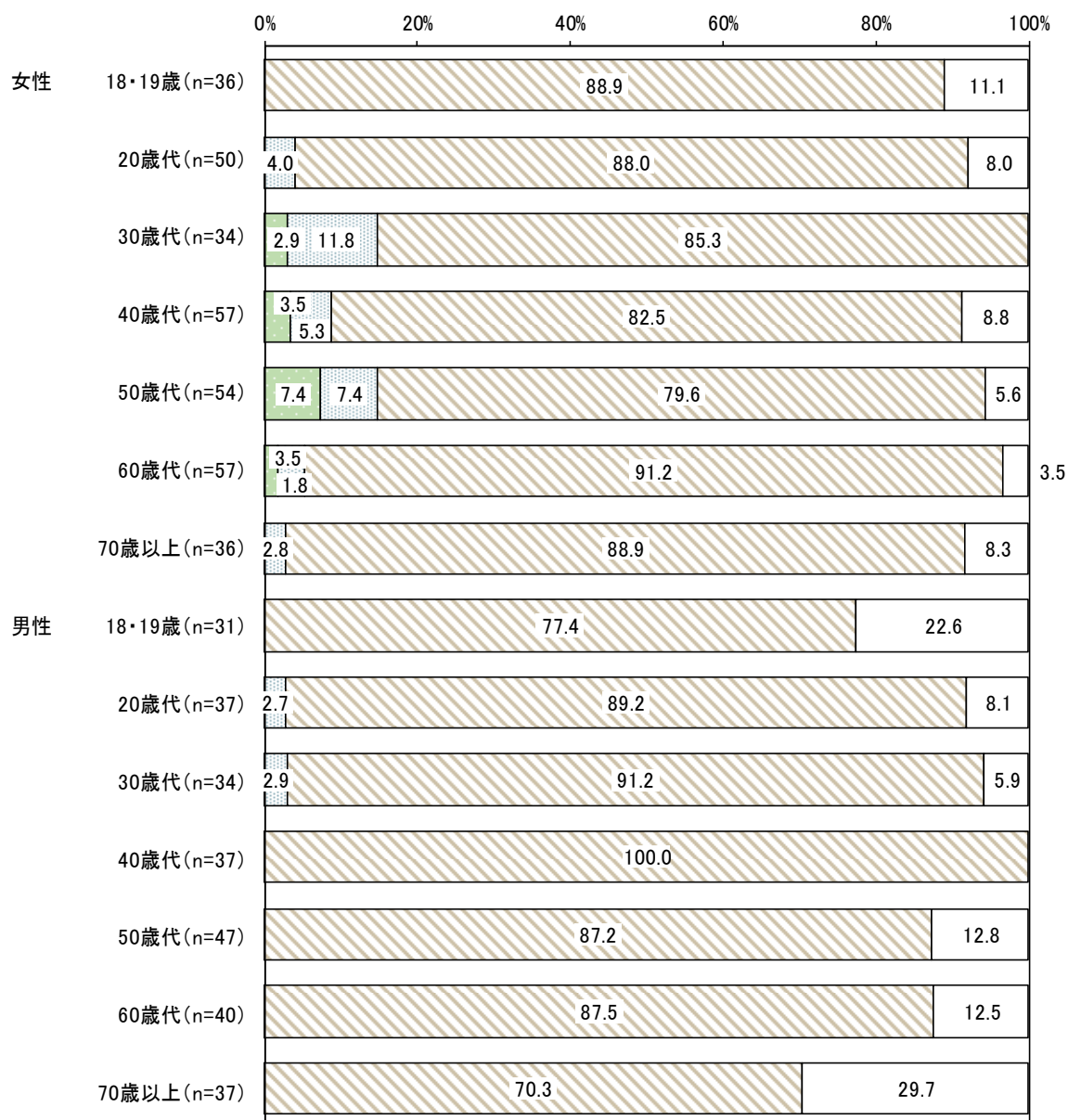
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

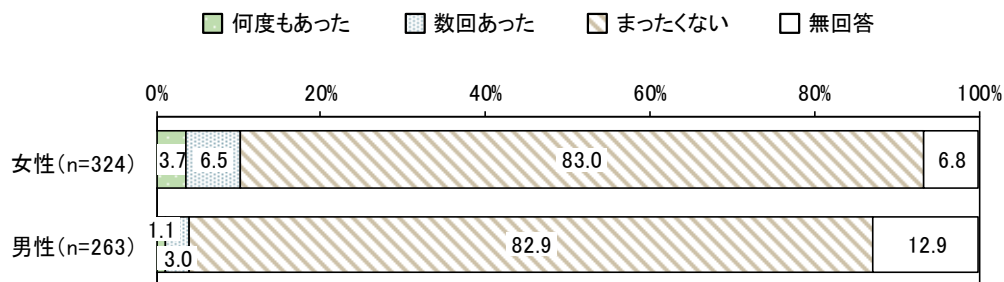
『経験がある』の割合が、女性では、50 歳代 (14.8%)、30 歳代 (14.7%)、40 歳代 (8.8%) で高くなっており、男性では、30 歳代が 2.9%、20 歳代が 2.7%となっています。



⑭相談せずに浪費や借金をして苦しめられる

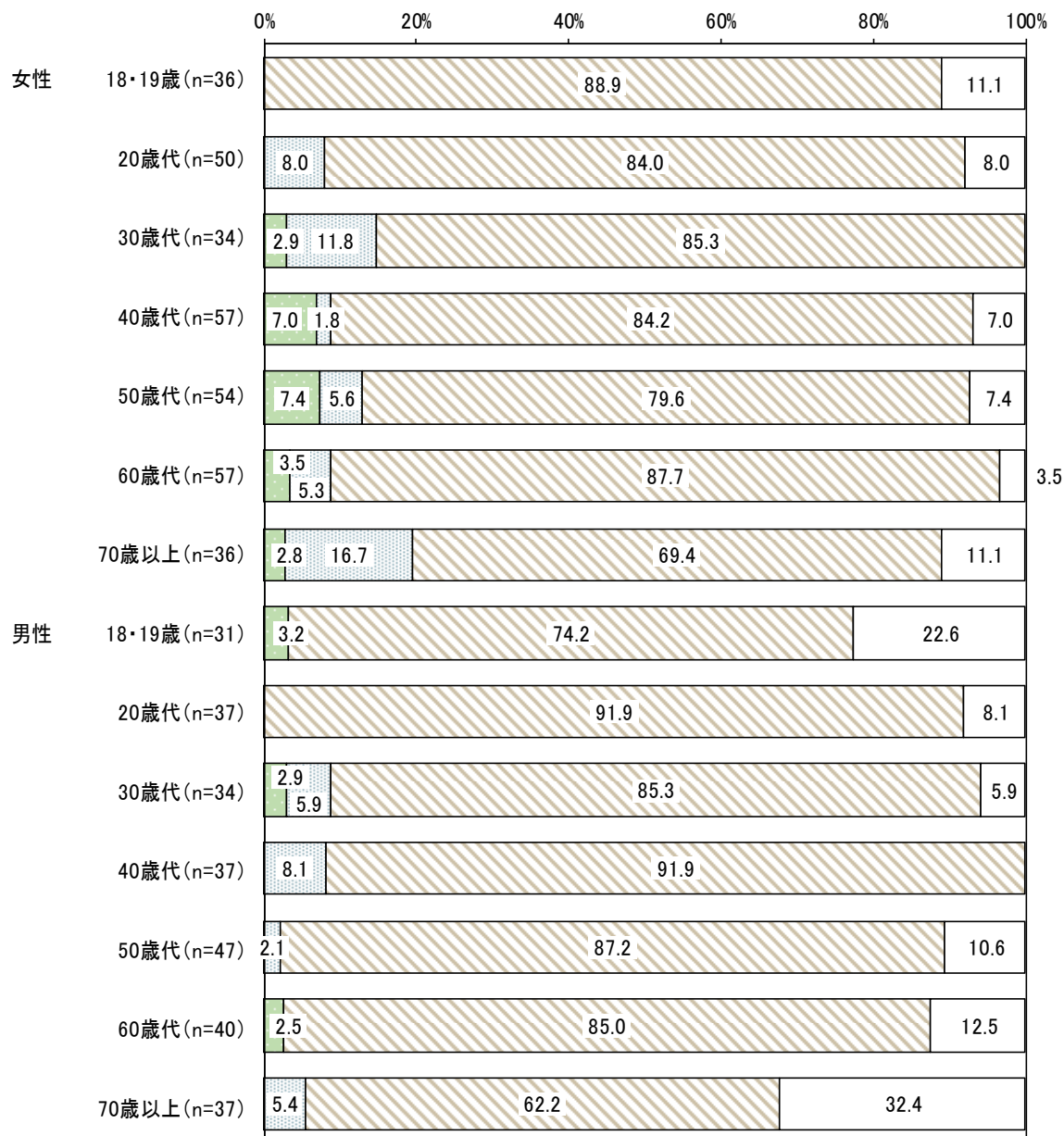
【性別】

男性と比較して、女性の方が『経験がある』の割合が高くなっています。



【性・年代別】

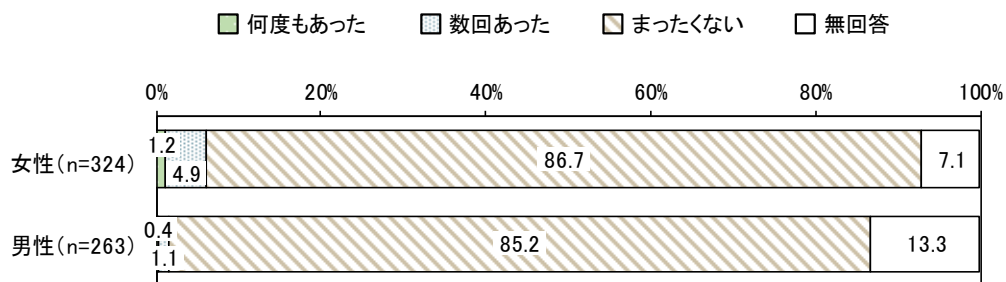
『経験がある』の割合が、女性では、70歳以上(19.5%)、30歳代(14.7%)、50歳代(13.0%)で高くなっており、男性では、30歳代の8.8%が最も高くなっています。



⑮就職することを制限する

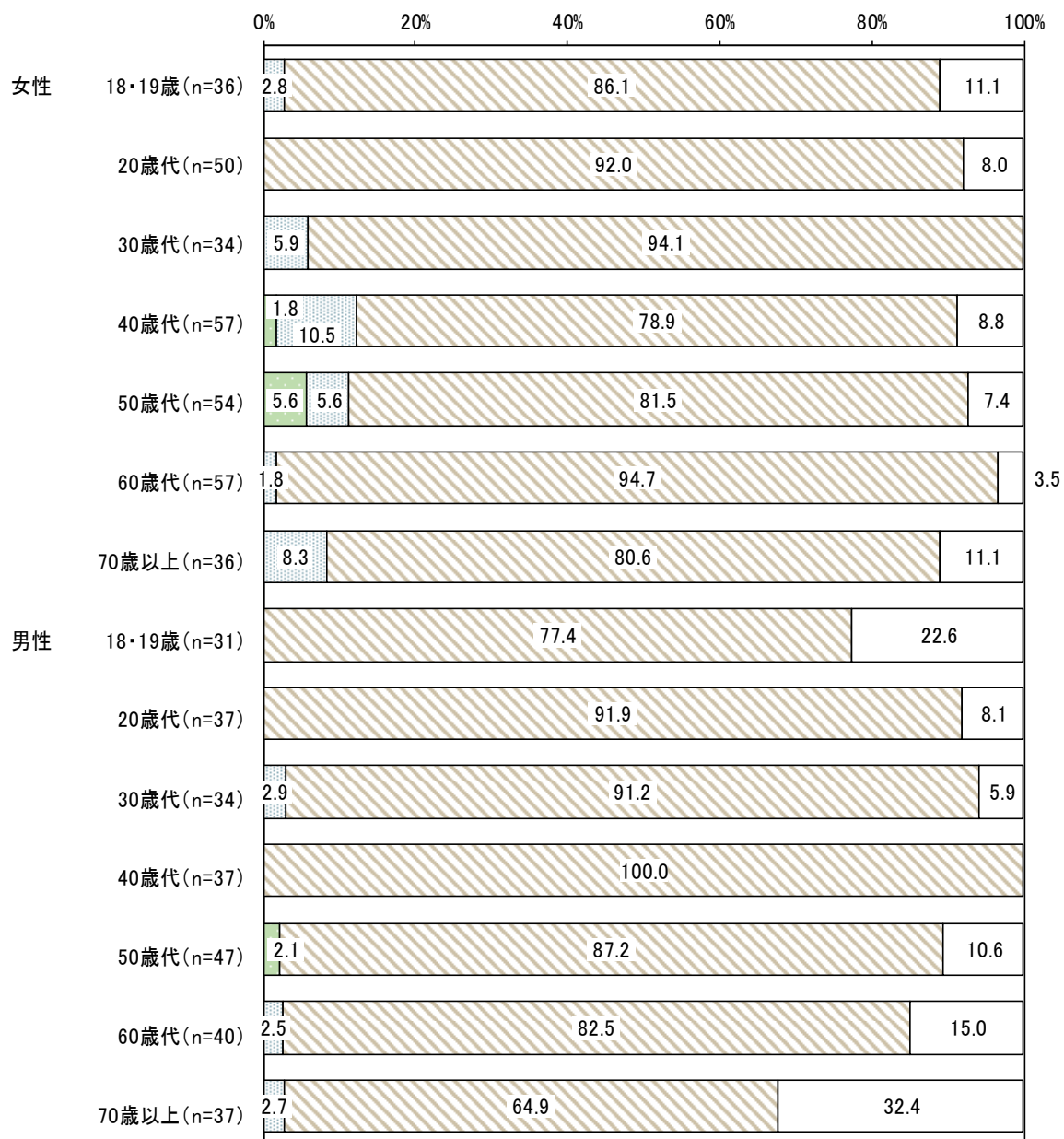
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

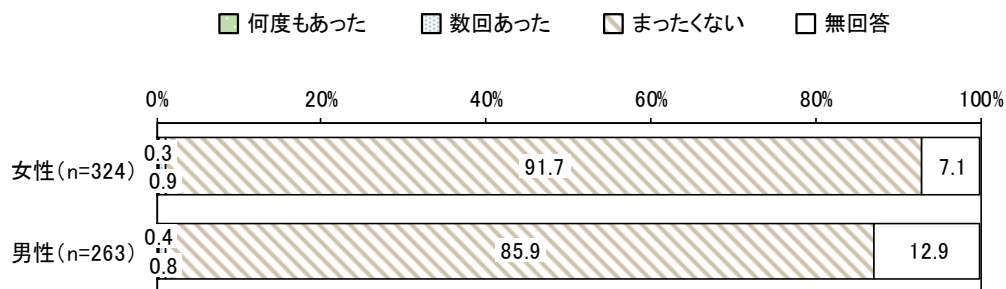
『経験がある』の割合が、女性では、40 歳代 (12.3%)、50 歳代 (11.2%)、70 歳以上 (8.3%) で高くなっており、男性では、30 歳代の 2.9% が最も高くなっています。



⑩職場に嫌がらせをされる

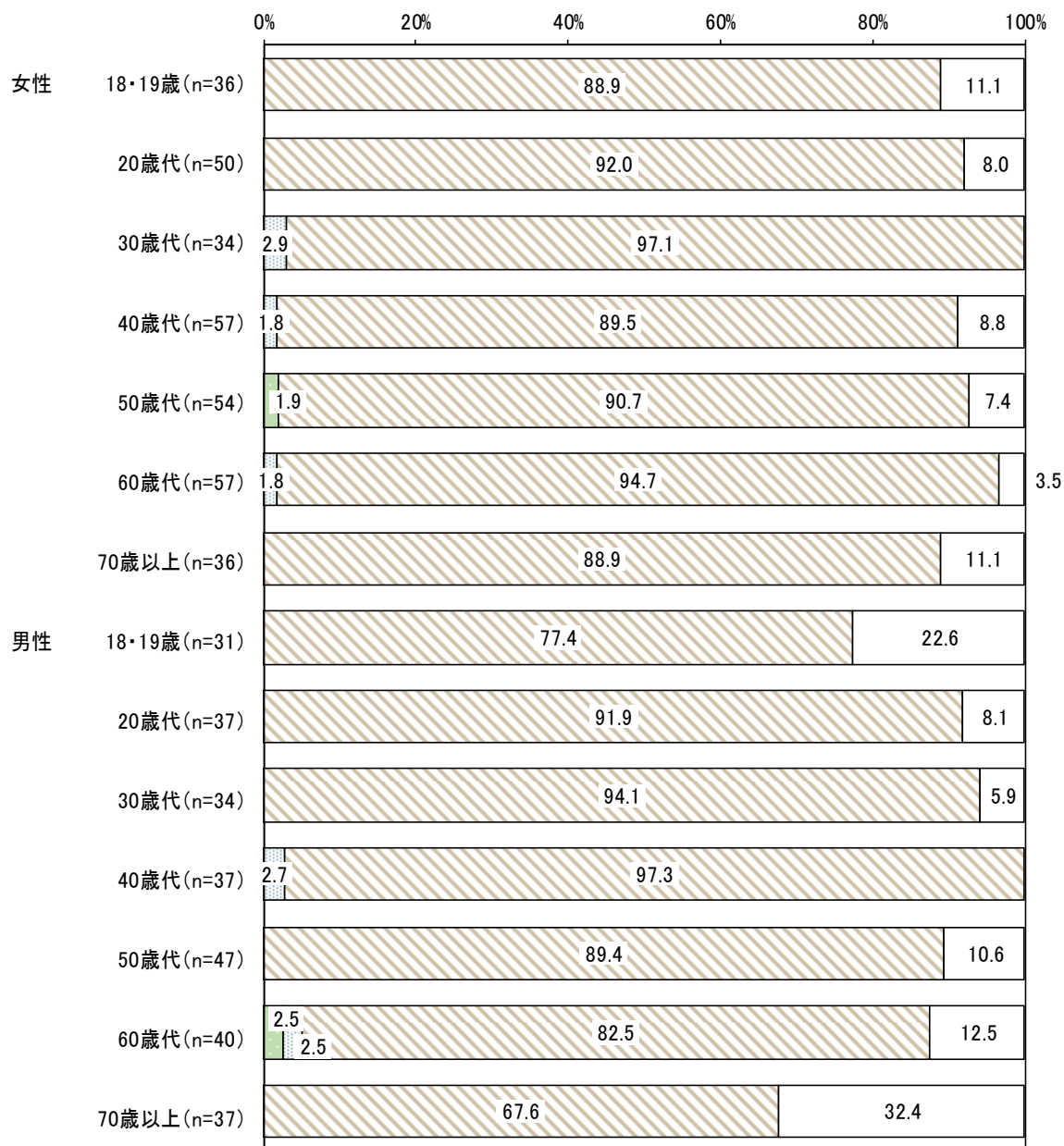
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

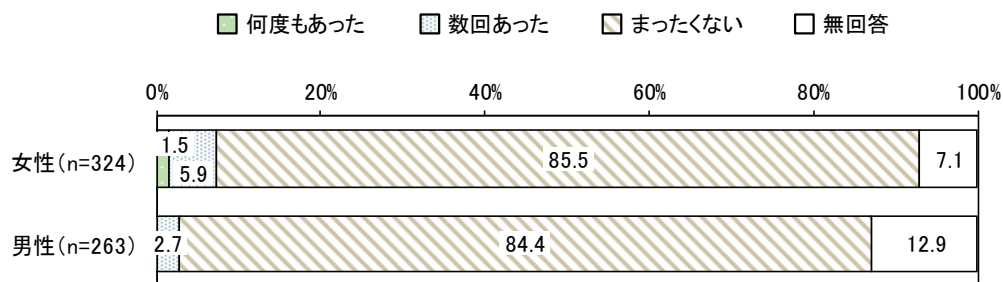
『経験がある』の割合が、女性では、30歳代の2.9%が最も高くなっており、男性では、60歳代が5.0%、40歳代が2.7%となっています。



⑰交友関係やメール、郵便物等を細かく監視される

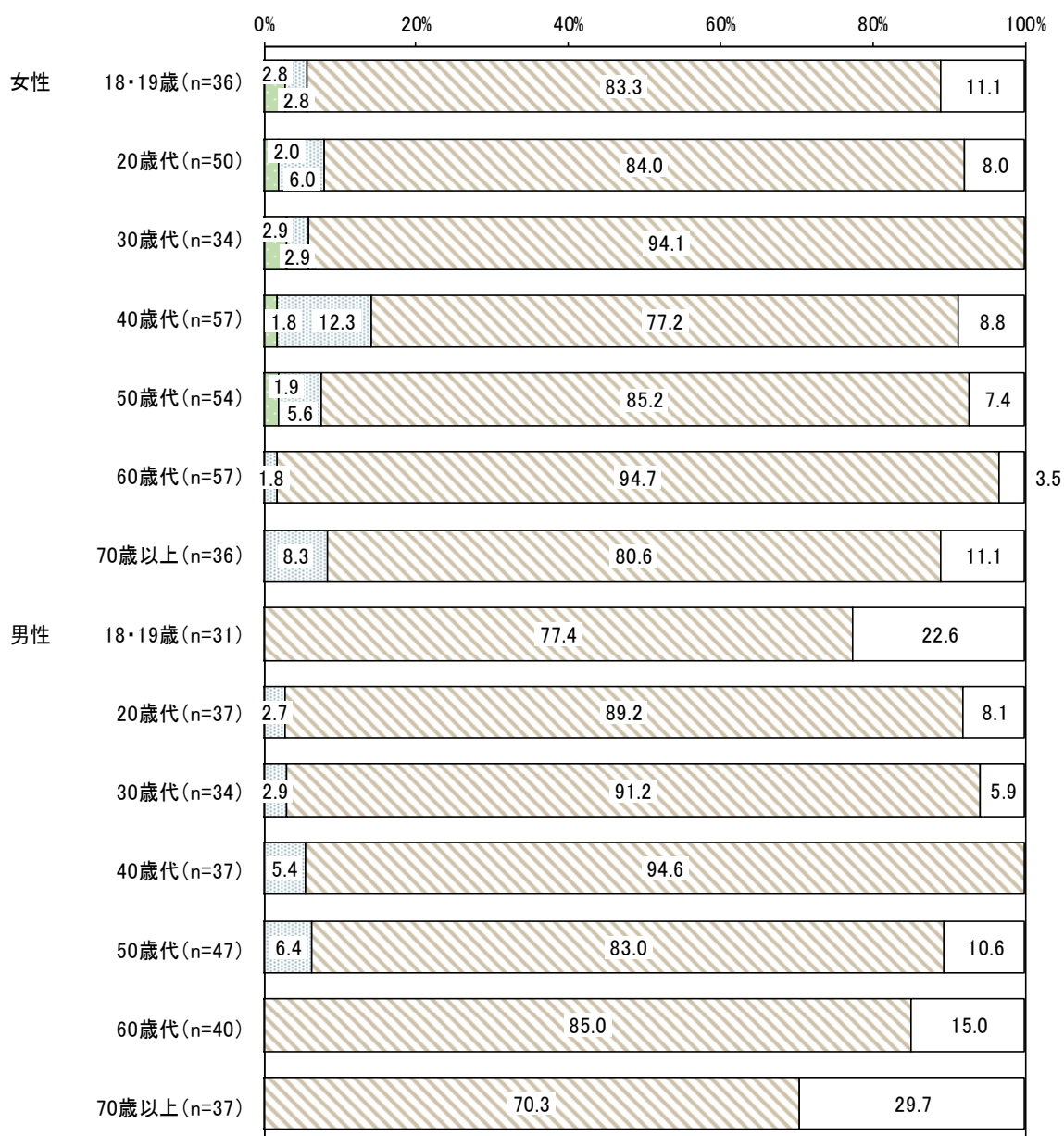
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

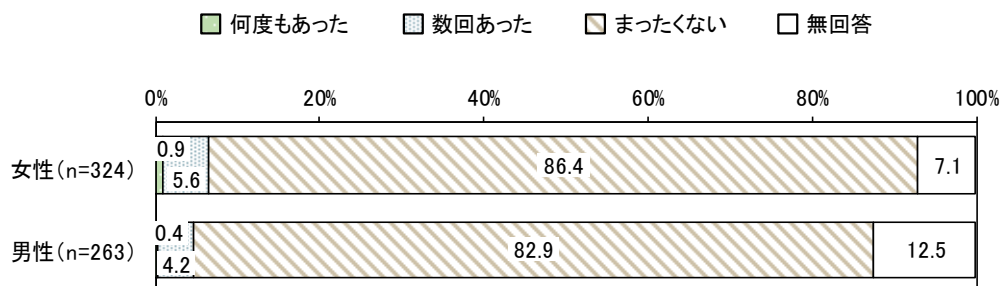
『経験がある』の割合が、女性では、40歳代（14.1%）、70歳以上（8.3%）、20歳代（8.0%）で高くなっており、男性では、50歳代の6.4%が最も高くなっています。



⑩私物を壊す、勝手に捨てる

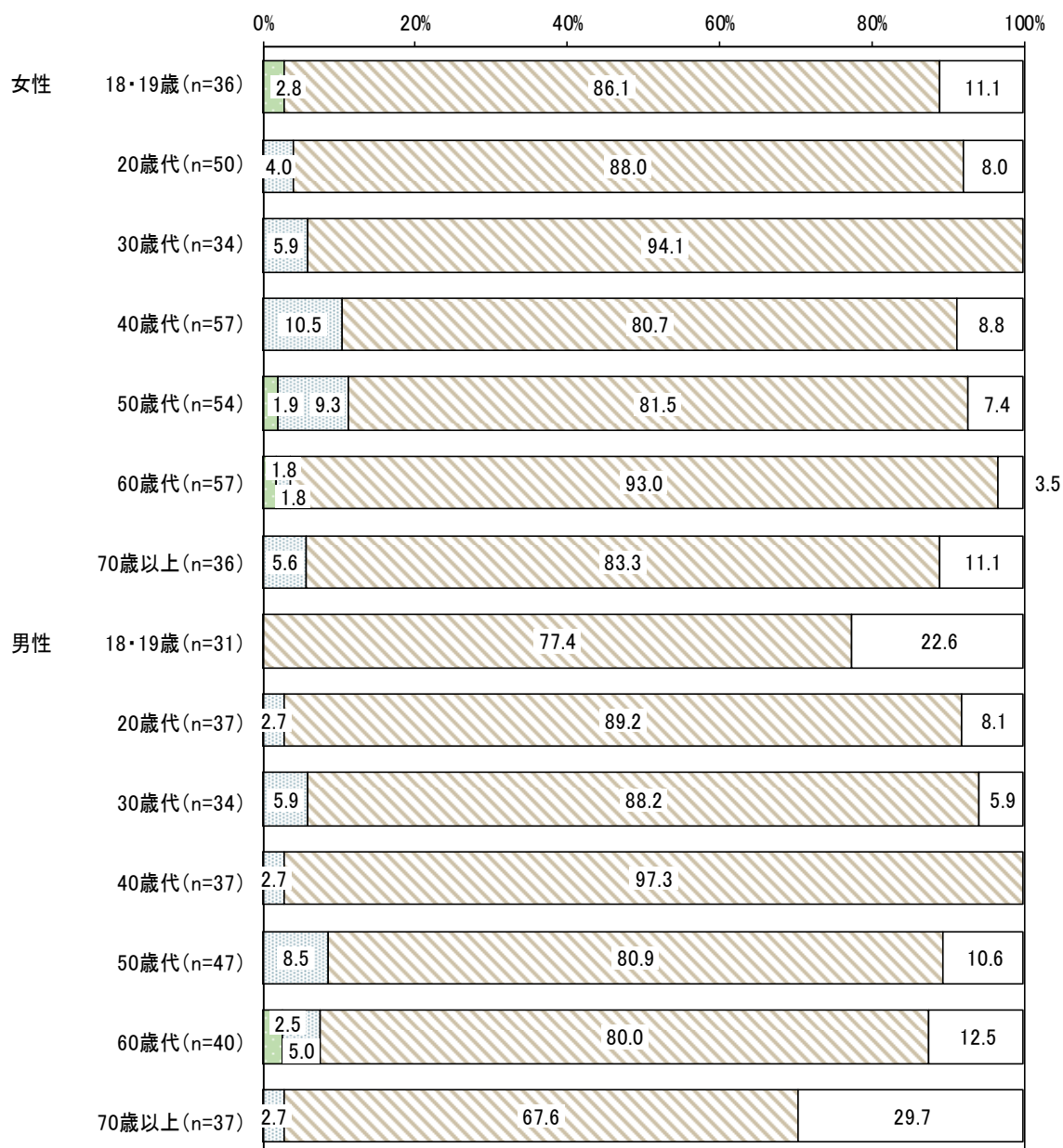
【性別】

性別による大きな差はみられません。



【性・年代別】

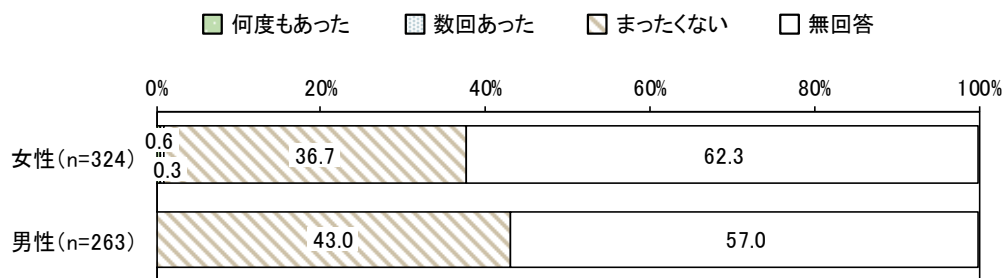
『経験がある』の割合が、女性では、50 歳代 (11.2%)、40 歳代 (10.5%) で高くなっており、男性では、50 歳代の 8.5% が最も高くなっています。



⑬その他

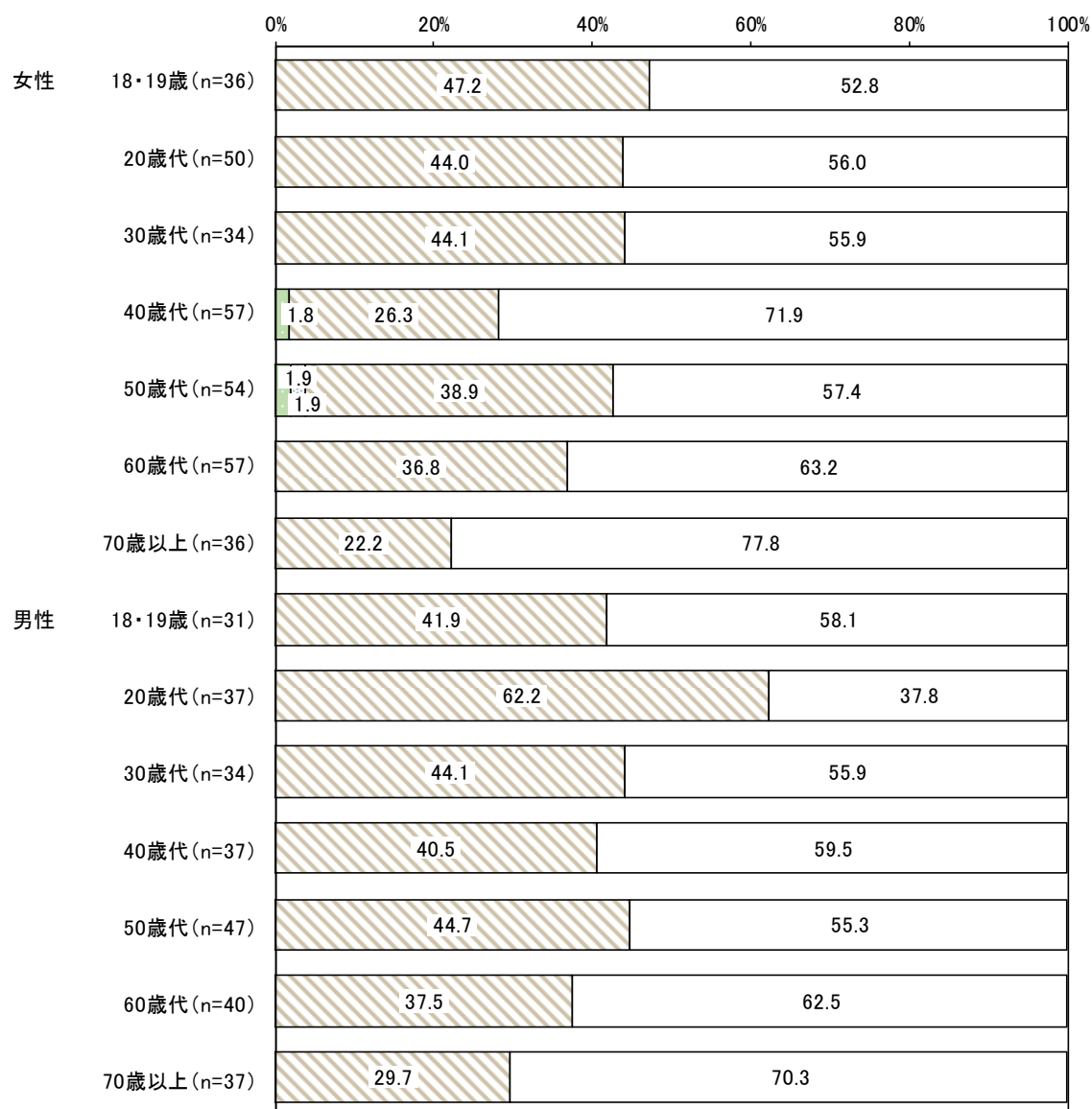
【性別】

『経験がある』の割合が、女性では0.9%、男性では0%となっています。



【性・年代別】

女性では、『経験がある』の割合が、50歳代で3.8%、40歳代で1.8%となっています。



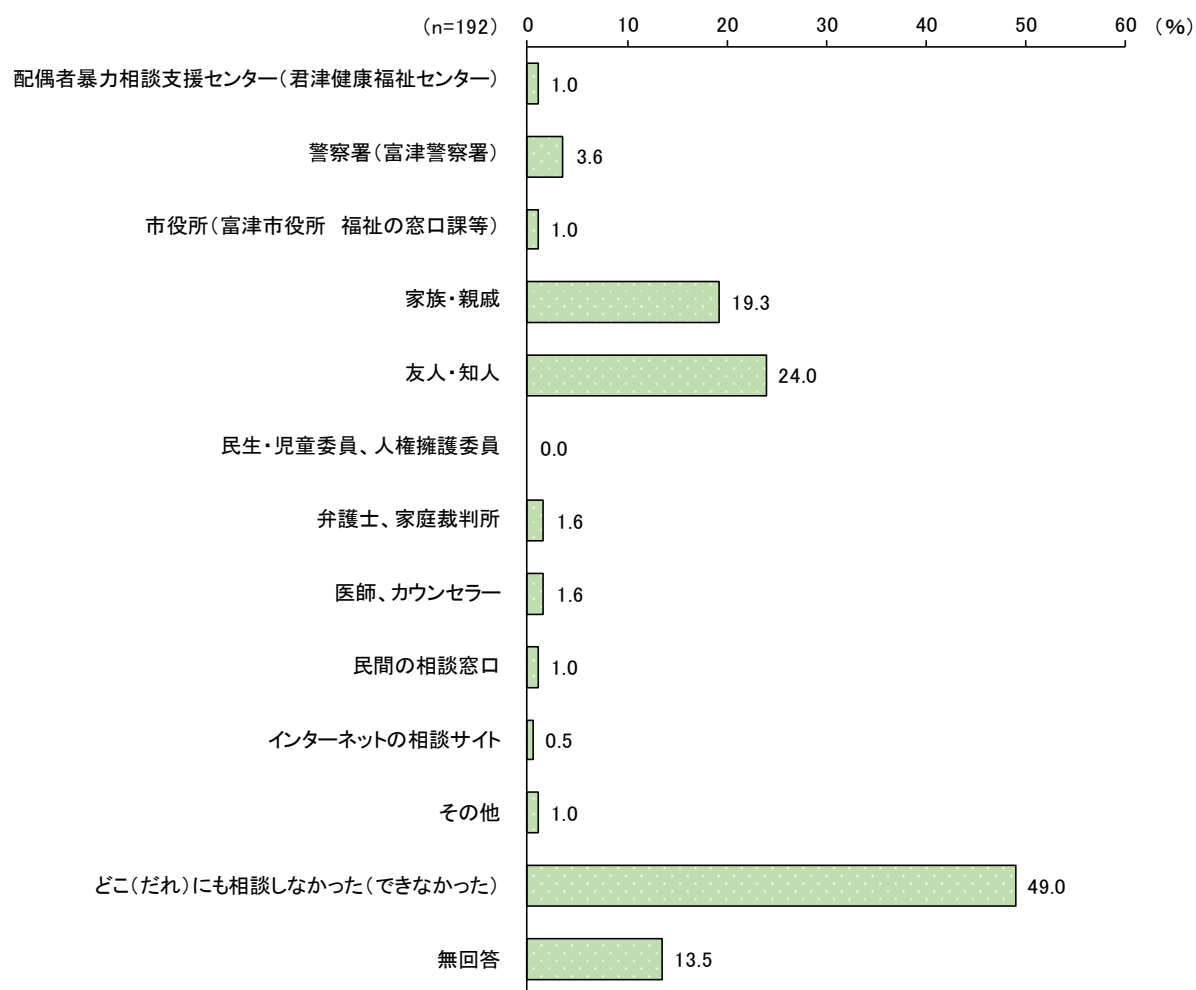
※「その他」の内容として、“言葉の暴力” “人との交流をさまたげる”などの回答がみられました。

(1-1) 暴力を受けたときの相談状況

【問 18 で「何度もあった」または「数回あった」と回答した方に伺います】

問 19 その行為を受けたことについて、どこ（だれ）かに相談しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 24.0%、「家族・親戚」の割合が 19.3%となっています。



【性別】

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「友人・知人」「家族・親戚」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」の割合が、女性の20歳代、男性の70歳以上を除く全ての年代で、最も高くなっています。女性の18・19歳、20歳代では「友人・知人」の割合が最も高くなっています。

単位：％

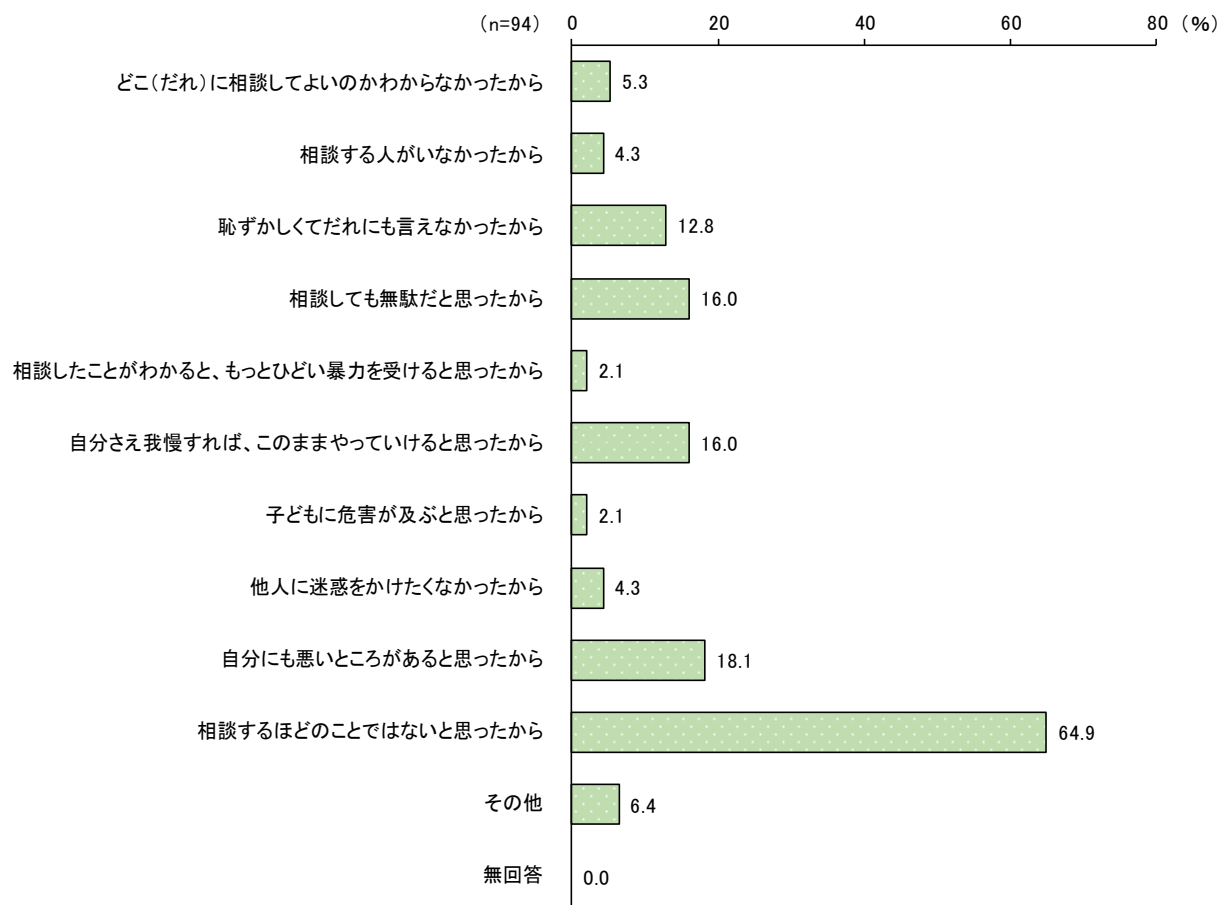
区分		回答者数(人)	配偶者暴力相談支援センター (君津健康福祉センター)	警察署(富津警察署)	市役所(富津市役所 福祉の窓口課等)	家族・親戚	友人・知人	民生・児童委員、人権擁護委員	弁護士、家庭裁判所	医師、カウンセラー	民間の相談窓口	インターネットの相談サイト	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった (できなかった)	無回答
性別	女性	130	1.5	4.6	1.5	20.8	26.9	—	1.5	1.5	1.5	0.8	1.5	50.0	8.5
	男性	61	—	1.6	—	14.8	18.0	—	1.6	—	—	—	—	47.5	24.6
性・年代別	女性	18・19歳	6	—	—	16.7	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—
		20歳代	15	—	6.7	26.7	53.3	—	—	—	—	—	—	40.0	—
		30歳代	15	—	6.7	33.3	26.7	—	6.7	—	6.7	6.7	—	40.0	20.0
		40歳代	28	7.1	10.7	21.4	17.9	—	—	3.6	—	—	—	50.0	3.6
		50歳代	24	—	8.3	16.7	29.2	—	4.2	4.2	—	—	4.2	45.8	12.5
		60歳代	23	—	—	26.1	17.4	—	—	—	—	—	4.3	65.2	—
		70歳以上	19	—	—	5.3	21.1	—	—	—	5.3	—	—	52.6	21.1
	男性	18・19歳	5	—	—	40.0	20.0	—	—	—	—	—	—	60.0	—
		20歳代	4	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0	25.0
		30歳代	10	—	—	30.0	20.0	—	—	—	—	—	—	30.0	40.0
		40歳代	10	—	10.0	10.0	20.0	—	10.0	—	—	—	—	60.0	10.0
		50歳代	15	—	—	—	26.7	—	—	—	—	—	—	46.7	26.7
		60歳代	11	—	—	9.1	9.1	—	—	—	—	—	—	72.7	9.1
		70歳以上	6	—	—	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	—	66.7

(1-2) 相談しなかった（できなかった）理由

【問 19 で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した方に伺います】

問 20 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 64.9%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 18.1%、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」の割合が 16.0%となっています。



【性別】

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」などの割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が、男女ともに全ての年代で最も高くなっています。

単位：％

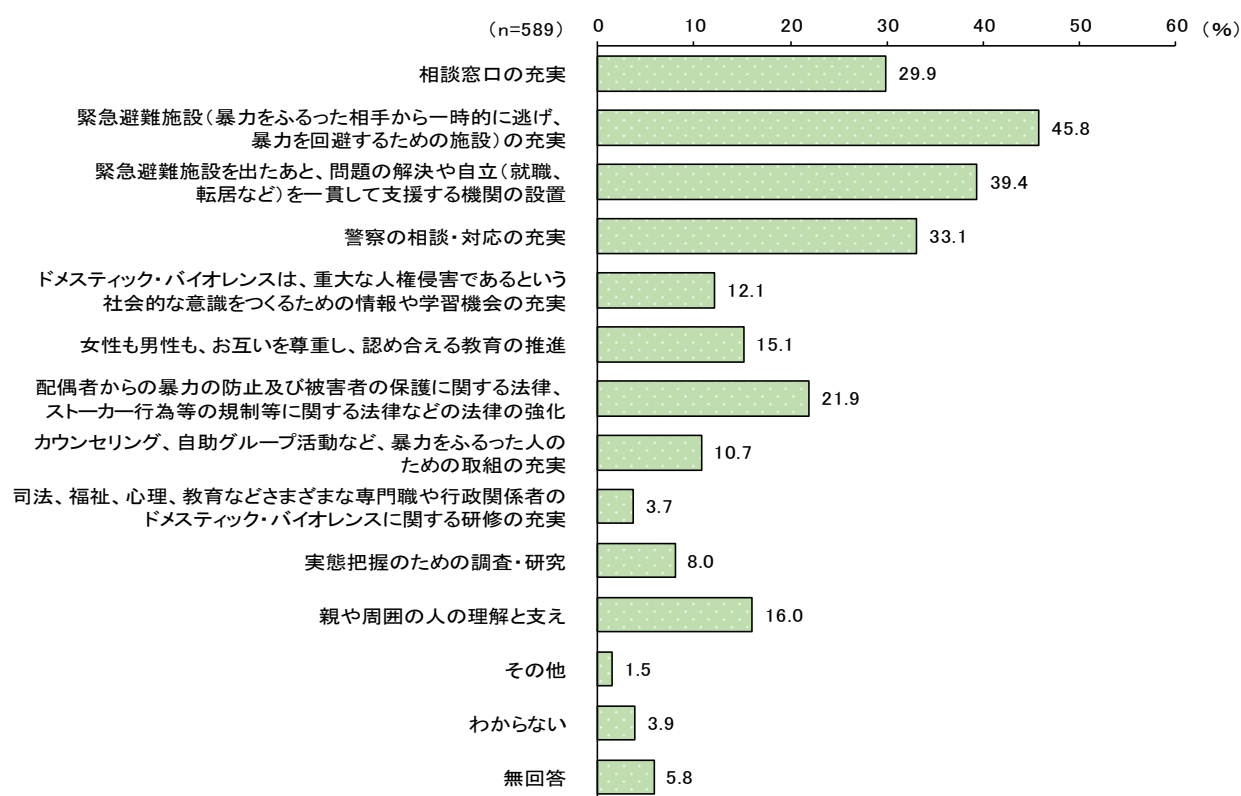
区分		回答者数(人)	どこ(だれ)に相談して よいのかわからなかった から	相談する人がいなかった から	恥ずかしくてだれにも 言えなかったから	相談しても無駄だと思 ったから	相談したことがわかる と、もっとひどい暴力を 受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、 このままやっていけると 思ったから
性別	女性	65	6.2	3.1	15.4	18.5	3.1	21.5
	男性	29	3.4	6.9	6.9	10.3	—	3.4
性・年代別	女性	18・19 歳	3	—	—	33.3	—	—
		20 歳代	6	—	16.7	—	—	16.7
		30 歳代	6	16.7	16.7	16.7	—	16.7
		40 歳代	14	14.3	7.1	14.3	7.1	14.3
		50 歳代	11	—	9.1	18.2	—	27.3
		60 歳代	15	—	26.7	13.3	—	20.0
		70 歳以上	10	10.0	—	10.0	10.0	40.0
	男性	18・19 歳	3	—	—	—	—	—
		20 歳代	2	—	—	—	—	—
		30 歳代	3	—	—	—	—	—
		40 歳代	6	—	—	16.7	—	16.7
		50 歳代	7	—	28.6	14.3	—	—
		60 歳代	8	12.5	—	12.5	—	—
		70 歳以上	—	—	—	—	—	—

区分		回答者数(人)	子どもに危害が及ぶと 思ったから	他人に迷惑をかけた なかつたから	自分にも悪いところ があると思ったから	相談するほどのこと はないと思ったから	その他	無回答
性別	女性	65	3.1	4.6	13.8	60.0	6.2	—
	男性	29	—	3.4	27.6	75.9	6.9	—
性・年代別	女性	18・19 歳	3	—	—	33.3	33.3	—
		20 歳代	6	—	—	66.7	—	—
		30 歳代	6	16.7	16.7	66.7	—	—
		40 歳代	14	—	7.1	35.7	14.3	—
		50 歳代	11	9.1	9.1	63.6	—	—
		60 歳代	15	—	6.7	73.3	—	—
		70 歳以上	10	10.0	40.0	70.0	10.0	—
	男性	18・19 歳	3	—	33.3	100.0	—	—
		20 歳代	2	—	50.0	100.0	—	—
		30 歳代	3	—	33.3	66.7	—	—
		40 歳代	6	16.7	50.0	66.7	—	—
		50 歳代	7	—	28.6	85.7	—	—
		60 歳代	8	—	—	62.5	25.0	—
		70 歳以上	—	—	—	—	—	—

(2) 配偶者や交際相手などからの暴力（DV）をなくすために必要な対策

問 21 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力（DV）をなくすために、特にどのような対策が必要だと思いますか。また、発生した場合に、被害者の安全を確保して早期に解決するために、特にどのような対応が効果的だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（○は3つ以内）

「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」の割合が 39.4%、「警察の相談・対応の充実」の割合が 33.1%となっています。



【性別】

「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、ストーカー行為等の規制等に関する法律などの法律の強化」などの割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「相談窓口の充実」「警察の相談・対応の充実」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

多くの年代で、最も高い割合が「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」または「警察の相談・対応の充実」となっています。女性の 40 歳代、60 歳代では「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」の割合が、女性の 70 歳以上、男性の 60 歳代では「相談窓口の充実」の割合が、最も高くなっています。

単位：％

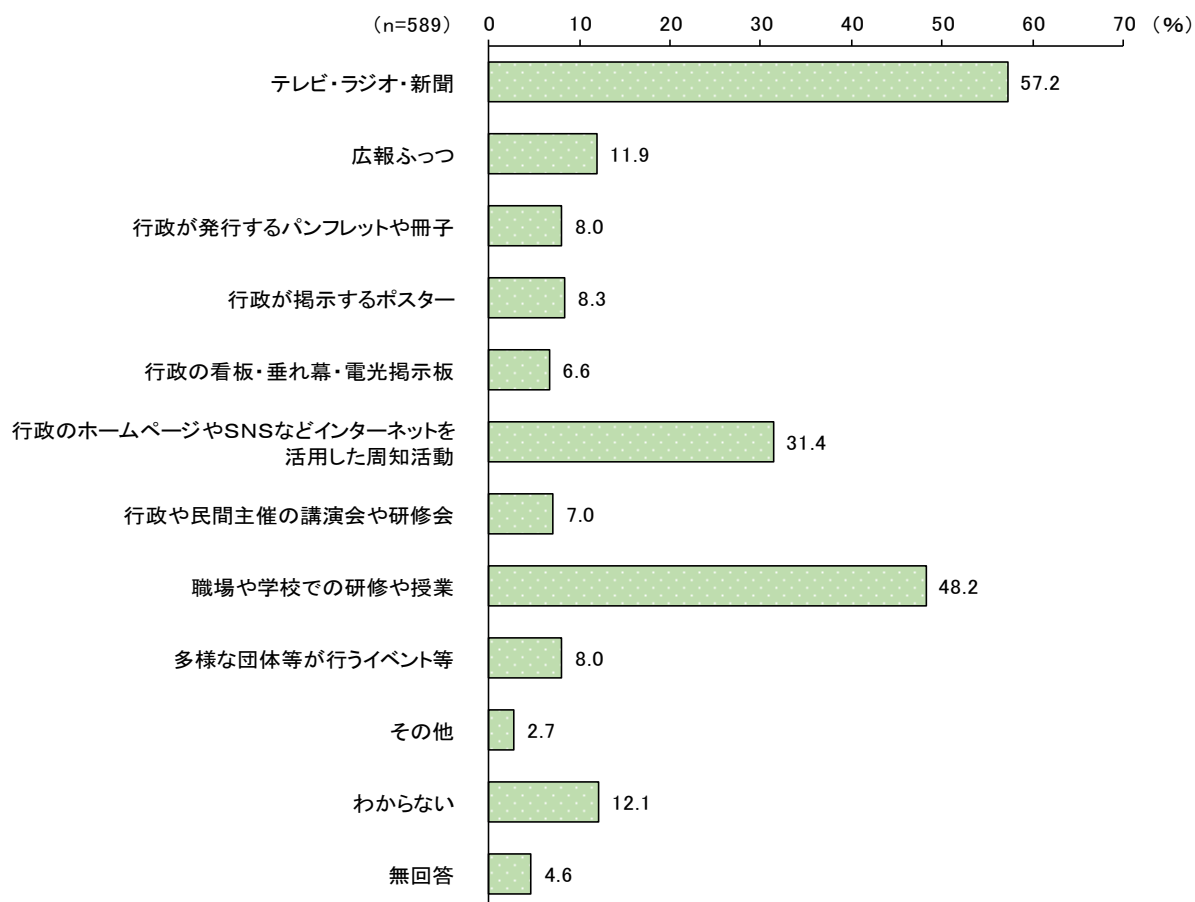
区分		回答者数(人)	相談窓口の充実	緊急避難施設(暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設)の充実	緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立(就職、転居など)を一貫して支援する機関の設置	警察の相談・対応の充実	ドメスティック・バイオレンスは、重大な人権侵害であるという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の充実	女性も男性も、お互いを尊重し、認め合える教育の推進	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、ストーカー行為等の規制等に関する法律などの法律の強化	
性別	女性	324	26.2	48.1	46.3	28.7	12.0	13.0	25.0	
	男性	263	34.6	43.0	31.2	38.4	12.2	17.9	18.3	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	16.7	38.9	33.3	41.7	8.3	19.4	30.6
		20 歳代	50	16.0	54.0	48.0	30.0	16.0	12.0	34.0
		30 歳代	34	17.6	52.9	29.4	55.9	14.7	11.8	29.4
		40 歳代	57	15.8	50.9	56.1	28.1	15.8	7.0	22.8
		50 歳代	54	33.3	53.7	44.4	24.1	11.1	11.1	29.6
		60 歳代	57	38.6	52.6	61.4	14.0	7.0	15.8	15.8
		70 歳以上	36	44.4	25.0	36.1	19.4	11.1	16.7	13.9
	男性	18・19 歳	31	22.6	29.0	22.6	45.2	9.7	12.9	16.1
		20 歳代	37	29.7	35.1	27.0	32.4	13.5	13.5	27.0
		30 歳代	34	29.4	20.6	20.6	41.2	17.6	23.5	35.3
		40 歳代	37	27.0	54.1	43.2	40.5	8.1	13.5	10.8
		50 歳代	47	38.3	59.6	31.9	36.2	12.8	17.0	19.1
		60 歳代	40	52.5	40.0	27.5	45.0	10.0	15.0	15.0
		70 歳以上	37	37.8	54.1	43.2	29.7	13.5	29.7	5.4

区分		回答者数(人)	人のための取組の充実	カウンセリング、自助グループ活動など、暴力をふるった	関係者のドメスティック・バイオレンスに関する研修の充実	司法、福祉、心理、教育などさまざまな専門職や行政関係者のドメスティック・バイオレンスに関する研修の充実	実態把握のための調査・研究	親や周囲の人の理解と支え	その他	わからない	無回答
性別	女性	324	11.4	3.1	6.8	18.5	0.9	4.3	4.6		
	男性	263	9.9	4.6	9.5	12.9	2.3	3.4	6.8		
性・年代別	女性	18・19 歳	36	19.4	2.8	8.3	19.4	—	5.6	5.6	
		20 歳代	50	14.0	4.0	18.0	16.0	—	—	2.0	
		30 歳代	34	14.7	8.8	2.9	17.6	5.9	5.9	—	
		40 歳代	57	15.8	1.8	3.5	19.3	—	—	10.5	
		50 歳代	54	9.3	3.7	7.4	24.1	1.9	7.4	3.7	
		60 歳代	57	5.3	1.8	5.3	15.8	—	3.5	3.5	
		70 歳以上	36	2.8	—	—	16.7	—	11.1	5.6	
	男性	18・19 歳	31	16.1	9.7	9.7	12.9	3.2	—	16.1	
		20 歳代	37	10.8	5.4	13.5	27.0	2.7	5.4	2.7	
		30 歳代	34	5.9	2.9	17.6	20.6	5.9	5.9	2.9	
		40 歳代	37	8.1	5.4	13.5	10.8	—	2.7	5.4	
		50 歳代	47	10.6	2.1	6.4	4.3	4.3	8.5	2.1	
		60 歳代	40	5.0	7.5	2.5	10.0	—	—	7.5	
		70 歳以上	37	13.5	—	5.4	8.1	—	—	13.5	

（３）配偶者や交際相手などからの暴力（ＤＶ）の防止に効果的な広報・啓発活動

問 22 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力（ＤＶ）の防止について、どのような広報・啓発活動が効果的だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（○は３つ以内）

「テレビ・ラジオ・新聞」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「職場や学校での研修や授業」の割合が 48.2%、「行政のホームページやＳＮＳなどインターネットを活用した周知活動」の割合が 31.4%となっています。



【性別】

「テレビ・ラジオ・新聞」の割合が、男女ともに最も高くなっています。女性と比較して、男性の方が「広報ふつつ」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

「テレビ・ラジオ・新聞」の割合が、男女ともに多くの年代で最も高く、特に男性の 30 歳代では 7 割以上となっています。女性の 18・19 歳、20 歳代、40 歳代、男性の 20 歳代、40 歳代では「職場や学校での研修や授業」の割合が最も高く、特に女性 20 歳代では 7 割となっています。

単位：％

区分		回答者数(人)	テレビ・ラジオ・新聞	広報ふつつ	行政が発行するパンフ レットや冊子	行政が掲示するポスター	行政の看板・垂れ幕・電 光掲示板	行政のホームページや SNSなどインターネットを 活用した周知活動
性別	女性	324	55.9	9.3	6.8	7.7	6.8	32.4
	男性	263	59.3	15.2	9.1	9.1	6.1	30.4
性・年代別	女性	18・19 歳	36	55.6	5.6	8.3	11.1	41.7
		20 歳代	50	60.0	4.0	6.0	6.0	30.0
		30 歳代	34	52.9	2.9	5.9	2.9	41.2
		40 歳代	57	56.1	10.5	7.0	5.3	36.8
		50 歳代	54	59.3	9.3	11.1	7.4	25.9
		60 歳代	57	54.4	12.3	7.0	8.8	36.8
		70 歳以上	36	50.0	16.7	8.3	5.6	13.9
	男性	18・19 歳	31	54.8	12.9	9.7	16.1	25.8
		20 歳代	37	54.1	8.1	5.4	8.1	35.1
		30 歳代	34	73.5	23.5	2.9	—	38.2
		40 歳代	37	56.8	8.1	8.1	8.1	45.9
		50 歳代	47	59.6	12.8	14.9	4.3	29.8
		60 歳代	40	62.5	25.0	15.0	—	15.0
		70 歳以上	37	54.1	16.2	5.4	8.1	24.3

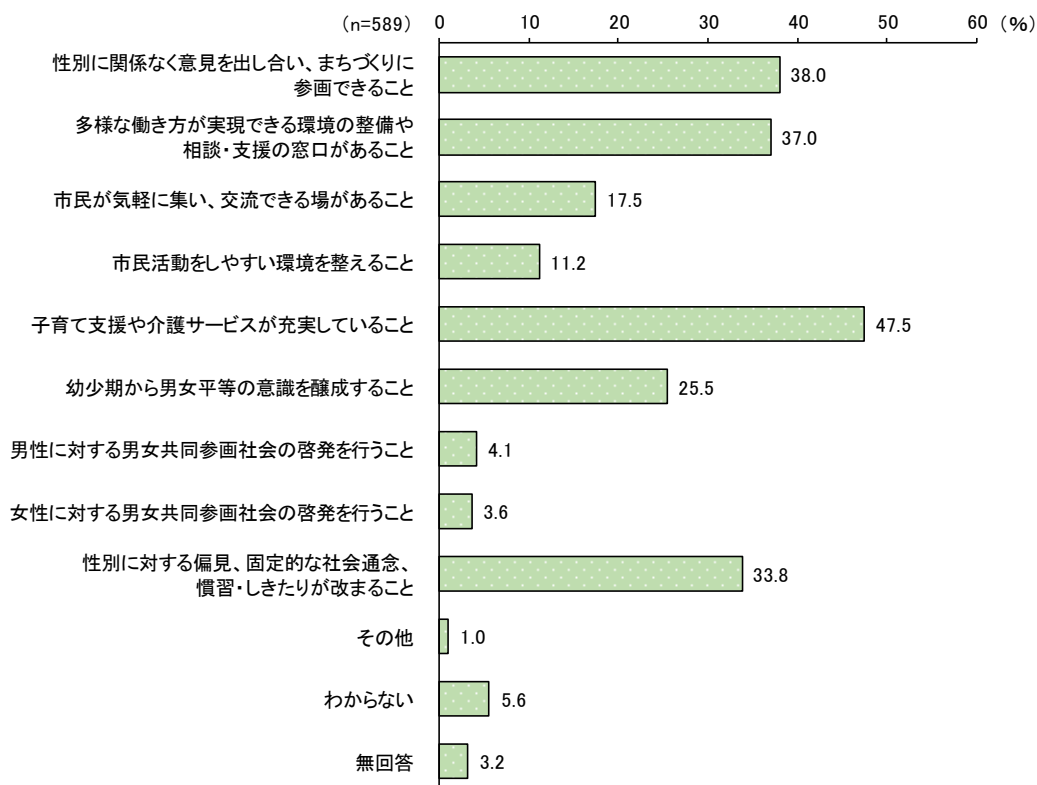
区分		回答者数(人)	行政や民間主催の講演 会や研修会	職場や学校での研修や 授業	多様な団体等が行うイ ベント等	その他	わからない	無回答
性別	女性	324	5.9	49.4	8.6	1.9	14.8	3.7
	男性	263	8.4	46.8	7.2	3.8	8.7	5.3
性・年代別	女性	18・19 歳	36	55.6	2.8	5.6	13.9	2.8
		20 歳代	50	70.0	14.0	2.0	10.0	—
		30 歳代	34	44.1	14.7	8.8	20.6	—
		40 歳代	57	64.9	7.0	—	7.0	5.3
		50 歳代	54	42.6	7.4	—	24.1	1.9
		60 歳代	57	35.1	10.5	—	14.0	5.3
		70 歳以上	36	27.8	2.8	—	16.7	11.1
	男性	18・19 歳	31	45.2	3.2	9.7	6.5	9.7
		20 歳代	37	54.1	2.7	5.4	18.9	2.7
		30 歳代	34	44.1	17.6	2.9	—	5.9
		40 歳代	37	56.8	8.1	5.4	10.8	—
		50 歳代	47	44.7	4.3	2.1	17.0	—
		60 歳代	40	32.5	2.5	2.5	2.5	7.5
		70 歳以上	37	51.4	13.5	—	2.7	13.5

10 男女共同参画に関する施策などについて

(1) 富津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるために必要なこと

問 23 あなたは、富津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるには何が必要だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

「子育て支援や介護サービスが充実していること」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること」の割合が 38.0%、「多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること」の割合が 37.0%となっています。



【性別】

女性では、「子育て支援や介護サービスが充実していること」の割合が、男性では、「性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること」の割合が、最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「性別に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりが改まること」「子育て支援や介護サービスが充実していること」などの割合が高くなっています。一方、女性と比較して、男性の方が「性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

多くの年代で、最も高い割合が「性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること」または「子育て支援や介護サービスが充実していること」となっています。女性の 30 歳代では「性別に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりが改まること」の割合が、男性の 70 歳以上では「多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること」の割合が、最も高くなっています。

単位：％

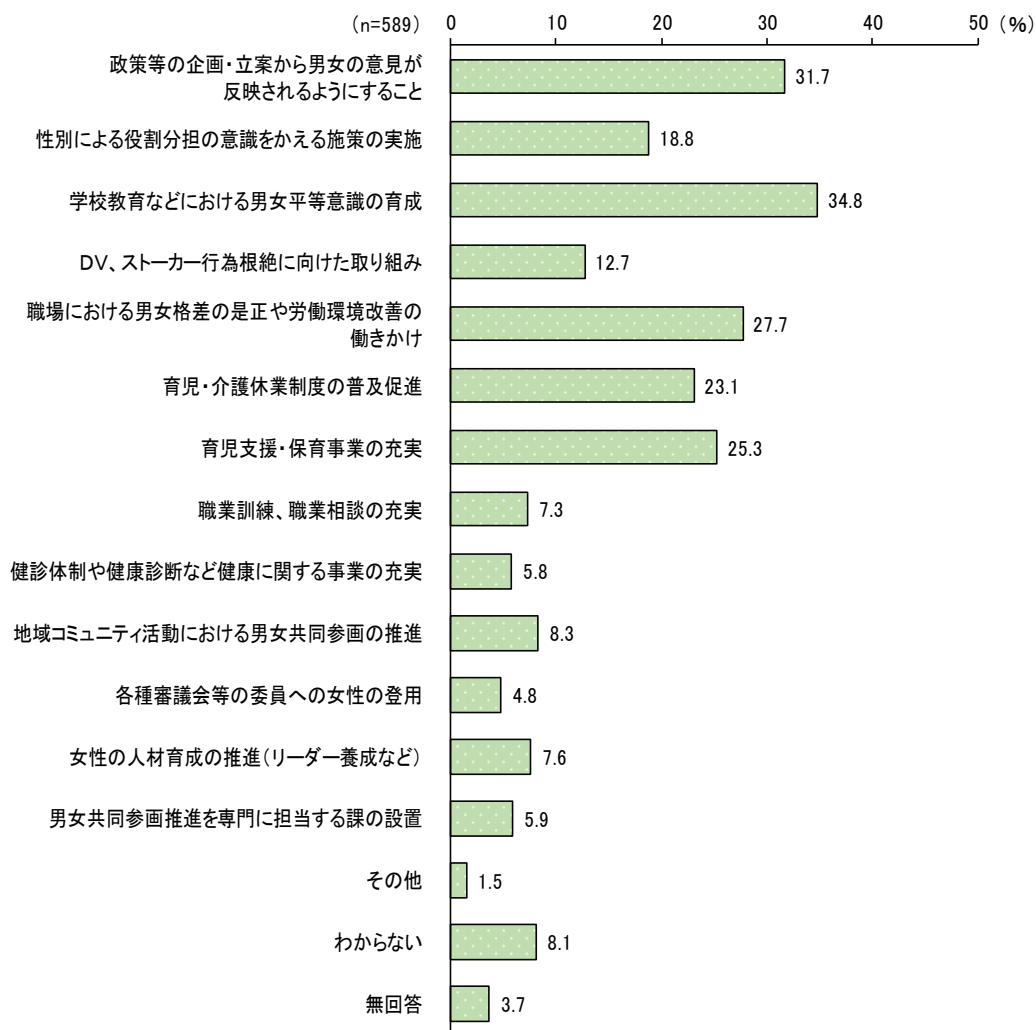
区分		回答者数(人)	性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること	多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること	市民が気軽に集い、交流できる場があること	市民活動をしやすい環境を整えること	子育て支援や介護サービスが充実していること	幼少期から男女平等の意識を醸成すること	
性別	女性	324	31.5	39.5	16.4	10.8	50.9	25.9	
	男性	263	46.4	34.2	19.0	11.8	43.7	25.1	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	38.9	27.8	16.7	2.8	52.8	30.6
		20 歳代	50	22.0	38.0	14.0	10.0	68.0	28.0
		30 歳代	34	26.5	35.3	14.7	11.8	35.3	29.4
		40 歳代	57	22.8	47.4	7.0	12.3	57.9	29.8
		50 歳代	54	33.3	42.6	16.7	16.7	50.0	20.4
		60 歳代	57	43.9	47.4	19.3	12.3	49.1	21.1
		70 歳以上	36	33.3	27.8	30.6	5.6	33.3	25.0
	男性	18・19 歳	31	48.4	16.1	22.6	12.9	35.5	22.6
		20 歳代	37	54.1	24.3	21.6	2.7	40.5	13.5
		30 歳代	34	47.1	38.2	26.5	11.8	52.9	29.4
		40 歳代	37	29.7	37.8	21.6	16.2	54.1	21.6
		50 歳代	47	44.7	31.9	14.9	14.9	36.2	38.3
		60 歳代	40	65.0	37.5	12.5	10.0	50.0	20.0
		70 歳以上	37	35.1	51.4	16.2	13.5	37.8	27.0

区分		回答者数(人)	男性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと	女性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと	性別に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりが改まること	その他	わからない	無回答	
性別	女性	324	4.6	3.4	37.7	0.9	5.2	2.2	
	男性	263	3.4	3.8	29.3	1.1	6.1	3.8	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	5.6	8.3	38.9	—	8.3	—
		20 歳代	50	8.0	4.0	46.0	—	4.0	2.0
		30 歳代	34	5.9	2.9	64.7	2.9	5.9	—
		40 歳代	57	5.3	5.3	28.1	—	—	5.3
		50 歳代	54	3.7	—	37.0	3.7	9.3	—
		60 歳代	57	3.5	1.8	31.6	—	1.8	1.8
		70 歳以上	36	—	2.8	25.0	—	11.1	5.6
	男性	18・19 歳	31	—	—	38.7	—	16.1	3.2
		20 歳代	37	2.7	2.7	29.7	2.7	10.8	2.7
		30 歳代	34	—	—	35.3	—	5.9	—
		40 歳代	37	5.4	2.7	24.3	—	—	5.4
		50 歳代	47	2.1	4.3	31.9	4.3	8.5	—
		60 歳代	40	7.5	7.5	25.0	—	—	2.5
		70 歳以上	37	5.4	8.1	21.6	—	2.7	13.5

(2)「男女共同参画社会」を実現するために市の施策に望むこと

問 24 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

「学校教育などにおける男女平等意識の育成」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること」の割合が 31.7%、「職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ」の割合が 27.7%となっています。



【性別】

「学校教育などにおける男女平等意識の育成」の割合が、男女ともに最も高くなっています。男性と比較して、女性の方が「職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ」「性別による役割分担の意識をかえる施策の実施」の割合が高くなっています。

【性・年代別】

多くの年代で、最も高い割合が「政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること」または「学校教育などにおける男女平等意識の育成」となっています。女性の 30 歳代、50 歳代では「職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ」の割合が、女性の 20 歳代、男性の 30 歳代では「育児支援・保育事業の充実」の割合が、最も高くなっています。

単位：％

区分		回答者数(人)	政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること	性別による役割分担の意識をかえる施策の実施	学校教育などにおける男女平等意識の育成	DV、ストーカー行為根絶に向けた取り組み	職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ	育児・介護休業制度の普及促進	育児支援・保育事業の充実	職業訓練、職業相談の充実	
性別	女性	324	30.2	21.6	35.8	14.8	31.8	23.8	24.7	7.7	
	男性	263	33.8	15.6	33.8	10.3	22.8	22.4	26.2	6.8	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	22.2	22.2	50.0	13.9	22.2	27.8	25.0	2.8
		20 歳代	50	14.0	26.0	42.0	18.0	34.0	40.0	46.0	10.0
		30 歳代	34	35.3	23.5	32.4	29.4	41.2	23.5	32.4	8.8
		40 歳代	57	31.6	31.6	35.1	10.5	21.1	19.3	29.8	8.8
		50 歳代	54	33.3	18.5	18.5	20.4	44.4	27.8	20.4	9.3
		60 歳代	57	38.6	15.8	33.3	8.8	29.8	21.1	14.0	8.8
		70 歳以上	36	36.1	11.1	47.2	5.6	30.6	2.8	2.8	2.8
	男性	18・19 歳	31	35.5	16.1	19.4	9.7	32.3	25.8	22.6	3.2
		20 歳代	37	18.9	18.9	32.4	13.5	21.6	29.7	27.0	5.4
		30 歳代	34	32.4	14.7	29.4	11.8	20.6	23.5	32.4	8.8
		40 歳代	37	35.1	10.8	29.7	13.5	18.9	27.0	27.0	2.7
		50 歳代	47	34.0	21.3	48.9	6.4	23.4	19.1	34.0	8.5
		60 歳代	40	47.5	12.5	30.0	12.5	12.5	20.0	27.5	10.0
		70 歳以上	37	32.4	13.5	40.5	5.4	32.4	13.5	10.8	8.1

区分		回答者数(人)	健診体制や健康診断など健康に関する事業の充実	地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進	各種審議会等の委員への女性の登用	女性の人材育成の推進(リーダー養成など)	男女共同参画推進を専門に担当する課の設置	その他	わからない	無回答	
性別	女性	324	5.6	6.8	3.7	8.0	4.9	1.5	7.7	2.8	
	男性	263	6.1	10.3	6.1	7.2	7.2	1.5	8.7	4.2	
性・年代別	女性	18・19 歳	36	2.8	5.6	5.6	16.7	2.8	2.8	11.1	—
		20 歳代	50	8.0	2.0	4.0	2.0	2.0	—	4.0	2.0
		30 歳代	34	—	2.9	2.9	11.8	2.9	2.9	8.8	—
		40 歳代	57	3.5	1.8	—	8.8	7.0	1.8	5.3	7.0
		50 歳代	54	9.3	9.3	7.4	3.7	1.9	1.9	7.4	—
		60 歳代	57	10.5	12.3	3.5	8.8	8.8	1.8	7.0	1.8
		70 歳以上	36	—	13.9	2.8	8.3	8.3	—	13.9	8.3
	男性	18・19 歳	31	12.9	9.7	3.2	6.5	6.5	—	12.9	3.2
		20 歳代	37	5.4	2.7	—	8.1	2.7	2.7	13.5	2.7
		30 歳代	34	—	8.8	2.9	8.8	8.8	—	11.8	2.9
		40 歳代	37	2.7	8.1	10.8	—	2.7	2.7	8.1	5.4
		50 歳代	47	4.3	8.5	4.3	4.3	6.4	2.1	10.6	—
		60 歳代	40	7.5	20.0	12.5	12.5	15.0	2.5	2.5	2.5
		70 歳以上	37	10.8	13.5	8.1	10.8	8.1	—	2.7	13.5

IV 自由意見

■ 最後に男女共同参画に関してのご意見等がありましたら、ご自由にご記入ください。

男女共同参画に関する意見等について、65 件の回答が得られました。意見等は次の分類に区分しています。なお、1 件の意見が複数の分類にわたる場合は、主たる分類に区分しています。これらの中から、回答を抜粋し、原文のまま掲載します。

分類	件数
1 男女共同参画について	16
2 意識改革・啓発について	6
3 多様性・個の尊重について	5
4 女性の社会参画について	3
5 家庭生活について	2
6 地域活動について	2
7 配偶者などからの暴力について	1
8 行政への要望・意見	15
9 アンケートについて	10
10 その他	5
合計	65

1 男女共同参画について

- 富津市は比較的に男女の差は少ないように思います。ただ、農業、漁業等一次産業の割合が多く、それに土地に対して、人口が少なく、若者も少ないと思います。その為、男女共同を進めていくには若者を多く呼び込む必要があると考えます。(男性/30 歳代)
- 男女平等の社会や風潮が広まることで、より一層富津市民の活躍の場が広がり、活気のある町になって行くと思うので、こういったアンケートが活かされる事を切実に願っています。(男性/20 歳代)
- 男女共同参画においては、育った家庭の環境も大きく影響すると思います。幼少期からの教育などから力を入れ、男性保育士や教諭(幼稚園の)を増やしたり、女性が多い職業にも男性を逆に増やしていくことも大切だと思います。(女性/40 歳代)
- 男性だけが社会の中でえらくすることが平等(男女)に認められたい。男女差別が多すぎる。もう少し男女が楽しい人生(苦しい)をおくれるような社会になって欲しい。(女性/40 歳代)
- 女性を優遇する制度にしか感じません。能力があれば、男女の差別はするべきではないが、能力がないのに、平等には扱えないです。(男性/50 歳代)

- 職場や環境に大きく左右される問題だと思います。男女混合の名簿で小学校の頃から育って大人になりましたが、小・中・高・大学と学校の中であれば平等であると感じることが多かったように思います。働くとしても性別によって役割が必要な仕事もあり、本当の平等について考えることもあります。男性も女性も生活しやすい富津市になるといいと思います。(女性/20 歳代)
- 男女共同参画には賛成ですが、数合わせで女性を増やすのではなく、性別にとらわれず個人の能力が発揮できる体制作りが重要だと思います。女性が仕事を持つのが当たり前になった今、家庭内での負担も女性に片寄らない制度(育休・介護休の充実)、子供の頃から男女共同参画の意識づけなど、社会の小さい単位である家庭内の共同参画への支援策を充実する事で社会全体の通念も変化していくと思います。性として男性・女性の違いや、優位な場面も否定せずあくまで個人の能力が発揮できる社会の背景作りを進めて頂きたいと思います。(女性/60 歳代)
- 男女平等と言っても女性は力がない分らくしてるし、力仕事は男性がするのでまったく平等とはいかないと思うし能力だけでは世の中なりたたないので男が 60%で女性は 40%でいいと思う。(男性/70 歳以上)
- 私は男女の平等ではなく公平が大切だと思います。2つを混同して誤った判断をしないようお気をつけください。(男性/20 歳代)
- 性別関係なくすべての人が生きやすい世の中になって欲しいです。(女性/20 歳代)

2 意識改革・啓発について

- 法整備等はなされているが、実際には、職場等の経済的な面や、家庭・社会において個々人の意識に起因する役割分担、こうあるべき、といったものにより、選択が制限されていると思う。制度のみならず、各人の意識がかわっていき、個人や家庭で自由に意思決定ができる、そして不利益が生じない社会になれば良いと思う。(男性/40 歳代)
- 今回のアンケートを通し、改めて男女共同参画に対しての認識や考え方を深める事が出来ました。今まで男性中心の社会の中で、女性が社会の中で力を発揮していくのは大変かと思います。まずは女性自身も意識を変え、もっと地域、社会、職場、家庭に女性の特性も生かしていききたいです。私は全てを同じにするという事より、男性、女性の特性を生かしながら尊重し合う事も大事だと思っています。これからは意見を出し合い、よりよい社会の構築を図っていききたいです。ありがとうございました。(女性/60 歳代)
- 政策を行っていても知らない人や実感していない人も多いと思う。政策を行うだけではなく、今現在どのような政策を行って、男女共同参画を進めているのかを多くの人に知ってもらうことも重要だと思う。その政策内容を知ってもらうだけで、男女の平等についての意識も変わってくると思う。(男性/18・19 歳)
- 男女共同参画に関する情報や活動について SNS や広報ふつつなどでたくさんアナウンスすることで市民の意識も変わるのではないかと思います。(男性/30 歳代)

3 多様性・個の尊重について

- 市をよくして行こうとして頂いてありがとうございます。そしてよろしくお願いします。妊娠中、「男の子？女の子？次はこっちがよかったね、1人はこっちを産まなきゃなど、よく家族でない人から声をかけられたりもしました。男女どちらでもかわいいに変わらないし、楽しみなのに、とくに年配の方に多かったと思います。意識改革ってとてもむずかしいと思いますが、これからの経験を自分の子供には少しでもさせたくないと思います。男の好きな物がかわいくたって、女の子がやんちゃだって、1人1人が好きなものは好きと言えるかんきょうが大切だと思います。妊娠・出産はどうしても女性でなければできないけれど、育児を男性がしても、仕事をメインに女性がしてもいい世の中になるといいです。（女性/30 歳代）
- 女性が働きやすい、という点に注目されがちだけど、働かずに子供を育てるという選択をした女性や男性に対しても、世間から、それで良いと思われるような社会でいてほしい。どんなあり方でも、多様性として認められる、それに合わせた柔軟な制度を多く作って欲しいと思います。（女性/30 歳代）
- 体の性だけでなく、心の性にも寄り添った男女共同参画社会がいつかやってくるといいなと思います。また、独身で生活が続ける男女への世間の理解、行政や法律などの充実も進む事を願っています。（女性/20 歳代）

4 女性の社会参画について

- まず一番は女性市長誕生させてからものごとが動きだすと思います。今の政治は（富津市）みるからに男性ありきの政治。もっと議員を女性に半分位までした方が変わっていくと思います。富津市はむずかしかなあ〜。（女性/50 歳代）
- 女性の政治参加率の低さ、女性議員の圧倒的な少なさを改善しなければ根本的な部分で男女共同参画社会の実現は厳しいと思います。なのでまず、なぜ女性議員の数がこれだけ少ないのか、どうしたら数を増やす事が出来るのかを盛んに議論し行動に移して欲しいです。そうするしか他に無いと思います。（男性/20 歳代）
- 社会的に男性優位の場合が多い現状では、女性に対する配慮は必要だと思う。しかし、女性の社会参加が進んだ後、女性側もまた、男性が負っていた役割、負担に目を向ける必要がある。大切なのは、男性、女性の両方が暮らしやすい社会の実現を目指して、社会に参加し、お互いの性別を尊重していく意識だと思う。（男性/20 歳代）

5 家庭生活について

- かかあ天下が一番か。（男性/70 歳以上）
- 家庭との両立。育児支援が特に重要だと思う。（男性/20 歳代）

6 地域活動について

- 田舎では考えが浸透しにくい。地域の役員をやる時に男女以前の問題として、働いている人に合った、或いは住みづらい設定であつたりし、従わなければ周囲の目が気になる。保育園も遠方で仕事するのにしづらい時間、女性は正規でしっかり働けないのでは？子育て介護への女性の負担が多すぎ。(女性/50 歳代)
- 多忙なのは皆、同じだと思っているが、地域の活動などは、住民が積極的にならないといけないと思う。今の子供達の良い手本になるために、男女協力できる人には協力してもらい、良い町づくりにつなげたい。(男性/30 歳代)

7 配偶者などからの暴力について

- 娘がDVをうけているようで心配(市内在住)。市にも相談したいが、顔見知りの方が多くできない・・・全く別の所で相談したいと思うが手だてがない。(知りあいがいないところ。)(女性/50 歳代)

8 行政への要望・意見

- 大手企業でさえ女性を受け入れはじめて 15 年もたつのに偏見やセクハラ等なくなるのが現状。ならば中小企業なんでもっての外と思います。企業全体の雇用に対する制度の見直し、男性の育児、介護への偏見をなくすべきです。後、富津市は女性の出産、育児に対する施設が少ないと思われます。共働きしようにもあずけ先がないのでは結局女性(もしくは男性)が家にいなくてはならないのでは？思うことは色々ありますが、[“女性”を使ったパフォーマンス]とならない事を願います。(女性/30 歳代)
- 富津市は特に過疎地域において、高齢者率が高くなり若者が少なくなっていることが男女差につながっていると思います。どうしても高齢の方は性差に対しての固定観念が強く、逆に若者は性別に対して差別意識を持っている人は少ないように感じます。高齢者だけのコミュニティになってしまうと改革意識も低く、男女共同参画も進めにくくなってしまおうと思うので若者を市内に残す、呼びこむことが重要だと考えます。ぜひ既存の制度改革だけでなく若者に多く富津市に住んでもらうという視点からも施策をお願いします。(女性/18・19 歳)
- 富津市総会が全国の地方公共団体で最初に市議会議員のクオータ制を実施してほしい。また市役所の職員の管理職への登用を男女同数にしてほしい。現状では全国のどこかの地方公共団体からクオータ制などの施策を実施していかなければ、女性やマイノリティの社会進出を本当に実現させていこうという機運は生まれてこないと思います。富津市長の英断で全国に先がけてあらゆる人の権利が尊重され、女性や障害者、マイノリティが社会進出できる住みやすい富津市を実現させてほしいと思います。経済的な発展により市を活性化させようという自治体がほとんどですが、日本で最もすべての人が等しく安心して能力を発揮して生活できる富津市を目指すという視点を持ってほしいものです。(男性/60 歳代)

- 富津市は、親類同志の関係が根強く、新しい事や、他県からの侵入をこばむ所があります。市として発展する事は、古い関係を直していかないとずっとこのままの状態が続くでしょう！住みやすい、環境があるのに、もったいないと思います。若い人も、市に取り込んで、今までの態勢を変えどんな人でも、明るく楽しい生活が送れるような市にしてもらいたいです。魅力のある市にして欲しい！（女性/60 歳代）
- 企業や自治体は、以前より、推進、検討されておりますが、富津市は何故、今頃の検討なのでしょう？（男性/40 歳代）
- 男女共に外で活躍する為にはやはり金銭的余裕、育児、介護の手厚いサポート（市や企業）。これらを充実させる為に立案から実行までいろいろな方面で活躍する、している人を入れるべき。同じ顔ぶれの会議は本末転倒。（男性/40 歳代）
- ただ数値目標を決めるだけでは、形だけの参加になってしまうし、能力の無い女性が名前だけリーダー等になってしまい、能力のある男性の意欲を削ぐことにもなりかねないと思います。形式だけの目標でなく、目標を達成するため具体的な支援や政策が必要となると思いますので、ご検討よろしくお願いします。（女性/20 歳代）

9 アンケートについて

- 一定の人や固定した人の意見だけでなく、このようなアンケートや不特定の人々の意見をきく場があると良いと思う。ただ実生活におわれてしまって、より良い社会の実現に向かって市民が一体となって活躍できる富津市になっていただきたい。（女性/40 歳代）
- このアンケートにもありましたが、性別を問うのは構いませんが「解答は任意である」と記載するべきだと思います。（女性/18・19 歳）
- このアンケート調査がこれだけで終わることなく、近いうちに反映され確定に何かの形で実現されることを強く願います。（男性/50 歳代）

10 その他

- 話合いの場などがあれば、参加していきたいと思う。（男性/50 歳代）
- 家庭でこもりがちな高齢者を気軽に活動出来る様に声かけ等、積極的に行なえる様な仕組みがあると良い。地域生活で不便差があり、外出しづらい（特に交通面に問題、日常での買物）。（女性/70 歳以上）

V 調査票

男女共同参画に関するアンケート調査

－ ご協力をお願い －

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

富津市では、男女が性別にかかわらず、その人権を尊重され、共に個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画のまちづくりの実現を目指し、令和4年度に「〔仮称〕富津市男女共同参画計画」の策定を予定しております。

今回、計画の策定及び男女共同参画施策を推進する上での基礎資料とするため、市民の皆様の日常生活における状況やご意見等について、調査を実施することといたしました。

このアンケート調査の実施にあたり、市内にお住まいの18歳以上の方から2,000人を無作為に選び、送付させていただきました。調査は無記名で、ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、調査目的の以外に使用することはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年10月

富津市長 高橋 恭市

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査票や封筒に、お名前やご住所を記入する必要はありません。
- 2 この調査（封筒）の宛名の方ご本人のお考えをお答えください。
- 3 お答えは、該当する番号に○印をつけてください。また、「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 4 質問ごとに○印をつける数を指定していますので、その数に応じてご回答ください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、

11月8日（月）までに投函してください。（切手不要）

この調査につきまして、ご不明な点等ございましたら下記へお問い合わせください。

富津市総務部企画課企画係 電話：0439-80-1223

1あなた自身のことについて

F1あなたの性別に○をつけてください。（○は1つ）

1女性

2男性

F2あなたの年齢に○をつけてください。（○は1つ）（令和3年10月1日現在）

118・19歳

220歳代

330歳代

440歳代

550歳代

660歳代

770歳以上

F3あなたのお住まいの地区（中学校区別）に○をつけてください。（○は1つ）

1雷津地区

2大佐和地区

3天羽地区

F4あなたの就業形態は次のどれですか。（○は1つ）

1正社員・正職員

2派遣社員・契約社員

3パート・アルバイト

4自営業・自由業

5会社役員・経営者

6専業主婦・専業主夫

7学生

8無職

9その他（ ）

F5あなたは結婚していますか。（○は1つ）

1結婚している（事実婚含む）

2離婚・死別した

3結婚していない

【F5で「1 結婚している（事実婚含む）」と回答した方にのみ回答してください】

F5-1あなたとパートナー（配偶者など）の就労状況は次のどれですか。（○は1つ）

1共働き（ともにフルタイム）

2共働き（どちらか、またはともにパートタイム）

3どちらか一方だけ仕事を持っている

4どちらも無職

5その他（ ）

F6あなたの家族構成は次のどれですか。（○は1つ）

11人暮らし

2夫婦のみ

32世代世帯（親と子ども）

43世代世帯（親と子どもと孫）

5その他（ ）

F7あなたにお子さんはいますか。（○は1つ）

1いる

2いない

問2 あなたは、次の言葉を知っていますか。①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	つ内 て容 いま るで 知	ら容は聞 なまあい いでるた はがこ 知内と	知 ら な い
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)	1	2	3
④ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)	1	2	3
⑤ 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑥ 富津市男女共同参画のまちづくり条例	1	2	3
⑦ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
⑧ ジェンダー (社会的文化的につくられた性別)	1	2	3
⑨ LGBT (性的マイノリティ)	1	2	3
⑩ ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3

3 家庭生活について

問3 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1 賛成	2 どちらかといえば賛成	3 どちらかといえば反対
4 反対	5 わからない	

【問3で「1 賛成」「2 どちらかといえば賛成」と回答した方に伺います】

問3-1 その理由について、あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
2 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
3 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4 男性が家事・育児・介護を行うことに周囲の理解が得られないから
5 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
6 自分の家族も役割分担をしていたから
7 その他 (具体的に：)

【F7で「1 いる」と回答した方に伺います】

F7-1 一番下のお子さんの年齢に○をつけてください。(○は1つ)

1 就学前	2 小学生	3 中学生
4 高校生以上の学生	5 社会人	6 その他 ()

F8 あなたの家族の中で介護が必要な人はいますか。(○は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

2 男女共同参画全般について

問1 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
② 職場の中で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
④ 政治の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の中で	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域活動の中で (自治会やPTAなど)	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

【問3で「3 どちらかといえば反対」「4 反対」と回答した方に伺います】

問3-2 その理由について、あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1 夫と妻の固定的な役割分担の意識を押し付けるべきではないから	)
2 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	
3 妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	
4 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	
5 男女平等に反すると思うから	
6 自分の母親も外で働いていたから	
7 その他（具体的に： _____）	

問4 あなたは、家庭における次の役割について、どのように分担するのが望ましいと思いますか。
①～⑪のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	主に男性	主に女性	同程度分 担で	男性と女性で	その 人や家 事代行 など）
① 食事の支度・後片付け	1	2	3	4	4
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	4
③ ごみ出し	1	2	3	4	4
④ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	4
⑤ 生活費の確保	1	2	3	4	4
⑥ 家計費の管理	1	2	3	4	4
⑦ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	4
⑧ 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	4
⑨ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話	1	2	3	4	4
⑩ 介護や看護が必要な家族の世話	1	2	3	4	4
⑪ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	4

問5 あなたの家庭では、次の役割について、主に男性、女性のどちらが分担していますか。①～⑪のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	主に男性	主に女性	同程度分 担で	男性と女性で	男性のみ・女性のみ	その 人や家 事代行 など）	該当しない
① 食事の支度・後片付け	1	2	3	4	5	5	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	5	
③ ごみ出し	1	2	3	4	5	5	
④ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	5	5	
⑤ 生活費の確保	1	2	3	4	5	5	
⑥ 家計費の管理	1	2	3	4	5	5	
⑦ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	5	
⑧ 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5	5	
⑨ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話	1	2	3	4	5	5	
⑩ 介護や看護が必要な家族の世話	1	2	3	4	5	5	
⑪ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	5	

問6 あなたが家事・育児・介護に携わる時間は1日当たり平均してどのくらいですか。(1) 平日と(2) 休日について、あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。(1)と(2)それぞれ○は1つ)

	(1) 平日	(2) 休日
① 携わっていない	1	1
② 30分未満	2	2
③ 30分以上1時間未満	3	3
④ 1時間以上2時間未満	4	4
⑤ 2時間以上4時間未満	5	5
⑥ 4時間以上6時間未満	6	6
⑦ 6時間以上8時間未満	7	7
⑧ 8時間以上	8	8

問7 あなたは、男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | |
|--|
| 1 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること |
| 2 子どものことから、男女平等意識を教育や生活の中に取り入れること |
| 3 社会の中で、男性が家事・育児・介護に関わることに、評価を高めること |
| 4 男性による家事・育児・介護について、職場における上司や周囲の理解を進めること |
| 5 働き方改革により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること |
| 6 男性が家事・育児・介護を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすること |
| 7 男性が家事・育児・介護を行うことに対する女性の抵抗感をなくすること |
| 8 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること |
| 9 男性が家事・育児・介護を行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること |
| 10 男性の家事・育児・介護について、啓発や情報提供、相談窓口の設置、講座などを行うこと |
| 11 その他（具体的に：_____） |
| 12 特に必要なことはない |
| 13 わからない |

4 働き方について

問8 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 女性は仕事を持たない方がよい |
| 2 結婚するまでは仕事を持つ方がよい |
| 3 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい |
| 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくくなら再び仕事を持つ方がよい |
| 5 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい |
| 6 その他（具体的に：_____） |
| 7 わからない |

問9 女性が仕事を続けていく上では、どのような障害があると思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（○は3つ以内）

- | |
|----------------------------------|
| 1 結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている |
| 2 家事・育児の負担 |
| 3 病人・高齢者の世話 |
| 4 家族の理解・協力が得られない |
| 5 賃金、待遇等で性別がある |
| 6 女性の能力が正當に評価されない |
| 7 中高年の女性に退職を促すようなまわりの圧力がある |
| 8 その他（具体的に：_____） |
| 9 特に障害はない |
| 10 わからない |

【現在働いている方、または働いていた方に伺います】

問10 あなたは、今までに育児休業・介護休業を取得しましたか。（1）育児休業と（2）介護休業について、あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。（1）と（2）それぞれ○は1つ

	(1) 育児休業	(2) 介護休業
① 取得した・取得中である	1	1
② 制度はあるが、取得したことはない	2	2
③ 制度がないため、取得できない	3	3
④ 制度について知らなかったため、取得していない	4	4
⑤ 休業取得に該当しない（子ども・介護が必要な家族はいない）	5	5
⑥ その他（_____）	6	6

【問10で「② 制度はあるが、取得したことはない」と回答した方に伺います】

問10-1 育児休業・介護休業の制度を利用しない理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 経済的に生活が成り立たなくなるから | 2 職場に休める雰囲気がないから |
| 3 休みを取ると勤務評価に影響するから | 4 解雇される不安があるから |
| 5 自分の仕事は代わりの人がいないから | 6 一度休むと元の仕事に戻れないから |
| 7 現在取り組んでいる仕事を続けたいから | 8 家族の理解が得られないから |
| 9 家族の協力で利用しなくても対応できるから | 10 その他（具体的に：_____） |

5 地域活動について

問11 あなたは現在、次のような地域活動に参加していますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | |
|----------------------------------|
| 1 自治会や町内会などの地域活動 |
| 2 保護者会・PTA、子ども会などの活動 |
| 3 趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなどのサークル活動 |
| 4 環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動 |
| 5 高齢者や障がいのある人の介護などのボランティア活動・福祉活動 |
| 6 防災活動や防犯活動 |
| 7 その他（具体的に：_____） |
| 8 参加している活動はない |

【問 11 で1～7のいずれかを選択した方に伺います】

問 12 あなたが参加している地域活動の現状はどのようになっていますか。①～⑥のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	そう 思う	そう 思わ ない	どちら でも ない	わ か ら な い
① 行事の企画などは主に男性が決定する	1	2	3	4
② 決定する場に女性が参加しない	1	2	3	4
③ 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4
④ 集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4
⑤ 女性は役職につきたがらない	1	2	3	4
⑥ 女性が発言することは少ない、発言できる機会がない	1	2	3	4

6 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 13 あなたがあなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、(1) あなたの理想と(2) あなたの現状に最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。((1) と(2) それぞれ○は1つ)

	(1) 理想	(2) 現状
① 「仕事」を優先	1	1
② 「家庭生活」を優先	2	2
③ 「個人の生活」を優先	3	3
④ 「仕事」と「家庭生活」を優先	4	4
⑤ 「仕事」と「個人の生活」を優先	5	5
⑥ 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	6	6
⑦ 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべてを優先	7	7
⑧ わからない	8	8

※家庭生活：家族とともに過ごすこと。家事、育児、余暇、介護、看護など。

※個人の生活：学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、付き合いなど。

問 14 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

1 育児・介護休業を取得しやすくするため、柔軟な制度にすること
2 管理職の意識や制度を利用しやすい職場環境を整備すること
3 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
4 地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること
5 ファミリーサポートなどが利用しやすくなること
6 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
7 シェアオフィスの整備や起業支援など、多様な働き方が出来るよう環境を整備すること
8 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
9 パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること
10 結婚・出産・介護などの理由で退職した人が職場復帰できる再雇用制度を充実させること
11 再就職を希望する人のための講座・セミナーを充実させること
12 男女が共に仕事と家庭を両立することに対して、家庭など周囲の理解と協力があること
13 その他（具体的に：_____）
14 わからない

7 女性の活躍推進について

問 15 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由について、どのように考えますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1 男性優位の組織運営になっているから
2 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
3 性別による役割分担や性差別的意識があるから
4 女性の積極性が十分でないから
5 家族の支援・協力が得られないから
6 女性の活動を支援するサポート体制が整っていないから
7 女性の能力を向上させる機会が不十分だから
8 その他（具体的に：_____）
9 わからない

問16 あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野で、女性の参画が進み、女性リーダーが増えることのような影響があると思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
2	女性の声が反映されやすくなる
3	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
4	男女問わず仕事と家庭の両立しやすい社会になる
5	男性の家事・育児などへの参加が増える
6	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7	保育・介護など公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
8	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
9	その他（具体的に：_____）
10	特にない
11	わからない

8 防災について

問17 あなたは、防災・災害復興対策で特に女性の視点に配慮して取り組み必要があると思うものは何ですか。（○は3つ以内）

1	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室の設置、プライバシーの確保、防犯対策など）
2	避難所の運営、被災者への対応、支援物資の配布（避難所生活が長期化する場合）
3	乳幼児、高齢者、障がい者、女性（女性用品）などに対する備蓄品やニーズの把握
4	災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師の配置など）
5	被災者に対する相談体制・相談窓口の開設
6	防災計画、災害復旧・復興計画策定過程、防災会議等への参画
7	自主防災組織の運営
8	その他（具体的に：_____）
9	特にない
10	わからない

9 配偶者等からの暴力について

問18 あなたは、これまでに、配偶者や交際相手などから、次のようなことをされたことがありますか。①～⑯のそれぞれについてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	何 度 も あ っ た	数 回 あ っ た	ま っ た く な い
① 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける	1	2	3
② 医師の治療が必要になるほどの暴力を受ける	1	2	3
③ 医師の治療は必要ではないが、軽度の暴力を受ける	1	2	3
④ 壁やドアを叩くなどの行為をする	1	2	3
⑤ 何を言っても無視され続ける	1	2	3
⑥ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性無し」と言われる	1	2	3
⑦ 大声で怒鳴られる	1	2	3
⑧ 嫌がっているのに性的な行為を強要される	1	2	3
⑨ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な表現をする	1	2	3
⑩ 容姿について傷つくようなことを言う	1	2	3
⑪ 避妊に協力しない	1	2	3
⑫ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
⑬ 生活費を渡してもらえない	1	2	3
⑭ 相談せずに浪費や借金をして苦しめられる	1	2	3
⑮ 就職することを制限する	1	2	3
⑯ 職場に嫌がらせをされる	1	2	3
⑰ 交友関係やメール、郵便物等を細かく監視される	1	2	3
⑱ 私物を壊す、勝手に捨てる	1	2	3
⑲ その他（具体的に：_____）	1	2	3

【問18で「何度もあった」または「数回あった」と回答した方に伺います】

問19 その行為を受けたことについて、どこ（だれ）かに相談しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	配偶者暴力相談支援センター（君津健康福祉センター）
2	警察署（富津警察署）
3	市役所（富津市役所 福祉の窓口課等）
4	家族・親戚
5	友人・知人
6	民生・児童委員、人権擁護委員
7	弁護士、家庭裁判所
8	医師、カウンセラー
9	民間の相談窓口
10	インターネットの相談サイト
11	その他（具体的に：_____）
12	どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）

【問19で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した方に伺います】

問20 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2	相談する人がいなかったから
3	恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4	相談しても無駄だと思ったから
5	相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6	自分さえ我慢すれば、このままだといていけると思ったから
7	子どもに危害が及ぶと思ったから
8	他人に迷惑をかけたくなかったから
9	自分にも悪いところがあると思ったから
10	相談するほどのことではないと思ったから
11	その他（具体的に：_____）

問21 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力（DV）をなくすために、特にとどのような対策が必要だと思いますか。また、発生した場合に、被害者の安全を確保して早期に解決するために、特にとどのような対応が効果的だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（○は3つ以内）

1	相談窓口の充実
2	緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実
3	緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置
4	警察の相談・対応の充実
5	ドメスティック・バイオレンスは、重大な人権侵害であるという社会的意識をつくるための情報や学習機会の充実
6	女性も男性も、お互いを尊重し、認め合える教育の推進
7	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、ストーカー行為等の規制等に関する法律などの法律の強化
8	カウンセリング、自助グループ活動など、暴力をふるった人のための取組の充実
9	司法、福祉、心理、教育などさまざまな専門職や行政関係者のドメスティック・バイオレンスに関する研修の充実
10	実態把握のための調査・研究
11	親や周囲の人の理解と支え
12	その他（具体的に：_____）
13	わからない

問22 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力（DV）の防止について、どのような広報・啓発活動が効果的だと思いますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（○は3つ以内）

1	テレビ・ラジオ・新聞
2	広報ふっつ
3	行政が発行するパンフレットや冊子
4	行政が掲示するポスター
5	行政の看板・垂れ幕・電光掲示板
6	行政のホームページやSNSなどインターネットを活用した周知活動
7	行政や民間主催の講演会や研修会
8	職場や学校での研修や授業
9	多様な団体等が行うイベント等
10	その他（具体的に：_____）
11	わからない

10 男女共同参画に関する施策などについて

問 23 あなたは、雷津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるには何が必要だと思いますか。

あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること
- 2 多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること
- 3 市民が気軽に集い、交流できる場があること
- 4 市民活動をしやすい環境を整えること
- 5 子育て支援や介護サービスの充実していること
- 6 幼少期から男女平等の意識を醸成すること
- 7 女性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと
- 8 女性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと
- 9 性別に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりが改まること
- 10 その他（具体的に：
- 11 わからない

問24 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること
- 2 性別による役割分担の意識をかえる施策の実施
- 3 学校教育などにおける男女平等意識の育成
- 4 DV、ストーカー行為根絶に向けた取り組み
- 5 職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ
- 6 育児・介護休業制度の普及促進
- 7 育児支援・保育事業の充実
- 8 職業訓練、職業相談の充実
- 9 健診体制や健康診断など健康に関する事業の充実
- 10 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 11 各種審議会等の委員への女性の登用
- 12 女性の人材育成の推進（リーダー養成など）
- 13 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置
- 14 その他（具体的に：)
- 15 わからない

■最後に男女共同参画に関してのご意見等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※質問は以上です。お忙しいところ、多数の質問にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。調査票は同封の返信用封筒にて、11月8日(月)までに、ポストに投入してください。お手数ですが、切手は不要です。

男女共同参画に関する施策等については、下記のホームページをご覧ください。

【HP】



【千葉県HP】



【内閣府HP】



10 男女共同参画に関する施策などについて

問 23 あなたは、雷津市が女性も男性も暮らしやすいまちになるには何が必要だと思いますか。

あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 性別に関係なく意見を出し合い、まちづくりに参画できること
- 2 多様な働き方が実現できる環境の整備や相談・支援の窓口があること
- 3 市民が気軽に集い、交流できる場があること
- 4 市民活動をしやすい環境を整えること
- 5 子育て支援や介護サービスの充実していること
- 6 幼少期から男女平等の意識を醸成すること
- 7 女性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと
- 8 女性に対する男女共同参画社会の啓発を行うこと
- 9 性別に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりが改まること
- 10 その他（具体的に：
- 11 わからない

問24 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 政策等の企画・立案から男女の意見が反映されるようにすること
- 2 性別による役割分担の意識をかねる施策の実施
- 3 学校教育などにおける男女平等意識の育成
- 4 DV、ストーカー行為根絶に向けた取り組み
- 5 職場における男女格差の是正や労働環境改善の働きかけ
- 6 育児・介護休業制度の普及促進
- 7 育児支援・保育事業の充実
- 8 職業訓練、職業相談の充実
- 9 健診体制や健康診断など健康に関する事業の充実
- 10 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 11 各種審議会等の委員への女性の登用
- 12 女性の人材育成の推進（リーダー養成など）
- 13 女性共同参画推進を専門に担当する課の設置
- 14 その他（具体的に：)
- 15 わからない

男女共同参画に関する市民アンケート調査 報告書

令和4年2月

発行・編集／富津市 総務部 企画課

〒293-8506

千葉県富津市下飯野 2443 番地

TEL : 0439-80-1223

URL : <https://www.city.futtsu.lg.jp/>
